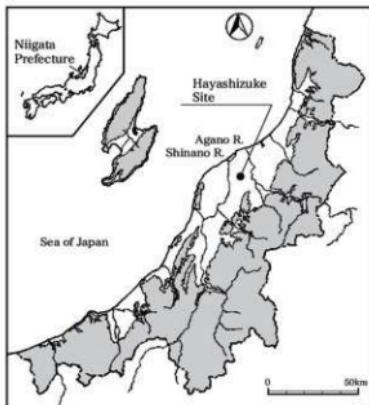


はやし づけ  
林付遺跡 第2次調査

－新潟市立潟東南小学校体育館建設工事に伴う林付遺跡第2次発掘調査報告書－



2012

新潟市教育委員会

## 例　　言

- 1 本書は新潟県新潟市西蒲区今井 4121 番に所在する林付遺跡発掘調査の報告書である。
- 2 調査は新潟市立潟東南小学校体育館建設事業に伴うもので、新潟市教育委員会が調査主体となり、新潟市文化観光・スポーツ部歴史文化課埋蔵文化財センターが補助執行した。発掘調査に係る経費は、市教委施設課に予算を計上し、文化観光・スポーツ部歴史文化課が執行委任を受け、これを執行した。
- 3 平成 22 年度に発掘作業・整理作業、平成 23 年度に整理作業を行い、平成 24 年度に報告書刊行を行った。発掘作業・整理作業の体制等は第Ⅲ章に記した。
- 4 出土遺物及び発掘作業・整理作業に係る記録類は、一括して新潟市文化財センターが保管している。
- 5 自然科学分析は株式会社火山灰考古学研究所に分析・執筆を委託した。
- 6 墨書き土器については相沢央（新潟市文化観光・スポーツ部歴史文化課嘱託）が分析・執筆した（第Ⅶ章）。
- 7 本書の編集は相田泰臣（新潟市文化財センター主査）が行った。
- 8 执筆は第VI章を株式会社火山灰考古学研究所、第VII章を相沢央、これ以外を相田が行った。
- 9 遺物写真は佐藤俊英氏（ビッグヘッド）に撮影を依頼した。
- 10 遺物実測図のデジタルトレースの一部は株式会社セピアスに委託した。
- 11 遺物実測図のデジタルトレースの一部、各種図版作成・編集に關しては、有限会社不二出版に委託してデジタル図化及びデータ編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。
- 12 本文中に記述する時期や年代観については、春日真寛氏の編年（春日 1999）を用いた。なお、春日氏、荒澤正史氏には本遺跡出土遺物について、時期や生産地を中心多くのご教示を頂いた。
- 13 石帶・椎状錐の石材や産地については糸魚川フォッサマグナミュージアムの茨木洋介氏からご教示を頂いた。
- 14 今回の調査成果について、これまで現地説明会や『平成 22 年度新潟市遺跡発掘調査速報会』（新潟市埋蔵文化財センター 2011）、『新潟県考古学会第 23 回大会研究発表会発表要旨』（新潟県考古学会 2011）で発表されている。本報告書と齟齬がある場合は、本報告をもって正とする。
- 15 調査から本書作成に至るまで下記の方々・機関よりご指導・ご協力を賜った。ここに記して厚く御礼申し上げます。  
(所属・敬称略、五十音順)
- 浅井勝利・甘粕 健・伊藤秀和・茨木洋介・春日真寛・金子拓男・桑原正史・小林昌二・荒澤正史・閔 雅之・  
中島栄一・橋本博文・細野高伯  
(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団・新潟県教育厅文化行政課

## 凡　　例

- 1 本書は本文・別表と巻末図版（図版・写真図版）からなる。
- 2 本書で示す方位は全て真北である。磁北は真北から西偏約 7 度である。掲載図面のうち、既存の地形図等を使用したものは、原図の作成者・作成年を示した。
- 3 引用・参考文献は、著者と発行年（西暦）を〔 〕中に示し、巻末に一括して掲載した。
- 4 造構番号は発掘調査の際に付したもの用いた。番号は上・下層や、造構の種別を問わず通し番号とした。
- 5 土層観察の色調は『新版 標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局 1967）を用いた。
- 6 土器実測図の断面は、須恵器を黒塗り、それ以外を白抜きとした。
- 7 土器実測図で赤彩・黒色処理はスクリーントーンで示した。■：赤彩 ■：黒色処理
- 8 土器実測図で全周 1/8 以下を目安として遺存度の低いものについては、中軸線の両側に空白を設けた。
- 9 石製品実測図で研磨範囲・部分についてはスクリーントーン・矢印で示した。
- 10 木製品実測図で腐朽・欠損部分についてはスクリーントーン■で示した。
- 11 掲載遺物は通し番号とし、本文および觀察表・写真図版の番号は同一番号とした。

## 目 次

第Ⅰ章 序 説	1
第1節 遺跡概観	1
第2節 発掘調査に至る経緯	1
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	2
第1節 遺跡の位置と地理的環境	2
第2節 周辺の遺跡と歴史的環境	2
第Ⅲ章 調査の概要	6
第1節 試掘調査	6
第2節 本発掘調査	8
A 調査方法	8
B 調査経過	10
C 調査体制	10
第3節 整理作業	11
A 整理方法	11
B 整理経過	11
C 整理体制	11
第Ⅳ章 遺 跡	12
第1節 概 要	12
第2節 基本層序	12
第3節 遺 構	13
A 遺構の概要	13
B 遺構各説	14
第Ⅴ章 遺 物	24
第1節 概 要	24
第2節 土器・陶磁器	24
A 実測図の表現と観察項目について	24
B 土器の分類	27
C 上層出土の土器	28
D 下層出土の土器	36
E 上層・下層出土の土器	40
第3節 土 製 品	41
第4節 石 製 品	41
第5節 木 製 品	42

第6節 金属製品 .....	42
<b>第VI章 自然科学分析 .....</b>	<b>43</b>
第1節 放射性炭素年代測定 .....	43
A 測定試料と測定方法 .....	43
B 結 果 .....	43
第2節 樹種同定 .....	43
A 分析試料 .....	43
B 分析方法 .....	43
C 結 果 .....	44
第3節 古植生・古環境の復元 .....	46
A 分析試料 .....	46
B 分析方法 .....	46
C 結 果 .....	46
D 考 察 .....	48
<b>第VII章 墨書土器 .....</b>	<b>52</b>
第1節 出土地点及び遺構 .....	52
第2節 器種と墨書部位 .....	52
第3節 主な文字の検討 .....	52
第4節 ま と め .....	53
<b>第VIII章 総 括 .....</b>	<b>56</b>
第1節 遺 構 .....	56
第2節 遺 物 .....	57
A 土器・遺構の編年的位置づけ .....	57
B 土器の器種構成比率 .....	60
C 煙炊具について .....	62
D 権 状 錘 .....	62
E 「川合(川井)」墨書土器 .....	65
第3節 遺跡の位置づけ .....	65
引用・参考文献 .....	67
報告書抄録・奥付 .....	卷末

## 挿図目次

第 1 図 林付遺跡周辺地形分類図 (1/150,000) .....	3	第 13 図 基本層序 B 地点における植物珪酸体分析結果 .....	47
第 2 図 林付遺跡周辺の縄文時代～古代の遺跡分布 .....	5	第 14 図 SE40 における植物珪酸体分析結果 .....	47
第 3 図 林付遺跡調査位置図 (1/14,000) .....	6	第 15 図 植物珪酸体写真 .....	47
第 4 図 林付遺跡試掘調査位置図・土層柱状図 .....	7	第 16 図 花粉・孢子・寄生虫卵写真 .....	50
第 5 図 グリッド設定図 (1/2,000) .....	9	第 17 図 基本層序 B 地点における花粉ダイアグラム .....	50
第 6 図 造構の平・断面形態の分類 .....	13	第 18 図 SE40 における花粉ダイアグラム .....	50
第 7 図 造構堆上・下層出土土器グリッド別重量分布図 .....	13	第 19 図 墓書土器のグリッド別出土位置と文字 .....	55
第 8 図 上層・下層出土土器グリッド別重量分布図 (1/400) .....	25	第 20 図 林付遺跡出土土器の変遷案 .....	58
第 9 図 上層鉄率グリッド別重量分布図 (1/300) .....	26	第 21 図 参考資料 .....	59
第 10 図 下層鉄率グリッド別重量分布図 (1/300) .....	26	第 22 図 食膳具の構成比率 .....	63
第 11 図 土器分類図 .....	29	第 23 図 「武威型甕」を出土した主な遺跡 .....	63
第 12 図 木材写真 .....	45	第 24 図 県内出土の古代椎状錐 .....	64

## 表目次

第 1 表 放射性炭素年代測定結果 .....	43	第 6 表 林付遺跡における主な造構の編年の位置づけ .....	60
第 2 表 樹種同定結果 .....	44	第 7 表 上・下層造構 (P は除く) 出土の食膳具の 構成比率と主な造構出土土器の食膳具・器種 構成比率 .....	61
第 3 表 植物珪酸体分析結果 .....	47		
第 4 表 花粉分析結果 .....	49		
第 5 表 墓書土器一覧表 .....	54		

## 別表目次

別表 1 造構計測表 .....	69	別表 4 石製品観察表 .....	81
別表 2 土器観察表 .....	73	別表 5 木製品観察表 .....	81
別表 3 土製品観察表 .....	80	別表 6 金属製品観察表 .....	81

## 図版目次

図版 1 林付遺跡と周辺の古代の遺跡 .....		図版 16 上層造構個別図 10 SK (4)	
図版 2 基本層序図 (1/40) .....		図版 17 上層造構個別図 11 SK (5)	
図版 3 上層平面全体図 (1/200) .....		図版 18 上層造構個別図 12 SX (1)	
図版 4 上層平面分割図 1 (1/100) .....		図版 19 上層造構個別図 13 SX (2)	
図版 5 上層平面分割図 2 (1/100) .....		図版 20 下層平面全体図 (1/200)	
図版 6 上層造構個別図 1 SD (1) .....		図版 21 下層平面分割図 1 (1/100)	
図版 7 上層平面分割図 3 (1/100) .....		図版 22 下層平面分割図 2 (1/100)	
図版 8 上層造構個別図 2 SD (2) .....		図版 23 下層平面分割図 3 (1/100)	
図版 9 上層造構個別図 3 SB (1) SB901 .....		図版 24 下層造構個別図 1 SB (1) SB904・905	
図版 10 上層造構個別図 4 SB (2) SB901 .....		図版 25 下層造構個別図 2 SB (2) SB906・907・908	
図版 11 上層造構個別図 5 SB (3) SB901 .....		図版 26 下層造構個別図 3 SK (1)	
図版 12 上層造構個別図 6 SB (4) SB901・902・903 .....		図版 27 下層造構個別図 4 SK (2)	
図版 13 上層造構個別図 7 SE・SK (1) .....		図版 28 下層造構個別図 5 SK (3)	
図版 14 上層造構個別図 8 SK (2) .....		図版 29 下層造構個別図 6 SK (4)	
図版 15 上層造構個別図 9 SK (3) .....		図版 30 下層造構個別図 7 SK (5)	

- 図版 31 下層遺構個別図 8 SD (1)  
 図版 32 下層遺構個別図 9 SD (2)  
 図版 33 下層遺構個別図 10 SD (3)  
 図版 34 下層遺構個別図 11 SD (4)・SX  
 図版 35 上層遺構出土土器 1 SB (1)  
 図版 36 上層遺構出土土器 2 SB (2)・SE・SK (1)  
 図版 37 上層遺構出土土器 3 SK (2)  
 図版 38 上層遺構出土土器 4 SK (3)  
 図版 39 上層遺構出土土器 5 SK (4)・SD (1)  
 図版 40 上層遺構出土土器 6 SD (2)・SX (1)  
 図版 41 上層遺構出土土器 7 SX (2)・P (1)  
 図版 42 上層遺構出土土器 8 P (2) 上層遺構外出土土器 1  
 図版 43 上層遺構外出土土器 2

- 図版 44 上層出土土製品 (235 ~ 254)、石製品 (255 ~ 262)  
 図版 45 上層出土木製品 1 (263 ~ 276)  
 図版 46 上層出土木製品 2 (277 ~ 291)、金属製品 (292 ~ 293)  
 図版 47 下層遺構出土土器 1 SB・SK・SD (1)  
 図版 48 下層遺構出土土器 2 SD (2)・SX・P (1)  
 図版 49 下層遺構出土土器 3 P (2)  
 下層遺構外出土土器 1  
 図版 50 下層遺構外出土土器 2 下層出土土製品 (380 ~ 383)、石製品 1 (384 ~ 386)  
 図版 51 下層出土石製品 2 (387 ~ 389)、木製品 (390 ~ 393)  
 図版 52 上層・下層出土土器、陶磁器

## 写真図版目次

- 写真図版 1 林付遺跡周辺空中写真  
 写真図版 2 上層調査地全景 1・2  
 写真図版 3 SB901・下層調査地全景  
 写真図版 4 基本順序 (1)  
 写真図版 5 基本順序 (2)・上層 SB (1)  
 写真図版 6 上層 SB (2)  
 写真図版 7 上層 SB (3)  
 写真図版 8 上層 SB (4)  
 写真図版 9 上層 SB (5)  
 写真図版 10 上層 SB (6)・SE・SK (1)  
 写真図版 11 上層 SK (2)  
 写真図版 12 上層 SK (3)  
 写真図版 13 上層 SK (4)  
 写真図版 14 上層 SK (5)・SD (1)  
 写真図版 15 上層 SD (2)  
 写真図版 16 上層 SD (3)・SX (1)  
 写真図版 17 上層 SX (2)  
 写真図版 18 下層 SB (1)  
 写真図版 19 下層 SB (2)  
 写真図版 20 下層 SB (3)  
 写真図版 21 下層 SB (4)・SK (1)  
 写真図版 22 下層 SK (2)  
 写真図版 23 下層 SK (3)  
 写真図版 24 下層 SK (4)  
 写真図版 25 下層 SK (5)  
 写真図版 26 下層 SK (6)・SD (1)  
 写真図版 27 下層 SD (2)

- 写真図版 28 下層 SD (3)  
 写真図版 29 下層 SD (4)・SX  
 写真図版 30 上層出土遺物 土器 1 SB901・903、SE443、SK17・77・78・92  
 写真図版 31 上層出土遺物 土器 2 SK95・105・107・122・125・129・141・145・150・181・183・190・220  
 写真図版 32 上層出土遺物 土器 3 SD34・66・69・88・96・130・137・210・218・219、SX209・229 (1)  
 写真図版 33 上層出土遺物 土器 4 SX229 (2)、P102・103・110・118・127・155・168・172・175・178・204・206、遺構外 (1)  
 写真図版 34 上層出土遺物 土器 5 遺構外 (2)  
 写真図版 35 上層出土遺物 土製品、石製品、木製品 1  
 写真図版 36 上層出土遺物 木製品 2、金属製品  
 写真図版 37 下層出土遺物 土器 1 SB906、SK284・331・360・366・388・411・510・524・526・583・653・696、SD246・271・334・417・461・481・507・508・543・600・601、SX384  
 写真図版 38 下層出土遺物 土器 2 P247・248・287・301・406・426・452・478・488・498・545・561・575、遺構外  
 写真図版 39 下層出土遺物 土製品、石製品、木製品  
 上・下層出土遺物 土器、陶磁器

# 第Ⅰ章 序 説

## 第1節 遺跡概観

林付遺跡は、新潟市（平成17年の合併前は潟東村）西蒲区今井412ほかに所在する。平成21年8月の潟東南小学校の体育館建設に伴う試掘調査によって発見された遺跡で、現況は、新潟市立潟東南小学校の校舎・校庭として利用されている。現在の標高は2.5m前後と、周囲の水田よりも高い微高地に立地する。

当該地は、越後平野のほぼ中央にあたり、角田山の裾から東に約10km、新津丘陵の裾から西に約13kmの沖積地内の自然堤防上に所在する。北西約2.5kmには鍾淵が存在したが、1960年代の干拓工事により消滅した。

調査の結果、上層・下層の2面で遺構確認面の存在することが確認された。出土遺物から上層・下層とも9世紀代の平安時代を中心することが分かった。また、調査区は体育館建設予定地の約873m<sup>2</sup>であるが、調査区外へも遺構の広がることが確認された。とりわけ、調査区西側は上層・下層ともに遺構密度が高く、現校舎側に遺跡の中心があるものと推測される。

周辺では古代を中心とした遺跡が自然堤防上に点々と分布している。遺跡の北東約12.5kmには、奈良・平安時代の官衙関連遺跡と考えられる縦立遺跡と的場遺跡が位置する。さらに、北の信濃川河口には国津である蒲原津が存在したとみられている。

## 第2節 発掘調査に至る経緯

新潟市立潟東南小学校体育館建設事業にともない、平成21年8月26日付で、新潟市長（担当は新潟市教育委員会施設課 以下、事業者という）から新潟市教育長（以下、市教育長という）あてに試掘調査の依頼書が提出された。

これを受け、平成21年9月10日に新潟市歴史文化課（以下、市歴史文化課という）が試掘調査（第1次調査）を実施したところ、6か所中4か所の試掘坑から平安時代の土器が出土し、うち2か所では遺構と考えられる落ち込みが確認された。

この試掘調査の結果を受け、市歴史文化課は、平成21年9月18日付で新潟県教育長（以下、県教育長という）あてに終了報告（新歴B第137号の3）を、平成21年10月9日付で県教育長あてに遺跡発見通知（新歴B第137号の7）を提出した。発見した遺跡は、小字名から「林付遺跡」（新潟市遺跡番号746）と名付け、周知化された。

調査の結果を受け、事業者と市歴史文化課との間で協議が進められ、体育館建設予定地の873.2m<sup>2</sup>について平成22年度に本発掘調査を実施することとし、調査終了後に体育館建設工事を行うことで合意した。

平成22年2月22日付で、事業者から県教育長あてに文化財保護法第94条の通知がなされるとともに、事業者から市歴史文化課あてに本発掘調査依頼書が提出された。

これを受け、平成22年4月5日付け新歴F第1号で市教育長から県教育長あてに、文化財保護法第99条の規定に基づく発掘調査の着手報告を提出し、本発掘調査に着手した。

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

### 第1節 遺跡の位置と地理的環境

新潟市は越後平野のほぼ中央に位置する。越後平野の地形は大きく海岸部の砂丘地帯、南西側の角田・弥彦山塊、南東側の東山丘陵（そのうち北端から加茂川までの南北約16kmの間を一般に新津丘陵と呼んでいる）、その間の沖積面からなっている。市域の大半を占める越後平野は、日本海から越後平野を縦断して長野県へと至る信濃川と、日本海から越後平野を南東方向へはしり、福島県へと続く阿賀野川をはじめ、多くの大小河川によって形成された冲積扇であり、発達した砂丘列とその内陸側に広がる低湿地帯が特徴である。

砂丘は、海岸線から内陸へ10kmに及ぶ10列の砂丘列を形成しており、内陸から新砂丘I（4列）、II（4列）、III（2列）に区分されている〔新潟古砂丘グループ1974〕。越後平野では、信濃川・阿賀野川の2大河川の蛇行帯には、良く発達した自然堤防も形成されており、その自然堤防や砂丘に囲まれるように後背湿地が広く分布している。後背湿地は、水はけが悪く湿地や潟湖の状態であったと考えられる。砂丘列の内陸部に広がる低湿地帯には、紫雲寺潟、福島潟、鳥屋野潟、鍾潟など多くの潟湖が形成されたが、現在では、河川の整備や干拓により消滅したものも多い。越後平野が近年見るような水田地帯となったのは昭和30年代以降のことで、江戸時代初めから明治時代の終わりまでの約300年間では、信濃川の洪水が100回以上を数えるなど耕地として適した環境ではなかった。

今回調査した林付遺跡は越後平野のほぼ中央に位置し、後背湿地からやや外れた冲積地の自然堤防上に立地する。西約10kmには角田山が、東約13kmには新津丘陵がそれぞれ存在する。信濃川とその支流である中之口川は、それぞれ東約10kmと約5kmに存在し、越後平野の西側を南北に流れる西川は西約6kmに、大通川は西約2.5kmに位置する。また、北西約2.5kmには鍾潟がかつて存在した（1960年代の干拓工事により現在は消滅）。なお、林付遺跡から南西方向には国見・漆山・柿島・河井集落が位置する自然堤防が蛇行しながら走っており（第2図）、旧河川の存在した可能性が推測される。

### 第2節 周辺の遺跡と歴史的環境

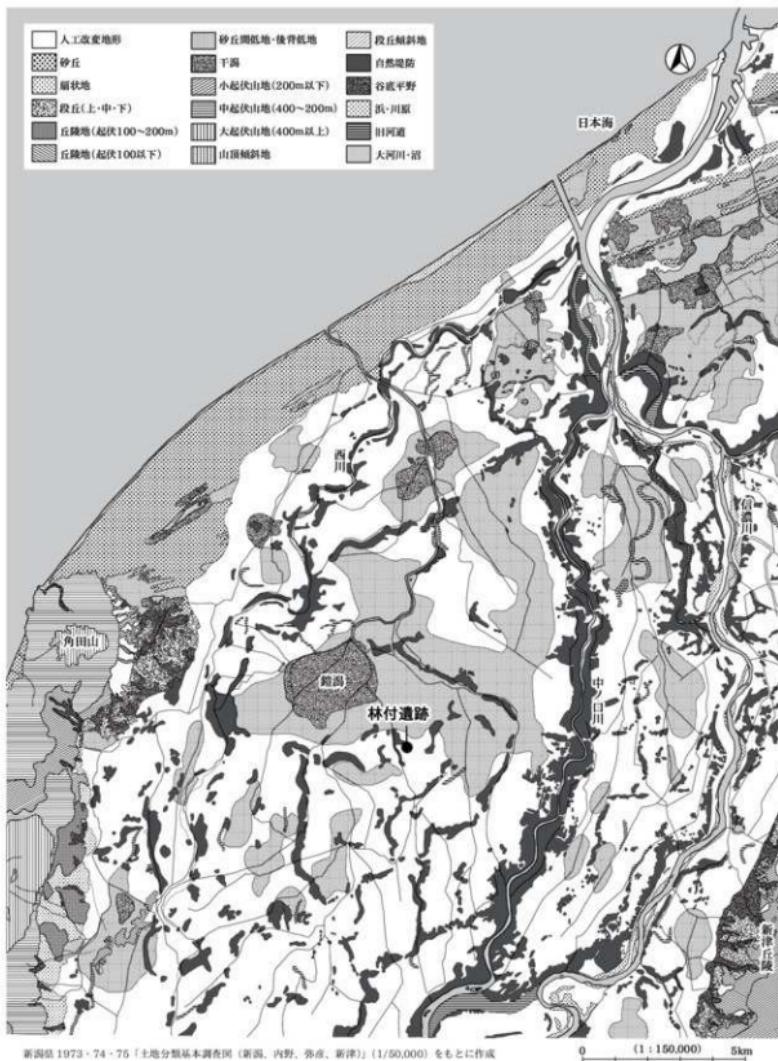
林付遺跡が位置する越後平野の遺跡立地としては、大きく山麓・砂丘・沖積地内の自然堤防の3つに分けられる。前節で触れたとおり、林付遺跡周辺には後背湿地が広範囲に存在していたと考えられ、林付遺跡はその中の自然堤防に立地していた。

林付遺跡の位置する領域は、古代には蒲原郡に属していた。蒲原郡の範囲は、近代の中・西・南蒲原郡を含むものであったと考えられる。10世紀に成立した「倭名類聚抄」によれば、蒲原郡には「日置・桜井・勇礼・青海・小伏」の5郷が存在している。また、延長5（927）年の『延喜式』神名帳には、「青海（2座）・宇都良波志・伊久礼・櫻田・小布施・伊加良志・伊夜比古・長瀬・中山・旦飯野・船江・土生田」の蒲原郡の式内社（12社・13座）が記されている。これらの所在については諸説あり、林付遺跡がどの郷に含まれていたかも不明である。

ここでは、周辺の绳文時代から古代（奈良・平安時代）における遺跡分布やその内容について、古代を中心概観する（第2図）。

#### 縄文・弥生時代

越後平野の両端にある角田・弥彦山麓や東山・新津丘陵とその周辺、さらには砂丘を中心に分布しており、神



新潟県 1973・74・75「土地分類基本調査図(新潟、内野、舟守、新津)」(1/50,000)をもとに作成

0 (1 : 150,000) 5km

第1図 林付遺跡周辺地形分類図

積地での確認例は極端に少ない。砂丘では、的場遺跡（12）、緒立遺跡（13）、六地山遺跡（14）、四十石遺跡（16）、ヤマサキ遺跡（18）、茶畠遺跡（19）、神山遺跡（20）、屋敷添遺跡（21）、前田遺跡（22）、星敷浦遺跡（23）、大藪遺跡（24）など、砂丘列に沿って分布する状況がうかがえる。

沖積地では、横川浜堤外地遺跡（10）や大沢谷内遺跡（11）、味方排水機場遺跡（39）、西首場遺跡（59）、兵

蔵遺跡（60）が存在する。味方排水機場遺跡は、排水機場建設工事の際に縄文土器が地下約19mほどの地点から出土したとされ、越後平野の地盤の沈降を示す事例として注目されている。また、これまでに調査が行われている大沢谷内遺跡では、出土遺物の検討から、物流・交易活動が中心の集落であった可能性が指摘されている〔前山2010a・b〕。いずれにせよ、縄文・弥生時代を通じて越後平野の沖積地は集落として大規模に利用されたとは考えにくい状況である。

#### 古墳時代

おおむね弥生時代を踏襲した遺跡分布のあり方を示すが、大島横遺跡（32）や大沢谷内遺跡（11）では7世紀の遺物が定量出土しており、沖積地に集落が出現し始めた状況がうかがえる。なお、燕市の大橋遺跡でも7世紀を前後する時期の遺物が出土しており、同様の状況がうかがえる。

角田山麓に位置する古墳時代の拠点集落である御井戸B遺跡の消長をみると、古墳時代後期で集落が途絶える状況が推測される（相田2004）。このことは、6世紀を前後する時期、集落に大きな変化のあった可能性を示唆する。沖積地内で6世紀の遺跡は確認されておらず、6世紀の状況は不明であるが、前記のとおり少なくとも7世紀には沖積地内に集落が形成されはじめたと考えられる。

#### 古代（奈良・平安時代）

沖積地における奈良時代の遺跡としては、川根遺跡（8）、家掛遺跡（52）、島瀬瀬遺跡（53）、下新田遺跡（62）、仲歩切遺跡（64）、古辻・助次郎遺跡（67）などがあり、8世紀に沖積地の遺跡数は確実に増加をみせる。さらに、9世紀になると林付遺跡も含め、遺跡数が急増する状況にある。

発掘調査が行われた周辺の9世紀の遺跡では、砂丘上に位置する四十石遺跡（16）、的場遺跡（12）、緒立遺跡（13）、六穴山遺跡（14）、自然堤防上に位置する駒首渴遺跡（3）、大沢谷内遺跡（11）、駿遊堂遺跡（27）、中組遺跡（図版1）、江添C遺跡（図版1）などがある。

このうち、信濃川河口に位置する的場遺跡（12）では、倉庫と考えられる大形の總柱建物が確認されており、出土した大量の土錘や木製の浮子、銅帶金具、木舟、錢貨などから、内水面の漁業に関係した国の施設と考えられている。また、的場遺跡の西約0.7kmに位置する緒立遺跡（13）は、的場遺跡と関連した遺跡と考えられ、加工・管理などが行われていたと推測されている（坂井1996・2008など）。的場・緒立遺跡とも8世紀前半から10世紀代まで続くと考えられている。林付遺跡からは直線で北東約12.5kmに位置する。

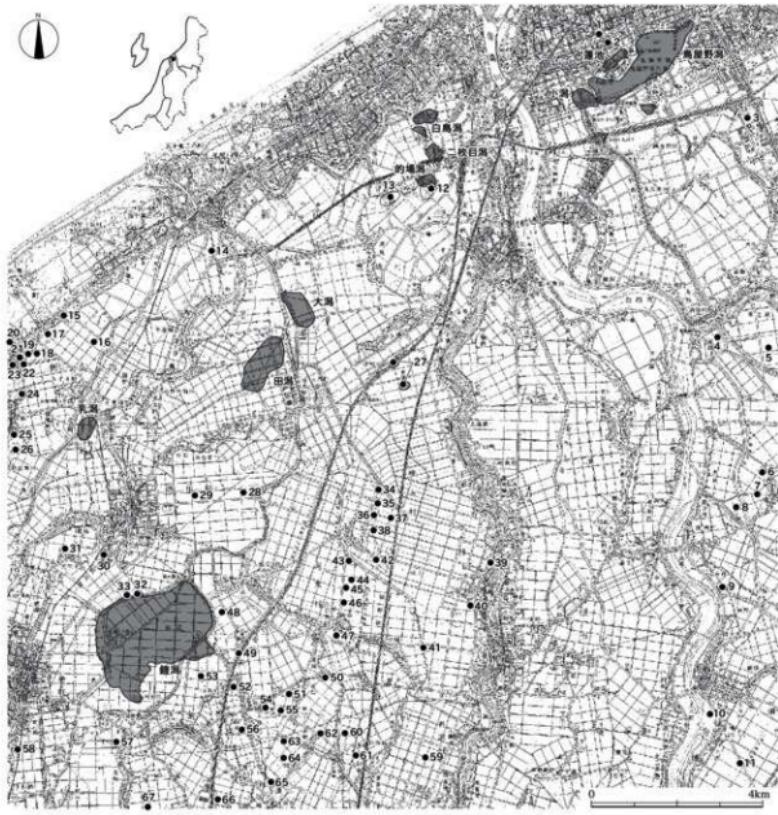
駿遊堂遺跡（27）では火葬が行われた痕跡が確認されており、また、「郡」と記された墨書き器や円面鏡、跨帶金具などが出土している。出土遺物から有力者の存在が推測されている。また、地震による地割れや填砂の痕跡もみられ、貞観5（863）年に発生した地震によるものと考えられている（江口2000・春日2006）。遺跡の存続期間は、9世紀前半から10世紀初頭頃で、9世紀第2四半世紀を中心とする。林付遺跡からは北北東約8.5kmに位置する。

駒首渴遺跡（3）は9世紀を中心とする集落で、旧河川沿いに四面廻付掘立柱建物をはじめとする多数の掘立柱建物や畝状遺構などが確認されている。また、「足羽臣」や「資人」と記された木簡や、墨書き器、仏鉢形土器、権杖頭なども出土している。建物や出土遺物の検討から、中央とつながりをもつ地元の有力者を中心とした集落と考えられている。林付遺跡からは北東約17.5kmに位置する。

また、林付遺跡から直線で西南方向約5.5kmに位置する中組遺跡（図版1）では、縄軸陶器や「池津」と記された墨書き器などが出土しており、拠点的な集落であった可能性が高い。出土遺物は9世紀後半から10世紀前半頃に位置づけられている（春日2000）。

北北東へ約5.7kmに位置する五之上曾根上遺跡（34）では、未調査ではあるがおおむね9世紀代に比定できる土器・須恵器のほかに灰釉陶器5点などが採集されており、拠点的な集落である可能性が高い（関2000）。

9世紀前半における遺跡数の増加の背景として、沖積部における開発の進展にともなう集落数の増加といった点のほかに、大規模な遺跡が解体して小規模分散化する側面も指摘されている（春日2000）。



No.	名 称	時 代	No.	名 称	時 代	No.	名 称	時 代	No.	名 称	時 代
1	穂ノ山道跡	平安・中世	18	ヤマキモ道跡	純文・弘生・中世	35	塙古賀根上道跡	平安	52	家原道跡	奈良・平安・中世
2	女池向道跡	平安	19	若狭向道跡	純文・平安・中世	36	弓削ノ里道跡	平安・中世	53	鳥居瀬道跡	古墳・奈良・平安
3	銚子越道跡	平安	20	山田道跡	純文・弘生	37	御所工門道跡	平安	54	林村道跡	平安・中世・近世
4	下野多当道跡	平安・中世	21	用賀添道跡	御生・平安	38	上手平道跡	平安	55	浦内道跡	平安
5	長沼道跡	平安・中世	22	前田道跡	弘生・大和・平安・中世・近世	39	味方澤木櫻尾道跡	純文	56	鬼道跡	平安
6	西沼道跡	平安	23	星敷道跡	弘生・奈良・平安	40	味方川水路道跡	平安	57	高畠道跡	平安
7	長左二門沢道跡	平安	24	大坂造跡	純文・古墳・中世	41	千手道跡	平安	58	ハセヤハ道跡	平安
8	川根道跡	奈良・平安・中世	25	大瀧造跡	平安	42	脇道道跡	平安	59	西宮道跡	御生
9	浦内方道跡	古代	26	山田屋敷道跡	平安・中世	43	樺谷造跡	平安	60	兵成造跡	奈生・中世
10	楓田川堤外道跡	純文・古代・中世	27	駿鹿空道跡	平安・中世	44	弓平道跡	平安・中世	61	六沢川道跡	平安
11	大沢谷内道跡	純文・中世	28	二町寺道跡	平安	45	六十分歩道跡	平安・中世	62	下喜田道跡	奈良・平安
12	の堤道跡	純文・中世	29	中ノ堤跡	平安	46	鶴林道跡	平安	63	道ノ荒田道跡	平安・中世・近世
13	結立道跡	純文・中世	30	浦田道跡	古墳・平安	47	西船田道跡	平安	64	神代切道跡	奈良・平安・中世
14	六地山道跡	御生・奈良・平安・中世	31	酒上川道跡	平安	48	99丁目道跡	平安	65	万場江道跡	平安・中世
15	彦曾根道跡	平安・中世	32	大鳥道跡	古墳・平安	49	下沼道跡	平安	66	高六道跡	平安・中世
16	四十石道跡	純文・中世	33	ななびき橋道跡	平安	50	本道道跡	平安	67	古津・猪次郎道跡	平安・中世
17	木山道跡	平安・中世	34	五之土曾根上道跡	平安	51	鶴人道跡	平安			

※ 7世紀の遺跡は古墳時代に於む

第2図 林付遺跡周辺の純文時代～古代の遺跡分布

## 第III章 調査の概要

### 第1節 試掘調査(第4図)

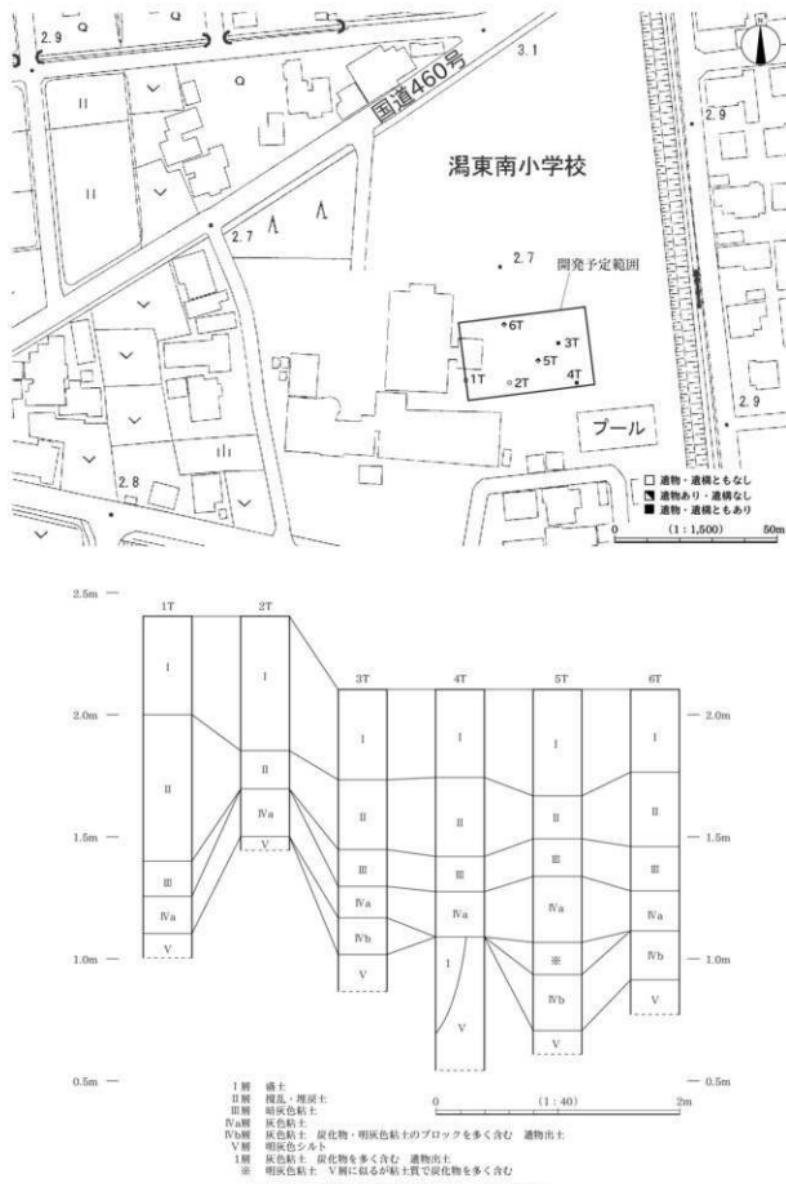
試掘調査(第1次調査)は平成21年9月10日に行った。当初の開発予定面積は922m<sup>2</sup>で、6か所の試掘坑を設定した。試掘調査は重機(バックホウ)で表土から徐々に掘削した後、人力による精査を行い、遺構・遺物の有無、土層堆積状況を記録した。試掘調査面積は6m<sup>2</sup>(1m<sup>2</sup> × 6か所)である。

この結果、3～6トレンチから平安時代の遺物が出土するとともに、3・4トレンチでは遺構も確認された。このため、新遺跡発見の手続きがとられ、林付遺跡(新潟市遺跡番号746)として周知化された。

以上の結果を踏まえて前述(第1章第2節参照)したように事業者と協議を行い、体育館新築部分約873m<sup>2</sup>について記録保存のための本発掘調査を実施することになった。



第3図 林付遺跡調査位置図 (1/14,000)



第4図 林付遺跡試掘調査位置図・土層柱状図

## 第2節 本発掘調査

### A 調査方法

#### 1) 調査前の状況

調査範囲の大半は小学校の校庭として利用されていた。また、既存体育館に付随する用具室と便所が調査範囲内西側に及んでいた。それ以前は水田耕作地として利用されていた。現標高は約2.5mである。

#### 2) グリッドの設定（第5図）

グリッドを設定するにあたっては、北西杭を基点とし1A杭とした。1A杭はX座標：194518.36910953、Y座標：39711.52891303、緯度：37°45'19"01495、経度：138°56'50"93994である。また、基点から国土地理院の第VII系座標軸を用いて10mの方眼を組み、これを大グリッドとした。

大グリッドの名称は北西隅の1A杭を基点として南北方向をアラビア数字、東西方向をアルファベットとし、この組み合せによって表示した。大グリッドはさらに2m方眼に区分して1から25の小グリッドに分割し、「4F24」のように呼称・表示した。基準杭の打設は測量業者に委託した。

発掘調査区3点の座標は次のとおりである。

4D1（X座標：194488.36910953、Y座標：39741.52891303、緯度：37°45'18"03720、経度：138°56'52"15973）

5E1（X座標：194478.36910953、Y座標：39751.52891303、緯度：37°45'17"71128、経度：138°56'52"56633）

4G1（X座標：194488.36910953、Y座標：39771.52891303、緯度：37°45'18"03254、経度：138°56'53"38535）

#### 3) 調査方法

①表土除去 第1次調査結果から、遺跡の形成レベルが遺物包含層であるⅢ層以下にあたることが判明したため、Ⅰ層（校庭造成にともなう盛土）・Ⅱ層（旧水田耕作土）を遺物の出土などに注意しながら、Ⅲ層上面まで重機（バックホウ）により除去した。排土は調査区脇に置いた。法面は安全を考慮して一分の勾配をつけた。また、湛水防止のため、表土除去と並行して調査区の周間に土側溝を掘り2時のポンプで強制排水を行った。土側溝は幅40cm程の溝で、壁面を垂直に掘ると崩落する恐れがあったため、壁面下場から50cmの間隔をあけたうえで、人力によりV字の溝を掘削した。なお、崩落防止のために壁面下場から土側溝の間（約50cm）については、最後まで上層遺構確認面（IVa層）の高さで止めた。

②包含層調査・遺構確認・遺構調査 表土除去の後、ジョレン等を用いて人力で精査を行い、包含層の掘削・遺構確認を行った。排土は人力で調査区外へ搬出した。遺構調査中はベルトコンベアにより排土を調査区外へ出した。なお、途中、掘立柱建物の中に柱材を残す柱穴が確認され、かなりの深度に及ぶ状況がうかがえたため、断面観察及び柱材の取り上げに加え、未検出の柱穴の有無を確認する目的で、建物の軸に沿って柱穴の中央付近を通る形でサブレンチを入れた場所がある。

③遺物の取り上げ 包含層出土遺物は小グリッド単位で取り上げた。遺構からの出土遺物は可能な限り層位・小グリッド単位ごとに一括で取り上げたほか、一部の遺物についてはトータルステーションにより出土地点を記録した。なお、井戸状遺構と一部柱穴については、覆土を回収し、土壤水洗によって微細遺物の抽出にあたった。

④実測・写真 実測作業は、いずれも測量業者に委託して行い、調査員が現場で図面チェックを行った。なお、断面図は手取りにより1/20で作成した。平面図・各種測量点はトータルステーションを用いて取得したデータを基にキャドで作成した。

層序・遺構・遺物出土状況などの写真撮影は、6×7版・35mm版のカメラを用い、白黒フィルム・カラー・ポジフィルムを適宜併用した。さらにデジタルカメラでの撮影も行った。また、空撮は業者に委託して行った。

⑤自然科学分析 掘立柱建物の一部の柱材において、年代と木材利用の状況を調べるために、放射性炭素年代測定と樹種同定を、また、古植生・古環境を検討するために植物珪酸体分析・花粉分析を行った。



第5図 グリッド設定図 (1/2,000)

## B 調査経過

### 1) 撤去・設置等工事

平成22年4月6日から4月14日まで既設排水路と花壇の撤去工事、仮設給水管布設工事、仮開い設置工事、樹木の移植などの準備工事を実施した。この間に仮設事務所の設置と、事務所・水中ポンプ・ベルコン用の電気配線工事を行った。

### 2) 発掘調査

調査は新潟市埋蔵文化財センターの担当職員1名と新潟市埋蔵文化財センター専門臨時職員1名が専従する体制で、4月15日から表土除去に着手した。途中、水道管が調査区の南北方向に屈曲しながら伸びていることが分かった。とりわけ調査区南半は水道管が太く、その部分は水道管を中心に幅1.5mを土手状に残した。なお、調査区の北西には2×7m四方のコンクリート製の便溝が造構確認面下まで埋設されていること、さらに調査区西側では南北方向に幅約2.5mでゴミを投棄するための溝状の掘削が造構確認面下まで行われていることが確認された。前者は除却が困難なことから掘削範囲から外し、後者はゴミが投棄された部分を重機・人力で取り除いた。

4月25日までに重機による表土掘削を終了し、4月26日から本格的な包含層掘削及び造構精査に着手した。

6月3日、調査区周囲の壁面の観察・検討から、下層の存在が明らかとなり、調査工程及び体制の見直しが急務となった。また、柱穴・柱根の配列から最低でも2間6間で1面廻付きの大形の掘立柱建物の存在が推測された。6月7日より新潟市埋蔵文化財センター職員1名と民間調査会社（株式会社吉田建設）の調査員2名を加えた体制となった。6月12日、上層の掘削を終了し、6月13日に上層の空撮及びローリングタワーからの完掘写真撮影を行った。6月17日、潟東南小学校の教員・生徒と近隣住民向けの現地説明会を開催し、計93名の参加者があった。

6月18日より、下層の包含層掘削及び造構精査に着手した。6月下旬、上層の大形掘立柱建物の東側で大形掘立柱建物の柱穴列に対応する位置で柱根を残す柱穴列が確認された。検討の結果、上層の造構調査で見落とした上層大形掘立柱建物の柱穴であると判断し、上層の大形掘立柱建物は2間6間の東西2面廻付き建物との結論に至る。7月9日に下層の掘削を終了し、7月10日に下層の空撮及びローリングタワーからの完掘写真撮影を行った。7月19日、一般向けの現地説明会を開催し、計146名の参加者があった。

## C 調査体制

### 【第1次調査（試掘調査） 平成21年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 鈴木廣志）
所管課	新潟市歴史文化課（課長 倉地一則 課長補佐 額所洋一 埋蔵文化財係長 渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長 山田光行）
調査担当	廣野耕造（新潟市歴史文化課主査）

### 【第2次調査（本発掘調査） 平成22年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 鈴木廣志）
所管課	新潟市歴史文化課（課長 倉地一則 課長補佐 額所洋一 埋蔵文化財係長 渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長 山田光行）
調査担当	相田泰臣（新潟市埋蔵文化財センター副主査）
調査員	立木宏明（新潟市埋蔵文化財センター主査）・高野裕子（新潟市埋蔵文化財センター専門臨時職員）・細井健佳・長沼吉嗣（株式会社吉田建設）
調査・整理補助員	金子靖・高橋孝太（新潟市埋蔵文化財センター臨時職員）

### 第3節 整理作業

#### A 整理方法

##### 1) 遺物

遺物量はコンテナ（内径 54.5 × 33.6 × 10.0cm）にして試掘調査（第1次調査）が1箱（平安時代の土器）、本発掘調査（第2次調査）が40箱（平安時代の土器・土製品・石製品・鉄貨・鉄滓・種子・炭化米、中・近世の土器）のほか、木製品（木柱 53本など）が大型水槽に保管されている。遺物のうち、土器の整理作業は、①洗浄→②注記→③グリッド別・種別の重量計測および遺構出土遺物の器種ごとの重量・口縁部残存値・破片数計測→④接合→⑤報告書掲載遺物の抽出→⑥実測図作成→⑦観察表作成の順で行った。このうち、①と②の一部は現場で行い、以降は新潟市埋蔵文化財センター（平成23年度からは新潟市文化財センター）で行った。木製品は、①洗浄→②報告書掲載遺物の抽出→③実測図作成の順で進めた。遺物の注記は「10林付」とし、出土地点等を続けて記した。実測図は整理補助員が原寸で作成し、トレースは業者に委託しデジタルトレースを行った。

##### 2) 遺構

測量業者が手取りした1/20の遺構断面図と電子測量をした1/40の遺構平面図との校正作業を行った。手取りした遺構断面図は校正前にデジタルデータ化を行った。

#### B 整理経過

平成22年度の現場作業終了後、引き続き整理作業を開始した。平成22年度に報告書作成のための重量・数値計測、接合・実測図作成・遺物写真撮影を行うとともに遺物図面レイアウトを作成した。また、遺構測量図の校正作業も並行して行い、遺構図面図版レイアウトを作成した。また、現場記録写真の整理やフィルム写真のデジタル化を行ったのち、報告書掲載写真を抽出して遺構写真版レイアウトを作成した。

平成23年3月、東日本大震災により委託業者とのデジタル図化編集作業が中断した。委託業者が業務困難な状況であることから、平成23年3月、委託業者との契約を解除した。

平成23年8月、別の業者とデジタル図化編集業務委託の契約を結び、平成23年11月から報告書作成のための整理作業を再開した。まず、遺物写真図版レイアウトの作成を行い、報告書の図面編集作業を委託業者との間で進めた。また、これに並行して原稿の執筆を行った。

#### C 整理体制

##### 【整理作業 平成22年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 鈴木廣志）
所管課	新潟市歴史文化課（課長 倉地一則 課長補佐 順所洋一 埋蔵文化財係長 渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長 山田光行）
調査担当	相田泰臣（新潟市埋蔵文化財センター副主査）
調査員	高野裕子（新潟市埋蔵文化財センター専門臨時職員）・牧野耕作（新潟市埋蔵文化財センター非常勤嘱託）
整理補助員	青池光子・朝妻奈美子・小野里絵梨子・金子靖・北見順子・佐々木陽子・高橋孝太（新潟市埋蔵文化財センター臨時職員）

##### 【整理作業 平成23年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 鈴木廣志）
所管課・事務局	新潟市文化財センター（所長 高橋保 所長補佐 丸山徳幸 主任 渡邊朋和）
調査担当	相田泰臣（新潟市文化財センター主査）
整理補助員	小野里絵梨子（新潟市文化財センター臨時職員）・高野裕子・八藤後智人（新潟市文化財センター専門臨時職員）

## 第IV章 遺跡

### 第1節 概要

林付遺跡は自然堤防上に立地しており、古代、中世、近世の遺物が出土するが、このうち、中世・近世の遺物はごく少量で、遺跡の中心は平安時代（9世紀）である。遺構は上層・下層の2面が確認されており、標高は上層で約1m、下層で約0.6～0.7mを計る。

調査範囲が狭く、遺跡全体の地形については不明であるが、上層では東側に行くにつれて地形が低くなり、遺構も調査区東半域は溝以外ほとんどみられなくなることから、おむね集落の東縁部にあたる可能性が推測される。下層は上層ほど場所による遺構の粗密は見られないが、西端域で最も密な点は上層と共通する。なお、地形は北から北東方向にかけて下がる。

遺構は古代の遺構のみが確認されており、上層で掘立柱建物、井戸、土坑、溝、ピット、下層で掘立柱建物、土坑、溝、ピットなどがある。それぞれ配置や重複関係から数時期が捉えられる。出土遺物は土器類が圧倒的な量を占めるが、土鍬や砥石、木柱を中心とする木製品も一定量出土している。他には、土製の支脚2点や輪の羽口1点、石帶1点、椎状錘1点、鉄滓、種子、炭化米がある。

古代の土器類は春日真実氏の編年〔春日1999〕のIV-3期からVI期のものがあり、下層出土器はV-VI-1期、上層出土器はVI期を中心とする時期に属すと推測され、土器類以外の遺物もこの時期と考える。

### 第2節 基本層序

基本層序は図版2に示した。現地表面から上層遺構確認面（IVa層上面）までは大きく3層（I～III層）に分かれる。また、IVa層と下層遺構確認面（IVc層上面）の間には下層の遺物包含層（IVb層）が存在する。なお、IVc層の下にはV層があり、遺物・遺構が認められることから基盤層の可能性が高い。

I層は現在の盛土を一括した。II層は耕作土を含む近世以降の堆積層である。I層は調査区のどの場所でも認められるが、II層は存在しない場所もある。I・II層を合わせた厚さは場所によってばらつきがみられ、上層の遺物包含層（III層）上面までの深度は0.6～1.2mと幅がある。III層の厚さは0.04～0.28mである。

IV層は3層（IVa層：上層遺構確認面、IVb層：下層遺物包含層、IVc層：下層遺構確認面）に細分した。厚さはIVa層が0.02～0.45m、IVb層が0.08～0.42m、IVc層が0.08～0.46mで、場所によって厚さに違いがみられる。なお、IVa・IVc層から遺物は出土していない。

以下に土層説明を行うが、同一層でもいくつかの土色が捉えられているものもある。ここでは中心となる色調を記載する。

I層：現表土。埋土及び校庭の造成土からなる。灰黄褐色粘土（10YR6/2）のほか、にぶい黄橙色砂質土・粘土（10YR6/3）、明黄褐色砂質土（10YR7/6）が認められる。また、場所によりゴミが広範囲に埋められた地点がある。

II層：黒褐色シルト（2.5Y3/1）粘性・しまりあり。径1mmの炭化物を少量含む。近世以降の堆積土。

III層：黒褐色シルト（2.5Y3/2）粘性・しまりあり。径1mmの炭化物を少量含む。近世・中世・古代の遺物包含層。

IVa層：青灰色シルト（5B5/1）、黒褐色シルト（2.5Y3/1）粘性・しまりあり。この上面が上層の遺構確認面。

- IV a' 層：黒色シルト（2.5Y2/1）粘性・しまりあり。径1～5mmの炭化物を含む。
- IV b 層：暗灰色シルト（2.5Y4/2）粘性ややあり・しまりあり。径1～10mmの炭化物をやや多く含む。  
古代の遺物包含層。
- IV c 層：青灰色シルト（5B5/1）、黄灰色シルト（2.5Y5/1）粘性ややあり・しまりあり。径1～5mmの炭化物を少量含む。この上面が下層の遺構確認面。
- V 層：青灰色シルト～砂質土（5B5/1）・オリーブ黑色砂質土（7.5Y3/1）粘性ややあり・しまりあり。オリーブ黑色シルト～粘土と互層堆積となるところもある。当層では自然木が確認され、遺物の出土も認められないことから、後背湿地で形成された基盤層の可能性が高い。

### 第3節 遺構

#### A 遺構の概要

今回の調査で確認された遺構は、出土遺物から下層が古代で、上層も大半が古代に属すると考えられる。上層で明確に中世以降として位置づけられた遺構はない。遺構覆土は基本的に黄褐色～暗褐色シルト・粘土で構成され、炭化物を含む。上層・下層で遺構覆土に大きな違いは認められない。

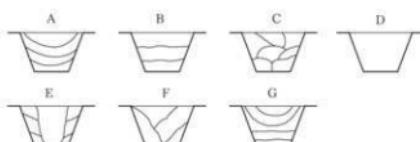
各遺構の記述は上層、下層の順とし、さらに掘立柱建物SB、井戸SE、土坑SK、溝SD、性格不明遺構SX、ピットPの順番で記述する。なお、遺構番号は、上層・下層、遺構の種別に関係なく確認順に通し番号を付した。ただし、遺構番号を付した後、調査により遺構でなくなったものは欠番としている。

また、掘立柱建物の番号については、901番から確認順に番号を付けた。ちなみに、下層の調査で確認された遺構の中には、検討の結果上層の遺構と判断したものがある。そのため、遺構番号が上層と下層とで逆転する場合もある。

遺構の平面形態及び断面形態、堆積状況の分類については、『和泉A遺跡』・『青田遺跡』で示された分類（加藤1999・荒川2004）（第6・7図）によった。また、遺構の規模と深度については、それぞれ遺構プランが確定した段階での長軸最大値と上端面から最深部までの値であり、遺構掘り込み面が遺構確認面より高かった場合、本来の規模・深度はそれよりも大きい値であった可能性が高い。とりわけ下層で確認した遺構で上層と判断したものは、規模・深度とも本来の数値とはかなり異なるといえる。なお、別表1の遺構計測表において、平面形態や断面形態、規模や深度などが不明な場合は空欄とし、規模が確定できない場合は「以上」で示した。



第6図 遺構の平・断面形態の分類（加藤1999）



A レンズ状	複数列がレンズ状に堆積する。
B 水平	複数列が水平に堆積する。
C ブロック状	ブロック状に堆積する。
D 単層	覆土が単一層のもの。
E 杜底	柱状と思われる上層が堆積するもの。
F 斜面	斜めに堆積するもの。
G 水平レンズ	覆土下位は水平に、上位はレンズ状に堆積するもの。

第7図 遺構埋土の堆積形状の分類  
（荒川2004）を一部改変

## B 遺構各説

### 1) 上層の遺構

上層で確認された遺構は、掘立柱建物3棟、井戸3基、土坑36基、溝23条、性格不明遺構7基、ピット161基である。遺構密度や遺構種別は、調査区中央付近を南北方向へのびる溝を境に東西で大きく異なる。掘立柱建物や井戸、土坑は西側に偏り、調査区東側は遺構密度が希薄な状況である。地形が西から東へゆるやかに傾斜して下がる点も含め、調査区は遺跡の東縁付近にあたる可能性が推測される。

#### 掘立柱建物 (SB)

上層では3棟の掘立柱建物を確認した (SB901～903)。うち、SB901は大形の掘立柱建物で、SB902は小規模な建物と推測される。また、SB903は調査区外へのびるため全体像が不明であるものの、柱間の長さなどから大形の建物になる可能性が高い。

#### SB901 (図版9、写真図版3)

3～5D・3～5Eに位置する平安時代の大形の掘立柱建物である。主軸はN-24°-W。SB901の北側は、コンクリート製の便道設置に伴う掘削で削平を受けている。さらに北西側は、ゴミを廃棄した際の掘削により壊滅している。

SB901に属すと判断した柱穴の全てで柱根が出土している。柱穴の掘り方はいずれも円形である。身舎は梁行2間×桁行6間で、東西に廟が付く梁間2間型の建物と考えられる。身舎の柱間の距離は、桁方向で2.4～2.8m、梁方向で2.9～3.1mで、桁方向は北側3列の柱間の距離が若干短い。

身舎部分の面積は87.9m<sup>2</sup>である。なお、北西側の柱穴4つは搅乱による削平のため確認できなかった。東側の廟部分の柱穴と判断したP318・383・393は上層の調査で確認できず、下層調査時に発見された遺構である。P383から出土した柱根の放射性炭素年代測定では古い年代が出ている(第VI章)が、柱根の出土した位置が身舎と一致することに加え、身舎との柱間の距離が約1.68～1.84mと西側の廟と一致しており、偶然とは考えにくいことからSB901に属すと判断した。廟部分を含めた建物面積は140m<sup>2</sup>である。

身舎内に位置するP187・P232は、いずれも柱根が出土していること、身舎中央を通る桁の軸と梁の軸に一致することからSB901に属すと考える。

建物に伴う明確な雨落ち溝は確認できなかつたが、SD88はその可能性もある。

SB901を構成する柱穴と主な遺構との切り合い関係については、SK183→P101・103、P112→SK150→SK95、P146→SK78・79、P152→SK145、P192→SE40、P199→SK64、P232→SK107・102である。

SB901を構成する柱穴の出土遺物などから9世紀第3四半世紀を中心とした時期の建物と考えられる(第VII章)。また、SB901-P207からは支脚も出土している(235)。

#### SB902 (図版12)

4Cに位置する平安時代の掘立柱建物である。主軸はN-24°-W。北西側の柱穴は確認できなかつた。建物は1間×1間で、長軸2.5m、短軸2.2m、面積は5.5m<sup>2</sup>である。なお、調査区外の南西方向へのびる可能性もあるが、柱穴の規模からは小規模な建物と推測される。建物に伴う時期の分かる遺物はないが、軸の方位はSB901と一致しており、近接した時期の可能性が高い。

#### SB903 (図版12、写真図版9)

4C・5Cに位置する平安時代の掘立柱建物である。主軸はN-10°-W。柱穴は2間分(3基)確認され、いずれも柱根が出土している。調査区外へと広がるため建物全体の規模や構造は不明であるが、梁行の柱間は3.2mとSB901の柱間長を上回ることから、大形の建物になる可能性が高い。柱穴の掘り方はいずれも円形である。

**井 戸 (SE)****SE10 (図版 13、写真図版 10)**

5C9に位置する。長軸 1.09m の平面円形で、断面は箱状を呈すが、下方で外側へ膨れる形状である。深さは 1.09m。覆土は灰色・暗灰色の粘土を主体とし、5 層は木質片を多量に含むなど、井戸以外の遺構の覆土と大きく異なる。レンズ状堆積。木製品 (284 ~ 288) が出土したほか、5 層からモモの種実や炭化米が出土している。

**SE40 (図版 13、写真図版 10)**

5D10・15 に位置する。長軸 0.9m の平面円形で、深さは 0.91m。断面は箱状を呈すが、下方で外側へ膨れる。覆土は粘土で、4 層に木質片を多量に含む点は SE10 と共通する。レンズ状堆積。棒状製品 (289) のほか、1 ~ 4 層にかけてモモの種実や炭化米が出土している。

SB901 を構成する P192 を切ることから、SB901 廃絶後の遺構と考えられる。

**SE443 (図版 13、写真図版 10)**

5D2・7 に位置する。平面円形、断面半円状で、長軸 0.93m、深さは 0.56m。覆土は黒褐・灰黄色粘土で、レンズ状堆積。底面直上で曲物底 (290) が出土したほか、水洗選別により 2 層から炭化米が検出されている。

**土 坑 (SK)****SK1 (図版 13、写真図版 10)**

3C20 に位置する。平面梢円形、断面弧状で、長軸 0.9m、深さ 0.08m。

**SK7 (図版 13、写真図版 11)**

4C8・9 に位置する。平面円形、断面弧状で、長軸 0.82m、深さ 0.09m を計る。

**SK9 (図版 13、写真図版 11)**

4C10、4D6 に位置する。平面円形、断面箱状で、長軸 0.99m、深さ 0.27m。覆土は斜位堆積である。

**SK17 (図版 13、写真図版 11)**

3C25、3D21、4C5、4D1 に位置する。平面円形、断面台形状で、長軸 1.58m、深さ 0.55m。覆土はレンズ状堆積である。SD34 を切る。東側は擾乱によって一部削平されている。土器 (37 ~ 39) が出土している。

**SK42 (図版 13)**

4E21・22、5E1・2 に位置する。平面梢円形、断面弧状で、覆土はレンズ状堆積をなす。

**SK52 (図版 13)**

5F12 に位置する。水道管理設部分のため掘り残した場所にかかっているため、形や規模など不明な点が多い。SX209 の南西端になる可能性もある。

**SK54 (図版 13)**

4D25、4E21 に位置する。平面梢円形、断面弧状である。南側は擾乱によって切られる。

**SK57 (図版 14、写真図版 11)**

4E16・21 に位置する。平面円形、断面弧状。覆土はレンズ状堆積である。SD56 に切られる。

**SK61 (図版 14)**

5E1 に位置する。平面は梢円形で断面は弧状を呈す。P36 に切られる。

**SK64 (図版 11・14、写真図版 12)**

5D14・15 に位置する。平面は円形、断面は弧状を呈し、長軸は 1.04m を計る。覆土はレンズ状堆積である。P28 に切られる。

**SK70 (図版 14、写真図版 12)**

4E14・19 に位置する。平面は梢円形、断面は弧状をなす。覆土はレンズ状堆積である。

**SK71 (図版 14、写真図版 12)**

4E19・24 に位置する。平面は梢円形、断面は弧状をなす。覆土はレンズ状堆積である。

**SK77** (図版 14・15、写真図版 12)

4D15、4E11 に位置する。平面は楕円形、断面台形状で、長軸で 1.1m、深さ 0.29m を計る。覆土は斜位堆積である。図化し得た遺物は土師器小甕 (40) 1 点である。

**SK78** (図版 10・14、写真図版 12)

3D20・24・25 に位置する。平面は楕円形、断面は半円状を呈し、長軸で 1.47m、深さ 0.33m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。図化し得た遺物は須恵器無台杯 (41) 1 点と砥石 (257) のみである。

**SK79** (図版 14)

3D19・24 に位置する。平面円形、断面半円状で、覆土はレンズ状堆積である。SK78 に切られる。

**SK81** (図版 6、写真図版 12)

3D14・15 に位置する。北側は土堀溝や調査区外にあたり、全体の形状は不明である。断面は台形状である。

**SK92** (図版 15、写真図版 12・13)

4E11・12・16・17 に位置する。平面は楕円形、断面は弧状を呈し、覆土は 4・5 層がレンズ状堆積であるのに対し、上の 1 ~ 3 層はブロック状の堆積が見られる。長軸は 2.76m、深さは 0.45m を計り、当遺跡の中では規模の大きな土坑である。SB901 東側の廻中央部分に位置することからは、SB901 に関連する遺構の可能性も考えられる。

出土遺物量は上層の遺構の中で最多である。とりわけ 3 層からの出土量が多い。人為的に廃棄された可能性も推測される。図化できた遺物としては、土器 (42 ~ 57) のほかに土鍤 (238) と石帶 (255) がある。50 は「□〔川カ〕合」墨書き土器である。

**SK95** (図版 10・15、写真図版 13)

3D25、3E21、4D5、4E1 に位置する。平面は円形、断面は半円状を呈し、長軸で 1.45m、深さ 0.28m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。図化し得た遺物は土器 3 点 (58 ~ 60) である。SB901 を構成する P112 や SK150 を切る。

**SK105・106** (図版 15、写真図版 13)

SK105 は 4D9・10、SK106 は 4D10・15 に位置する。どちらも平面は円形、断面は半円状で、覆土はレンズ状堆積をなす。SK105 は SK106・P127 に切られており、SK106 は P111 に切られる。図化し得た遺物は、SK105 出土の土師器小甕 (61) 1 点のみである。

**SK107** (図版 15)

4D14・15 に位置する。平面は楕円形、断面は弧状を呈し、長軸で 1.48m、深さ 0.2m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。図化し得た遺物は土師器無台椀 (62) 1 点である。

**SK122** (図版 15、写真図版 13)

4D15 に位置する。平面は円形、断面は半円状を呈し、長軸で 1.03m、深さ 0.39m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。図化し得た遺物が定量存在する (63 ~ 67)。

**SK125** (図版 15、写真図版 13)

3D24・25、4D4・5 に位置する。平面は円形、断面は半円状を呈し、長軸で 1.07m、深さ 0.33m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。図化し得た遺物は土師器壺 (68) と長甕 (69) である。

**SK129** (図版 16、写真図版 13)

3E18・19 に位置する。平面は楕円形、断面は弧状を呈し、長軸で 2.07m、深さ 0.15m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。図化し得た遺物は土師器無台椀 (70) 1 点のみである。

**SK141** (図版 16、写真図版 13)

5D9・14 に位置する。平面は円形、断面は半円状。覆土はレンズ状堆積をなす。図化し得た遺物は土師器無台椀 (71) 1 点である。

**SK142** (図版 16、写真図版 14)

3E19 に位置する。平面は楕円形、断面は弧状。覆土はレンズ状堆積で、SX129 に切られる。

**SK145** (図版 16、写真図版 14)

4D5・10、4E1・6 に位置する。平面は楕円形、断面は台形状をなし、長軸で 1.82m、深さ 0.63m を計る。覆土は下位が水平堆積、上位がレンズ状堆積をなす。図化し得た遺物は須恵器無台杯 (72) と土師器無台椀 (73・75～77)、内面黒色の土師器有台椀 (74)、土師器小甕 (78・79) がある。うち 72～74 は墨書き土器で、73・74 は「川合」の墨書きが認められる。

**SK150** (図版 16、写真図版 14)

4D4・5 に位置する。平面は円形、断面は半円状で、SK95・145 に切られる。覆土はレンズ状堆積をなす。図化し得た遺物は須恵器無台杯 (80)・甕 (83)、土師器無台椀 (81・82) で、82 は墨書きが認められる。

**SK164** (図版 4)

4C19・20・24 に位置する。平面は楕円形、断面は弧状を呈し、長軸で 1.13m、深さ 0.25m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。

**SK167** (図版 4)

4C14・15 に位置する。平面は楕円形、断面は弧状を呈し、深さ 0.08m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。

**SK181** (図版 4)

4C24、5C4 に位置する。平面はやや不整の楕円形で、断面は弧状をなす。長軸で 1.43m、深さ 0.18m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。図化し得た遺物は土師器無台椀 (84・85) で、85 は墨書き土器である。

**SK183** (図版 17、写真図版 14)

4D18・19・23・24 に位置する。平面は不整の楕円形で、断面は弧状をなす。長軸で 3.36m、深さは 0.21m である。覆土はレンズ状堆積をなす。図化し得た遺物は、須恵器の無台杯 (86・87)・杯蓋 (88・89)・横瓶 (90)、土錐 (239) である。SB901 を構成する P101 や・103 などに切られる。

**SK188** (図版 5)

5D5・10、5E1・6 に位置する。平面は不整な楕円形で、断面は弧状をなす。長軸で 1.23m、深さ 0.15m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。

**SK190** (図版 17、写真図版 14)

4D23・24、5D3・4 に位置する。平面は長楕円形で、断面は弧状を呈し、長軸で 2.62m、深さ 0.29m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。図化し得た遺物は、須恵器無台杯 (91)、土師器の長甕 (92) と小甕 (93・94) である。

**SK215** (図版 17、写真図版 14)

4G21 に位置する。平面は不整な楕円形、断面は半円状を呈し、覆土はレンズ状堆積である。

**SK220** (図版 17)

4D12・13・17・18 に位置する。平面は楕円形、断面は半円状を呈し、覆土はレンズ状堆積をなす。図化し得た遺物は、須恵器無台杯 (95・96)・有台杯 (97)、土師器長甕 (98)、土師器小甕 (99) である。96 は墨書き土器で「館」の可能性が高い。SB901 の西側廊内に位置する。

**溝 (SD)**

上層で確認された溝は、規模・用途・時期でそれぞれ異なるものがあるため、以下の 2 項目に大別して記す。

## a 集落を区画する溝

## b 小溝

なお、上層で確認された溝は幅の広いものが多く、幅の狭い小溝群が多く確認された下層の状況とは大きく異なる。この幅の広い溝は調査区東側に偏在して確認でき、南西—北東方向のものと、北西—南東方向のものが存在する。

**a 集落を区画する溝**

調査区の東西方向中央付近から東側にかけて、南北軸の幅の広い溝が数条存在する。溝を境に遺構密度が異なることから、これらを「a 集落を区画する溝」として記述する。なお、幅が広く、深さのある溝については、河川への出入りといった機能も推測される。

**SD66 (図版6・8、写真図版14・15)**

3F・4E・4F・5Eに位置する。N-21°-Eに走る最大幅2.6mの幅の広い溝である。最大深度は0.42mである。多量の土器が出土しており、104～123を図化し得た。

**SD69 (図版6、写真図版15)**

4E・5Eに位置する。南西-北東方向(N-17°-E)に走る最大幅1.1mの溝で、最大深度は0.16mを計る。軸はSD66とおむね一致する。SX229を切る。土器が定量出土している(124～127)。

**SD88 (図版6、写真図版15)**

3D・3E・4Eに位置する。N-44°-W方向にのびており、SD137におむね並行する。最大幅1.94mと幅は広いが、最大深度0.1mと浅い。SX229を切る。図化し得た遺物に土師器小甕(128・129)がある。

**SD128 (図版8、写真図版15・16)**

3Fに位置する。N-31°-E方向にのびており、SD66・130とおむね並行する。最大幅1.38m、最大深度0.6mと幅に比べて深度が浅い。SD137に切られる。

**SD130 (図版8、写真図版15)**

3F・4Fに位置する。方向はおむねN-14°-Eである。最大幅2.35m、最大深度0.37mである。図化できた資料は、須恵器有台杯(132)1点である。

**SD137 (写真図版15・16)**

3E・3F・4E・4Fに位置する。N-54°-W方向に走り、最大幅3.34mの溝で、最大深度は0.56mを計る。軸はSD88と並行し、SD66に直交する。SD128を切るが、SK129やSD66に切られる。土器が定量出土している(133～138)。

**SD210 (図版8、写真図版16)**

4F・4G・5F・5Gに位置する。N-10°-E方向にのびており、最大幅は2.5mと広いが、最大深度は0.18mと比較的浅い。SD66とおむね軸が一致する。図化し得た遺物には、土器(139～144)のほかに土鍤(240)がある。

**b 小溝(縦状小溝)**

幅0.2～0.4m程度の溝で、数条以上が平行して確認できるものを「b 小溝」とする。下層では多く確認できるが、上層では少ない。

**SD56 (図版4・14)**

4D・4E・5Eに位置し、N-45°-W方向へのびる。最大幅0.37m、最大深度0.08mで、SD212・217と平行する。土師器無台碗が出土しているが、図化し得なかった。

**SD124・132 (図版6)**

SD124は3E25、4E5、SD132は4E5・10に位置する。SD124はN-24°-E、SD132はN-20°-Eで、両者の軸はほぼ一致している。SD124はSD137を切る。

**SD212 (図版6)**

4Eに位置し、N-63°-W方向へのびる。最大幅0.41m、最大深度0.05mで、SD56と平行している。遺物の出土は無い。

**SD218 (図版8、写真図版16)**

4F・5Fに位置し、N-5°-W方向へのびる。最大幅0.42m、最大深度0.2mで、SD219と並走する。図化

し得た資料は、1層出土の須恵器有台杯1点(145)である。

#### SD219 (図版8)

4F・5Fに位置し、N-5°-W方向へのびる。最大幅0.38m、最大深度0.22mで、SD218と並走する。図化し得た資料は、1層出土の須恵器無台杯1点(146)である。

#### 性格不明遺構(SX)

##### SX209 (図版18、写真図版16)

5F8・9・13・14に位置する。南西側は水道管布設による未調査部分及び側溝外へと広がるため、全体の様相は不明である。長軸3.05m以上、最大深度0.34mで、図化し得た資料は、須恵器有台杯1点(147)である。

##### SX229 (図版19、写真図版17)

4Eに位置する。最大長7.5mの不整形で、最大深度は0.48mを計る。SD69・88に切られる。覆土はレンズ状堆積。上層遺構ではSK92に次ぐ出土土器量で、図化し得たものも多い(148~165)。墨書き土器が7点と多く出土しており(155~161)、うち4点で「川合」、1点で「川合中」の墨書きがみられる。ほかに、土錐4点(241~244)と木製の曲げ物1点(291)が出土している。土器は食膳具が高い比率で出土しており、全体の約9割を占める(第7表)。

#### 2) 下層の遺構

下層で確認された遺構は、掘立柱建物5棟、土坑36基、溝97条、性格不明遺構1基、ピット309基である。遺構密度は、調査区西側が最も高い点は上層と共通するものの、調査区全域でそれほど偏りなく確認できる点は上層と大きく異なる様相といえる。

#### 掘立柱建物(SB)

下層では5棟の掘立柱建物を確認した(SB904~908)。全体像の不明なものが多いが、いずれも小規模な建物と推測され、上層のSB901のような大規模な建物は確認できなかった。

##### SB904 (図版24、写真図版18)

4C・4Dに位置する古代の掘立柱建物である。主軸はN-4°-W。2間×2間の総柱建物で、建物面積は17.6m<sup>2</sup>と、比較的小規模な建物である。P476で柱根が出土している。東列のP491~493は擾乱部分にあたっており、擾乱を取り除いた後の遺構確認となった。出土遺物は、P468・476から土師器窯の細片が出土しているが、いずれも図化でき得る遺存状況ではなく、時期の特定も困難である。SB907と軸は近い。

主な遺構との切り合い関係については、SD475→SD483→P476、SD481→P462である。

##### SB905 (図版24、写真図版18)

3C・4Cに位置する古代の掘立柱建物である。主軸はN-41°-W。柱穴が3基確認されており、いずれも柱根が確認されたが遺存状況は悪い。柱間は2.4~2.5m。北~西方向へ建物が延びる可能性があるが、調査区内では柱穴推定位置が土側溝や法面、未掘り下げ部分にあたっており確認できなかった。

柱穴からの遺物の出土は無い。軸はSB908と近い。主な遺構との切り合い関係については、SD482→P479、P582→P552、SD508→P617である。

##### SB906 (図版25、写真図版19)

3F・4Fに位置する古代の掘立柱建物である。主軸はN-16°-W。2間×2間の総柱建物で、建物面積は13.3m<sup>2</sup>と比較的小規模な建物である。柱間は1.7~1.9m。P337・339・346・352で柱根が出土している。

出土遺物はP339~341・343・346であるが、図化し得たのはP340の2層から出土した須恵器無台杯1点のみである(294)。主な遺構との切り合い関係については、SD541→P341、SD351→P352である。

##### SB907 (図版25)

3Fに位置する古代の掘立柱建物である。主軸はN-5°-W。P362・436・519で柱根が確認された。なお、P519の柱穴プランは不明で、柱根を確認したのみである。柱間は長軸で3.2m、短軸で1.9m。建物は北へ延

びる可能性があるが、調査区外のため不明である。

柱穴からの遺物の出土は無い。軸はSB904に近い。主な遺構との切り合い関係については、SD334 → P593である。

#### SB908 (図版 25)

3D・3E・4D・4Eに位置する古代の掘立柱建物である。主軸はN-24°-W。柱間長は1.8~2.1mで、2間×2間の純柱建物と推定するが、柱穴西列の北側2基は、推定箇所が便槽・擾乱部分にあたっており確認できなかつた。P391・392で柱根が出土している。建物推定復元面積は13.7m<sup>2</sup>と比較的小規模である。

出土遺物はP394で土器師無台椀の口縁部が1点出土しているが、小片のため図化し得なかった。軸はSB905に近い。主な遺構との切り合い関係については、SK641 → P394。

#### 土坑 (SK)

##### SK262 (図版 26、写真図版 21)

5E9・10・14・15に位置する。南側は土側溝や未掘削部分にあたるため、全体の形態・規模は不明である。断面は弧状を呈し、長軸で1.8m以上、深さ0.08mを計る。覆土はレンズ状堆積をなす。

##### SK266 (図版 26、写真図版 21)

5E5に位置する。平面は梢円形、断面は半円状を呈し、長軸で1.01m、深さ0.21mを計る。覆土はレンズ状堆積をなす。SD265に切られる。

##### SK267 (図版 26、写真図版 21)

4E25・4F21、5E5、5F1に位置する。平面は不整な梢円形で、断面は弧状をなす。長軸で1.35m、深さ0.19mを計る。覆土はレンズ状堆積をなす。

##### SK281 (図版 26)

5G6に位置する。東側の大半は未調査部分にかかるため平面形は不明である。断面は弧状とみられ、長軸で1.07m以上、深さ0.14mを計る。SD256に切られる。

##### SK282 (図版 26、写真図版 21)

4F23・24に位置する。不整の梢円形で、断面弧状を呈する。長軸で0.92m、深さ0.09mを計る。

##### SK283 (図版 26、写真図版 21)

5F3に位置する。不整の梢円形で、断面は弧状である。長軸1.51m、深さ0.11mを計る。

##### SK284 (図版 26、写真図版 21・22)

4G22・23に位置する。平面形は円形で、断面は弧状をなす。長軸0.93m、深さ0.11mを計る。図化し得た資料は、須恵器有台杯1点(295)である。

##### SK285 (図版 26、写真図版 22)

4G17・21・22に位置する。平面形は円形で、断面は弧状を呈す。長軸1.15m、最大深度0.15mを計る。

##### SK297 (図版 27、写真図版 22)

3E25に位置する。平面円形で、断面は弧状をなす。長軸0.8m、最大深度0.06m。SD298に切られる。

##### SK306 (図版 27、写真図版 22)

4G6・11に位置する。梢円形で、断面は弧状をなす。長軸0.91m、深さ0.11mで、覆土はレンズ状堆積。

##### SK311 (図版 27、写真図版 22)

4E13・17・18に位置する。平面形は不整の梢円形を呈し、断面は弧状をなす。長軸で2m、最大深度0.24mを計る。SD271を切るが、SD312に切られる。

##### SK327 (図版 27、写真図版 22)

4E4に位置する。平面梢円形で、断面は弧状をなす。長軸0.66m、最大深度0.09mを計る。覆土はレンズ状堆積。

**SK330** (図版 27、写真図版 23)

4E2・3・7・8 に位置する。平面は不整の円形で、断面は半円状を呈する。長軸 0.96m、最大深度 0.22m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。

**SK331** (図版 27、写真図版 23)

4E7・8 に位置する。平面形は不整の円形で、断面は半円状をなす。長軸 0.88m、最大深度 0.2m を計る。覆土はレンズ状堆積。土師器小甕 (296) が 1 点出土している。

**SK347** (図版 27、写真図版 23)

3F18 に位置する。平面形は梢円形で、断面は弧状を呈す。長軸 1.02m、深度 0.05m を計る。

**SK355** (図版 27、写真図版 23)

4F3・4・8・9 に位置する。平面は不整の円形で、断面は弧状をなす。長軸 1.13m 以上、最大深度 0.16m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。

**SK360** (図版 27、写真図版 23)

3F13・14 に位置する。平面形は不整の円形もしくは隅丸方形で、断面は台形状を呈す。長軸 1.11m、最大深度 0.18m を計る。覆土はレンズ状堆積。須恵器無台杯 (297) が出土している。

**SK366** (図版 28、写真図版 23)

3F20・25、3G16・21 に位置する。平面形は不整の円形で、断面は半円状をなす。長軸 1.2m、最大深度 0.27m を計る。覆土は水平堆積。図化し得た遺物に土師器小甕 (298) がある。

**SK372** (図版 28、写真図版 24)

4G1 に位置する。平面形は不整の円形で、断面は弧状を呈す。長軸 0.78m、最大深度 0.07m を計る。覆土はレンズ状堆積。遺物の出土は無い。

**SK388** (図版 28、写真図版 24)

4F12・13 に位置する。平面は不整の梢円形と推定され、断面は半円状をなす。長軸 1.17m、最大深度 0.29m を計る。覆土はレンズ状堆積。図化し得た遺物は、須恵器有台杯 (299) と磨石状石製品 (384) である。

**SK411** (図版 21)

5C10・15、5D6・11 に位置する。平面形は不整の梢円形で、断面弧状。長軸 2.3m、最大深度 0.22m を計る。覆土はレンズ状堆積。図化し得た遺物に土師器小甕 (300) がある。

**SK418** (図版 28、写真図版 24)

5C4 に位置する。平面形は円形で、断面は弧状をなす。長軸 1.06m、最大深度 0.13m を計る。覆土はレンズ状堆積。須恵器無台杯と土師器小甕が出土しているが、小片のため図化し得なかった。

**SK420** (図版 28、写真図版 24)

4C24、5C4 に位置する。平面円形で、断面は弧状をなす。長軸 1.09m、最大深度 0.16m を計る。覆土はレンズ状堆積である。

**SK510** (図版 28、写真図版 24)

3C19・24 に位置する。平面形は不整の梢円形と推定され、断面は弧状を呈す。北側が未調査区にあたるため全体の規模は不明であるが、長軸 2.03m 以上、最大深度 0.26m を計る。覆土はレンズ状の堆積を示す。

SK525・526、SD508 などに切られ、SK583 を切る。一定量の土器が出土しており、図化し得たものも比較的多い (301 ~ 308)。うち、304 ~ 306 は墨書き有す。

**SK512** (図版 29、写真図版 24)

4E2・3 に位置する。平面形は不整の円形をなし、断面は弧状を呈す。長軸 0.88m、最大深度 0.1m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。

**SK524** (図版 29、写真図版 24)

3C24・25に位置する。平面形は梢円形で、断面は半円状をなす。長軸 1.31m、最大深度 0.16m を計る。覆土はレンズ状堆積。図化し得た遺物として、体部外面に墨書を有す須恵器無台杯 (309) がある。

**SK525** (図版 29)

3C18・19・23に位置する。遺構の北西側の大半が未調査区にかかるため、全体の形状や規模は不明である。

**SK526** (図版 29)

3C19・20・25に位置する。北側が未調査区にあたるため、全体の形状・規模は不明である。断面は弧状をなし、覆土はレンズ状堆積である。図化し得た遺物として須恵器無台杯 (310) がある。

**SK527** (図版 29、写真図版 25)

3C20、3D16に位置する。平面形は梢円形で、断面は弧状を呈す。覆土は斜位堆積をなす。最大深度は 0.13m。SD528 に切られる。

**SK562** (図版 29、写真図版 25)

3F16・17に位置する。SD334・335・540 に切られており、全体の形状・規模は不明である。平面形は不整の円形もしくは梢円形で、断面は弧状を呈す。長軸 1.3m 以上、最大深度は 0.2m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。

**SK583** (図版 30、写真図版 25)

3C23・24に位置する。SK510、SD507・508 などに切られている。平面形は梢円形で、断面は半円状をなす。推定長軸 1.46m、最大深度 0.36m で、覆土はレンズ状堆積と考える。

3 層から遺存率の高い須恵器無台杯が正位の状態でまとまりをもって出土している (311 ~ 314)。また、4 層では墨書を有す須恵器無台杯 (315) も出土した。SK510 に切られる。

**SK641** (図版 30、写真図版 25)

4D5 に位置する。平面形は円形で、断面は弧状をなす。長軸 0.97m、最大深度 0.06m を計る。

**SK653** (図版 30、写真図版 25・26)

5D4・5 に位置する。平面形は不整の梢円形で、断面は台形状もしくは V 字状を呈す。長軸 2.28m、最大深度 0.37m を計る。覆土はレンズ状堆積に近い。製塙土器 (316) が 1 点出土している。

**SK678** (図版 30、写真図版 26)

4F5 に位置する。平面形は梢円形で、断面は漏斗状もしくは V 字状。長軸 1.42m、最大深度 0.51m を計る。覆土はレンズ状堆積に近い。平断面の形状からピットに属する可能性がある。SD369・370 に切られる。

**SK696** (図版 30、写真図版 26)

4G1 に位置する。平面形は不整の梢円形で、断面半円状もしくは台形状を呈す。長軸 0.88m 以上、最大深度 0.2m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。SK372 や SD369 に切られる。図化し得た遺物として土師器長甕 (319) がある。

## 溝 (SD)

下層で確認された溝は、規模・用途でそれぞれ異なるものがあるため、以下の 2 項目に大別して記述する。

## a 区画溝

## b 畑作関連と考えられる溝 (畝状小溝)

なお、下層で確認された溝の大半は、幅 0.2 ~ 0.5m 程度の小溝で、数条以上が平行して確認できることから「b 畝状小溝」と考えられる。

この種の溝群は調査区のほぼ全域で確認された。下層の遺構の主体はこの小溝群であり、上層とは遺構の様相が大きく異なる状況にある。また、ほかに明らかに規模の大きな溝も存在し、それについて「a 区画溝」として分けて記述を行う。

**a 区 画 溝****SD271** (図版 11・27・31・34、写真図版 27)

4D～Fに位置する。N-83°-Eに走る溝で、最大幅 1.93m、最大深度 0.25m と幅に比べて深さは比較的浅い。下層で 2m 近い幅を有す溝はこの 1 例のみである。

**b 畑作関連と考えられる溝 (畝状小溝)**

溝の位置や方向、溝同士の間隔などからおおむね下の A～E の 5 つのまとまりに分けられる。

A : 調査区北東側の 3E～3G・4E～4G グリッドに位置し、東西方向にのびる SD297・298・299・300・321・324・334・335・357・361・368・437・540・541・601 の溝群。軸は N-82～90°-E、N-87～90°-W に収まる。SB906 や溝群 E に切られる。

B : 調査区南東側の 4F・G、5F・G グリッドに位置し、東西方向にのびる SD241・245・257～260・381・387・559 の溝群。軸は N-84～88°-E、N-87～89°-W に収まる。A の溝群との間に少し空白域があるものの、軸がおおむね一致することから同時期の可能性が高いと推測する。

C : 調査区西側の 4C～E、5D グリッドに位置し、北西～南東方向にのびる SD312・399・484・619 の溝群。軸は N-20～32°-W に収まる。SD271 を切っている。軸は SB905・908 と近い。

D : 調査区南西側の 4C・5C・D グリッドに位置し、北西～南東方向にのびる SD278・382・410・413～417・421・423・424 の溝群。軸は N-67～82°-W に収まる。SB906 に軸は近い。

E : 調査区東側の 3F・G、4F・G、5F・G グリッドに位置し、南北方向にのびる SD290・305・320・349・351・353・407・432・440・674・683 の溝群。軸は N-0～10°-E、N-0～10°-W に収まる。軸は SB904・907 に近い。A の溝群を切る。SB906 に切られる。

溝の切り合い関係等からは、A よりも E の溝群の方が新しい。

**性格不明遺構 (SX)****SX384** (図版 34、写真図版 29)

5D3・4・8・9 に位置する。平面形は不整の長楕円形で、断面は弧状を呈す。長軸 2.41m、短軸 0.64m、最大深度 0.11m を計る。平面形態から溝の可能性もある。覆土は斜位堆積をなす。

**ピ ッ ト (P)****P248** (図版 34)

5F3・8 に位置する。平面円形で、断面は半円状を呈す。長軸 0.39m、最大深度 0.1m を計る。覆土はレンズ状堆積をなす。ほぼ完形の須恵器広口壺 (337) がほぼ正位の状態で出土した (図版 34)。

## 第V章 遺物

### 第1節 概要

遺物量はコンテナ（内径 54.5 × 33.6 × 10.0cm）にして試掘調査（第1次調査）が1箱（平安時代の土器）、本発掘調査（第2次調査）40箱（奈良・平安時代の土器・土製品・石製品・銭貨・鉄滓・種子・炭化物・中・近世の陶磁器）のほか、平安時代の木製品（木柱 53本など）が大型水槽に保管されている。

本発掘調査において遺物が出土した層はⅢ・Ⅳ層で、平安時代から近世までの遺物が確認された。このうち、IV a 層が上層の遺構確認面、IV c 層が下層の遺構確認面で、遺物包含層は上層がⅢ層、下層がIV b 層にあたる。

遺物の図面図版では上層・下層で区分し、上層・下層の順に掲載したが、出土層位が不明な土器と中・近世の遺物については、遺物図面図版の最後（図版52）に「上層・下層出土土器」として一括で載せた。また、各層では遺物の種別ごとに土器・土製品・石製品・木製品の順で載せ、さらに、遺物の種別ごとに、掘立柱建物SB、井戸SE、土坑SK、溝SD、性格不明遺構SX、ピットPの順に掲載している。

出土遺物の記述についても、図面図版の順番に従い、上層出土遺物、下層出土遺物、上層・下層出土遺物の順で、種別（土器・土製品・石製品・木製品）、さらに種別ごとに掘立柱建物SB、井戸SE、土坑SK、溝SD、性格不明遺構SX、ピットPの順で行う。なお、紙面の都合上、本章で記述できなかった観察項目も多いことから、個別の調整や法量などの詳細については観察表を参照されたい。

### 第2節 土器・陶磁器

林付遺跡から出土した土器の大半は平安時代であり、上層・下層で土師器、須恵器を中心に少量の黒色土器が出土しているが、灰釉陶器や綠釉陶器などの施釉陶器は確認できない。また、上層の包含層から中・近世の陶磁器が少量出土している。

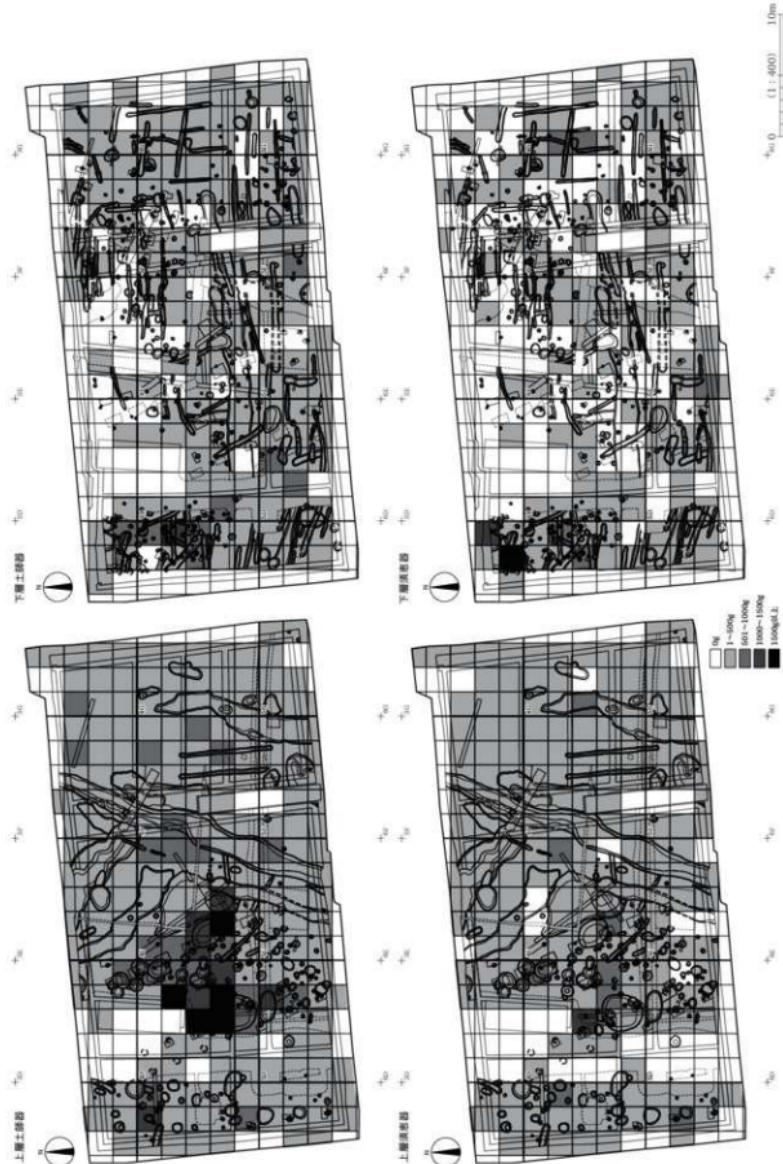
古代における上層・下層の土師器と須恵器のグリッド別重量分布をみると（第8図）、上層では土師器・須恵器ともSB901内で多く、下層では西端域で多いことがわかる。上層では遺構の少ない調査区北東域でも遺物がある程度出土している点は留意されるが、上・下層とも遺構密度とおむね一致する状況といえる。

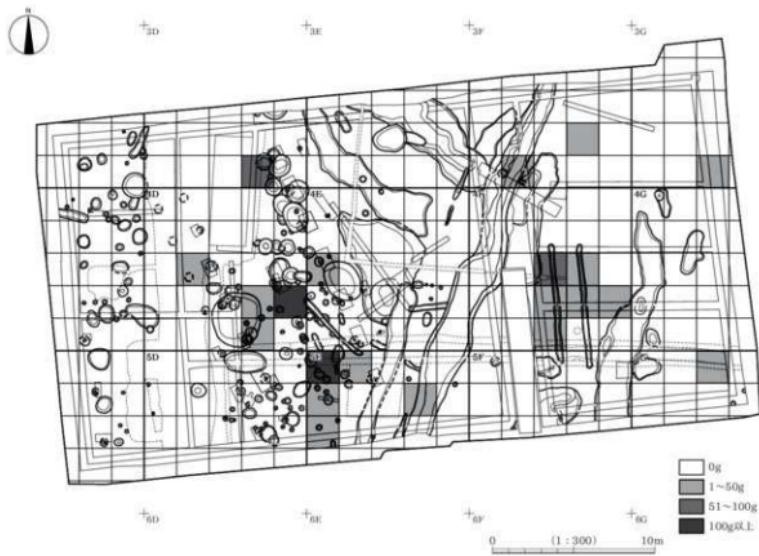
#### A 実測図の表現と観察項目について

実測図では、残存径が1/8以下を目安に、径の復元が困難なものについて中軸線から稜線等を離すことで表現した。また、調整が変換する場所については実線とした。出土位置については、出土層位が分かるものについて記入し、不明なものは空欄とした。土器の色調については外面の色調を記録した。場所によって色調が異なるものもあるが、その場合は最も広い範囲で確認されるなど、平均的な色調を記入するように努めた。

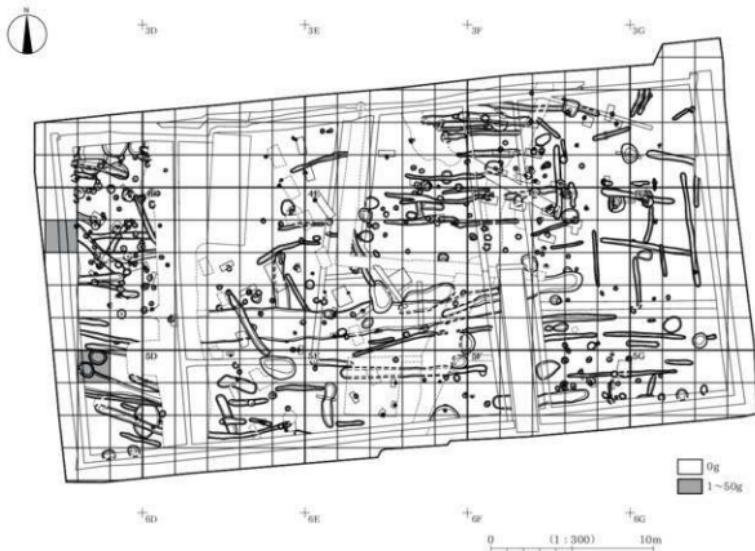
胎土については、10～20倍のルーペを使用し、肉眼観察を行った。長石・石英・雲母・海綿骨針・角閃石・チャート・赤色粒子・白色粒子・その他砂粒が観察された。各鉱物を含有する土器については、観察表の胎土の欄にそれぞれ長石・雲母・海綿骨針・角閃石・チャート・赤色粒子・白色粒子でそれらの有無を記載した。なお、含有鉱物の量が際立って多い場合には「◎」で示した。また、須恵器についてはこれまでの研究成果（坂井1989・春日2000・2001<sup>左</sup>）を参考に下記の3群に分け、本文・観察表で記載した。

A群…粘質が強く、比較的径の大きな長石・石英・砂粒を多く含む胎土のもの。笠神丘陵などを中心とした





第9図 上層鉄滓グリッド別重量分布図



第10図 下層鉄滓グリッド別重量分布図

阿賀北地域で生産された可能性が高いもの。

B群…砂質が強く、混入物の少ない精白な胎土、または砂質が強く細かい白色粒子を多量に含む胎土のもの。

佐渡小泊窯跡群で生産された可能性が高いもの。

C群…A・B群以外のもの

なお、C群の産地について、周辺では新津丘陵・角田山麓・西古志地域の窯跡群が存在し、また頸城地域なども候補として挙げられる。

このうち、粘質が強く1mm前後の細かい石英・長石を定量含む比較的精良な胎土のものを新津丘陵窯産とし、その可能性が高いものについては本文中に記述した。また、西古志窯産の可能性があるものについても個別に記述した。なお、西古志窯産と記述した土器の中には、角田山麓窯産の可能性があるものもある。

## B 土器の分類

名称はなるべく形態を表現する述語を用い、これを細分する場合にA・B・Cのアルファベットを付す。また、同一器種のうち法量の異なるものはI・II・IIIなどのローマ数字をさらに付けた。なお、形態の細部の分類には、a・b・cなどのアルファベット小文字を用いた(第11図)。須恵器、土師器の順で説明を行う。

### 須恵器

**杯 薩** 口端部径によりI(14~15cm前後)・II(11~12cm前後)に分類した。主体はIIである。有台杯B類のII・IIIにおむね対応すると推測される。摘み部外面に墨書きが施されたものもある。

**有台杯** A類:器高の低いものと、B類:器高4cm以上の深身のものとで大別し、B類はさらに口径でI(15~16cm前後)・II(13~14cm前後)・III(10cm前後)に細分した。それぞれ杯蓋の口径におむね対応すると考えられる。

B類で主体をなすものはIIである。底部の切り離し方法はヘラ切りと糸切りがある。

**無台杯** 口径でI(14cm前後)・II(12~13cm前後)・III(10cm前後)に分類した。このうち主体はIIである。底部の切り離し方法はいずれもヘラ切りで、糸切りは認められない。墨書き器が定量認められる。

**長頸瓶** 口縁端部の形態は、上へ摘みあげるものと上下に摘むものの2種類が存在する。出土数は多くない。

**広口壺** 細い張る体部に、強く外反する短い口縁部をもつもの。高台が付く。1点のみ確認できる。

**壺** 口縁部の形態により、A類:長く外反してのびるもの、B類:短く直線的にのびるもの、に区分した。A類の中には大型品で口縁部外面に波状文が施されたもの(367)も存在する。タタキ具・当て具痕については、いずれも外面に平行線文、内面に同心円文が施される。

**横 瓶 器** 形になったのは1点のみである。

### 土 师 器

**無台碗** 口径でI(16cm前後)・II(13cm前後)に分類した。IIが主体で、Iは少ない。底部の切り離し方法は大半が糸切りである。墨書き器が定量認められる。

**黒色土器** 内面に黒色処理を施した土器を一括した。有台碗や縁袖陶器を模倣したものも存在する。数は少ない。

**壺** 確認できたのは図示した1点のみである。長い口縁部が外反してのびる形態である。

**小型壺** A類:精製のもの(333)と、B類:粗製のもの(341)に分類した。小壺の可能性もあるが、333は内外面、341は内面でヘラミガキが認められることから小型壺として分類した。

**鉢** 口縁部の形態でA類:体部から内湾しながらシンプルにおさまるもの、B類:鉢形で口縁部が内側に屈曲するもの、に分類した。数は少ない。

**鍋** 一定量存在する。口縁端部の形態によりA類:摘みあげるもの、とB類:摘みあげないもの、とに分類した。摘みあげるものが多い。タタキ具・当て具を使用するものとしないものとがある。使用するものは、いずれも外面・内面ともに平行線文を有す。

**長 瓢** A類：口クロ成形のもの、B類：非口クロ成形のもの、に大別した。さらに、口縁部・口縁端部の形態により a（口縁部が外反し端部を摘みあげもしくは面取りするもの）・b（口縁部が外反し端部を丸く取めるもの）・c（口縁部が内湾気味に之端部を尖り気味におさめるもの）に細分した。Aa類・Ba類が主体をなし、口縁端部形態 b類・c類は少ない。なお、Ba類はいわゆる「西古志型甕」、Bc類は「佐渡型甕」の特徴をもつ。また、Bb類は1点のみ確認されている（67）。口縁部が強く屈曲・外反するもので、山三賀遺跡における長甕C系（坂井1989）の口縁部形態に近い。

タタキ具・当て具痕を確認できるものについては、外面はいずれも平行線文で、内面も大半が平行線文であるが、例外的に同心円文を有するもの（319）もある。底部は丸底・平底ともに認められる。なお、底部外面に木葉痕をもつものが1点出土している（33）。

**小 瓢** A類：口クロ成形のもの、B類：非口クロ成形のもの、とに大別した。さらに、口縁部・口縁端部の形態により a（口縁部が外反し端部を摘みあげもしくは面取りするもの）・b（口縁部が外反し端部を丸く取めるもの）に細分した。Aa類・Ba類が主体をなし、Ab類は少ない。

円筒形土製品 器壁が厚く、口縁部はやや内側に傾斜しながらおさまる形で、底部は平底で中央に焼成前穿孔が行われている。内外面とも条間の広い深いハケメ調整で、内面に粘土紐痕を明瞭に残すなど作りは粗い。支脚として利用された可能性がある。

製塙土器 体部から口縁端部へ直立気味にのびる形態で、内面に粘土紐痕・指頭圧痕を残す。数は少ない。

## C 上層出土の土器

### 1) 据立柱建物 (SB)

SB901（図版35、写真図版30）

1～33はSB901を構成する柱穴（ピット）内から出土した資料である。以下、ピットごとに記述する。

P59（図版35、写真図版30）

土師器無台椀（1・2）がある。2の底部切り離しはヘラ切りである。

P101（図版35、写真図版30）

図化できたのは須恵器無台杯（3）のみである。復元径で15.8cmと比較的大きい。胎土はB群である。

P112（図版35、写真図版30）

須恵器無台杯（4・5）、土師器無台椀（6～8）、内面黒色土器（9）が出土している。4・5の胎土は両方ともB群。4は口縁端部内面が凹んで沈線状に巡る。6～8はいずれも土師器無台椀のII類である。6の底部切り離しは回転糸切りである。8は外面に横位のヘラミガキ、内面に縱位のヘラミガキが認められる。9は土師器の椀で、内面は黒色処理されている。内外面には横位のヘラミガキが施されている。

P119（図版35、写真図版30）

図化できたのは土師器の無台椀（10）1点と鍋A類（11）1点である。11は1・2層から出土しており、外面は体部平行線文のタタキのち体部上半をヘラケズリ、内面は体部下半に平行線文の當て具痕が認められる。口縁部から体部外面にススが付着する。

P149（図版35、写真図版30）

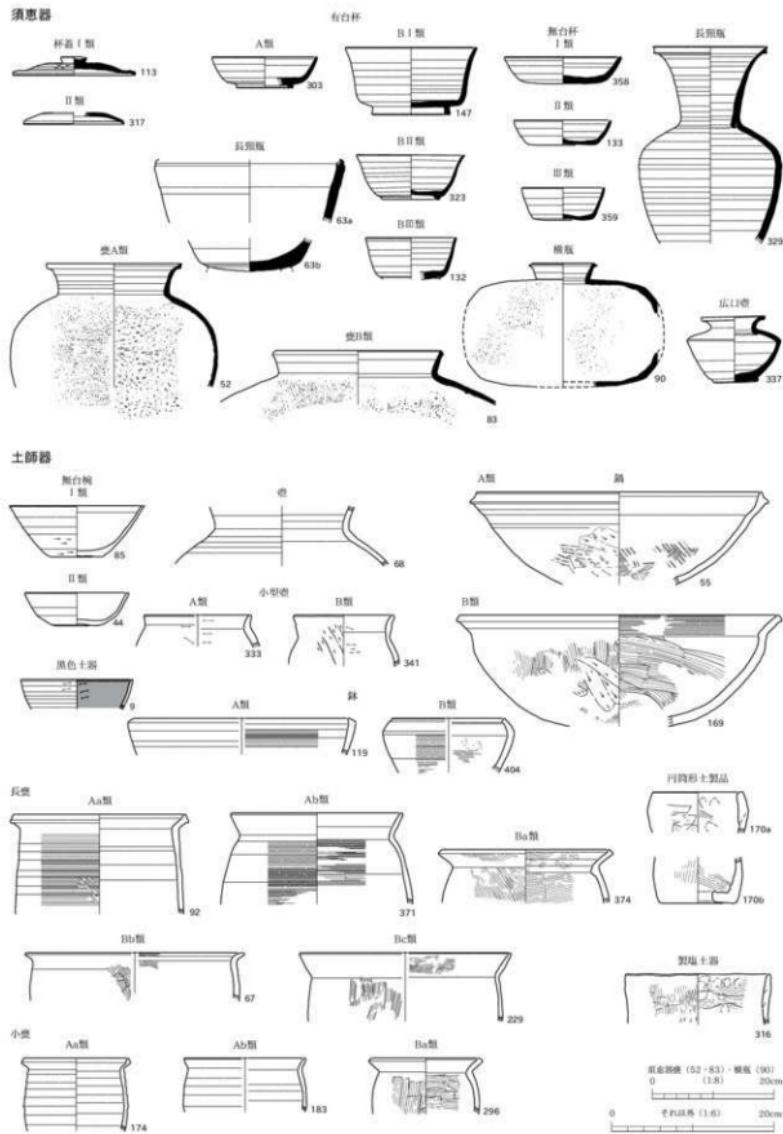
図化できたのは土師器無台椀（12）1点である。土師器無台椀II類。

P152（図版35、写真図版30）

須恵器長頸瓶（13）で、口縁端部は上に摘みあげられる。胎土はB群。

P187（図版35、写真図版30）

図化し得たのは土師器の小甕Aa類（14）1点のみで、他に須恵器無台杯の小片が1点出土している。内・外面上はロクロナデで、口縁端部を上方へ摘み上げる。



第 11 図 土器分類図

P191 (図版 35、写真図版 30)

須恵器杯蓋 (15) と土師器無台椀 (16)・長甕 (17～19) が出土している。15 は転用観で、内面に墨痕を有す。胎土は C 群。16 は底部が高台状を呈し、内面に横位のヘラミガキを施す。底部切り離しは回転糸切りである。17 は土師器長甕 Aa 類で、口縁端部は直立気味に摘み上げられ丸く收まる。18 は非クロコ甕の平底で、大きめの鉢物を多く含む粗い胎土である。19 はクロコ甕の尖り気味の丸底で、外面平行叩き、内面平行線文の当て具痕が認められる。

P194 (図版 35、写真図版 30)

団化し得たのは須恵器有台杯 (20) 1 点で、他に土師器長甕が出土している。20 は底部を欠損するが、推定復元口径約 15.4cm で、胎土は B 群。

P197 (図版 35、写真図版 30)

須恵器無台杯 (21) で、2 層からの出土である。胎土は B 群。

P202 (図版 35、写真図版 30)

土師器無台椀 (22) で、底部を欠く。外傾する体部から口縁部がやや上方へ屈曲する形態をなす。胎土は長石・石英のほかに、径 5mm 前後の白色凝灰岩を含むなど総じて粗い。

P203 (図版 35、写真図版 30)

須恵器無台杯 (23) と土師器小甕 (24) がある。両者とも 1 層から出土している。23 は II 類で、底部切り離しはヘラ切りのちナデ調整。胎土は B 群。24 は小甕 Aa 類で、体部から口縁部外面にススが、口縁部内面に炭化物が付着する。

P205 (図版 35、写真図版 30)

団化できた資料は土師器長甕 (25・26) である。25 は Aa 類で、口縁部から体部外面にススが付着する。26 はクロコ成形の平底である。

P206 (図版 35・42、写真図版 30・33)

土師器無台椀 (27)、須恵器無台杯 (28・29)、土師器長甕 (184) が団化し得た。27 は口縁部が短く外反する形態で底部を欠損する。28 は II 類。29 は底部外面に墨書が認められる。胎土は B 群である。

土師器長甕 (184) は Aa 類。体部外面にはカキメが観察される。また、体部外面にはススが認められる。

P207 (図版 35、写真図版 30)

団化できたのは須恵器無台杯 (30・32)・有台杯 (31)、土師器長甕 (33) である。30・32 は無台杯 II 類、31 は有台杯 II 類である。33 は底径 7.4cm と大きめの平底で外面には木葉痕（網状葉脈圧痕）が認められる。

S8903 (図版 36、写真図版 30)

P422 (図版 36、写真図版 30)

団化できたのは須恵器有台杯 (34) 1 点で、深身の有台杯 B I 類にあたる。胎土は B 群で体部から口縁部はゆるやかに外反する。

P503 (図版 36、写真図版 30)

須恵器杯蓋 (35) 1 点が出土している。杯蓋 I 類で、胎土は B 群。天井部のゆがみが激しい。

2) 井 戸 (SE)

SE443 (図版 36、写真図版 30)

土師器無台椀 1 点 (36) が出土している。口縁部は内湾しながらシンプルに收まる形態である。

3) 土 坑 (SK)

SK17 (図版 36、写真図版 30)

一定量の土器が出土しているが、団化し得たのは須恵器無台杯 (37)・杯蓋 (38)、土師器長甕 (39) である。37・38 の胎土は B 群で、37 は須恵器無台杯 II 類、38 は須恵器杯蓋 I 類。37 の切り離しはヘラ切り後ナデ調整。

39は土師器長甕 Aa 類。

**SK77** (図版 36、写真図版 30)

図化し得たのは土師器小甕 (40) の体部下半から底部と考えられる。底部切り離しは回転糸切りである。体部外面にススが付着する。

**SK78** (図版 36、写真図版 30)

図化し得たのは須恵器無台杯 II 類 (41) 1 点である。胎土は B 群。

**SK92** (図版 36・37、写真図版 30)

上層で確認された遺構の中で最多の遺物出土量である。土器のほかに、土錐 (238)、石帶 (255) が出土している。図化し得た土器は、須恵器無台杯 (42・43)、土師器無台椀 (44～50)、須恵器長頸瓶 (51)、須恵器甕 (52)、土師器長甕 (53)、土師器鍋 (54～57) である。

42・43 は両者とも須恵器無台杯 II 類で胎土は B 群。42 の形態・胎土は 37 に類似する。44～50 はいずれも土師器無台椀 II 類で、50 の底部外面には墨書が認められる。46 の内面にはヘラミガキが施されている。51 は外端接地高台を有す。胎土は B 群。52 の外面は平行線文のタタキが格子目状に認められる。内面には同心円文の当て具痕を有す。胎土は B 群。

53 は長甕 Aa 類。54～57 はいずれも鍋 A 類。55～57 は内外面とも平行線文が認められ、うち、55 の外面は平行線文のタタキのちへラケズリ・ヘラミガキを施す。55 の内面には口縁部から体部まで炭化物が付着する。56 は口縁部から体部下方までススが認められる。57 は体部外面にススが付着する。

**SK95** (図版 37、写真図版 31)

図化し得たのは須恵器有台杯 (58) と土師器無台椀 (59・60) である。58 は胎土 B 群。59・60 は II 類。

**SK105** (図版 37、写真図版 31)

図化し得たのは土師器の小甕 1 点 (61) で Aa 類である。内面は口縁部・体部で炭化物の付着が認められる。

**SK107** (図版 37、写真図版 31)

図化し得たのは土師器無台椀 1 点 (62) で、II 類である。

**SK122** (図版 37、写真図版 31)

図化し得たのは須恵器の長頸瓶 (63a・b)、有台杯 (64) と土師器の小甕 (65)、長甕 (66・67) である。63a・b の胎土はどちらも B 群で、同一個体と考えられる。底部は丸みをもち、高台部を欠損する。64 は須恵器有台杯の口縁部と考えられる。胎土は B 群。65 は土師器小甕 Ba 類で、外面は縱方向のヘラケズリ痕が認められる。66 は土師器長甕 Aa 類。67 は土師器長甕 Bb 類で、短い口縁部が水平気味に外へ強く外反する。体部外面は縱位のハケメ、口縁部から頸部内面は横位のハケメが施される。口縁部が強く屈曲・外反するもので、山三賀遺跡における長甕 C 系 [坂井 1989] の口縁部形態に近い。

**SK125** (図版 37、写真図版 31)

土師器甕 (68) と土師器長甕 (69) を図化し得た。68 は頸部で、約 1/6 周の遺存率である。69 は土師器長甕 Aa 類。

**SK129** (図版 38、写真図版 31)

図化できたのは土師器無台椀 1 点 (70) で、II 類。

**SK141** (図版 38、写真図版 31)

図化できたのは土師器無台椀 1 点 (71) で、II 類。

**SK145** (図版 38、写真図版 31)

土器は一定量出土している。図化できたのは、須恵器無台杯 (72)、土師器無台椀 (73)、黒色土器 (74)、土師器無台椀 (75～77)、土師器小甕 (78a・b、79) である。

72～74 は底部外面に墨書が確認でき、73・74 には「川合」と記されている。72 の胎土は B 群。74 は内

面が黒色処理された土師器有台椀で、比較的高い内端接地高台が付き、高台の底には沈線状の凹みが巡る。内面は放射状のヘラミガキが確認される。75～77はいずれも土師器無台椀II類である。76は体部下端ロクロケズリが行われている。78・79は土師器小甕Aa類で、78の口縁部は直立気味に、79の口縁部は内側に摘みあげている。両者とも口縁部・体部の外表面全体にススが、内面の口縁部のみに炭化物が認められる。

## SK150 (図版38、写真図版31)

図化し得た土器は、須恵器無台杯(80)、土師器無台椀(81・82)、須恵器甕(83)である。80は胎土B群。81は土師器無台椀II類で、内面に横位のヘラミガキが認められる。82は底部外面に「古」の墨書が記されている。83は甕B類で、外表面は平行線文のタタキ、内面には同心円文の当て具痕が観察される。胎土はB群。

## SK181 (図版38、写真図版31)

図化し得たのは土師器無台椀(84・85)である。84は土師器無台椀II類で、底部切り離しは回転糸切りである。85は口径16.5cmの土師器無台椀I類で、器高6.25cmと比較的大形である。85の外表面下半はロクロケズリが施されており、底部切り離しはヘラ切りである。底部外面に「古」の墨書が記されている。

## SK183 (図版38、写真図版31)

一定量の土器が出土している。図化できたのは須恵器無台杯(86・87)、杯蓋(88・89)、横瓶(90)である。86は須恵器無台椀II類、87はI類である。86の胎土はB群。87の胎土はC群である。86の口縁部が直線的に外傾するのに対し、87は底部から口縁部にかけて内湾気味にのび、器壁も厚くシャープさを欠く。西古志窯産の可能性がある。88は胎土B群、89は胎土C群である。89の摘み部は凹む。焼成不良で、内外面とも黒味の強い色調をなす。90は、外表面に平行線文のタタキが格子目状に入り、内面には同心円文の当て具痕が認められる。側端部は粘土接合部で欠損しており、粘土で円盤状に閉塞されていたと考えられる。

## SK190 (図版39、写真図版31)

図化できたのは須恵器無台杯(91)、土師器長甕(92)、土師器小甕(93・94)である。91は須恵器無台杯II類で、胎土はB群である。92は土師器長甕Aa類で、体部外表面の一部に平行線文のタタキが認められる。94の底部切り離しは回転糸切りで、体部外表面にはススが、体部内面には炭化物が観察される。

## SK220 (図版39、写真図版31)

図化し得たのは須恵器無台杯(95・96)、須恵器有台杯(97)、土師器長甕(98)、土師器小甕(99)である。95・96とともに、無台杯II類で、胎土はB群である。96は底部外面に「館」と推定される墨書である。97は深身の須恵器有台杯BII類で、胎土はB群である。98は非ロクロの土師器長甕B類で、外表面は縱位のハケメ、内面は横位のハケメが観察されるほか、体部内・外表面には一部で指頭圧痕も認められる。また、体部内面で炭化物が観察される。99はロクロ成形の小甕の底部で、底部切り離しは回転糸切りである。体部最下端にはロクロケズリ痕が認められる。

## 4) 溝 (SD)

## SD34 (図版39、写真図版32)

図化できたのは須恵器有台杯(100)、須恵器無台杯(101)、土師器無台椀(102)、土師器小甕(103)である。100は外端接地の高台部で、胎土はC群である。101の胎土はB群。底部外面に墨書を有す。102は土師器無台椀のII類である。103はロクロ成形の小甕の底部で、底部切り離しは回転糸切りである。

## SD66 (図版39・40、写真図版32)

比較的多量の土器が出土している。図化できたのは須恵器無台杯(104～106・110・111)、須恵器有台杯(107・109)、須恵器杯蓋(112～114)、須恵器甕(116)、土師器無台椀(108)、土師器鉢(119)、土師器鍋(123)、土師器長甕(115・117・118)、土師器小甕(120～122)である。

104・105・109～112は胎土C群、106・107・113・114は胎土B群の須恵器である。104・105は須恵器無台杯II類で、器高3cm程度と浅身の形態である。両者とも器壁は厚い。104・105は新津丘陵窯産の可

能性が高い。106 は胎土 B 群。107 は体部上方から上を欠く。深身の B 類で、比較的小形のものである。胎土は B 群。109 は深身の須恵器有台杯 B II 類。胎土は C 群。112・113 は須恵器の杯蓋 I 類、114 は杯蓋 II 類である。113 は体部外面にロクロケズリ痕が認められる。114 は転用窓で、内面に墨が付着する。胎土は 112 が C 群、113・114 が B 群である。

108 は底部外面に墨書を有す。119 は土師器鉢 A 類で、比較的急な傾斜で立ち上がった後、口縁端部はやや内側に摘み上げることで面をもつ。123 は土師器鍋 A 類で、内湾する口縁部をもち、口縁端部は内側に摘み上げている。115・117 は非ロクロ成形の長甕 Ba 類で、外面ともハケメ調整が施されている。いわゆる西古志型甕と考えられる。115 は体部外面下半にススが付着する。118 はロクロ成形の Aa 類。

120～122 はいずれも非ロクロ成形の小甕 Ba 類で、体部外面は斜位、内面は横位のハケメ調整を行う。120 は口縁部が外へ短く屈曲・外反する形態で、体部外面、口縁部・体部内面にハケメ調整を行なう。口縁部内面には炭化物が付着する。121 は口縁部・体部内外面ともハケメ調整。122 は Bb 類である。120・121 は西古志型甕の特徴をもつ。

#### SD69 (図版 40、写真図版 32)

定量の土器が出土している。図化できたのは須恵器無台杯 (124・125)、土師器無台椀 (126・127) である。124・125 とも胎土 B 群である。125 は底部外面に墨書を有す。126・127 はともに II 類である。126 は体部から口縁部まで内湾しながらシンプルに収まるのに対し、127 は口縁端部がやや外反する。127 の器壁は比較的薄い。

#### SD88 (図版 40、写真図版 32)

図化できたのは土師器小甕 (128・129) 2 点で、どちらもロクロ成形である。128 は小甕 Aa 類で、口縁端部をやや内側に摘み上げる。体部外面にススが、口縁部内面に炭化物が認められる。

#### SD96 (図版 40、写真図版 32)

図化できたのは須恵器無台杯 (130) と土師器長甕 (131) である。130 は胎土 B 群で、底部はヘラ切り後一部ナデ調整が行われている。131 は Aa 類で、口縁端部は摘み上げられやや内傾する。

#### SD130 (図版 40、写真図版 32)

定量の土器が出土しているが、図化できたのは須恵器有台杯 (132) 1 点である。132 は B III 類で、胎土は B 群。高台部を欠損する。

#### SD137 (図版 40、写真図版 32)

定量の土器が出土している。図化できたのは須恵器無台杯 (133・134)、須恵器杯蓋 (137)、須恵器長頸瓶 (138)、土師器無台椀 (135・136) で、136 は内面黒色処理が施されている。

須恵器の胎土は、138 が A 群、それ以外が B 群である。133 は II 類で、底部はヘラ切り後一部ナデ調整である。134 は底部外面に墨書が確認できる。137 は体部が扁平な形態で、口縁端部は丸く収まる。138 は内端接地の高台をもつ。体部下方外面には一部ロクロケズリも認められる。136 は体部外面の下方で横位のヘラミガキが、体部内面に縱位のヘラミガキが認められる。

#### SD210 (図版 40、写真図版 32)

定量の土器が出土している。図化したのはいずれも須恵器で、有台杯 (139～141)、杯蓋 (143・144)、長頸瓶 (142) がある。胎土は 139・142・144 が B 群、140・141・143 が C 群。

139 は A III 類、140・141 は A II 類である。139 の高台は外端接地で、体部から口縁部まで外方へ直線気味に立ち上がる比較的シャープなつくりで、端部はやや外反して丸く収まる。140・141 は内端接地の高台をもち、体部から口縁部へ内湾しながら直立気味に立ち上がる形態である。143 は扁平な体部で器高の浅い形態である。144 は山笠状の形態である。

#### SD218 (図版 40、写真図版 32)

図化できたのは須恵器有台杯 (145) 1 点である。A II 類で、胎土は C 群。外端接地の高台をもつ。

**SD219** (図版 40、写真図版 32)

図化し得たのは須恵器無台杯 (146) I 点である。II類で、胎土はB群。

**5) 性格不明遺構 (SX)**

**SX209** (図版 40、写真図版 32)

定量の土器が出土しているが、図化できたのは須恵器有台杯 (147) 1 点である。大形の B I 群で、胎土は A 群。体部から口縁端部へは外反しながらのびる。

**SX229** (図版 40・41、写真図版 32・33)

上層の遺構の中では SK92 に次ぐ遺物出土量で、土器のほかに土鍾 4 点 (241 ~ 244) と木製の曲げ物 1 点 (291) も出土している。図化し得た土器は、須恵器杯蓋 (150)、土師器無台椀 (148・149・151 ~ 161)、黒色土器 (162)、土師器長甕 (163)、土師器小甕 (164)、土師器鍋 (165) で、土師器無台椀が多い特徴がある。

150 は胎土 B 群。土師器無台椀はいずれも口径 13cm 前後と II 群に分類される。155 ~ 161 は底部外面に墨書が認められるが、159 では底部をはみ出て体部下方にまで墨書が及ぶ。159 は「川合中」、156・158・160・161 は「川合」の文字を有す。162 は内面黒色処理された土師器の有台椀である。内端接地の高台で、高台底には沈線状の凹みが巡る。内面は放射状のヘラミガキが施されている。底部外面の高台に開まれた中を転用覗として使用している。

163 は底径 12.6cm と広い平底で、体部下方外面には平行線文のタタキが、同内面には平行線文の当て具痕が観察される。164 の底部切り離しは回転糸切り。体部から底部内面に炭化物が付着する。165 は鍋 A 群で、内湾する口縁部から端部を内側に屈曲させて摘み上げている。

**6) ピット (P)**

**P102** (図版 41、写真図版 33)

図化できたのは須恵器長頸壺 (166) である。底部から高台部の破片で、胎土は C 群である。高台内は転用覗として利用されている。

**P103** (図版 41、写真図版 33)

図化できたのは須恵器有台杯 (167) と土師器無台椀 (168) である。167 は B II 群で、内端接地の高台が付く。胎土は B 群。168 は口縁端部をやや外へ摘んで丸く收める。

**P110** (図版 41、写真図版 33)

図化し得たのは土師器罐 (169) と円筒形土製品 (170a・170b) である。169 は土師器鍋 B 群で、端部は面をもつ。調整は体部外面が輻位のハケメのちハラケズリ、口縁部内面はカキメ、体部内面が横位のハケメ調整である。体部外面下半にススが、体部内面下半に炭化物が付着する。170a, 170b は、胎土・器厚・調整・色調とも共通することから同一個体と考えられる。鉱物を多く含む粗い胎土で、条間の広いハケメやケズリなど調整は粗い。器壁は厚い。全体に円筒状の形態になると考えられ、口縁部はやや内側に傾斜し、端部が丸く收まる。底部中央に焼成前穿孔が行われており、推定孔径は 1.2cm である。器壁は厚い。今回の調査でこの種の土器はこの 1 点のみの出土である。

**P118** (図版 41、写真図版 33)

図化できたのは 1 層から出土した土師器鍋 (171) 1 点である。鍋 B 群で、口縁端部はやや内側に摘み上げる。調整は、体部外面がロクロナデのち体部下半を平行線文のタタキ、一部のちケズリである。内面はロクロナデで、体部下半に平行線文の当て具痕が認められる。

**P127** (図版 41、写真図版 33)

図化し得たのは、須恵器無台杯 (172) 1 点である。胎土は B 群で、底部外面に墨書を有す。

**P155** (図版 42、写真図版 33)

図化できたのは土師器長甕 (173) 1 点である。Aa 群。

## P168 (図版 42、写真図版 33)

図化できたのは土師器小甕 (174) 1 点である。Aa 類。口縁部から体部外面にススが、口縁部内面に炭化物が付着する。

## P172 (図版 42、写真図版 33)

図化し得たのは須恵器無台杯 (175・176) である。いずれも II 類で、I 層からの出土である。胎土は、175 が C 群、176 が B 群で、175 は新津丘陵産と推測される。

## P175 (図版 42、写真図版 33)

図化できたのは、土師器無台碗 (177・178)、須恵器無台杯 (179)、土師器小甕 (180) である。177・178 は土師器無台碗 II 類。179 は II 類で、胎土は B 群。180 は Aa 類で、口縁端部は上方へ摘み上げている。

## P178 (図版 42、写真図版 33)

図化できたのは須恵器甕 (181) 1 点である。須恵器甕 A 類で、胎土は B 群。体部外面は平行線文のタタキが格子目状に認められる。体部内面には同心円文の當て具痕を残す。

## P204 (図版 42、写真図版 33)

図化できたのは土師器無台碗 (182) と土師器小甕 (183) である。182 の底部切り離しは回転糸切り。底部はやや高台状をなす。体部・口縁部の開きは比較的強く、浅身の形状。183 は土師器小甕 Ab 類である。

## 7) 遺構外 (図版 42・43、写真図版 33・34)

図化し得た資料は、須恵器無台杯 (185～199)、須恵器有台杯 (200～202)、須恵器杯蓋 (203・230)、須恵器長頸瓶 (204)、土師器無台碗 (205～214・216～225・227・228・231)、黒色土器 (215・226)、土師器長甕 (229・233)、土師器小甕 (232・234) である。

## 須恵器無台杯 (185～199)

須恵器無台杯の胎土は、185 が A 群、187・199 が C 群、それ以外が B 群である。底部切り離しはいずれもヘラ切りで、185・199 はヘラ切りのちナデを行っている。189～199 は底部外面に墨書が認められる。

185 は須恵器無台杯 II 類で、体部から口縁端部にかけてやや外反しながらのびるやや深身の形態をなす。186 は口縁端部がやや尖り気味に収まる。187～191 は、直線的に外傾して開く体部をもち、口縁端部は丸く收める。191 の体部の開きは他よりもやや大きく、器高も浅身である。

189 は底部外面の中央 1 か所と、それを中心として十字方向の底部外面周縁 3 か所で「○」印の墨痕が観察される。191 の底部外面に記された墨書の文字は、細字で流暢な筆であり、今回出土した墨書の中では異質である。接合しないが同一個体の底部外面でも墨書が認められる。193・197 の底部外面には「別」、198 は「足」、199 には「正」の墨書がそれぞれ記されていた。199 は西古志窯産の可能性がある。

## 須恵器有台杯 (200～202)

200・201 は B III 類、202 は A II 類で、胎土は 200・201 が B 群、202 が C 群である。202 は西古志窯産の可能性がある。高台は、200 が外端接地、201 が水平接地、202 が内端接地である。

## 須恵器杯蓋 (203・230)

203 は杯蓋 I 類で、胎土は C 群。内面には墨痕が認められ、転用鏡として使用されたと考えられる。230 も転用鏡であり、内面に墨痕を残す。出土グリッドは 4D12 で、SB901 に近い位置関係にある。胎土は B 群である。摘み部分に「□〔川カ〕井庄」の墨書を有す。

## 須恵器長頸瓶 (204)

204 は胎土 B 群。体部から下は欠損する。

## 土師器無台碗 (205～214・216～225・227・228・231)

205 は I 類で、他と比べてやや大きい法量である。208 は内湾する体部から口縁部がやや強く外反する形態で、体部・口縁部外面には一部で赤彩が認められる。214 の胎土は、石英・チャート・砂粒を含むが、石英に

は7mm大と大きめの鉢物が目立つ。212・216～225、227・228・231の底部外面には墨書が認められる。217・220・225・228では「川合」、227では「川合中」の文字が確認される。また、212・218・231では「合」の可能性のある文字がみられ、「川合」と墨書きされていた可能性がある。なお、217の外面には赤彩も確認される。大半が春日編年のVI期に収まるもので、一部V期まで遡る可能性があるもののが存在する。

#### 黒色土器 (215・226)

215は内面黒色処理されており、内外面とも横位のヘラミガキが確認される。底部は高台状を呈し、切り離しはヘラ切りである。体部は浅い皿状の形態になると推測され、182に近い形態と考えられる。縫釉陶器を模倣した可能性がある。226の内面は黒色処理されており、横位のヘラミガキが行われている。底部外面に「川合」の墨書きを確認できる。

#### 土師器長甕 (229・233)

229は土師器長甕Bc類で、佐渡型甕と考えられる。体部外面は縦位のハケメ、口縁部内面は横位のハケメ痕が確認できる。また、口縁部・体部外面にはススが、口縁部・体部内面には炭化物が認められる。233は非口クロの長甕底部である。平底で、体部下端には横位のヘラケズリ痕が認められる。鉢物を多く含む粗い胎土である。

#### 土師器小甕 (232・234)

232は小甕Ba類である。口縁部から体部外面には縦位のハケメ調整が、体部内面には横位のハケメ調整が施されている。いわゆる西古志型甕と考えられる。口縁部と体部外面にススが、口縁部内面に炭化物が付着する。234はロクロ成形の小甕の平底である。

## D 下層出土の土器

### 1) 挖立柱建物 (SB)

下層の掘立柱建物を構成する柱穴のうち、図化し得た遺物が伴うものは、SB906のP340のみである。

#### SB906 (図版47、写真図版37)

##### P340 (図版47、写真図版37)

図化し得たのは須恵器無台杯(294)1点で、口縁部を欠損する。2層からの出土で、胎土はB群に属す。

### 2) 土 坑 (SK)

#### SK284 (図版47、写真図版37)

図化し得たのは須恵器有台杯(295)1点である。AII類で、内端接地の高台をもつ。胎土はC群で西古志窯産と考えられる。

#### SK331 (図版47、写真図版37)

図化し得たのは土師器小甕(296)1点である。非口クロのBa類で、体部外面は縦位のハケメ、体部内面は横位のハケメ調整痕が認められる。口縁端部は面をもつ。胎土に長石・石英を多く含む。西古志型甕と考えられる。口縁部・体部外面にススが、内面は口縁部と体部上方に炭化物が認められる。

#### SK360 (図版47、写真図版37)

図化し得たのは須恵器無台杯(297)1点である。4層からの出土で、無台杯II類。胎土はC群である。内湾する体部から口縁端部がやや外へ反る。底部切り離しはヘラ切りで、切り離し後一部ナデ調整が認められる。西古志窯産と推測する。

#### SK366 (図版47、写真図版37)

図化し得たのは土師器小甕(298)1点で、2層からの出土である。非口クロのBb類。器面摩滅のため調整は不明である。口縁部内面に炭化物が認められる。

#### SK388 (図版47、写真図版37)

図化し得たのは須恵器有台杯(299)1点である。AII類で、内端接地の高台をもち、内湾する体部から口縁

端部はやや外側へ反って收まる。胎土はC群である。

**SK411** (図版47、写真図版37)

図化し得たのは土師器小甕(300)1点である。非クロコのBa類で、体部外面に縦位のハケメ調整を、口縁部と体部内面には横位のハケメ調整を施す。口縁部は短く外へ屈曲し、口縁端部は面をもつ。長石・石英を多量に含む粗い胎土である。西古志窯産と考えられる。

**SK510** (図版47、写真図版37)

一定量の土器が出土している。図化し得たのは須恵器無台杯(301・302・304~306)、須恵器有台杯(303)、土師器長甕(307・308)である。

須恵器無台杯はいずれも胎土B群である。301はほぼ完形。302はシャープなつくりで、体部から口縁部は直線的に外方へのびる。304~306は底部外面に墨書を有し、306には「知」の文字が記されている。

303は須恵器有台杯AII類で、胎土はC群である。西古志窯産と推測される。外端接地の高台を有す。

307・308は長甕Aa類。307の体部外面には縦位のヘラケズリ痕が観察される。また、体部外面にススが、体部内面には炭化物が認められる。308は体部外面にススの付着が観察される。

**SK524** (図版47、写真図版37)

図化し得たのは須恵器無台杯(309)1点である。胎土はB群である。体部外面に墨書が認められる。

**SK526** (図版47、写真図版37)

図化し得たのは須恵器無台杯(310)1点である。II類で、胎土はB群。

**SK583** (図版47、写真図版37)

下層の遺構の中で最も多い出土量である。図化し得たのは須恵器無台杯(311~315)である。311~314は3層からの出土で、遺存率が高く、正位に近い状態でまとまりをもって出土した一括性の高い土器群である。315は4層からの出土で、底部外面に墨書を有す。いずれも胎土はB群である。

**SK653** (図版47、写真図版37)

図化し得たのは製塙土器(316)1点である。外面は縦位のハケメ調整で、一部ヘラケズリも認められる。内面は横位のハケメ調整で、指圧圧痕が多く観察される。内面には粘土紐の接合痕を残す。

**SK696** (図版47、写真図版37)

図化し得たのは土師器長甕(319)である。Aa類で、体部外面に平行線文のタタキが、体部内面に同心円文の当て具痕が認められる。

### 3) 溝 (SD)

**SD246** (図版47、写真図版37)

図化し得たのは須恵器杯蓋(317)1点である。II類で、胎土はB群。

**SD271** (図版47、写真図版37)

図化し得たのは黒色土器(318)1点で、内面を黒色処理された土師器無台椀である。内面はヘラミガキ。底部外面に墨書を有す。

**SD334** (図版48、写真図版37)

定量の土器が出土している。図化し得たのは須恵器無台杯(321)と須恵器有台杯(320)で、ともに1層からの出土である。320は胎土C群でAII類。口縁端部がやや外反する。321はII類で胎土はC群。どちらも新津丘陵窯産の須恵器である可能性が高い。

**SD417** (図版48、写真図版37)

図化し得たのは土師器無台椀(322)1点である。II類で、口縁端部は短く外反する。

**SD461** (図版48、写真図版37)

図化し得たのは須恵器有台杯(323)、須恵器無台杯(324)である。どちらも胎土はB群である。323は深身

のB II類である。口縁部は外反し、端部はやや外へ摘むように収まる。器壁は薄い。324はII類である。底部外面に「正」の墨書が確認できる。

**SD481** (図版48、写真図版37)

土器が定量出土している。図化し得たのは須恵器無台杯(325・326)、土師器小壺(327)である。325・326はII類で、ともに胎土はB群。327はAa類。口縁部内面に炭化物が巡る。

**SD507** (図版48、写真図版37)

図化し得たのは須恵器無台杯(328)1点である。II類で、胎土はB群。器高は比較的浅い。

**SD508** (図版48、写真図版37)

図化し得たのは須恵器無台杯(330)、須恵器長頸瓶(329・331)である。330はII類で、胎土はC群。新津産と考えられる。底部外面に墨書を有す。329・331は胎土B群。

**SD543** (図版48、写真図版37)

図化し得たのは須恵器杯蓋(332)である。I類で、胎土はB群。転用窓で内面に墨痕が付着する。

**SD600** (図版48、写真図版37)

図化し得たのは土師器小型壺(333)1点である。精製の小型壺A類で、口縁部は上方に短く外反してのび、口縁端部は丸く収まる。内外面とも横位のヘラミガキが認められる。

**SD601** (図版48、写真図版37)

図化し得たのは土師器長壺(334)1点である。非口クロの平底で、体部下方外面には斜位のヘラケズリが、同内面にはハケメ調整が施される。底径は8.0cmである。

4) 性格不明遺構(SX)

**SX384** (図版48、写真図版37)

図化し得たのは須恵器有台杯(335)1点である。内端接地の高台をもち、胎土はC群で、西古志あるいは角田山麓産須恵器と推測する。

5) ピット(P)

**P247** (図版48、写真図版38)

図化し得たのは須恵器無台杯(336)1点である。胎土はC群。底部外面に墨書を有す。

**P248** (図版48、写真図版38)

図化し得たのは須恵器広口壺(337)1点である。2層からの出土。ほぼ完形で、正位の状態で出土した。胎土はB群で内端接地高台を有す。

**P287** (図版48、写真図版38)

図化し得たのは土師器壺の底部(338)1点で、小型壺と考える。非口クロで、丸味をもつ平底である。内面には炭化物が認められる。外面には縱方向のヘラケズリ痕が認められる。また、底部内外面はナデで、内面には指頭圧痕も観察される。西古志型壺の底部である可能性がある

**P301** (図版48、写真図版38)

図化し得たのは須恵器無台杯(339)1点である。II類。胎土はC群で、新津丘陵窯産に近い。

**P406** (図版48、写真図版38)

図化し得たのは土師器無台碗(340)1点である。I類で、底部外面に墨書を有す。体部上方外面に沈線状の凹みが2条平行する。内面はヘラミガキ。底部切り離しはヘラ切り。仏鉢形土器の可能性もある。

**P426** (図版48、写真図版38)

図化し得たのは土師器小型壺(341)1点である。粗製の非口クロ成形B類で、厚手の口縁部が上方へやや外反してのび、端部は丸く収まる。調整は、口縁部から体部外面を斜位のヘラケズリ、口縁部から肩部まで的一部内面を横位のヘラミガキ、体部内面は横位のヘラケズリを行う。なお、外面のケズリは単位の両端に線状の痕跡

を残す。

**P452** (図版 48、写真図版 38)

団化し得たのは土師器長甕 (342) 1 点である。非クロクロの Ba 類で、口縁部は外反して、端部は面をもつ。体部は内外面ともハケメ調整が認められる。西古志型甕と考えられる。体部外面にススが認められる。細かい鉢物を多量に含む胎土である。

**P478** (図版 48、写真図版 38)

団化し得たのは土師器小甕 (343) 1 点。ロクロ成形の平底で、底部切り離しは回転糸切りである。

**P488** (図版 48、写真図版 38)

団化し得たのは須恵器杯蓋 (344) 1 点である。II 類で、胎土は B 群。転用窯で、内面に墨痕を残す。摘み部に墨書が認められる。

**P498** (図版 48、写真図版 38)

団化し得たのは須恵器無台杯 (345) 1 点である。II 類で、胎土は B 群。底部外面に墨書を有す。

**P545** (図版 49、写真図版 38)

団化し得たのは土師器小甕 (346) 1 点。ロクロ成形の平底で、底部切り離しは回転糸切りである。

**P561** (図版 49、写真図版 38)

団化し得たのは土師器小甕 (347) 1 点。Aa 類で、体部外面にスス、口縁部内面に炭化物が認められる。

**P575** (図版 49、写真図版 38)

団化し得たのは土師器小甕 (348) 1 点。Aa 類で、体部外面にスス、口縁部内面に炭化物が認められる。

### 6) 遺構外 (図版 49・50、写真図版 38)

団化し得た資料は、須恵器無台杯 (349 ~ 360、364)、須恵器有台杯 (361 ~ 363)、須恵器杯蓋 (365 ~ 366)、須恵器甕 (367)、土師器無台椀 (368・369)、土師器長甕 (370 ~ 374・377)、土師器小甕 (375・376・378)、土師器鉢 (379) である。

**須恵器無台杯** (349 ~ 360、364)

須恵器無台杯の胎土は、350・358 が A 群、352・353・355・357・359・364 が B 群、351・354・356・360 が C 群である。いずれも底部切り離しはヘラ切りで、ヘラ切りのちナデ調整を行っている。

349 は須恵器無台杯 I 類で、箱形を呈する比較的大形のものである。350 は II 類で、粒子が比較的大きな長石・石英を多く含む胎土である。354 は新津丘陵窯産と推測される。356・358 は I 類で、やや大振りの法量をもち、器壁は厚めである。356 は新津丘陵窯産、358 は阿賀野川以北の窯跡産と考えられる。359 は III 類で径が小さく、箱形を呈する。364 は体部外面に墨書が認められる。

**須恵器有台杯** (361 ~ 363)

361 は B I 類で胎土 B 群、362 が A III 類で胎土 C 群、363 が A II 類で胎土 C 群である。361 は内端接地の高台をもち、体部から口縁端部までゆるく外反しながら長くのびる。362 は水平接地の高台をもつ。西古志窯産と推測する。363 は外端接地高台で、口縁部は短くやや外反する。新津丘陵窯跡群産の可能性が高い。

**須恵器杯蓋** (365・366)

365 は杯蓋 II 類、366 は杯蓋 I 類で、ともに胎土は B 群に属す。

**須恵器甕** (367)

367 は胎土 C 群で西古志窯産と推測される。口縁部外面には 2 条の波状文が確認できる。

**土師器無台椀** (368・369)

368 は II 類。69 は外面に赤彩が確認される。底部外面には「川合」の墨書が記されるが、「合」の口辺上の三画目の横線が 1 本抜ける。

**土師器長甕 (370 ~ 374・377)**

370 は非クロ口の土師器長甕 Ba 類で、頸部で屈曲して短い口縁部が外へのびる。体部外面は縱位のハケメ調整、体部内面は横位のハケメ調整で、全体的に器壁は薄い。胎土には鉱物が多く含まれる。体部外面は上半部を除いてススが認められる。374 は Ba 類で、外面は口縁部から体部まで斜位のハケメ調整、内面は口縁部から体部まで横位のハケメ調整が認められる。370・374ともいわゆる西古志型甕と考えられる。

371 は Ab 類で、比較的長い口縁部が直線的に外傾してのび、端部は丸く取まる。体部外面にススの付着が認められる。372・373 は Aa 類で、372 は体部内面に指頭圧痕が確認できる。両者とも体部外面にススの付着が観察される。377 はロクロ成形の甕で、丸底である。外面に平行線文のタタキ、内面に平行線文の当て具痕が観察される。体部から底部外面にはススが付着する。

**土師器小甕 (375・376・378)**

375 は小甕 Bb 類である。外面には斜位のハケメ調整が、内面には横位のハケメ調整が施されている。西古志型甕の可能性がある。376 はロクロ成形の小甕で、Aa 類である。内外面ともカキメが認められるが、体部下面外面にはヘラケズリ痕も確認できる。378 はロクロ成形の小甕の底部である。平底で、底部切り離しは回転糸切りである。体部から底部外面にはススが、同内面には炭化物が認められる。

**土師器鉢 (379)**

379 は平底の精製の鉢で、体部・底部の内外面にヘラミガキを行い、体部外面には赤彩が施される。

**E 上層・下層出土の土器 (図版 52、写真図版 39)**

ここでは、出土層位が不明な古代の土器と、中・近世の遺物について記述する。

**須恵器無台杯 (394・395、398 ~ 401)**

胎土は、394・400・401 が B 群、395・398・399 が C 群である。395・399 は新津丘陵窯産と推測され、398 は西古志窯産の可能性が高い。なお、395・399 は底部外面にヘラ状工具による「×」の線刻が、400・401 は底部外面に墨書が認められる。

**須恵器有台杯 (396・397)**

396・397 とも胎土は C 群である。396 は西古志窯産もしくは角田山麓窯産の可能性が高い。内端接地高台で、体部より上を欠損する。底部外面端に「川合」の墨書が認められるが、「合」の口辺上の三画目の横線が 1 本抜ける。397 は西古志窯産と推測される。A II 類で、外端接地高台が付く。

**土師器無台碗 (402・403)**

402 は II 類で、口縁部はやや外反し、体部外面には赤彩が認められる。底部切り離しはヘラ切りで、体部下端はロクロケズリが行われている。403 は底部切り離しは回転糸切りである。底部外面に「吉」の墨書を有す。底部の器壁は厚い。

**土師器鉢 (404)**

鉢 B 類で、口縁部は内側に屈曲し、端部は上方へやや摘んで面をもつ。体部内外面にカキメが認められる。形態からいわゆる「仏鉢形土器」に位置づけられる。

**土師器長甕 (405 ~ 408)**

405・406 は非クロ口の甕である。405 は Ba 類で、体部外面と口縁部・体部内面にハケメ調整を行う。西古志型甕と考えられる。406 はあまり膨らまない体部から頸部が直線的に内傾して延び、外へ屈曲して内湾気味の短い口縁部がつくものである。外面の調整は、口縁部に指頭圧痕を残し、頸部から体部にかけて深い縱位のハケメを施し、体部にはヘラケズリ痕も確認できる。内面調整は、口縁部に横位のハケメを、頸部が横位のヘラケズリ、体部はヘラナデを行う。この種の形態の土器は、今回の調査ではこの 1 点のみである。

407・408 は Aa 類である。407 は体部外面のロクロナデによる凸部と口縁部・体部内面の一部にカキメ痕を

残す。408は体部外面の一部にカキメ痕が認められ、体部内面はカキメのち一部ハケのち斜位のヘラナデが行われている。また、外面には体部上方を除いてススが観察される。

#### 中世陶磁器 (410)

410は珠洲焼のすり鉢底部と考えられる。底部外面はヘラナデ・ハケメ調整が認められる。

#### 近世陶器 (409)

409は肥前産の陶器皿で、高台を除いてやや縁がかった透明釉がかけられており、見込みには蛇の目状に釉剥ぎされている。年代は17世紀後半から18世紀前半に位置づけられる。

## 第3節 土 製 品

#### 1) 上 層 (図版44、写真図版35)

以下述べる土製品とした遺物は、支脚と鍛冶関連遺物である鞴の羽口、土錘の3種である。上層では、支脚が計1点、羽口が計3点、土錘が計18点出土しており、そのうち20点を図化した(235～254)。

##### 支 脚 (図版44、写真図版35)

235はSB901のP207から出土した。上端部分のみ半周ほどの遺存である。全体にミガキが施される。

##### 羽 口 (図版44、写真図版35)

236は4F19グリッドから出土した。断面形は略円形で、上端部分のみ1/3周ほどの遺存である。外径約4cm、孔径約2.2cmで、色調は灰色を呈す。上端部は溶解によるガラス化が一部で認められ、暗緑灰色となる。

##### 土 錘 (図版44、写真図版35)

計18点出土しており、全て図化した(237～254)。大半が細型管状であるが、太型管状のもの(240・245・251)も存在する。分布はSB901内とその周辺に集中しており、遺構ではSX229から4点と比較的多く出土している。いずれも中央部分が若干膨らむ形態で、ナデ調整が行われている。

#### 2) 下 層 (図版50、写真図版39)

土製品とした遺物は、支脚と土錘の2種である。下層では支脚が計1点、土錘が計3点出土しており、全て図化した(380～383)。

##### 支 脚 (図版50、写真図版39)

383は4D13グリッドの包含層出土遺物で、略円形と考えられる。径の半分ほどの遺存率で、上下ともに欠損する。縦位のハケメ調整が施されている。

##### 土 錘 (図版50、写真図版39)

太型管状(380)、細型管状(381・382)がある。上層出土の土錘と形態的な違いは認められない。

## 第4節 石 製 品

#### 1) 上 層 (図版44、写真図版35)

上層では石製品が8点出土した(255～262)。内訳は石帶1点・権状錐1点・砥石4点・軽石2点である。ほかに自然礫がコンテナ(内径54.5×33.6×10.0cm)にして1箱出土している。

石帶(255)はSK92の3層から出土している。ほぼ完形であるが、隙1か所をわずかに欠く。縦長3.65cm、横長3.85cm、厚さ0.8cm、重量26.5cmである。裏面は四隅に潜り穴が穿たれている。表面・側面は研磨により光沢を帯びるが、裏面は粗い研磨?で光沢を帯びない。色調は白色系に属す。石材は石英である(糸魚川フオッサマグナミュージアムの茨木洋介氏の御教示による)。当遺跡出土の石帶は、現状でこの1点のみである。

権状錐(256)は4E17からの出土である。ほぼ完形であるが、数か所で剥離がある。全体の形状は頂部・底

部が平坦気味で、頂部に向かって窄まる截頭錐形を呈するが、全体に丸みをもつ。頂部側の中央には貫通する1孔が穿たれている。長軸長4.9cm、短軸長3.3cm、厚さ2.3cmで、重量は45.5g。全面が研磨されている。石材は蛇紋岩である。

257～260は砾石である。257がSK78、259はP147、258・260は包含層からの出土である。258は目が粗く、荒砥用に使用されたと推測される。

261・262は絆石。261は楕円形で丸みをもつ形状である。262は一方が平坦で、反対側が土手状に高まる形状をなす。前者は全体に磨り痕が観察できるのに対し、後者は平坦な部分のみ磨り面として利用されている。

## 2) 下 層(図版51、写真図版39)

下層では石製品が5点出土した(384～388)。内訳は磨石状石製品1点と砾石4点である。ほかに自然礫がコンテナ(内径55.4×33.6×10.0cm)にして1箱出土しており、うち搬入礫1点を図化した(389)。

384はSK388からの出土である。扁平な形態で全体に丸みをもつ。重量は1,910gと重い。形態から磨石状石製品とした。

385～388は砾石で、388は三角形の形態をなす小型の製品である。全体に磨り痕が認められるが、先端部の摩耗が特に激しい。389は磨り面が観察されないため搬入礫に分類した。海や川の河口で入手できる石である。

## 第5節 木製品

林付遺跡出土の木製品は、木柱53点(上層27点・下層26点)、棒状製品6点、板状製品1点、円形板状製品3点である。なお、木柱の多くは樹種同定を行ったが、それ以外は樹種同定を行っておらず、樹種は不明である。

### 1) 上 層(図版45・46、写真図版35・36)

上層の木製品で図化したのは、木柱21点(263～283)、棒状製品4点(284・285・287・289)、板状製品1点(286)、曲げ物の底と考えられる円形板状製品3点(288・290・291)である。

SB901の柱の径は、10cm以下3本、10～15cm10本、15～20cm4本、20～25cm0本、25～30cm1本、30～35cm1本である。最小がP318の径8.7cm、最大がP276の径31.9cmである。

木柱には、先端を鉛筆の芯のように尖らす加工をしたものと、水平に加工したもの2通りが存在する。SB901では、水平の加工がP112(264)・P146・P203(274)・P205(275)・P206(276)の木柱で確認され、それ以外は尖らす加工である(別表5)。

棒状製品としたのは284・285・287・289で、289がSE40、それ以外がSE10からの出土である。284・287・289は厚さ0.5cm以下と細い箸状の製品である。285は厚さ1cmとやや太めで先端を丸く加工している。

286は上端部断面が長方形をなし、中央部断面は不整のやや丸みをもつ長方形を呈することから板状製品とした。SE10からの出土である。下端部は一部欠損するが、遺存部から尖り気味の形状であったと考えられる。

288・290・291は形状から円形板状製品としたが、いずれも曲げ物と判断される。288がSE10、290がSE443、291がSX229の出土である。290は完形で、小口面に打ち込まれた木釘が8か所で確認できる。

### 2) 下 層(図版51、写真図版39)

下層の木製品で図化・樹種同定したのは木柱4本(390～393)である。390がクリ、391・393がコナラ属コナラ節、392がカエデ属である。391以外はいずれも先端部を水平に加工している。

## 第6節 金属製品(図版46、写真図版36)

銭貨が上層で2点出土している(292・293)。いずれも造構外で、包含層であるIII層からの出土である。292は天聖元寶の文字がある。波米銭で、初鋳年は北宋期の1023年である。293は摩滅が激しく文字は不明である。

## 第VI章 自然科学分析

### 第1節 放射性炭素年代測定

#### A 測定試料と測定方法

出土した柱根のうち、5試料（第1表）について、酸-アルカリ-酸洗浄のうちに加速器質量分析（AMS）法により放射性炭素(<sup>14</sup>C)年代測定を行った。いずれも、材の外側の数年分を採取したものである。年代測定は米国のBeta Analytic Inc.（ベータ社）で実施され、測定には3MV HVEE タンデムトロン加速器が使用された。

#### B 結 果

測定結果および暦年較正年代を第1表に示す。なお、各用語の意味は次の通りである。

- 未補正<sup>14</sup>C年代値(measured radiocarbon age): 試料の<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C比から、単純に現在(AD1950年)から何年前かを計算した値。<sup>14</sup>Cの半減期は、国際的慣例によりリビー(Libby)の5,568年を用いた。
- $\delta^{13}\text{C}$ 測定値: 試料の測定<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C比を補正するための炭素安定同位体比(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)。この値は標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(%)で表す。
- 補正<sup>14</sup>C年代値(conventional radiocarbon age):  $\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>Cの測定値に補正值を加えた上で算出した年代。試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を-25(%)に標準化することによって得られる年代値である。
- 暦年代: 過去の宇宙線強度の変動による大気中<sup>14</sup>C濃度の変動を補正することにより算出した年代(西暦)。補正には、年代既知の樹木年輪の<sup>14</sup>Cの詳細な測定値、およびサンゴのU-Th年代と<sup>14</sup>C年代の比較により作成された較正曲線を使用した。

使用したデータセットは、INTCAL04: Calibration Issue of Radiocarbon, 46 (3), 2004 (海洋性試料については、Marine04)である。また、較正曲線のスムーズ化にはTalma, A.S. and Vogel, J.C. (1993)の理論を用いた。なお、暦年代の交点とは、補正<sup>14</sup>C年代値と暦年代較正曲線との交点の暦年代値を意味する。1σ(68%確率)・2σ(95%確率)は、補正<sup>14</sup>C年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。

### 第2節 樹種同定

#### A 分析試料

試料は、上層の柱根から採取された24点および下層の柱根から採取された4点の合計28点である(第2表)。

#### B 分析方法

試料は、カミソリを用いて新鮮な横断面(木口と同義)、放射断面(柾目と同義)、接線断面(板目と同義)の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡によって40~1000倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

第1表 放射性炭素年代測定結果

試料	未補正 <sup>14</sup> C 年代(ry BP)	$\delta^{13}\text{C}$ ppm	暦年代(ry BP)	暦年較正年代 (Cal AD)	測定番号
No.17 (P206)	1140 ± 40	-23.2	1170 ± 40	2 σ : AD 770 ~ AD 980 1 σ : AD 780 ~ AD 900 交点 : AD 860	Beta - 289006
No.19 (P216)	1160 ± 40	-24.9	1160 ± 40	2 σ : AD 770 ~ AD 980 1 σ : AD 780 ~ AD 900 交点 : AD 920 ~ 950	Beta - 289007
No.23 (P983)	1290 ± 40	-27.9	1240 ± 40	2 σ : AD 670 ~ AD 890 1 σ : AD 700 ~ AD 810 交点 : AD 770 ~ 810	Beta - 289008
No.26 (P903)	1140 ± 40	-26.3	1120 ± 40	2 σ : AD 810 ~ AD 1010 1 σ : AD 890 ~ AD 980 交点 : AD 900, 930, 950	Beta - 289009
No.28 (P609)	1230 ± 40	-26.3	1210 ± 40	2 σ : AD 690 ~ AD 900 1 σ : AD 770 ~ AD 880 交点 : AD 790	Beta - 289011

## C 結 果

樹種同定の結果、上層の柱根 24 点の樹種は、クリ 10 点、ネズコ 7 点、キハダ属 5 点、マツ属 単維管束亜属 1 点、トネリコ属 1 点。下層の柱根 4 点の樹種は、コナラ属コナラ節 2 点、クリ 1 点、カエデ属 1 点と同定された(第2表)。クリ、コナラ属コナラ節、キハダ属、カエデ属、トネリコ属は温帯を中心に広く分布する広葉樹であり、マツ属単維管束亜属、ネズコは温帯に分布する針葉樹である。いずれの樹種も温帯に分布し高木となる樹種であり、当時の遺跡周辺もしくは近隣の地域で採取可能であったと考えられる。

主要な分類群の顕微鏡写真を示す(第12図)とともに、同定根拠となった特徴を記載する。

マツ属単維管束亜属 *Pinus subgen. Haploxyylon* マツ科 第12図-1

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平樹脂道を取り囲むエビセリウム細胞から構成される針葉樹材である。横断面：早材から晩材への移行はやや緩やかで、垂直樹脂道が見られる。放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は窓状である。放射仮道管の内壁は平滑である。接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

ネズコ *Thuya standishii Carr.* ヒノキ科 第12図-2・3

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。横断面：早材から晩材への移行はやや急である。樹脂細胞がみられる。放射断面：放射柔細胞の分野壁孔はスギ型で、1 分野に 2 ~ 4 個存在する。放射柔細胞の水平壁と接線壁が接する部分において、水平壁が山形に厚くなり、接線壁との間に溝のような構造ができる。いわゆるインデンチャーがよく発達している。接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で、樹脂細胞が存在する。

クリ *Castanea crenata Sieb. et Zucc.* ブナ科 第12図-4・5

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、数列配列する環孔材である。晩材部では小道管が火炎状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。放射断面：道管の穿孔は单穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

コナラ属コナラ節 *Quercus sect. Prinus* ブナ科 第12図-6

横断面：年輪のはじめに大型の道管が 1 ~ 数列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。放射断面：道管の穿孔は单穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

キハダ属 *Phellodendron* ミカン科 第12図-7

横断面：年輪のはじめに大型でやや厚壁の丸い道管が単独あるいは 2 個複合して 2 ~ 3 列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で方形の小道管が、多数集合して斜め方向および接線方向に帶状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は徐々に減少する。放射断面：道管の穿孔は单穿孔である。放射組織は同性である。小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。接線断面：放射組織は多列の同性放射組織型で、紡錘形を呈する。幅は 1 ~ 3 細胞幅である。小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。

第2表 樹種同定結果

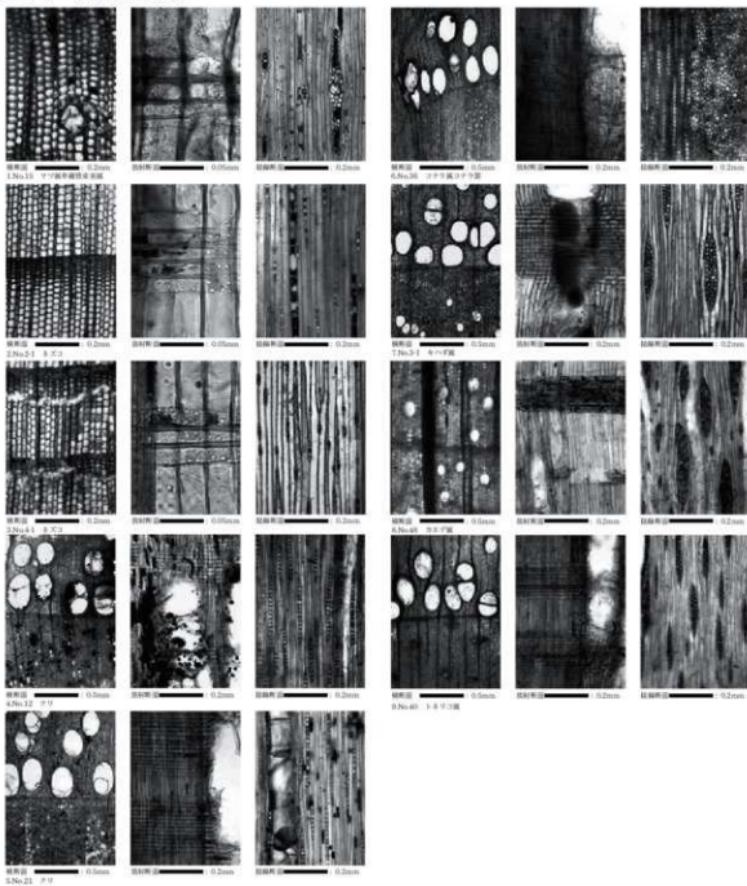
科名 No.	通称	グリット	結果(学名/和名)	地図上 (Fig No.)	備考
2 P011 SB001	4616	<i>Phellodendron</i>	キハダ属	2.1 上層	
2 P012 SB001	4615.5	<i>Pinus subgen. Carr.</i>	ネズコ属	2.1 上層	
3 P112 SB001	3025.400	<i>Phellodendron</i>	キハダ属	3.1 上層	
4 P119 SB001	4913.1	<i>Phloeosinodio Carr.</i>	キハダ属	4.1 上層	
5 P146 SB001	3D.9.20.24.25	<i>Phellodendron</i>	キハダ属	5.2 上層	
6 P149 SB001	5006	<i>Cunninghamia Lodd. et Zucc.</i>	クリ	6 上層	
7 P152 SB001	4010.406	<i>Phellodendron</i>	キハダ属	7 上層	
8 P187 SB001	5013	<i>Cunninghamia Lodd. et Zucc.</i>	クリ	8 上層	
9 P191 SB001	5034	<i>Cunninghamia Lodd. et Zucc.</i>	クリ	9 上層	
10 P192 SB001	5035	<i>Cunninghamia Lodd. et Zucc.</i>	クリ	10 上層	
11 P194 SB001	5036.9	<i>Phloeosinodio Carr.</i>	キハダ属	11 上層	
12 P197 SB001	49.22	<i>Cunninghamia Lodd. et Zucc.</i>	クリ	12 上層	
13 P199 SB001	5014.1	<i>Phloeosinodio Carr.</i>	キハダ属	13 上層	
14 P202 SB001	4017	<i>Phloeosinodio Carr.</i>	キハダ属	14 上層	
15 P203 SB001	407	<i>Pinus subgen. Haploxyylon</i>	マツ属単維管束亜属	15 上層	
16 P205 SB001	4018	<i>Phellodendron</i>	キハダ属	16 上層	
17 P206 SB001	4019	<i>Phloeosinodio Carr.</i>	キハダ属	17 上層	
18 P207 SB001	5001	<i>Phloeosinodio Carr.</i>	キハダ属	18 上層	
19 P216 SB001	50.2.3	<i>Cunninghamia Lodd. et Zucc.</i>	クリ	19 上層	
20 P232 SB001	4014	<i>Cunninghamia Lodd. et Zucc.</i>	クリ	20 上層	
21 P318 SB001	3020	<i>Cunninghamia Lodd. et Zucc.</i>	クリ	21 上層	
22 P319 SB006	30'22	<i>Cunninghamia Lodd. et Zucc.</i>	クリ	23 下層	
23 P303 SB001	40.12	<i>Cunninghamia Lodd. et Zucc.</i>	クリ	29 上層	
24 P304 SB001	40.13	<i>Cunninghamia Lodd. et Zucc.</i>	クリ	30 上層	
25 P400 SB001	39.8.13	<i>Quercus sect. Pinus</i>	コナラ属コナラ節	36 下層	
26 P503 SB001	00.14	<i>Prunus</i>	トトロ属コナラ節	40 上層	
27 P600	3916	<i>Acer</i>	カエデ属	48 下層	
28 P609	50.8	<i>Quercus sect. Pinus</i>	コナラ属コナラ節	51 下層	

## カエデ属 Acer カエデ科 第12図-8

横断面：小型で丸い道管が単独あるいは2～4個放射方向に複合して散在する散孔材である。放射断面：道管の穿孔は单穿孔で、内壁には微細ならせん肥厚が存在する。放射組織は、平伏細胞からなる同性である。接線断面：放射組織は同性放射組織型で1～6細胞幅である。道管の内壁には微細ならせん肥厚が存在する。

トネリコ属 *Fraxinus* モクセイ科 第12図-9

横断面：年輪のはじめに、大型で厚壁の丸い道管がほぼ単独で1～3列配列する環孔材である。孔圈部外では、小型で厚壁の道管が単独あるいは放射方向に2～3個複合して散在する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。軸方向柔細胞は早材部で周間状、晩材部では翼状から連合翼状である。放射断面：道管の穿孔は单穿孔である。内部にはチローシスが著しい。放射組織は同性である。接線断面：放射組織は同性放射組織型で1～3細胞幅である。



第12図 木材写真

### 第3節 古植生・古環境の復元

#### A 分析試料

植物珪酸体分析・花粉分析を行った試料は、基本層序B地点のⅢ層～V層・SD361 覆土の8点（図版2）および井戸（SE40）覆土最下層（4層）から採取された1点（図版13）の計9点である。

#### B 分析方法

##### 1) 植物珪酸体分析

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスピース法（藤原1976）を用いて、次の手順で行った。

- ①試料を105°Cで24時間乾燥（絶乾）
- ②試料約1gに対し直徑約40 μmのガラスピースを約0.02g添加（0.1mgの精度で秤量）
- ③電気炉灰化法（550°C・6時間）による脱有機物処理
- ④超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散
- ⑤沈底法による20 μm以下の微粒子除去
- ⑥封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
- ⑦検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスピース個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスピース個数に、計数された植物珪酸体とガラスピース個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位： $10^{-5}g$ ）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる（杉山2000）。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

##### 2) 花粉分析

花粉の分離抽出は、中村（1967）の方法をもとに、以下の手順で行った。

- ①試料から1cm<sup>3</sup>を秤量
- ②0.5%リン酸三ナトリウム（12水）溶液を加えて15分間湯煎
- ③水洗処理後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈殿法で砂粒を除去
- ④25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
- ⑤水洗処理後、水酢酸によって脱水し、アセトトリシス処理（無水酢酸9:濃硫酸1のエルドマン氏液を加え1分間湯煎）を施す
- ⑥再び水酢酸を加えて水洗処理
- ⑦沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
- ⑧検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示した。イネ属については、中村（1974、1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とした。

#### C 結 果

##### 1) 植物珪酸体分析

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第3表および第13・14図に示した。また、主要な分類群について顕微鏡写真を示す（第15図）。

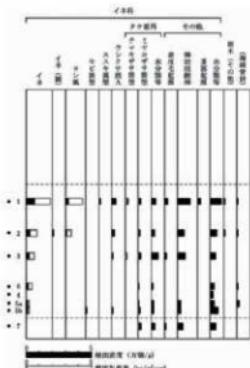
〔イネ科〕 イネ、イネ（穀の表皮細胞由来）、ヨシ属、キビ族型、スキ属型（おもにスキ属）、ウシクサ族A（チガヤ属など）

〔イネ科-タケ亜科〕 チマキザサ節型  
 (ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など)、  
 ミヤコザサ節型 (ササ属ミヤコザサ節など)、  
 未分類等

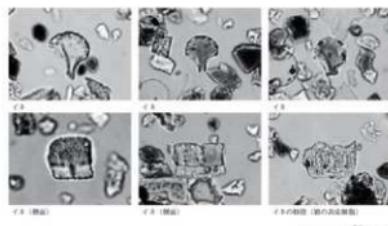
〔イネ科-その他〕 表皮毛起源、棒状珪  
 酸体 (おもに結合組織細胞由来)、莖部起源、  
 未分類等

〔樹木〕 その他

なお、植物珪酸体分析で同定される分  
 類群のうち栽培植物が含まれるものには  
 イネ以外にもムギ類、ヒエ属型 (ヒエが  
 含まれる)、エノコログサ属型 (アワが含  
 れる)、キビ属型 (キビが含まれる)、ジ  
 ュズダマ属 (ハトムギが含まれる)、オヒ  
 シバ属 (シコクヒエが含まれる)、モロコ  
 シ属型、トウモロコシ属型などがあるが、  
 これらの分類群はいずれの試料からも検  
 出されなかった。



第13図 基本順序B地点における植物珪酸体分析結果



第14図 植物珪酸体写真

第3表 植物珪酸体分析結果

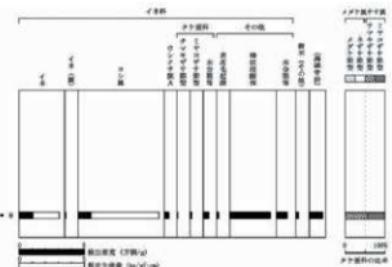
検出度 (単位: ×100 倍 / g)

分類群	学名	基本順序 B 地点							SE40
		1	2	3	4	5a	5b	6	
イネ科	Oryza sativa	64	28	21		7	7	15	107
イネ科 (表皮毛起源)	Oryza sativa (Dekk Phytolith)		7						7
ススキ属	Phragmites	21	7						100
オヒ属型	Panicum type							7	
ススキ属型	Miscanthus type		7						
チマキザサ節A	Andropogonaceae A type	29	21	7					33
タケ科	Bambusoideae								
チマキザサ節型	Sasa sect. Sasa etc.	21		14					7
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Crispati	21	14	21		7	15	8	23
未分類等	Others	29	21	48	15	15	8	23	40
その他イネ科	Others								
表皮毛起源	Husk hair origin	21		14					8
棒状珪酸体	Reed shaped	93	49	55	22	22			38
莖部起源	Stem origin	21							
未分類等	Others	86	49	41	22	30	60	30	45
樹木	Araucaria								
その他	Others	7	7						20
(未調査)	Sponge spicules	7	7			15		8	
植物珪酸体総数	Total	422	203	220	22	82	135	60	135
おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m <sup>2</sup> ・cm)	試料の仮比重を1.0と仮定して算出								
イネ科	Oryza sativa	1.89	0.82	0.61	0.22	0.22	0.44	0.44	3.15
ススキ属	Phragmites	1.35	0.44						0.33
ススキ属型	Miscanthus type	0.09							
チマキザサ節型	Sasa sect. Sasa etc.	0.16		0.10					0.06
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Crispati	0.06	0.04	0.06	0.02	0.04	0.03	0.07	0.04

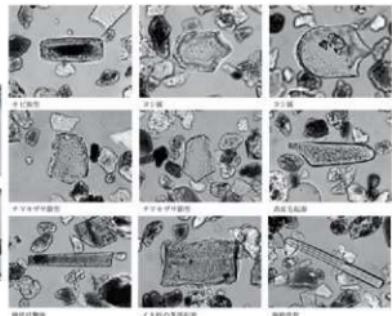
タケ属の比率 (%)

タケ属	チマキザサ節型	ミヤコザサ節型	メダカ率
Sasa sect. Sasa etc.	71	63	
Sasa sect. Crispati	29	100	38
メダカ率	0	0	0

タケ属の比率



第14図 SE40における植物珪酸体分析結果



第15図 植物珪酸体写真

## 2) 花粉分析

### (1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉 23、樹木花粉と草本花粉を含むもの 6、草本花粉 24、シダ植物胞子 2 形態の計 55 である。また、寄生虫卵 2 分類群が認められた。分析結果を第 4 表に示し、花粉数が 100 個以上計数された試料については花粉総数を基準とする花粉ダイアグラムを示した(第 17・18 図)。また、主要な分類群について顕微鏡写真を示す(第 16 図)。また、以下に出現した分類群を記載する。

#### [樹木花粉]

ツガ属、マツ属複雑管束亞属、マツ属單維管束亞属、スギ、コウヤマキ、イチイ科—イヌガヤ科—ヒノキ科、ヤナギ属、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属—アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属—ケヤキ、モチノキ属、カエデ属、トチノキ、シナノキ属、エゴノキ属、モクセイ科、タニウツギ属

#### [樹木花粉と b 草本花粉を含むもの]

クワ科—イラクサ科、ユキノシタ科、バラ科、マメ科、ウコギ科、ニワトコ属—ガマズミ属

#### [草本花粉]

ガマ属—ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、イボクサ、ミズアオイ属、タデ属、タデ属サナエタデ節、ギシギシ属、ソバ属、アカザ科—ヒユ科、ナデシコ科、キンボウゲ属、カラマツソウ属、アラナ科、ゴキヅル、ツリフネソウ属、チドメグサ亞科、セリ亞科、オオバコ属、タンボボ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

#### [シダ植物胞子] 单条溝胞子、三条溝胞子

#### [寄生虫卵] 回虫卵、肝吸虫卵

### (2) 花粉群集の特徴

#### 基本剖面 B 地点(試料 1~7)

下位の V 層(試料 7)では、花粉密度が比較的低く、樹木花粉の占める割合が約 55%、草本花粉が約 25%、シダ植物胞子が約 20% である。樹木花粉ではハンノキ属が優勢で、スギ、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、トチノキなどが伴われる。草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科が優勢で、ヨモギ属などが伴われる。IV c 層(試料 5a, 5b, 6)および SD361 覆土(試料 4)では、樹木花粉のスギ、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、草本花粉のイネ科、ヨモギ属が検出されたが、いずれも少量である。IV b 層(試料 3)から III 層(試料 1)にかけては、草本花粉が約 70% を占める。草本花粉ではイネ科(イネ属型を含む)が優勢で、ヨモギ属、カヤツリグサ科、アカザ科—ヒユ科などが伴なされる。また、III 層ではオモダカ属、ミズアオイ属、ソバ属も認められた。樹木花粉ではスギ、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、ブナ属などが検出され、樹木・草本花粉のクワ科—イラクサ科も認められた。III 層では、寄生虫卵の回虫卵、肝吸虫卵が検出された。

#### SE40(試料 8)

覆土最下層(試料 8)では、花粉密度が高く、樹木花粉の占める割合が約 15%、草本花粉が約 45%、樹木・草本花粉が約 40% である。草本花粉ではイネ科(イネ属型を含む)が優勢で、カヤツリグサ科、アカザ科—ヒユ科、ヨモギ属などが伴われる。樹木・草本花粉ではクワ科—イラクサ科が優勢で、ユキノシタ科も認められた。樹木花粉ではハンノキ属、スギ、エノキ属—ムクノキなどが検出された。

## D 考 察

### 1) 植物珪酸体分析

#### 基本剖面 B 地点(試料 1~7)

V 層(試料 7)と SD361 覆土(試料 4)を除く 6 試料からイネが検出された。このうち、III 層(試料 1)では密

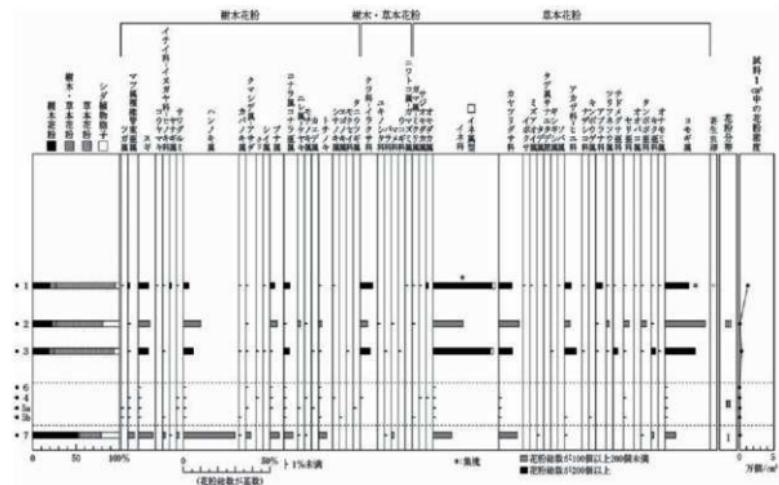
第4表 花粉分析結果

学名	和名	基本樹種 B 地点							SE40 4種 試料 8
		Ⅲ種 試料 1	Ⅳa種 試料 2	Ⅳb種 試料 3	SD361 廉土 試料 4	Ⅴc種 試料 5a	Ⅴ種 試料 5b	Ⅵ種 試料 6	
Aleurites pollen	網木花粉								
Ziziphus	ツヤ風	1				1	1		
Pinus sylvestris-Diplostachys	マツ属複数管束木属	6	1	4	1	1	1		5
Pinus sylvestris-Haplosta	マツ属單数管束木属			1					
Cryptomeria japonica	スギ	31	8	24	4	9	8	3	11
Schisandra verniculata	コクサマキ	1							
Taxaceae-Cephaelanthaceae	イヌイ科-イヌガヤ科	3		2			1		2
Cyperaceae	シナノイモ科	4		1			1		3
Salsola	ヤナギ属	6						1	
Polygonum rhombifolia	サツガラミ	1			1	1			2
Angiospermae	クルミ属								1
Alnus	ハノノキ属	17	12	24	14	23	10	7	39
Bridelia	カバノキ属	4		1				1	2
Carpinus-Ostrya japonica	クワシ属-アサダ	3	1	2		2		1	4
Cassiope crenata	クリ			3	2				
Castanea	シイ属	3		3					
Fagus	ブナ属	14	5	3	5	8		3	7
Quercus sylvestris-Lepidophloeum	コトカラ属コナラ属	18	1	13	2	6	3	3	7
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属-ヤケギ			2		3			1
Celtis-Apocynum aspera	エノキ属-ムクノキ								5
Betula	モチノキ属	1		1					1
Acer	カエデ属			1		1			
Aesculus turbinata	トウノキ	3	2	3	2		1	3	6
Tilia	シナノキ属	1			1				
Styrax	エノノキ属						1		
Oleaceae	モクセイ科			1					2
Weigela	タツウツギ属				1				
Aleurites - Nonaleurites pollen	網木-草本花粉								
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	38	5	24	1				172
Saxifragaceae	ユキノシタ科		1						17
Rosaceae	バラ科			1				1	
Leguminosae	マメ科		1					2	
Anacardiaceae	ウカギ科			1					
Samanea-Silvestrum	ゴトコ属-ガマズミ属	1							
Nonboreal pollen	草本花粉								
Tyttha Sparganiatum	ガマ属-タリリ属	1	1				1		1
Alnus	サザモガタ属	2			1				
Sequoia	オダガタ属	7			1				
Ginkgoaceae	イヌ科	182*	21	140	1	6	4	0	14
Oriza type	イネ属型	11		7	1				15
Cyperaceae	カヤツリグサ科	40	14	33	4	7	4		21
Antennaria leptocephala	イボクサ	1							
Monotropa	タスマオイ属	2							
Polygonum	タデ属							1	
Polygonum sect. Persicaria	タデ属サナエタデ属	1							
Banex				1					
Eryngium	ギヨギン属	5							
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アザキ科-ヒユ科	20	4	28		1		1	21
Caryophyllaceae	ナデシコ科	2		1					2
Thlaspiaceae	カラマツワタ属								1
Convolvulus	キンポウゲ属						1		
Inequisetum	アラカル科	21	1	1					1
Inequisetum	リラフネウラ属	2	2	1					
Hydrocotylaceae	チドリグサ科	1		11					
Apoionidae	セリ面科	1	4	2	1		1		
Plantago	オオバコ属	2							
Lactucaeae	タンポポ科	3	4	1				1	
Actinostemone lobulata	ゴボウ属								1
Asteridae	キク科	5	1	10				2	
Xanthium	オオキモ属	1		2					
Artemisia	モミジ属	74*	28	73	2	5	6	3	8
Fern spore	シダ植物孢子								
Monodelphite spore	半生澱粉子	18	24	29	7	27	21	15	27
Trilete type spore	一粒澱粉子	8	4	7	1	8	2	5	8
Aleurites pollen	網木花粉	112	33	85	33	56	27	20	87
Aleurites - Nonaleurites pollen	網木-草本花粉	39	7	26	1	0	0	0	3
Nonboreal pollen	草本花粉	384	80	311	11	18	18	12	41
Total pollen	花粉總數	935	120	422	45	74	45	32	131
Pollen frequencies of $1\text{cm}^3$	試料 $1\text{cm}^3$ 中の花粉密度	1.2	7.2	3.0	3.5	5.4	3.5	2.3	8.3
	$\times 10^4$	$\times 10^2$	$\times 10^1$	$\times 10^2$	$\times 10^2$	$\times 10^2$	$\times 10^2$	$\times 10^2$	$\times 10^4$
Unknown pollen	未同定花粉	16	4	9	5	3	5	6	10
Fern spore	シダ植物孢子	26	28	27	8	35	23	20	35
Holmooth eggs	寄生虫卵								
Acaris (Acaridioidea)	同虫卵	1							
Clonorchis sinensis	肝虫虫卵	2							
Total	計	3	0	0	0	0	0	0	0
Holmooth eggs	試料 $1\text{cm}^3$ 中の 寄生虫卵密度	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
frequencies of $1\text{cm}^3$	$\times 10$								
Degeneration	明らかな消化死化	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Charcoal fragments	樹脂炭化物	(+ +)	(+ +)	(+ +)					

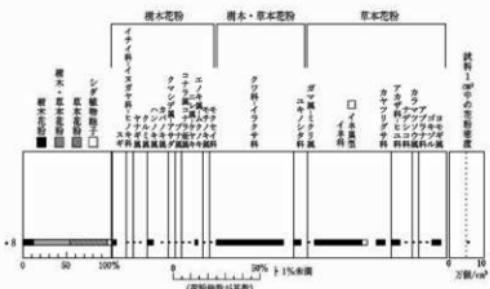
\*集塊



第16図 花粉・胞子・寄生虫卵写真



第17図 基本層B地点における花粉ダイアグラム



第18図 SE40における花粉ダイアグラム

度が 6,400 個/g と高い値であり、IV a 層（試料 2）で 2,800 個/g と比較的高い値である。したがって、これらの層では稻作が行われていた可能性が高いと考えられる。

IV b 層（試料 3）では密度が 2,100 個/g と比較的低い値であり、IV c 層（試料 5a・5b・6）では 700 ~ 1,500 個/g と低い値である。イネの密度が低い原因としては、稻作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。また、前述のように畑稻作（陸稲栽培）の場合はイネの密度は水田跡と比較してかなり低くなる。

イネ以外の分類群では、下位の V 層から IV b 層にかけてはミヤコザサ節型などが検出され、部分的にウシクサ族 A なども認められたが、いずれも少量である。IV a 層から III 層にかけてはヨシ属、ススキ属型、樹木（その他）が出現している。おもな分類群の推定生産量によると、IV a 層より上位ではイネが優勢であり、ヨシ属も比較的多くなっている。

以上の結果から、下位の V 層から IV b 層にかけては、ササ属（ミヤコザサ節）などは少量見られるものの、何らかの原因でイネ科植物の生育にはあまり適さない環境であったと考えられる。IV a 層から III 層にかけては、ヨシ属が生育するような湿地的な環境であり、そこを利用して水田稻作が行われていたと推定される。また、遺跡周辺には何らかの樹木が生育していたと考えられる。

#### SE40（試料 8）

試料 8 では、イネが 10,700 個/g とかなり高い密度で検出され、イネの穎殻（穎の表皮細胞）も認められた。イネ以外の分類群ではヨシ属が 10,000 個/g と多量に検出され、ウシクサ族 A、ミヤコザサ節型、樹木（その他）なども認められた。おもな分類群の推定生産量によると、イネおよびヨシ属が優勢である。

同試料は、SE40 覆土の最下層であることから、周辺で利用されていたイネ（稻茎）やヨシ属が何らかの形で井戸内に混入もしくは投棄された可能性が考えられる。また、当時の遺構周辺にはウシクサ族、ササ属、および何らかの樹木が生育していたと考えられる。

### 2) 花粉分析

#### 基本層序 B 地点（試料 1 ~ 7）

V 層の堆積当時は、周囲の湿地的なところにハンノキ属をはじめトチノキなどが生育し、周辺にはブナ属、コナラ属コナラ亜属などの冷温帶落葉広葉樹林およびスギ林が分布していたと考えられる。また、日当たりの良いところにはイネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属などの草本類が生育していたと推定される。

IV c 層では、花粉があまり検出されないことから植生や環境の推定は困難である。花粉が検出されない原因としては、乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたこと、土層の堆積速度が速かったこと、および水流や粒径による淘汰・選別を受けたことなどが考えられる。

IV b 層から III 層にかけては調査地点もしくはその近辺で稻作が行われており、周辺にはヨモギ属、カヤツリグサ科、アカザ科ヒユ科などの草本類が生育していたと考えられる。森林植生としては、周辺地域にスギ、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、ブナ属などが分布していたと推定される。III 層では少量ながらソバ属が検出され、ソバの栽培が示唆される。

III 層では、寄生虫卵の回虫卵、肝吸虫卵が検出されたが、低密度であることから、集落周辺などの人為環境における通常の生活汚染に由来するものと考えられる。

#### SE40（試料 8）

覆土最下層では、クワ科一イラクサ科およびイネ科（イネ節型を含む）が特徴的に検出された。クワ科一イラクサ科については、クワ科の樹木や、路傍や荒れ地に生育するカナムグラ、カラムシなどの草本が考えられる。イネ科については、植物珪酸体分析で多量に検出されたイネおよびヨシ属などが考えられる。これらの植物については何らかの形で井戸内に混入もしくは投棄された可能性が考えられる。また、当時の遺構周辺には樹木が少なく、周辺地域にハンノキ属、スギ、エノキ属ームクノキなどが分布していたと考えられる。

## 第VII章 墨書土器

### 第1節 出土地点及び遺構

林付遺跡からは 65 点の墨書土器が出土した（第 5 表）。上層からの出土が 47 点、下層からの出土が 14 点、不明が 4 点である。上層出土の 47 点の内、遺構からの出土は 20 点である。両面廻付建物 SB901 に近接するいは重複する遺構からの出土が多く、とくに SX229 からは 7 点、SK145 からは 3 点出土している。下層出土の 14 点の内、遺構からの出土は 12 点である。大半は調査区北西部からの出土であり、SK510 からは 3 点出土している（第 19 図）。

### 第2節 器種と墨書部位

墨書土器 65 点の内訳は、須恵器が 33 点（上層 19 点、下層 11 点、不明 3 点）、土師器（内黒土器を含む）が 32 点（上層 28 点、下層 3 点、不明 1 点）である。下層では須恵器の比率が高い（約 78.6%）が、上層では土師器の比率が高くなり（約 59.6%）、下層と上層とで須恵器と土師器の比率が逆転している。器種は須恵器が無台杯・有台杯・杯蓋、土師器が無台椀・有台椀で、すべて食器具である。

墨書部位は、須恵器杯（無台・有台ともに含む）31 点では、底部外面 29 点（約 93.5%）、体部外面 2 点（約 6.5%）で大半が底部外面である。杯蓋はすべて摘要部に墨書されている。土師器椀（無台・有台ともに含む）32 点は、すべて底部外面に記されている。

これまでに新潟県内から出土した墨書土器では、土師器椀の場合、約 65% が体部外面への墨書で、底部外面への墨書は約 34% である〔小林・相沢 2004〕。こうした傾向からすると、全点が底部外面に記される本遺跡の例はやや特異であるが、その理由は定かではない。

### 第3節 主な文字の検討

墨書土器 65 点の内、文字を判読できたものは 29 点（推定によるものを含む。以下に記す点数も同じ）である。以下、主な文字について検討する。なお、記号様のものを記した墨書土器が 2 点（189・309）ある。

「川合」（73・74・156・158・160・161・217・220・225・226・228・369・396）

「川合」と記された墨書土器は 13 点出土した。369（下層出土）・396（不明）以外はすべて上層出土であり、SK145 からは 2 点（73・74）、SX229 からは 4 点（156・158・160・161）と、まとまって出土している。396 以外はすべて土師器椀の底部外面に比較的大きな文字で記されている。

396 は須恵器有台杯の底部外面の左端に小さく記されており、他とは書き方が異なる。器種によって書き方を変えている可能性がある。「川合」は地名と考えられる。遺跡の西約 3km に河井（西蒲区河井）の地名があり、また西蒲区湯頭に川井浦・川井前、同区桜林に川井切の字名がある〔巻町 1994〕。川合（河井・川井）は、現在よりも広い範囲を含んでいたのかもしれない。

「川合中」（159・227）

2 点出土した。159 は「川合」の墨書土器が 4 点出土した SX229 からの出土である。2 点とも土師器無台椀の底部外面に比較的大きな文字で記されている。地名の「川合」に続けて記される「中」については、「川合」

という地域内での位置を示しているとも考えられるが、後述するように、本遺跡が莊園の荘所である可能性があることからすれば、複数棟存在する荘所の建物群の中で、特定の建物の位置を示しているとも考えられる。

#### 「□〔川カ〕井庄」(230)

須恵器杯蓋の摘部に記されている。1文字目は「川」の2・3画目は確認できるが、1画目が不明瞭なため、「□〔川カ〕」とした。しかし、「川合」(13点)・「川合中」(2点)の墨書土器が多く出土しており、また、付近に河井の地名があることから「川井庄」の可能性が高い。3文字目の「庄」の文字の大きさに比して1・2字目は小さく記されている。おそらく、始めに「庄」と記し、その後「川井」と書き足したのであろう。「川井庄」という莊園名は文献資料には見られない。本墨書土器は文献資料に登場しない「川井庄」の存在を示すとともに、本遺跡が「川井庄」の荘所(莊園の諸経営を行なう拠点施設)である可能性を示している。

#### 「古」(82・85)

2点とも土師器無台椀の底部外面に記されている。「古」の墨書土器は、市内秋葉区の萱免遺跡、阿賀野市腰廻遺跡、胎内市船戸桜田遺跡などから出土している<sup>1)</sup>。

#### 「別」(193・197)

2点出土したほか、172も「別」と記されている可能性がある。いずれも須恵器無台杯の底部外面に大きく記され、記載位置も類似している。管見の限り、「別」の墨書土器の出土例は県内ではみられない。

#### 「正」(199・324)

2点とも須恵器無台杯の底部外面に記されている。「正」の墨書土器は、新発田市曾根遺跡などで出土している。

#### 「館」(96)

文字の下半分が欠損しているため読みきることはできないが「館」と推定される。須恵器無台杯の底部外面に大きく記されている。「館」は荘所の建物を示している可能性がある。「館」の墨書土器は、上越市榎井A遺跡や阿賀野市腰廻遺跡から出土している。この内、榎井A遺跡は、出土した木簡や墨書土器から古代莊園の荘所跡と考えられており、本遺跡の性格を考える上で重要である。

#### その他

「足」(198)は須恵器無台杯の底部外面に記されている。「足」は比較的多くの遺跡から出土する文字種であり、市内江南区の駒首湯遺跡、新発田市曾根遺跡などから出土している。

「知」(306)は下層遺構のSK510から出土した3点のうちの1点である。須恵器無台杯の底部外面の左寄りにやや小さな文字で記される。

「吉」(403)は上師器無台椀の底部外面に大きく記される。「吉」は事物の良好な状態を意味する文字であり、比較的多くの遺跡から出土する文字種である。県内では胎内市蔵ノ坪遺跡、田上町保明浦遺跡、見附市上田遺跡などから出土している。

## 第4節 まとめ

前述したように、「□〔川カ〕井庄」(230)からは、本遺跡が文献資料に登場しない古代莊園「川井(川合・河井)庄」の荘所であった可能性が考えられる。県内では上越市榎井A遺跡、同市岩ノ原遺跡、加茂市馬越遺跡が古代莊園の荘所に関わる遺跡とされている。この内、岩ノ原遺跡からは「石井庄」の墨書土器が出土しており、文献に見られる東大寺領石井莊の荘所であることが明らかとなった。榎井A遺跡は「御田」と記された木簡や「庄」の墨書土器などから荘所と考えられるが、文献に見られるいずれかの莊園の荘所なのか、あるいは文献に登場し

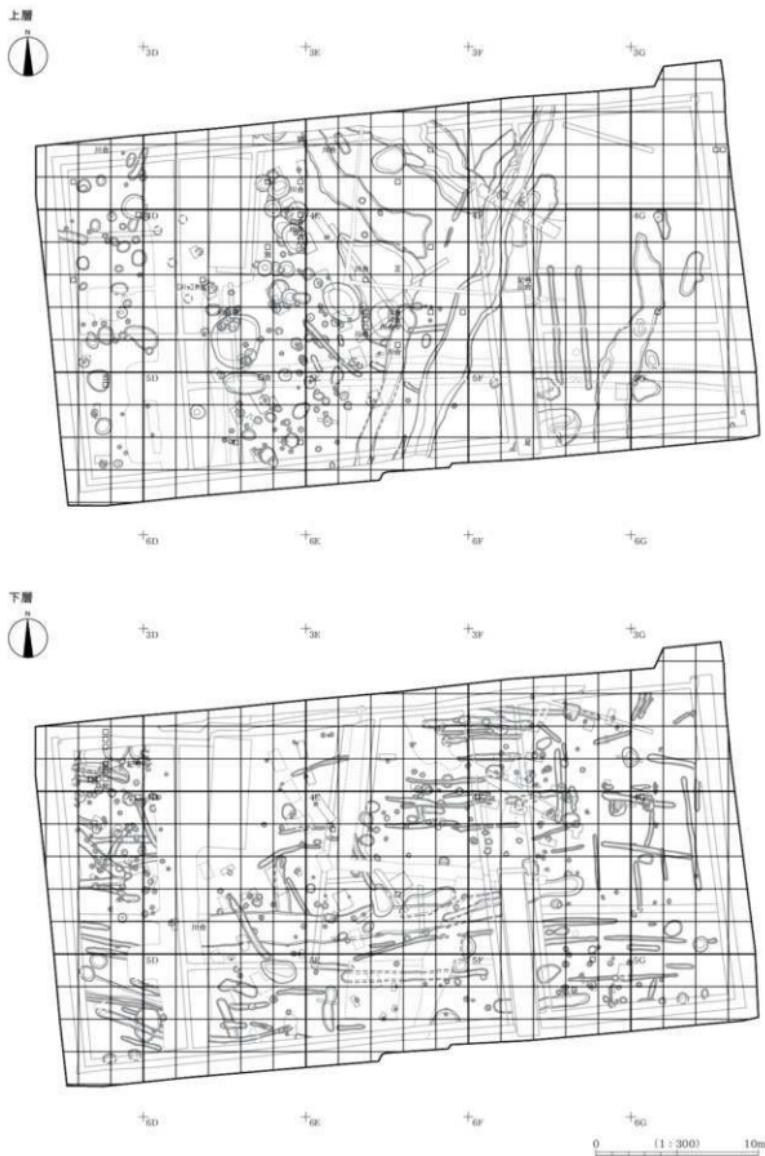
1) 以下、県内の出土事例については、青森県 2008 「新潟県の墨書・刻書土器」『青森県史 資料編 古代2 出土文字資料』などを用いた。

ない莊園の莊所なのか明らかでない。馬越遺跡は「妙越庄」の墨書土器が出土しており、文献に登場しない莊園の莊所の可能性が高い。

模井A遺跡、馬越遺跡とともに9世紀代を中心とする遺跡であり、本遺跡も9世紀の遺跡である。9世紀の莊園については不明な点が多いが、近年、中央の院宮王臣家と在地の富豪層や国司との連携による広汎な院宮王臣家領莊園の存在が想定されている（吉川2002）。本遺跡や馬越遺跡も、このような莊園の莊所の可能性があろう。

第5表 墨書土器一覧表

閑書出版番号	出土地名・グリッド	網番	縦位	種別	器種	記文	墨書部位	備考
1 閑35 29 P206(SB901)	4D12		上棚	須恵器	無台杯	□	底部外面	
2 閑36 50 SK92	4E12		上棚	土師器	無台杯	□	底部外面	
3 閑38 72 SK145	4D05		上棚	須恵器	無台杯	□	底部外面	
4 閑38 73 SK145	4D05		上棚	土師器	無台杯	川合	底部外面	
5 閑38 74 SK145	4D05・4D19		上棚	土師器	有台碗	川合	底部外面	内墨土器
6 閑38 82 SK150	4D05		上棚	土師器	無台碗	古	底部外面	
7 閑38 85 SK181	4C94・5C4		上棚	土師器	無台碗	古	底部外面	
8 閑39 96 SK220	4D12・4D13		上棚	須恵器	無台杯	箇	底部外面	
9 閑39 101 SD34	4C5		上棚	須恵器	無台杯	□	底部外面	
10 閑39 108 SD66	4E15・4E20		上棚	土師器	無台碗	□	底部外面	
11 閑40 125 SD66	4E23		上棚	須恵器	無台杯	□	底部外面	
12 閑40 134 SD137	3C19		上棚	須恵器	無台碗	□	底部外面	
13 閑41 155 SX229	4E9		上棚	土師器	無台碗	□	底部外面	
14 閑41 156 SX229	4E23		上棚	土師器	無台碗	川合	底部外面	
15 閑41 157 SX229	4E17		上棚	土師器	無台碗	□	底部外面	
16 閑41 158 SX229	4E18		上棚	土師器	無台碗	川合	底部外面	
17 閑41 159 SX229	4E18		上棚	土師器	無台碗	川合申	底部外面	
18 閑41 160 SX229	4E17		上棚	土師器	無台碗	川合	底部外面	
19 閑41 161 SX229	4E18		上棚	土師器	無台碗	川合	底部外面	
20 閒41 172 P127	4I09		上棚	須恵器	無台杯	□	底部外面	「別」の可能性あり
21 閒42 189	4F12		上棚	須恵器	無台杯	(記号)	底部外面	底部外側外脚部3箇所に「○」印。中央にも「○」印。
22 閒42 190	4C13		上棚	須恵器	無台杯	□	底部外面	
23 閒42 191	3G18		上棚	須恵器	無台杯	□□	底部外面	
24 閒42 192	3D24		上棚	須恵器	無台杯	□	底部外面	
25 閒42 193	4D9		上棚	須恵器	無台杯	男	底部外面	
26 閒42 194	3C23		上棚	須恵器	無台杯	□	底部外面	
27 閒42 195	3E23		上棚	須恵器	無台碗	□	底部外面	
28 閒42 196	4G16		上棚	須恵器	無台杯	□	底部外面	
29 閒42 197	3D15		上棚	須恵器	無台碗	男	底部外面	
30 閒42 198	5F12		上棚	須恵器	無台杯	足	底部外面	
31 閒42 199	4F8・4E14		上棚	須恵器	無台杯	正	底部外面	
32 閒42 212	4E17		上棚	土師器	無台碗	□	底部外面	
33 閒43 216	4E19		上棚	土師器	無台碗	□	底部外面	
34 閒43 217	4E7・4E12		上棚	土師器	無台碗	川合	底部外面	
35 閒43 218	3D25		上棚	土師器	無台碗	合	底部外面	
36 閒43 219	5C4		上棚	土師器	無台碗	□	底部外面	
37 閒43 220	3D15・3D25		上棚	土師器	無台碗	川合	底部外面	
38 閒43 221	4E17		上棚	土師器	無台碗	□	底部外面	
39 閒43 222	3E23		上棚	土師器	無台碗	□	底部外面	輪刻（×）有り
40 閒43 223	5D13		上棚	土師器	無台碗	□	底部外面	
41 閒43 224	5D15		上棚	土師器	無台碗	□	底部外面	
42 閒43 225	3C19		上棚	土師器	無台碗	川合	底部外面	
43 閒43 226	3E16		上棚	土師器	無台碗	□	底部外面	内墨土器
44 閒43 227	4D18		上棚	土師器	無台碗	川合申	底部外面	
45 閒43 228	4F12		上棚	土師器	無台碗	川合	底部外面	
46 閒43 230	4D12		上棚	須恵器	杯 箕	□ (井カ)	井掛 部	軸用襯
47 閒43 231	5D4		上棚	土師器	無台碗	□合	底部外面	
48 閒47 304 SK510			下棚	須恵器	無台碗	□	底部外面	
49 閒47 305 SK510	3C19・3C24		下棚	須恵器	無台碗	□	底部外面	
50 閒47 306 SK510	3C25		下棚	須恵器	無台碗	知	底部外面	
51 閒47 309 SK524	6D7		下棚	須恵器	無台碗	(記号)	体部外面	正位、「井」を□で囲む
52 閒47 315 SK583	3C24		下棚	須恵器	無台碗	□	底部外面	
53 閒47 318 SD271	4E18		下棚	土師器	無台碗	□	底部外面	内墨土器
54 閒48 324 SD461	4C14		下棚	須恵器	無台碗	正	底部外面	
55 閒48 330 SD508	3C24		下棚	須恵器	無台碗	□□□	底部外面	
56 閒48 336 P247	5F4		下棚	須恵器	無台碗	□ / □	底部外面	
57 閒48 340 P406	4E9		下棚	土師器	無台碗	□	底部外面	
58 閒48 344 P488	4C5・4D1		下棚	須恵器	杯 箕	(中カ)	軸用襯	形
59 閒48 345 P498	3C24・4C4		下棚	須恵器	無台碗	□	底部外面	
60 閒49 364	3C19		下棚	須恵器	無台碗	□	体部外面	
61 閒49 369	4D22		下棚	土師器	無台碗	川合	底部外面	
62 閒52 396	4G18・トレンチ		不明	須恵器	無台碗	川合	底部外面	
63 閒52 400	5G1・トレンチ		不明	須恵器	無台碗	□	底部外面	
64 閒52 401	抹土		不明	須恵器	無台碗	□	底部外面	
65 閒52 403	3C18・ソツコウ		不明	土師器	無台碗	古	底部外面	



第19図 墨書土器のグリッド別出土位置と文字（出土層位不明のものは除く）

## 第VII章 総括

### 第1節 遺構

#### SB901 の時期

本跡出土土器の変遷案については次節で触れるが、この変遷案が妥当であるとすれば、4期に位置づけたP112はSB901を構成する柱穴であり、3期が下層にあたることから、SB901の上限は4期に位置づけられる。また、5期に位置づけたSK145、P103がSB901の柱穴を切っていることから、SB901の下限は5期の中と判断される。

なお、多量の土器や石帯が出土したSK92は、SB901の桁行のほぼ中央、東側の廻部分におおむね収まる場所に位置しており、SB901に関連した遺構である可能性が高いと推測する。SK92出土土器は5期と考えられることから、SB901の下限に近い時期のものと考えられる。

SB902については、建物の軸がSB901に近いことから、SB901とほぼ同じ時期と考える。SB903については、建物の軸がSB901に近いことや、SB903を構成するP503の柱根の年輪年代測定の結果（第VI章）から、SB901に後続する建物と推測したい。

なお、SE10・40は覆土の状況が類似しており（第IV章B）、近い時期が推測される。SE40はSB901・P192を切ることからSB901以降と考えられる。SB901にはSE443が、SB903にはSE10もしくはSE40の井戸が伴っていた可能性が考えられる。

#### SB901 の柱根深度

SB901の柱根最深部の標高は別表1のとおりである。柱根深度は、後世の沈降や建造時の地形の影響を多分に受けている可能性があり、先端部の形状も考慮する必要があろう。実際、林付遺跡のSB901では、平らに加工した柱に比べて尖らした加工の柱の方が深度は深い傾向にある。

ただし、いずれも尖らした加工をもつ南端2列の柱根列の深度をみると、P191・197、P192・216が深いのに対し、中央のP187・P149は浅い。また、西側の廻部分にあたるP194・199の標高も高い（図版9）。以上のことからは、身舎の両端の列は柱を深く打ち込んだのに対し、中央や廻部分の列は比較的浅い打ち込みであった可能性が推測される。

#### SB901 の柱根の樹種について

SB901の木柱は21本を樹種同定したが、クリが最も多く8本、次いでヒノキ科のネズコ（別名クロベ・ゴロウヒバ）で7本、以下キハダ属5本、トマツ属単維管束亜属1本である。なお、SB901を含む上層では、計24本を樹種同定し、クリ10本、ネズコ7本、キハダ属5本、トネリコ属1本、マツ属単維管束亜属1本であった（第2表）。クリが最も多い点は県内の他遺跡と共通する〔春日2008〕が、ネズコが一定量使用されている事例は県内では確認できない。

また、木柱には、先端を鉛筆の芯のように尖らす加工をしたものと、水平に加工したものとの2通りが存在する。SB901では、水平の加工がP112（264）・P146・P203（274）・P205（275）・P206（276）の木柱で確認され、それ以外は尖らす加工である（別表5）。

樹種による加工の違いはみられないが、264・276は径がそれぞれ約28cm・32cmと比較的太く、径の大きい柱に水平の加工を行う傾向がある。また、水平に加工した木柱は北側の桁柱に集中しており、地盤の違いによる使い分けの可能性もある。

## 第2節 遺物

### A 土器・遺構の編年位置づけ

今回の調査で出土した土器はおおむね9世紀代のものが主体をなし、他に中世・近世の資料もわずかだが確認されている。以下では中心をなす古代の土器について、食膳具を中心にその変遷を概観したい。

林付遺跡が位置する西蒲原地域における古代の土器については、西蒲原全域の遺跡を対象として編年が示されたもの〔春日2000〕の他に、釈迦堂遺跡出土土器を対象としたもの〔江口2000・春日2006〕などがある。また、西蒲原地域より調査資料の蓄積が充実している古志郡西部（西古志地域）では、田中氏や春日氏によって編年案が整備されており〔田中2003・2005、春日2002・2005等〕、釈迦堂遺跡出土土器との並行関係の検討も行われている〔春日2006〕。また、釈迦堂遺跡と西古志地域の八幡林官衙遺跡では、ともに貞觀5（863）年の地震と考えられる痕跡（噴砂・断層）が存在し、両遺跡間の土器の並行関係や実年代を考えるうえで重要な指標のひとつとなっている〔春日2006〕。

西古志地域と西蒲原地域は郡域が異なるものの、西古志型甕や西古志丘陵窯産の須恵器の分布などから、島崎川・西川を利用して比較的密な交流・交易関係にあったと考えられる〔春日2000・2007等〕。なお、島崎川と西川はかつて一連の河川であった可能性がある〔坂井1995〕。林付遺跡出土資料にも西古志型甕や西古志丘陵窯産の須恵器が少なくない量認められる。

今回出土した土器の変遷や編年位置づけについては、主に上記の研究成果を参考にした。

土器の変遷については、食膳具の形態や器種の消長、須恵器の产地の他、出土層位や遺構の切り合い関係などから、1期から5期に区分した（第20図）。一定量の出土がある遺構出土資料を基本的に使用し、必要に応じて遺構外出土資料も使用した。また、墨書き土器については、主な墨書きの変遷を確認するためその一部を提示した。なお、下層遺構を1～3期、上層遺構を4・5期に位置づけている。

既存の編年との並行関係については第6表のように考える。おおむね春日編年〔1999〕のIV-3期からVI-3期に収まると推測する。なお、3期と4期の境界は、間層を挟む上層と下層の境界にある。既存編年との対比については、前記のとおり地震痕跡を基にした資料の前後関係・実年代とも絡む時期と推測され、今回の調査では同様の地震痕跡を確認できなかったことから点線で示した。

#### 1期

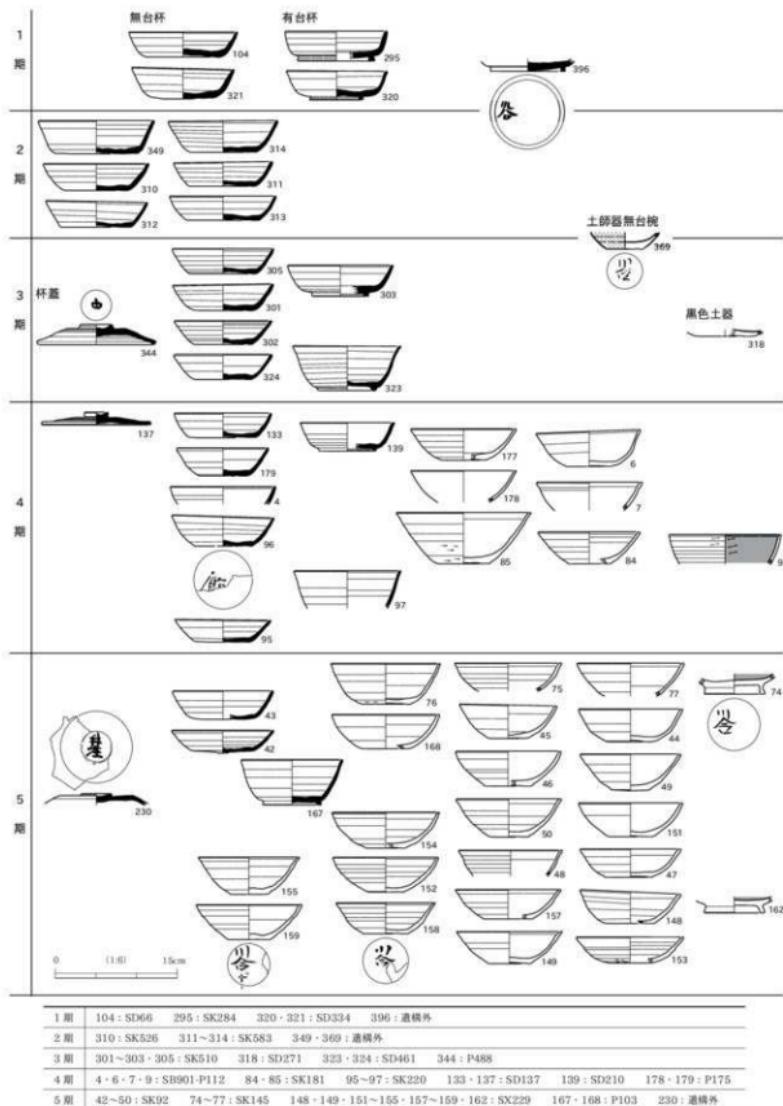
一定量の遺物を出土する遺構はないが、SK284（295）やSD334（320・321）の資料が該当すると推測する。295は八幡林官衙遺跡I地区11トレントチ田層出土の70・76（第21図）と類似する。また、SD334出土の320は、八幡林官衙遺跡I地区11トレントチ田層出土の75（第21図）に近い形態であり、下ノ西遺跡I区SE201出土の5（第21図）とも類似するが、口径はより大きい。2期へ下がる可能性もあるが、1期に含めた。

須恵器は佐渡小泊窯産以外の製品が主体を占める時期で、器壁は総じて厚くシャープさを欠く。西古志丘陵窯産と考えられるもの（295・320）や西古志もしくは角田山麓窯産と考えられるもの（396）、新津丘陵窯産と推測されるもの（321）が確認できる。春日編年のIV-3期におおむね並行する時期と推測する。

#### 2期

SK583で一定量の土器が出土しており、とりわけ須恵器無台杯（310～314）はまとまりをもって出土しており、一括性の高い土器群と考えられる。下ノ西遺跡I区SE201・203に類似した形態が認められる。釈迦堂遺跡ではXla・Xa層の土器に類似したものが認められる（第21図）。

須恵器は佐渡小泊窯産の製品が主体をなすが、西古志丘陵窯産や新津丘陵窯産も存在する。春日編年のV-1期におおむね対応すると考える。



第20図 林付遺跡出土土器の変遷案



积迦堂遺跡Xa層 [江口ほか2000]

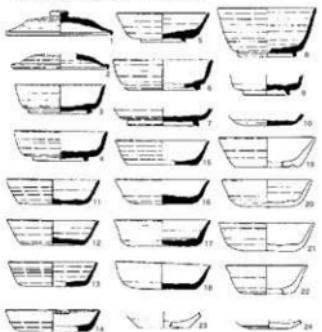


积迦堂遺跡IXa層 [江口ほか2000]

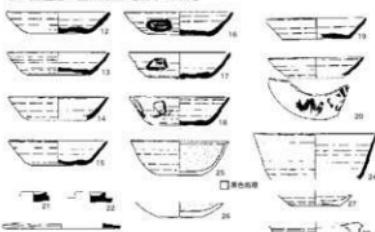


第21図 参考資料

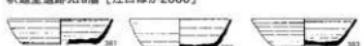
下ノ西遺跡I 区SE201 [田中1998]



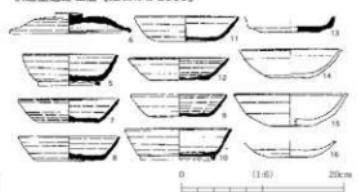
下ノ西遺跡I 区SE203 [田中1999]



积迦堂遺跡XIa層 [江口ほか2000]



积迦堂遺跡堆層 [江口ほか2000]



第6表 林付遺跡における主な遺構の編年的位置づけ

春日編年 [1999]	下ノ西編年 [田中2003]	駿迦堂遺跡 [江口2000]	本書	主な遺構
IV-2・3	5・6期		1期	SD334
V-1	7期	Xa層	2期	SK583
V-2	+	Xa層	3期	SK510 SD461
VI-1	8期	Xa層 (863年)	4期	SK220 P112・175
VI-2・3期	9期	VIIa層	5期	SK92・145 P103 SX229

※ 春日編年・下ノ西編年・駿迦堂遺跡各層との並行關係は春日 (2005) を参考にした。

### 3期

SK510やSD461の資料を基準とした。SK510は2期としたSK583を切る土坑である。SK510の須恵器無台杯 (301・302・305) は、2期のものに比べて全体的に小ぶりで、体部はより外側へ開く形である。駿迦堂遺跡ではXa層出土の土器に類似したものが多い。また、SD461の須恵器有台杯 (323) は下ノ西遺跡I区SE203の24に器形が類似する (第21図)。369は遺構外出土資料であるが、体部外面に赤彩が認められることや、今回出土した土師器無台碗の中では古相の形態と考えられることなどから該期に位置づけた。

2期同様、佐渡小泊窯産の製品が主体をなすが、西古志丘陵窯産 (303) も存在する。春日編年のV-2・VI-1期を中心とする時期に対応すると推測する。

### 4期

4期からは上層遺構である。4期はSK220、P112・175出土土器を中心に基準資料として用いた。食膳具は土師器無台碗が主体を占める。

土師器無台碗の形態は駿迦堂遺跡のIXa層のものに近い。また、八幡林官衙遺跡I地区11トレンチII層の土師器無台碗とも類似する。P175出土須恵器無台杯 (179) は下ノ西遺跡I区SE203の18に器形が類似し、SK220出土の95も下ノ西遺跡I区SE203出土の15 (第21図) に形態が近い。

須恵器は、佐渡小泊窯産の製品でほぼ占められるものと推測される。当期は春日編年VI-1期を中心とする時期に位置づけられると考える。

### 5期

SK92・145、SX229出土資料を中心使用した。食膳具は引き続き土師器無台碗が主体を占めるが、その割合は4期よりも増加すると推測される。SK92出土の須恵器無台杯42は4期よりも器高が浅いもので、駿迦堂遺跡のVII層12に近い形態である。また、SK92出土の48やSX229出土の153・158は駿迦堂遺跡のVII層出土の14・15に近い形態と考える (第21図)。

須恵器は、佐渡小泊窯産の製品でほぼ占められるものと推測する。春日編年VI-2・3期におおむね対応するものと推測する。

## B 土器の器種構成比率

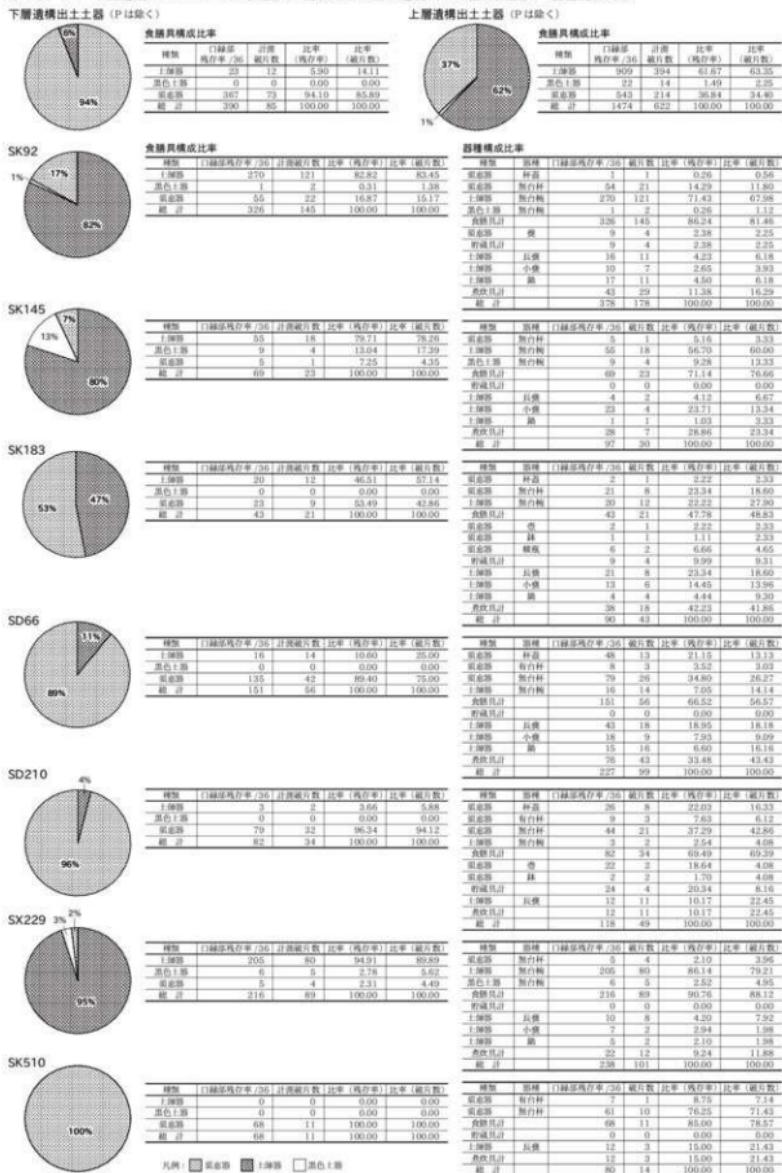
第7表の上2つは、上層・下層のピットを除いた遺構 (SE・SK・SD・SX) 出土食膳具の構成比率である。上層では土師器が62%、黒色土器が1%、須恵器が37%であるのに対し、下層では須恵器が94%、土師器が6%で、上層と下層で大きな違いがみられる。既に確認したとおり、下層は春日編年のIV-3からVI-1期を中心とした時期、上層はVI-1期からVI-3期を中心とする時期に位置づけられると考える。

下層の食膳具の比率は、西川流域に位置する江添C遺跡 (V期) に近い (第22図)。V期に西川流域は新津丘陵周辺に比べて土師器が少ないと指摘 [春日1999・2003] があるが、林付遺跡も似たような状況にあった可能性が推測される。

上層の食膳具の比率をみると、下層に比べ土師器の量が増加する状況がうかがえる。VI-2期を中心とする時期に位置づけられるSX229では土師器の比率が95%と高く、V期でみられた西川流域と新津丘陵周辺の土師

第7表 上・下層遺構(Pは除く)出土食器具の構成比率と主な遺構出土土器の食器具・器種構成比率

下層遺構出土土器(Pは除く)



凡例: ■ 直縫目 □ 縦柄 ■ 黒色上層

器の比率の違いがVI-2期には解消された可能性が高いとする春日氏の論〔春日2003〕と一致する。

### C 煮炊具について

林付遺跡では上層・下層とともにいわゆる西古志型甕〔坂井1990・1996、坂井・山本・田中1992、春日1999・2000・2007<sup>など</sup>〕が一定量確認された。西古志型長甕・小甕は口縁端部を面取りし、ハケメ成形を特徴とする甕で、島崎川流域を中心に分布し、蒲原郡の西川流域で一定量確認できるなど、信濃川左岸では郡域を超えた分布が確認されている〔春日2000・2006・2007〕。また、存続時期については、春日編年のIV期に出現し、V期に増加するが、VI期には確認できなくなるとされる〔春日2007〕。

当遺跡における西古志型長甕・小甕の割合は、図版掲載遺物に限れば、下層で甕全体の約3割、上層で甕全体の1割程度である。下層が多い状況にあり、V期に西古志型甕が増加するとの指摘と一致する。また、上層ではSD34・SD66で西古志型甕が認められるものの、それ以外の遺構での出土はない。このことからは、VI期にはほとんど使用されていない可能性が高い。

西古志型甕以外では、229は佐渡型甕と考えられ、98も色調や胎土、器壁の薄さからその可能性がある。佐渡型甕は今回の調査ではこの1点もしくは2点のみの出土であり、全体に占める割合はごくわずかである。

406はいわゆる「武藏型甕」〔〔春日2007〕の長釜C1類〕にあたると考える。この種の土器は越後ではV・VI期に魚沼地域に分布の中心があり、信濃川沿いでも点的に分布が確認できるとされる〔春日2007〕。周辺では加茂市の馬越遺跡で認められる。当遺跡が信濃川と密接な関係を有していたことが推測されるとともに、当遺跡周辺に信濃川から派生する河川交通網が存在したと考えられる（第23図）。

以上、煮炊具の様相からは、林付遺跡が位置する地域は島崎川・西川を利用して西古志地域と密接な関係を有していたことがうかがえるとともに、信濃川を利用した交通網でも重要な位置にあった可能性が推測される。西川と信濃川に挟まれた場所に立地する本遺跡の特徴を示す土器様相といえよう。

### D 権 状 錘

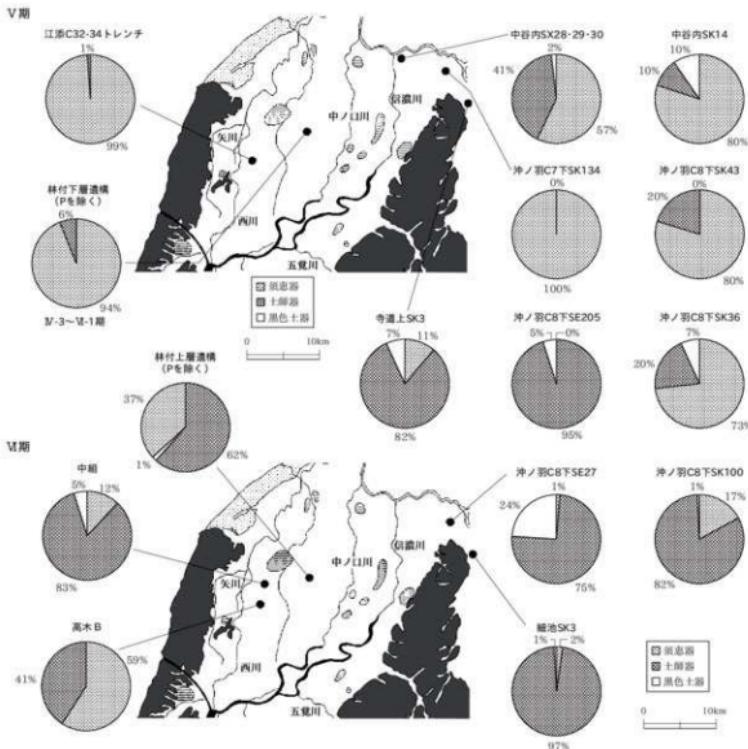
新潟県内における古代の権状錘は、管見の限り10遺跡、15点を数える。地域別にみると、岩船郡が2遺跡（3点）、蒲原郡が7遺跡（10点）、頸城郡が1遺跡（2点）で、蒲原郡に多い傾向がうかがえる。一方、八幡林官衙遺跡のある古志郡や、国衙推定地である頸城郡で少ない点は留意される。包含層出土のため細かな時期を特定できないものも多いが、8世紀前半から10世紀前半の幅に取りり、9世紀代が多いものと推測される（第24図）。

林付遺跡の権状錘（256）は4E17グリッドから出土した。当グリッドには多量の土器や石帶が出土したSK92が位置する。石材は蛇紋岩で、周辺の採集地としては弥彦山周辺の海岸沿いが最短距離にあたる（糸魚川フォッサマグナミュージアムの浜木洋介氏の御教示による）。

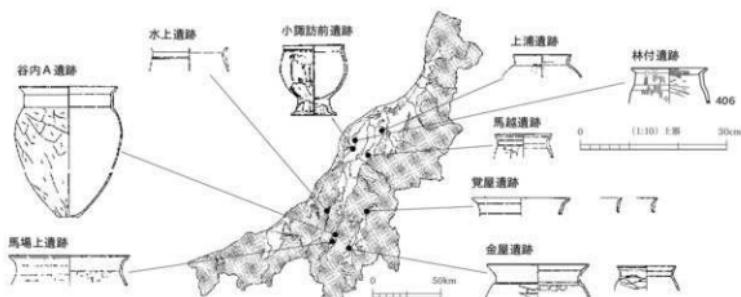
形態は扁平で、底から上部に向かって厚さが薄くなり、側面からは二等辺三角形状にみえる特徴をもつ。形態的に近い資料としては、西部遺跡（第24図1・2）、的場遺跡（第24図8・10）が挙げられる。

古代の権状錘は棹秤に使用された製品であり、地方末端行政的な村落遺跡も含め、公的な色彩を帯びる遺跡からの出土が多いことが指摘されている〔望月2003〕。林付遺跡や馬越遺跡はとともに初期莊園関連遺跡と考えられ、どちらも石帶が出土するなどの公的な色彩の強い遺跡といえる。

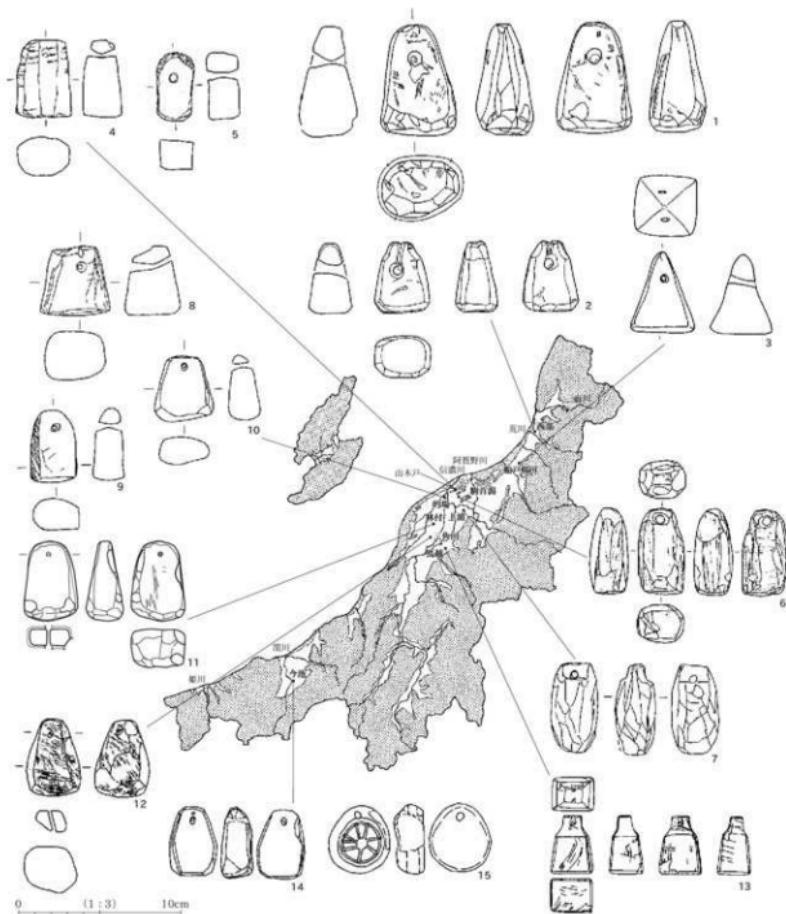
佐渡小泊窯産須恵器の流通に関する研究からは、信濃川の河口から内水面交通を利用して内陸部へ供給されたと考えられる〔坂井1988・1996、春日1991<sup>など</sup>〕。不明な点は多いものの、権状錘出土遺跡が越後平野に多く分布することは、古代に越後平野の集落が内水面を利用した交易で大きな役割を担っていたことがひとつの要因と考えられる。



第22図 食器類の構成比率（春日2003に追加）



第23図 「武藏型壺」を出土した主な道路（春日2007に追加・一部改変）



遺跡名	市町村名	No.	種状態	点数	出土位置	層位	時期 (ローマ数字は井口編年 1999)	
							石材 重さ(g)	
1 西那須野跡	村上市	1	真岩	87.1	SD2008	1層	10世紀第1四半世紀 VI期	[鈴木・三井ほか2010]
		2	流紋岩	43.9		XII層	9世紀中葉	
2 船戸桜田遺跡	船戸内市	3			G16		8~10世紀初期	[水澤・吉村2002]
		4		49.8			9世紀中葉~10世紀初頭	
3 山木戸遺跡	新潟市	5		27.8	5B12		9世紀中葉~10世紀初頭	[小池・本間1992] [諫山2004]
		6	流紋岩	40.0		1	16J19	
4 駒ヶ岳遺跡	新潟市	7	泥岩	25.0	C58-18		9世紀 V~VI期	[渡邊・相沢ほか2009]
		8	真岩	83.3		4D13 仮3	8~9世紀 II 3~VII 2期主体	
6 的場遺跡	新潟市	9	砂岩	33.6	6D7		8世紀前半~10世紀前半 (主体は9世紀)	[小池・藤原ほか1993]
		10	凝灰岩	32.3		4D4		
7 林付遺跡	新潟市	11	凝灰岩	45.5	1	4E17	9世紀後半 VI期	
8 三角田遺跡	燕市	12	凝灰岩	52.0	1	SX2	2層	8世紀前半
9 馬越遺跡	加茂市	13	流紋岩	25.55	1	113-5	8世紀後半 IV-1~V期	[伊藤2005]
10 今治遺跡	上越市	14	安山岩		B地区 F25区			[戸松・坂井ほか1984]
		15	泥岩			B地区 SE311		

第24図 県内出土の古代權状鏡

## E 「川合（川井）」墨書き土器

今回の調査で出土した「川合（川井）」と記された墨書き土器は、「川合」が13点、「□〔川〕」、「□〔川カ〕井庄」1点の計16点である。「川合（川井）」については地名と考えられる（第VII章）。以下では、この「川合（川井）」墨書き土器の年代について概観する（第20図）。

もっとも古相を示すものは396で、本書の1期もしくは2期に収まると推測される。次いで2期もしくは3期と考える369がある。下層出土もしくは下層出土の可能性が高い「川合（川井）」墨書き土器はこの2点のみで、他はいずれも上層出土である。このことから、「川合（川井）」墨書き土器の大半は本書の4・5期に属すといえる。

墨書きの文字をみると、396の「川合」の「合」の口辺上の三画目の横線が1本抜けていることがうかがえる。369の「合」も同様の可能性が高い。他の「川合（川井）」墨書き土器でこの種の文字が確認できないことから、下層（3期頃）までは「川合」が主として使用され、上層（4・5期）で「川合」が主体になった可能性も推測される。

また、「□〔川カ〕井庄」墨書き土器である230は5期頃と推測され、「川合」墨書き土器が最も多い時期に位置づけられる。「カワイ」に「井」が使用されているのはこの230の1点のみである。230のみ莊園を示す「庄」が記されること、「川合（井）」墨書き土器のうち230・396のみが須恵器で、それ以外は土師器であること、さらに230が今回出土した墨書き土器の中では数の少ない須恵器杯蓋への墨書きであることなどは、230の土器並びに「川井」がやや特異で例外的な使用である可能性を示唆する。

なお、正保元（1644）年の「正保越後国絵図」や享和2（1802）年「越後国全図」、天保9（1838）年「護国絵図取調二付仕立之正場絵図」では、「川井」の文字が使用されているのに対し、元禄13（1700）年「越後国蒲原郡岩船郡絵図」や文政元（1818）年「越後興地全図」では「河井」の文字がみられる。

## 第3節 遺跡の位置づけ

林付遺跡は越後平野の中央、信濃川左岸の沖積地内の自然堤防上に立地し、標高は上層で約1m、下層で約0.6～0.7mを計る。出土遺物から下層が9世紀前半、上層が9世紀後半を主体とする時期で、中心時期は9世紀第2四半世紀から9世紀第4四半世紀と考えられる。

下層より下の層であるV層では、遺物が確認できること、自然木が複数か所で認められたことから、下層以前は低湿な環境にあり、まだ集落が形成されていなかった可能性が高い。自然科学分析でも低湿な環境を推測させるデータが得られている（第VI章）。また、集落の存続期間や盛行時期は、北北東約8.5kmに位置する駅廻堂遺跡とおおむね一致する。なお、駅廻堂遺跡とは、腰帶や仏鉢の出土でも共通する。

狭い調査範囲ということもあり遺跡の内容は不明な点が多いが、下層では烟の歯と考えられる溝状遺構を中心に、比較的小規模な掘立柱建物などが確認されている。上層では、身舎面積87.9m<sup>2</sup>、廂部分を含めた建物面積140m<sup>2</sup>と規模の大きな2間6間で2面廂をもつ掘立柱建物（SB901）などが確認された。上層の遺構は調査区西側に偏っており、発掘調査対象地が上層集落の東端域にあたる可能性が推測される。

「川合（川井）」墨書き土器から、当遺跡の位置する地域が9世紀代に「カワイ」という地名であったことが明らかになった。遺跡の西約3kmには河井（西蒲区河井）の地名があり、西蒲区鶴頭に川井浦・川井前、同区桜林に川井町の字名がある。当時の川合（川井）は、今よりも広い範囲を含んでいた可能性がある（第VII章）。なお、前述の江戸時代の絵図では、「赤館-河（川）井-漆山-国見-今井…」と線で結ばれており、河（川）井と今井間にルートとして機能していたことが分かるとともに、両地域の関連性がうかがえる。

SB901は、本書の4期に造られた後、5期に廃絶されたと考えられ（第VII章第1節）、おおむね9世紀第3・4四半世紀に存在したといえる。SB901周辺で出土した石帶や権状錐、「川井庄」・「館」墨書き土器などから、SB901は文献資料に登場しない古代莊園「川合（川井）庄」の莊所関連施設であった可能性が高い（第VII章）。なお、

該期は北陸において初期莊園の活動の最盛期にあたる〔宇野1991〕。

上層では大規模な掘立柱建物（SB901・SB903?）や石帶・権状鍤などが確認されている。一方、縄軸・灰軸陶器は認められず、煮炊具は西蒲原地域の特徴をもつ（第VII章第2節）。以上のことから、在地有力者の存在が示唆される。なお、SB901 建物の面積は、有力豪族が関係したと考えられる莊園の建物としては大きい部類に位置づけられる〔宇野1996〕。

今回の調査で水田跡は確認されなかったが、植物珪酸体や花粉分析結果からは、上層において調査地点もしくはその近辺で稻作が行われていたと推測される（第VI章）。造構の分布状況からは、調査区外の東方に水田域が存在する可能性が推測される。なお、SE10・40・443 では水洗選別により炭化米が検出されている。

上層と下層の間には厚さ約 0.2 ~ 0.4m の層（IV b 層・間層）が確認された。出土遺物からは、上層と下層との間で大きな断絶は認められない。このことから、この間層は短期間のうちに形成されたと考えられ、河川の氾濫や洪水などの自然災害による堆積が想定される。なお、駿迦堂遺跡では遺物包含層が間層を挟んで 5 層確認されているが、出土遺物からは上下の層で年代的に大きな開きは認められず、林付遺跡と同様な状況といえる。これらの間層の多くは洪水による堆積と考えられている〔江口2000〕。

また、駿迦堂遺跡では貞觀 5（863）年の大地震の痕跡も確認されている。今回の調査では地震の痕跡を確認できなかつたが、駿迦堂遺跡の地震の前後の層（IX a 層→VII a 層）から出土した遺物は、林付遺跡の下層と上層の遺物にそれぞれ近い時期と推測される点は留意される。

県内において 9 世紀は集落の新たな動きが見られる時期にあたり、当遺跡のように沖積地内の微高地の自然堤防上に形成され、掘立柱建物を主体とする集落が各地域で確認されるようになる。林付遺跡の上層では、掘立柱建物、井戸、土坑、畑地がセットになって構成されていたと推測され、王朝国家（型）村落〔坂井1989〕、春日論文〔春日1995〕の E 類に近い集落構造と考えられる。春日氏は 9 世紀前半に出現するこの E 類集落が、平面積 60m<sup>2</sup> 以上の大型の掘立柱建物が存在する場合が多いことを指摘し、その背景として農民の階層分化という側面のほかに、この時期官衙関連遺跡が消滅することから、「律令期に官人として官衙周辺に居住していた有力者の一部が、当期には中核的な存在として新たに集落を再編していった結果とも考えうる」とする〔春日1995〕。

また、坂井秀弥氏はこの種の代表的な遺跡として、新潟市の小丸山遺跡や胎内市中倉遺跡、加茂市の鬼倉遺跡などを挙げ、これらの遺跡は新たな水田開発が大きな要因となり成立したとし、また、鬼倉遺跡では灌漑施設とみられる造構や多量の墨書き土器、錢貨・石帶などの出土遺物から、一定の有力者の居住を考え、新たな水田開発がこのような有力者に主導されたことを推定した〔坂井1999〕。

なお、鬼倉遺跡から南西約 700m に位置する馬越遺跡では、出土した「妙越庄」の墨書き土器から文献資料に見られない莊園の存在が明らかとなっており、銅製・石製の帶金具や権状鍤、祭祀関連の木製品などから、官衙的様相が指摘されている〔伊藤2005〕。文献に出ない莊園であることや、石帶・権状鍤といった出土遺物など、林付遺跡は鬼倉遺跡・馬越遺跡と共に通する点が多い。

以上、林付遺跡は調査面積が狭く、不明な点が多くあるものの、9 世紀の在地有力者による新田開発や莊園經營に関連した遺跡と捉えられる。律令体制から王朝国家段階への過程や、鍬湯東城における低湿地開発の変遷を考える上で重要な調査事例となろう。

今後は、造構・遺物における他遺跡との関係や比較・検討をはじめ、文献や自然科学の成果も取り入れながら、川合（井）庄の範囲や経営実態、成立過程やその後の変遷などを検討することを課題としたい。

とりわけ周辺の遺跡では、南西方向約 5.5km に位置し、縄軸陶器や「池津」と記された墨書き土器などから西蒲原の拠点的な集落であった可能性の高い中組遺跡〔春日2000〕や、北北東約 5.7km に位置し、灰軸陶器などが採集され、鍬湯東城における拠点集落の可能性が高い五之上曾根上遺跡〔関2000〕が注目される。

## 引用・参考文献

- ア 相田 泰臣 2004 「IV 3 古墳時代土器の編年的位置づけと御井戸遺跡の動向」『御井戸遺跡』II 卷町教育委員会  
荒川 隆史 2004 「第Ⅳ章 造構」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 133 集 青田遺跡』新潟県教育委員会 財團法人  
新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 諫山えりか 2004 『新潟市山木戸遺跡』新潟市教育委員会  
伊藤 秀和 2005 『馬越遺跡』新潟県加茂市教育委員会  
宇野 隆夫 1991 『律令社会の考古学的研究—北陸を舞台として』桂書房  
1996 「越における律令的生産構造の展開—山・里・海辺の営みと古代国家—」『越と古代の北陸』名著  
出版
- 江口 友子 2000 「第VII章 まとめ」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 100 集 稲庭堂遺跡』新潟県教育委員会 財團  
法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 江口友子・小濱 亨・河崎昭一・村上義則 2000 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 100 集 稲庭堂遺跡』新潟県教育  
委員会 財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- カ 春日 真実 1991 「古代佐渡小泊窯における須恵器の生産と流通」『新潟考古学談話会会報』第 8 号 新潟考古学談話  
会  
1993 「王朝国家期の越後—上越市一之口遺跡（西地区）・新潟市小丸山遺跡を事例として」『新潟考古』  
第 4 号 新潟県考古学会  
1995 「古代集落の展開—越後を事例として」『研究紀要』財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団  
1996 「越後・佐渡における 9 世紀中葉の画期」『北陸古代土器研究』第 6 号 北陸古代土器研究会  
1999 「第 4 章—第 2 節 土器編年と地域性」『新潟県の考古学』高志書院  
2000 「第 5 章 まとめ」『吉田町史』資料編 I 古代・古代・中世 吉田町  
2001 「第VI章 まとめ」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 104 集 梶子谷窯跡』新潟県教育委員会 財團  
法人新潟県埋蔵文化財調査事業団  
2002 「古代古志郡の考古学的検討」『新潟考古学談話会会報』第 24 号 新潟考古学談話会  
2003 「第VIII章 まとめ」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 123 集 沖ノ羽遺跡III（C 地区）』新潟県教育  
委員会 財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団  
2005 「越後における奈良・平安時代土器編年の対応関係について—「今池編年」・「下ノ西編年」・「山三  
賀編年」の検討を中心に—」『新潟考古』第 16 号 新潟県考古学会  
2006 「新潟市稲庭堂遺跡出土土器について」『陶磁器の社会史 吉岡康暢先生古希記念論集』桂書房  
2007 「越後における古代の煮炊具について」『新潟考古』第 18 号 新潟県考古学会  
2008 「越後における古墳時代～中世の柱材について」『新潟考古』第 19 号 新潟県考古学会
- 加藤 学 1999 「第V章 造構」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 93 集 和泉 A 遺跡』新潟県教育委員会 財團法  
人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 川上 真雄 1997 『上浦 A 遺跡』新津市教育委員会
- 小池邦明・木間桂吉 1992 「山木戸遺跡第 1 次発掘調査概報」新潟市教育委員会
- 小池邦明・藤塚 明はる 1993 『新潟市の場跡』新潟市教育委員会
- 小池邦明 1999 「山木戸遺跡第 2 次発掘調査概報」新潟市教育委員会
- 小林昌二・相沢 央 2004 「新潟県内出土墨書き土器の基礎的考察」『資料研究』1
- サ 坂井 秀弥 1988 「律令期の須恵器系譜—越後西南部における 2 つの系譜を巡って—」『高井悌三郎先生喜寿記念論集  
歴史学と考古学』真陽社
- 1989 「第VII章まとめ 2 奈良・平安時代の土器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 53 集 山三賀 II 遺跡』  
新潟県教育委員会・建設省新潟国道工事事務所
- 1990 「新潟県三島郡と板町の製鉄遺跡」『新潟考古』第 1 号 新潟県考古学会
- 1995 「古代越後平野の環境・交通・官衙」『木簡研究』第 17 号 木簡学会
- 1996 「水辺の古代官衙跡」「越と古代の北陸」名著出版
- 1999 「第 4 章—第 1 節 総論」『新潟県の考古学』高志書院

- 2008 『古代地域社会の考古学』 同成社
- 坂井秀弥・鶴間正昭・春日真実 1991 「佐渡の須恵器」『新潟考古』第2号 新潟県考古学会
- 坂井秀弥・山本 肇・田中 睦 1992 「新潟県八幡林遺跡出土土器と長岡市須恵器窯跡資料」『北陸古代土器研究』第2号 北陸古代土器研究会
- 筒澤 正史 2003 「第1節 時代概説」『上越市史』資料編2 考古 上越市
- 鈴木俊成・三ツ井明子 2010 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第206集 西部遺跡II』 新潟県教育委員会 財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 閔 雅之 2000 「V 整理調査のまとめ」『新潟県湯東村の所蔵の考古資料整理報告—谷川忠壽美氏収集資料の調査記録一』 湯東村教育委員会
- タ 田中 睦 1998 『和島村埋蔵文化財調査報告書第7集 下ノ西遺跡』 新潟県和島村教育委員会  
1999 『和島村埋蔵文化財調査報告書第8集 下ノ西遺跡II』 新潟県和島村教育委員会  
2003 『和島村埋蔵文化財調査報告書第14集 下ノ西遺跡IV』 新潟県和島村教育委員会  
2005 『和島村埋蔵文化財調査報告書第16集 八幡林遺跡IV』 新潟県和島村教育委員会
- 田中 睦・桑原陽一 1994 『和島村埋蔵文化財調査報告書第3集 八幡林遺跡』 新潟県和島村教育委員会
- 戸根与八郎・坂井秀弥 1984 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第35集 今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』 新潟県教育委員会 財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- マ 卷 町 1994 『巻町史』通史編下巻町  
松島 悅子 2001 『燕市埋蔵文化財発掘調査報告書第1集 三角田遺跡』 燕市教育委員会・吉田町教育委員会  
水澤幸一・吉村光彦 1999 『中条町埋蔵文化財調査報告第16集 中倉遺跡3次』 中条町教育委員会  
水澤幸一・吉村光彦 2002 『中条町埋蔵文化財調査報告第25集 船戸桜田遺跡4次・5次 船戸川崎遺跡6次』 中条町教育委員会  
望月 精司 2003 「古代權状鍼に関する一考察—北陸出土權衡資料の検討を中心として—」『北陸古代土器研究』第10号 北陸古代土器研究会
- ヤ 山口 栄一 1984 『西川町の遺跡』『西川町史考』2 西川町  
吉川 真司 2002 『院宮王臣家』『日本の時代史5 平安京』 吉川弘文館
- ワ 渡邊ますみ・相沢 央 2009 『駒首湯遺跡 第3・4次調査』 新潟市教育委員会

## 第VI章 引用・参考文献

- カ 金原 正明 1993 「花粉分析法による古環境復原」『新版古代の日本第10巻 古代資料研究の方法』 角川書店
- サ 島倉巳三郎 1973 「日本植物の花粉形態」『大阪市立自然科學博物館収蔵目録』第5集 大阪市立自然科學博物館  
島地 謙・佐伯 浩・原田 浩・塙高義・石田茂雄・重松賴生・須藤彰司 1985 『木材の構造』 文永堂出版  
島地 謙・伊東隆夫 1988 『日本の遺跡出土木製品総覧』 雄山閣  
杉山 真二 2000 『植物珪酸体（プラント・オパール）』『考古学と植物学』 同成社  
杉山真二・藤原宏志 1986 「動植物珪酸体の形態によるタケア科植物の同定—古環境推定の基礎資料として—」『考古学と自然科学』19 日本国文化財科学会
- ナ 中村 純 1967 『花粉分析』 古今書院  
中村 純 1974 「イネ科花粉について、とくにイネ（*Oryza sativa*）を中心として」『第四紀研究』13 日本第四紀学会  
中村 純 1977 「稻作とイネ花粉」『考古学と自然科学』no.10 日本国文化財科学会  
中村 純 1980 「日本産花粉の標識」『大阪自然史博物館収蔵目録』第13集 大阪市立自然科學博物館
- フ 藤原 宏志 1976 「プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）—数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法—」『考古学と自然科学』9 日本国文化財科学会  
藤原宏志・杉山真二 1984 「プラント・オパール分析法の基礎的研究（5）—プラント・オパール分析による水田址の探査—」『考古学と自然科学』17 日本国文化財科学会
- マ 前山 精明 2010a 「遺跡の位置と環境」『大沢谷内北遺跡 第3次調査』 新潟市教育委員会  
前山 精明 2010b 「縄文時代の大沢谷内北遺跡」『大沢谷内北遺跡 第3次調査』 新潟市教育委員会
- ヤ 山田 昌久 1993 「日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成—用材から見た人間・植物関係史』『植生史研究』特別1号 植生史研究会
- T Talma, A.S. and Vogel, J.C. (1993) A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates. Radiocarbon, 35 (2),

別表1 道構計測表

凡例

1. 平面形・断面形については第5・6回の分類による。

2. 上端長幅・最大深度は、道構プランが確定した段階での長軸最大幅と上端面から底盤深部までの値である（第6章第3節）。

3. 底盤標高は、道構底盤部における標高である。

4. 材料下端標高は、柱脚が引抜いた際の下端の標高を示す。

5. 上部物実測番号は、図面番号の下端に付与する。

6. 空欄は明確もしくは無ことを示す。

## 上層走行建物

図面番号	写真番号	建物番号	方位		建物形状	身寄面積 (m <sup>2</sup> )		面積	面積 (m)		面積 (m)	
			N-24°-W	床面積(二面側)		87.9	6面×1面		14.9	5.9		
<b>通路</b> グリッド												
9		P' 59	4E16	円形	扇形	0.48	0.90	0.30	○	0.01	有 1~2	
9-10	5	P' 101	4D23-24	円形	扇形	0.68	0.62	0.46	○	0.48	有 2	
9-10	5	P' 112	3D25-4D5	円形	U字形	(0.85)	0.62	0.34	○	0.19	有 4~9	
9		P' 119	4E11	円形	扇形	0.54	0.72	0.38	○	0.30	有 10~11	
9-10	5	P' 146	3D19-20-21-24-25	円形	扇形	0.925上	0.61	0.40	○	0.38	有	
9-10	5~6	P' 149	5E8	円形	扇形	0.60	0.83	0.23	○	0.27	有 12	
9		P' 152	4D6-10	円形	U字形	(0.69)	0.64	0.36	○	-0.23	有 13	
9-10	6	P' 187	5D5-5E1	円形	U字形	0.75	0.62	0.49	○	0.27	有 14	
9		P' 191	5D4	円形	扇形	(0.64)	0.85	0.26	○	-0.13	有 15~19	
9-10	6	P' 192	5D8-9	円形	U字形	(0.59)	0.58	0.44	○	-0.07	有	
9-11	6	P' 194	5D8-9	円形	扇形	(0.52)	0.68	0.45	○	0.20	有 20	
9-11	6~7	P' 197	4E22	円形	扇形	0.54	0.24	0.65	○	0.09	有 21	
9-11	6~7	P' 199	5D14	円形	扇形	(0.54)	0.24	0.65	○	0.09	有 22	
9-11	6~7	P' 201	4E17	円形	扇形	(0.66)	0.49	0.55	○	0.38	有 23	
9-11	7	P' 203	4D7	円形	U字形	(0.43)	0.28	0.28	○	0.22	有 23~24	
9-11	7	P' 205	4D18	円形	扇形	(0.69)	0.64	0.49	○	0.33	有 25~26	
9-11	7~8	P' 206	4D12-13	円形	U字形	(0.74)	0.76	0.28	○	0.22	有 27~29~34	
9-12	8	P' 207	4D5-5D0	円形	扇形	(0.45)	0.68	0.31	○	0.19	有 30~33~335	
9		P' 216	5E2-3	円形	扇形	(0.50)			○	-0.17	有	
9-12	8	P' 222	4D14-15	円形	扇形	(0.47)	0.55	0.08	○	0.11	有	
9		P' 238	3D9	円形	扇形	(0.33)	0.24	0.20	○	0.24	有	
9-12	8	P' 263	4E12-17	円形	扇形	(0.38)	0.27	0.35	○	0.07	有	
9-12	8	P' 293	4E3	円形	V字形	(0.28)	0.26	0.29	○	0.07	有	
9		P' 595	4E22	円形	扇形	(0.19)	0.16	0.47	○	0.53	有	
<b>方柱</b> 建物形状												
図面番号	写真番号	建物番号	方位		建物形状	身寄面積 (m <sup>2</sup> )		面積	長幅 (m)		短幅 (m)	
			N-24°-W			5.5	1面×1面		2.5	2.2		
12	9	P' 156	4C4	円形	扇形	0.25	0.12					
12	9	S8H002	P' 158	4C10	円形	半円状	0.49	0.13				
12		P' 173	4C14	円形	弧形	0.53	0.07					
<b>方柱</b> 建物形状												
図面番号	写真番号	建物番号	方位		建物形状	身寄面積 (m <sup>2</sup> )		面積	面積 (m)		面積 (m)	
			N-10°-W	不明		不明	不明		不明	不明		
12	9	P' 422	4E23-24	円形	扇形	(0.64)	0.52	0.21	○	0.07	有 34	
12	9~10	S8H003	P' 503	5C14	円形	扇形	(0.52)	0.42	0.34	○	0.15	有 35
12	9	P' 504	5C9	円形	扇形	0.49	0.48	0.24	○	0.19	有	
<b>上層 戸戸・土坑・溝・性格不明構造・ピット</b>												
図面番号	写真番号	建物番号	通路	グリッド	壁面	面積 (m)		面積 (m)	面積 (m)		面積 (m)	
						平頂	面積		底盤高 (m)	通物有無		
13	10	SK 10	5C9	△	内側	0.90	1.09	-0.14		有	284~288	
13	10	SK 40	5D10-15	△	内側	0.90	0.91	0.14		有	289	
13	10	SK 443	5D2-7	△	内側	0.93	0.56	0		有	36~290	
13	10	SK 1	3C20	△	内側	0.90	0.68	0.08				
13	11	SK 7	4C8-9	△	内側	0.82	0.09	0.92				
13	11	SK 9	4C10, 4D6	△	内側	0.99	0.27	0.84				
13	11	SK 17	3D25, 3D21, 4C5, 4D1	△	内側	1.58	0.55	0.73		有	37~39	
13	12	SK 42	4E21-22, 5B3-2	△	内側	1.12	0.14	1.06				
13	12	SK 52	5F12	△	内側	0.973上	0.16	0.95				
13	12	SK 54	4D025, 4E21	△	内側	0.65	0.04	1.12				
14	11	SK 57	4E16-21	△	内側	0.78	0.14	1.05		有	237	
14	11	SK 61	5B3	△	内側	0.67	0.13	1.05				
11~14	12	SK 64	5D14-15	△	内側	1.04	0.13	0.90				
14	12	SK 70	4E14-19	△	内側	0.59	0.08	0.88				
14	12	SK 71	4E19-24	△	内側	0.88	0.07	0.95				
14~15	12	SK 77	4D15, 4E11	△	内側	1.10	0.29	0.82			40	
10~14	12	SK 78	3D20-24-25	△	内側	1.47	0.33	0.66		有	41~257	
14	12	SK 79	3D19-24	△	内側	1.01	0.28	0.76				
6	12	SK 81	3D14-15	△	内側	1.51上	0.3	0.69				
15~12~13	SK 92	4E11-12-16-17	△	内側	2.76	0.45	0.74			42~57~238~285		
10~15	13	SK 95	3D25, 3D21, 4D6, 4E1	△	内側	1.45	0.28	0.80		有	58~60	
15	13	SK 109	4D9-10	△	内側	0.973上	0.24	0.80			61	
15	13	SK 106	4D10-15	△	内側	0.98	0.28	0.77				
15	13	SK 107	4D14-15	△	内側	1.48	0.2	0.87			62	
15	13	SK 122	4D15	△	内側	1.03	0.39	0.63			63~67	
15	13	SK 125	3D24-25, 4D4-5	△	内側	1.07	0.33	0.68			68~69	
16	13	SK 129	3D18-19	△	内側	2.07	0.15	0.82			70	
16	13	SK 141	5D9-14	△	内側	0.84	0.16	0.90			71	
16	14	SK 142	3D19	△	内側	1.473上	0.12	0.87				
16	14	SK 145	4D5-10, 4E1-6	△	内側	1.82	0.63	0.45			72~79	
16	14	SK 150	4D4-5	△	内側	1.80	0.51	0.57			80~83	
4	14	SK 164	4C19-20-24	△	内側	1.13	0.25					
4	14	SK 167	4C14-15	△	内側	1.08	0.08					
4	14	SK 181	4C24, 5C4	△	内側	1.43	0.18				84~85	

## 観察表

調査回数 番号	写真回数 番号	通総	グリッド	確認面	地形		規格 (m)		底深標高 (m)	遺物有無	遺物実測回数	備考
					平面	断面	上層長軸	最大深度				
5	14	SK	183	4D18 - 19 - 23 - 24	△a断	断面形	3.23	0.21	0.83	有	86~90 - 239	
5	14	SK	188	S05 - 10 - 501 - 6	△a断	断面形	1.23	0.15		有		
17	14	SK	190	4D23 - 24 - 503 - 4	△a断	断面形	2.62	0.29	0.85	有	91~94	
17	14	SK	215	4G21	△a断	断面形	1.19	0.16	0.80	有		
17		SK	220	4D12 - 13 - 17 - 18	△a断	断面形	0.94	0.22	0.82	有	95~99	
4		SD	5	4C3 - 4 - 9	△a断	断面形	0.59	0.20	0.82	有		
4		SD	22	3C20 - 25 - 3016	△a断	断面形	0.51	0.08	1.06			
4		SD	34	4C5	△a断	断面形	0.57	0.34	0.78	有	100~103	
6		SD	46	5K11	△a断	断面形	0.29	0.02	1.07			
4		SD	55	4B21	△a断	断面形	0.32	0.04	1.12			
4~14		SD	56	4D20, 4B16 - 21 - 22 - SK2	△a断	断面形	0.37	0.08	1.12	有		
4		SD	60	4B16 - 17 - 21 - 22	△a断	断面形	0.30	0.11	1.07	有		
5		SD	65	5B8 - 9 - 13 - 14	△a断	断面形	0.54	0.09	1.02	有		
6~8	14~15	SD	66	3B9 - 12 - 13 - 1612B	△a断	断面形	2.60	0.42	0.62	有	104~123	
6	15	SD	69	4B14 - 18 - 23 - 33B	△a断	断面形	1.10	0.16	0.99	有	124~127	
6	15	SD	88	3D15 - 20 - 3011 - 1612B	△a断	断面形	1.94	0.10	0.92	有	128~129	
6	15	SD	90	3B11 - 12 - 17	△a断	断面形	0.56	0.19	0.89	有	130~131	
6	15	SD	124	4B25, 5B25	△a断	断面形	0.32	0.18	0.82	有		
8~15~16		SD	126	3B11 - 12 - 16 - 17 - 21	△a断	断面形	1.38	0.69	0.88	有		
8~15		SD	130	3B18 - 22 - 25 - 4F21B	△a断	断面形	2.35	0.37	0.63	有	132	
6		SD	132	4B25 - 5B25	△a断	断面形	1.94	0.03	0.88	有		
6	15~16	SD	137	3B12 - 13 - 14 - 1512B	△a断	断面形	3.34	0.56	0.47	有	133~138	
6		SD	208	4B19 - 20	△a断	断面形	0.38	0.08	0.92	有		
8	16	SD	210	4F20 - 25 - 4G1 - 6B2B	△a断	断面形	2.50	0.18	0.94	有	139~144 - 240	
9		SD	212	4B22 - 23	△a断	断面形	0.41	0.05	1.08			
9		SD	217	5B4	△a断	断面形	0.30	0.16	0.92			
9	16	SD	218	4B8 - 13 - 18 - 23 - 5B3	△a断	断面形	0.42	0.29	0.81	有	145	
8		SD	219	4B9 - 14 - 19 - 24 - 5B4	△a断	断面形	0.38	0.22	0.76	有	146	
8~16		SD	215	4C20 - 25 - 4B16 - 21	△a断	断面形	0.14	0.06	0.96			
18	16	SD	209	5B9 - 9 - 13 - 14	△a断	断面形	3.05±0.1	0.34	0.67	有	147	
18~16~17	17~18	SD	213	5B3	△a断	断面形	1.77±0.1	0.17	0.83	有		
17	17	SD	214	5G1	△a断	断面形	1.76±0.1	0.18	0.83	有		
19~17	22	SD	222	4G7 - 8 - 12 - 13	△a断	断面形	2.80	0.10	0.83	有		
19~17	22	SD	223	4G1 - 2	△a断	断面形	1.82	0.60	0.90	有		
19~17	22	SD	229	4B1 - 2 - 3 - 6B2B	△a断	断面形	7.50	0.48	0.49	有	148~165 - 241~244 - 291	
14		P	28	3D14	△a断	断面形	0.68	0.40	0.57	有		
14		P	26	3E1	△a断	断面形	0.32	0.58	0.61			
2		P	51	5B12	△a断	U字形	0.18±0.1	0.22	0.86			
6		P	82	3D14	△a断	U字形	0.36	0.35	0.68	有		
5		P	102	4D14 - 15 - 19 - 20	△a断	U字形	0.57	0.49	0.58	有	166	
11		P	103	4D18	△a断	U字形	0.66	0.39	0.67	有	167~168	
5		P	110	4D19	△a断	U字形	0.31	0.37	0.69	有	169~170	
5~13		P	111	4D10	△a断	U字形	0.42	0.16	0.91	有		
5		P	118	4D10 - 15 - 4B6 - 13	△a断	U字形	0.73	0.28	0.81	有	171	
15		P	127	4D9	△a断	U字形	0.98	0.55	0.50	有	172	
5		P	147	5D9 - 10	△a断	U字形	0.70	0.29	0.88	有	259	
4		P	150	4C5 - 10	△a断	U字形	0.84			有	173	
4		P	168	4C19 - 24	△a断	U字形	1.03			有	174	
4		P	172	4C8 - 10 - 5	△a断	U字形	0.56			有	175~176	
4		P	175	4C5, 4D1	△a断	U字形	0.63±0.1			有	177~180	
4		P	178	4C15 - 20	△a断	U字形	0.68			有	181	
5		P	204	4D13 - 18	△a断	U字形	0.81			有	182~183	
7~8		P	269	4G16	△a断	V字形	0.20					
2		P	699	5C20	△a断	U字形	0.24					
2		P	700	5C20	△a断	U字形	0.10					

## 下層掘立柱建物

調査回数 番号	写真回数 番号	建物番号	方位		建物形式	合計面積 (af)		間数	長軸 (m)		短軸 (m)	
			N~4° - W	4~N		平面	断面		上層長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)	柱軸
24		SB954	P 462	4C15	△a建	U字形	0.43	0.10				
24		SB954	P 464	4C14	△a建	U字形	0.27	0.18				
24		SB954	P 468	4C9	△a建	U字形	0.20	0.10				
24~18		SB954	P 476	4C10	△a建	圓4字	0.51	0.50	0.24	○	0.13	有
24		SB954	P 491	4D11	△a建	U字形	0.29	0.08				
24		SB954	P 492	4D6	△a建	U字形	0.21	0.10				
24		SB954	P 493	4D1	△a建	半円柱	0.30	0.30				
24		SB954	P 494	4C4	△a建	半円柱	0.24	0.16				
24~18		SB954	P 500	4C5	△a建	U字形	0.31	0.39	0.36			有
			方位		建物形式	合計面積 (af)		間数	長軸 (m)		短軸 (m)	
			N~4° - W	4~N		平面	断面		上層長軸 (m)	最大深度 (m)	底面標高 (m)	柱軸下端標高 (m)
24~18		SB955	P 479	4C4 - 9	△a建	圓4字	0.63	0.42	0.25	○	0.16	
24		SB955	P 552	4C5	△a建	圓4字	0.59	0.34	0.40	○	0.27	
24~18~19		SB955	P 617	3C24	△a建	圓4字	0.45	0.58	0.29	○	0.08	

測定場所番号	写真場所番号	植物番号	方位		植物形式		身合面積 (m <sup>2</sup> )		面積		長軸 (m)		短軸 (m)		
			N~W		樹木植物		13.3		22m×2間		3.9		2.4		
SB906	SB906	通過	グリッド	平面形	樹木植物	上端長軸 (m)	底面深度 (m)	底面面積 (m <sup>2</sup> )	面積	長軸 (m)	短軸 (m)	有	SB906		
		P 356	3F17	円内状	半円状	0.30	0.16								
		P 337	3F21~22	円内状	扇半円状	1.11	0.41	0.27	○	0.33					
		P 339	3F22	円内状	U字状	0.46	0.43	0.26	○	0.11	有				
		P 340	4F1	円内状	U字状	0.66	0.55	0.97						294	
		P 341	4F2	円内状	U字状	0.71	0.42	0.14							
		P 343	4F3	円内状	扇半円状	0.51	0.24	0.11							
		P 346	3F17~18	円内状	扇半円状	0.40	0.33	0.36	○	0.29	有				
		P 356	3F23~24	円内状	U字状	0.52	0.40	0.46							
		P 352	3F23, 4F3	円内状	扇半円状	0.55	0.34	0.30	○	0.33					
SB907	SB907	方位	グリッド	平面形	樹木植物	身合面積 (m <sup>2</sup> )	面積	長軸 (m)	短軸 (m)	有無	SB907				
		N~S~W		樹木植物		13.3		3.2		1.9					
		通過	グリッド	平面形	樹木植物	上端長軸 (m)	底面深度 (m)	底面面積 (m <sup>2</sup> )	面積	長軸 (m)	短軸 (m)	有	SB907		
		P 362	3F14	円内状	U字状	0.24	0.29	0.25	○	0.06					
		P 436	3F12~13	円内状	U字状	0.27	0.52	0.12	○	-0.03					
SB908	SB908	P 519	3F9	円内状	U字状	0.32	0.28								
		P 503	3F12~13~17~18	円内状	U字状	0.32	0.28								
		方位		樹木植物		身合面積 (m <sup>2</sup> )		面積		長軸 (m)		短軸 (m)			
		N~E~W		樹木植物		13.3		2.2m×2間		3.7		3.7			
		通過	グリッド	平面形	樹木植物	上端長軸 (m)	底面深度 (m)	底面面積 (m <sup>2</sup> )	面積	長軸 (m)	短軸 (m)	有	SB908		
		P 390	3D25	円内状	扇半円状	0.18	0.22								
		P 391	3D25, 3E21	円内状	U字状	0.26	0.19	0.26	○	0.33					
		P 392	4E1	円内状	V字状	0.24	0.21	0.32	○	0.27					
		P 394	4E5~6	円内状	U字状	0.26	0.22	0.10							
		P 643	4D4~9	円内状	半円状	0.29	0.14								
		P 644	2D19~24	円内状	半円状	0.21	0.10								
		P 645	3D20	円内状	半円状	0.15	0.17	0.28							
下層 土坑・溝・性格不明構・ピット															
測定場所番号	写真場所番号	通過	グリッド	側面形	樹木植物	身合面積 (m <sup>2</sup> )	面積	規則 (m)							
2	4	SK 234	SG7	Nc縦	樹木			上端長軸	底面深度 (m)	底面面積 (m <sup>2</sup> )	面積	長軸 (m)	短軸 (m)	有無	参考
26	21	SK 262	5A9~10~14~15	Nc縦	樹木			最高		0.18	0.65				
26	21	SK 266	5A5	Nc縦	樹木			半円状		1.80±	0.62	有			
26	21	SK 267	4F25, 4F21, SK5, SF1	Nc縦	樹木			半円状		1.01	0.43	有			
26	21	SK 281	5G6	Nc縦	樹木			扇半円		1.35	0.50	有			
26	21	SK 282	4F23~24	Nc縦	樹木			扇半円		1.07±	0.14	0.61			
26	21	SK 283	5F3	Nc縦	樹木			扇半円		0.92	0.54	有			
26	21~22	SK 284	4G22~23	Nc縦	樹木			扇半円		1.51	0.11	0.58			
26	22	SK 285	4G17~21~22	Nc縦	樹木			扇半円		0.93	0.11	0.53	有	295	
27	22	SK 297	3R25	Nc縦	樹木			扇半円		1.15	0.15	0.47			
27	22	SK 306	4G6~11	Nc縦	樹木			扇半円		0.80	0.06	0.55			
27	22	SK 311	4R13~17~18	Nc縦	樹木			扇半円		0.91	0.11	0.54	有		
27	22	SK 327	4F4	Nc縦	樹木			扇半円		2.00	0.24	0.36	有		
27	22	SK 328	4F23~24	Nc縦	樹木			扇半円		0.66	0.09	0.48	有		
27	23	SK 330	4R2~3~7~8	Nc縦	樹木			半円状		0.96	0.22	0.32	有		
27	23	SK 331	4R7~8	Nc縦	樹木			半円状		0.88	0.20	0.35	有	296	
27	23	SK 347	3F8	Nc縦	樹木			半円状		1.02	0.05	0.63			
27	23	SK 355	4F3~4~9	Nc縦	樹木			半円状		1.13	0.16	0.47	有		
27	23	SK 360	3F13~14	Nc縦	樹木			半円状		1.11	0.18	0.42	有	297	
28	23	SK 368	3F20~25, 3G16~21	Nc縦	樹木			半円状		1.20	0.27	0.32	有	298	
28	24	SK 372	4G1	Nc縦	樹木			半円状		0.78	0.07	0.61			
28	24	SK 388	4P12~13	Nc縦	樹木			半円状		1.17	0.29	0.37	有	299~284	
21	SK 413	5C10~15, 5D6~11	Nc縦	樹木					2.30	0.22			300		
28	24	SK 418	5C4	Nc縦	樹木			樹木		1.06	0.13	0.61	有		
28	24	SK 420	4C24, 5A4	Nc縦	樹木			樹木		1.09	0.16	0.59	有		
28	24	SK 510	3C19~24	Nc縦	樹木			樹木		2.03±	0.26	0.54	有	301~308	
29	24	SK 512	4B2~3	Nc縦	樹木			樹木		0.88	0.10	0.44			
29	24	SK 524	3C24~25	Nc縦	樹木			樹木		1.31	0.16	0.61	有	309	
29	5C5	3C18~19~23	Nc縦	樹木					0.62±	0.15	0.62	有			
29	5C6	3C19~20~25	Nc縦	樹木					1.62±	0.19	0.57	有	310		
29	25	SK 527	3C20, 3D16	Nc縦	樹木			樹木		1.14±	0.13	0.62	有		
29	25	SK 562	3F16~17	Nc縦	樹木			樹木		1.20±	0.20	0.39	有		
30	25	SK 563	3C23~24	Nc縦	樹木			樹木		1.46	0.36	0.40	有	311~315	
30	25	SK 641	4D6	Nc縦	樹木			樹木		0.97	0.06	0.41			
30~26	SK 650	5D4~5	Nc縦	樹木			樹木		2.28	0.37	0.31	有	316		
30~26	SK 676	4F5	Nc縦	樹木			樹木		1.45	0.51	0.12	有			
30~26	SK 696	4G1	Nc縦	樹木			樹木		0.88±	0.20	0.46	有	319		
31	SD 241	5G2	Nc縦	樹木			樹木		0.27	0.06	0.67				
31	SD 245	5G3~4~5, SG1~2	Nc縦	樹木			樹木		0.30	0.06	0.62				
31	SD 256	5H1~2~3~9	Nc縦	樹木			樹木		0.68	0.13	0.56	有	317		
31	SD 256	5G1~2~3~9	Nc縦	樹木			樹木		0.36	0.07	0.68	有			
31	SD 257	4F25, 4G21	Nc縦	樹木			樹木		0.35	0.03	0.62	有			
31	SD 258	4F25~24	Nc縦	樹木			樹木		0.37	0.03	0.63	有			
31	SD 259	4F25~24~22	Nc縦	樹木			樹木		0.28	0.02	0.61	有			
31	SD 260	4F18~19~20~23(3個)	Nc縦	樹木			樹木		0.46	0.03	0.63	有			
31	SD 265	5G2~3~4~5, 5A7	Nc縦	樹木			樹木		0.34	0.06	0.62	有			
11~27	SD 271	4F17~20~22~23(3個)	Nc縦	樹木			樹木		1.93	0.25	0.42	有	318~385		
31	SD 275	5K11~12	Nc縦	樹木			樹木		0.29	0.06	0.66				
31	SD 277	5K1~6~11	Nc縦	樹木			樹木		0.71	0.11	0.69	有			
2~31	SD 278	5D10~5A11	Nc縦	樹木			樹木		0.32	0.06	0.64				
31	SD 280	5D10~5A10~5A9	Nc縦	樹木			樹木		0.35	0.14	0.55	有			
31	SD 290	4G11~16	Nc縦	樹木			樹木		0.34	0.06	0.65	有			
8~27	SD 298	3R24~25, 3F25	Nc縦	樹木			樹木		0.24	0.10	0.51				

## 観察表

測定箇所 番号	写真番号 番号	通緝	ダリヤ	確認番	距離	距離 (m)			通物有無	通物実測回数	備考	
						平面	断面	上層幅	最大深度			
31	SD 299	3825, 3P11, 4B5, 4P1	Nc被			半円状		0.04	0.10	0.52		
31	27	SD 300, 4B2 - 5, 4P1	Nc被			半円状		0.41	0.14	0.44	有	
31	SD 305	4P19 - 14 - 15 - 19 - 20	Nc被			半円状		0.23	0.05	0.60	有	
31	SD 310	4P10, 4G6 - 7, 12	Nc被			楕状		0.37	0.06	0.58	有	
31	SD 312	4P7 - 12 - 13 - 28	Nc被			半円状		0.46	0.12	0.49	有	
32	27	SD 314, 5012 - 14	Nc被			半円状		0.47	0.11	0.60	有	
32	27	SD 315, 508 - 9	Nc被			半円状		0.37	0.17	0.54	有	
32	27	SD 316, 5012 - 13 - 14 - 15	Nc被			半円状		0.39	0.13	0.63	有	
31	SD 320	5P5 - 10	Nc被			半円状		0.17	0.06	0.68		
31	27	SD 321, 4B2 - 4	Nc被			半円状		0.23	0.13	0.45	有	
31	SD 322	4P4 - 5	Nc被			楕状		0.44	0.08	0.53	有	
32	SD 324	4P4 - 5 - 8 - 9 - 10	Nc被			U字形		0.39	0.26	0.33		
32	27	SD 334, 3P14 - 15 - 19 - 20+21	Nc被			楕状		0.67	0.11	0.53	有	
32	SD 335	3P20, 3P16 - 17	Nc被			半円状		0.30	0.11	0.55	有	
32	SD 348	3P18 - 18	Nc被			半円状		0.27	0.08	0.59	有	
32	SD 349	3P18 - 19 - 23 - 24	Nc被			楕状		0.22	0.03	0.61		
25 - 32	SD 351	3P18 - 23, 4P3	Nc被			楕状		0.43	0.06	0.61	有	
32	27	SD 353, 3P24, 4P4	Nc被			楕状		0.47	0.08	0.59		
22	SD 357	3P20	Nc被			半円状		0.39	0.09	0.52		
2 - 32	SD 361	3P11 - 12 - 13 - 14 - 15	Nc被			半円状		0.38	0.13	0.51	有	
32	SD 363	3G11	Nc被			楕状		0.34	0.03	0.50	有	
32	SD 364	3G11	Nc被			半円状		0.35	0.08	0.46		
32	SD 367	3P25	Nc被			楕状		0.27	0.02	0.65	有	
32	SD 368	3G21	Nc被			楕状		0.28	0.02	0.64		
30 - 32	SD 369	4P5, #G1 - 2	Nc被			半円状		0.48	0.07	0.60		
30 - 32	SD 370	4P5	Nc被			楕状		0.24	0.04	0.61		
32	SD 381	4G23	Nc被			楕状		0.25	0.04	0.55	有	
32	27	SD 382, 5014	Nc被			半円状		0.25	0.07	0.67	有	
32	SD 387	4G21	Nc被			半円状		0.14	0.04	0.57		
32	SD 399	4P18 - 19 - 23 - 24, 5D4	Nc被			半円状		0.48	0.17	0.45	有	
22	SD 402	4B6	Nc被			半円状		0.22				
32	SD 407	4G1 - 6	Nc被			半円状		0.28	0.08	0.52	有	
33	28	SD 410, 5C15, 5G11	Nc被			楕状		0.32	0.05	0.79	有	
33	27 - 28	SD 413, 5C9 - 10 - 15, 5D11	Nc被			半円状		0.60	0.17	0.63	有	
33	27 - 28	SD 414, 5C10	Nc被			楕状		0.25	0.04	0.77		
33	27 - 28	SD 415, 5C9 - 10, 5D1	Nc被			楕状		0.27	0.10	0.75	有	
33	27 - 28	SD 416, 5C4 - 5 - 9 - 10, 5D6	Nc被			楕状		1.23	0.14	0.67	有	
33	27 - 28	SD 417, 5C5 - 10, SD1 - 6	Nc被			半円状		0.42	0.22	0.70	有	
33	28	SD 421, 4C84 - 25, 5C8 - 5	Nc被			楕状		0.44	0.09	0.69	有	
33	28	SD 423, 4C84 - 25	Nc被			楕状		0.37	0.06	0.70		
33	28	SD 424, 4C19 - 24	Nc被			楕状		0.39	0.05	0.68	有	
33	SD 432	3G22, 4G22 - 7, 8+8d+	Nc被			半円状		0.39	0.09	0.55	有	
33	SD 437	4P10, 4P2 - 6 - 7	Nc被			半円状		0.34	0.07	0.54	有	
33	SD 438	3G12	Nc被			楕状		0.39	0.03	0.57		
33	SD 439	3G16 - 17 - 21 - 22	Nc被			楕状		0.47	0.03	0.56	有	
33	SD 440	3G22 - 23, 4G2 - 3	Nc被			楕状		0.30	0.04	0.56		
33	SD 454	4C20	Nc被			半円状		0.42	0.12	0.57	有	
2 - 33	SD 461	4C13 - 14 - 15	Nc被			半円状		0.53	0.12	0.57	323 - 324 - 386	
33	SD 465	4C9 - 14 - 15	Nc被			楕状		0.77	0.08	0.61	有	
33	28	SD 475, 4C5 - 9 - 10 - 14 - 15	Nc被			楕状		0.40	0.07	0.70	有	
33	SD 481	4C9 - 10 - 14 - 15d+	Nc被			半円状		0.70	0.24	0.48	有	
33	SD 482	4C8 - 4 - 9	Nc被			半円状		0.49	0.12	0.64	有	
33	28	SD 483	4G10 - 10, 4P16	Nc被			半円状		0.44	0.14	0.62	有
33	SD 484	4C5, 4D1 - 6	Nc被			楕状		0.34	0.02	0.74	有	
30 - 33	SD 507	4G22 - 23, 4C2 - 24	Nc被			半円状		0.35	0.11	0.69	有	
28 - 33	SD 508	3C23 - 24 - 25	Nc被			半円状		0.70	0.20	0.59	329 - 331	
33	SD 522	3E15	Nc被			半円状		0.34	0.08	0.45		
33	SD 526	3G20, 3D16	Nc被			楕状		0.36	0.06	0.71		
22	SD 536	3B20	Nc被			半円状		0.24				
33	SD 540	3B20, 3H16	Nc被			U字形		0.24	0.18	0.41	有	
33	SD 541	3P23, 4P2 - 3	Nc被			楕状		0.44	0.08	0.48		
2 - 33	SD 543	4C13 - 14 - 15 - 19 - 20	Nc被			V字形		0.32	0.18	0.50	有	
34	SD 548	4B22 - 23 - 24 - 25+26+	Nc被			半円状		0.29	0.16	0.52	有	
34	SD 550	4B25, 4P21	Nc被			半円状		0.32	0.09	0.56		
34	SD 564	4G22 - 23	Nc被			楕状		0.22	0.04	0.65		
34	28	SD 569	5G1 - 2	Nc被		半円状		0.41	0.15	0.55	有	
34	34	SD 570	4G15 - 18 - 19 - 20	Nc被		楕状		1.28	0.35	0.27	有	
34	28	SD 601	3G20 - 25, 3P16 - 17+2d+	Nc被		半円状		0.43	0.16	0.51	334	
34	SD 616	4G16 - 20, 3P19 - 21	Nc被			楕状		0.41	0.07	0.59	有	
34	29	SD 618	4G10 - 15 - 20	Nc被		楕状		0.91	0.08	0.66	有	
34	SD 619	4G15 - 20, 4P16	Nc被			U字形		0.28	0.17	0.44	有	
34	29	SD 620	4G9 - 10 - 14 - 15, 4G6	Nc被		半円状		0.35	0.13	0.46	有	
34	SD 625	4P7 - 8 - 9	Nc被			半円状		0.23	0.07	0.55		
34	SD 626	4P8 - 9	Nc被			半円状		0.18	0.06	0.62		
34	29	SD 650	20G5, 3E16 - 17 - 21 - 22	Nc被		楕状		0.36	0.03	0.41		
34	SD 661	4P10	Nc被			楕状		0.26	0.06	0.46		
34	29	SD 662	5G8 - 19	Nc被		楕状		0.59	0.11	0.63	有	
34	SD 674	4G8 - 7 - 11 - 12	Nc被			半円状		0.26	0.08	0.59	有	
34	SD 682	3G21, 4G1	Nc被			半円状		0.16	0.06	0.66		
34	29	SD 689	3P19 - 20, 3G16	Nc被		楕状		0.32	0.07	0.52		
34	29	SD 384	5G3 - 4 - 8 - 9	Nc被		楕状		2.41	0.11	0.62	335	
23	P 247	5P4	Nc被			楕状		0.37			236	
24	P 248	5P3 - 8	Nc被			円形		0.39	0.10	0.62	337	
23	P 287	4P20, 4G16	Nc被			楕状		0.46			338	

開拓面積 番号	写真回数 番号	道幅	グリット	確認面	距離			地盤		上面長幅(m)	前面標高(m)	道物有無	道物実測回数	備考
					平面	断面	上面	上端幅	最大深度					
23	P 301	4F19	N/C	斜面	円形	U字形	0.21			有	339			
22	P 406	4F6	N/C	斜面	圓弧形	圓弧形	0.33			有	340			
21	P 426	4D19	N/C	斜面	圓弧形	圓弧形	0.62	0.58	0.05	有	341			
21	P 452	4D11	N/C	斜面	圓弧形	U字形	0.39			有	342			
21	P 478	4C9	N/C	斜面	圓弧形	半円形	0.48			有	343			
21	P 486	4C5, 4D1	N/C	斜面	圓弧形	U字形	0.54			有	344			
21	P 498	3C2A, 4C4	N/C	斜面	圓弧形	半円形	0.49	0.24	0.49	有	345			
21-30	P 545	3C23-24	N/C	斜面	圓弧形	半円形	0.46			有	346			
34	P 557	4F24	N/C	斜面	圓弧形	圓弧形	0.47	0.41	0.27	有				
33	P 561	4C10-15	N/C	斜面	圓弧形	半円形	0.50	0.36	0.36	有	347			
22	P 575	5F1	N/C	斜面	圓弧形	半円形	0.42	0.26	0.37	有	348			
22-23	P 630	3F16-17	N/C	斜面	圓弧形	U字形	0.33	0.50	0.13			斜面加工		
22	P 650	5A9-13	N/C	斜面	圓弧形	圓弧形	0.24	0.16	0.24			斜面加工		

別表2 土器観察表

## 凡 例

1. 出土位置 道構造上遺跡について、グリッド・網目が確定できるものについては記載した。

## 2. 法

3. 種 特徴的な形状は保存率の低いものである。

4. 色 上面の外表面の色調について記した。記号は「新版 地準上色表」(農林省水産省農林

水産技術会議事務局1967)による。

5. 様 陶器の種類は石器・土器・漆器・漆器・骨器などである。比較的大きい範囲を記す。

6. 備考 陶器には底面に削れも記した。また、多量に含むものについては◎で示した。「分類」の記号は、遺物の前について、第V章2節に記した分類にヨリ A~

Cに分けた。遺物は、遺物の前後に記した。

7. 進 行 率 上面の外表面の色調について記した。記号は「新版 地準上色表」(農林省水産省農林

水産技術会議事務局1967)による。

8. 様 陶器の種類は石器・土器・漆器・漆器・骨器などである。比較的大きい範囲を記す。

9. 備考 「今度」は斜板やへりにより底部切り戻し、「斜切り」は斜板やへりによる底面切り戻しを示す。

10. 進 行 率 上面の外表面の色調について記した。

## 上 層

開拓面積 番号	出土地点 番号	道幅	種別	種類	法 (cm)	幅 (m)	土	土質	含物	分類 (m)	色	測定	機械	進行率			備考	
														横幅	内面	底面		
35	S 89001	4E10	土層	無釉陶	(15.0)		長・赤				褐色	ロクロナダ	ロクロナダ	3/36				
35	S 89001	4F16	土層	無釉陶	5.6		瓦・砂				に赤い斑	(10W7/3)	褐色	ロクロナダ	ロクロナダ	ヘラ切り	10/36	
35	S 89001	P101	4D24	無底器	無釉陶	(15.8)	白				褐色	(7.5YR8/1)	褐色	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	3/36	
35	S 89001	P112	3D25	無底器	無釉陶	13.0	白				褐色	(7N7/1)	褐色	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	4/36	
35	S 89001	P112	4D6	無底器	無釉陶	(13.8)	白				褐色	(N8/1)	褐色	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	2/36	
35	S 89001	P112	3D25	無底器	無釉陶	12.7	2.6	4.55	赤・白		褐色	(7.5YR6/6)	褐色	ロクロナダ	ロクロナダ	ヘラ切り	25/36	
35	S 89001	P112	3D25	無底器	無釉陶	12.8	長・石・海・白				褐色	(7.5YR7/4)	褐色	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	6/36	
35	T 89001	P102	3D25	土層	無釉陶	14.0	長・石・海・白				褐色	(7.5YR6/3)	褐色	ロクロナダ	ロクロナダ	ヘラギザキ	3/36	
35	S 89001	P112	4D5	無底器	無釉陶	13.8	砂				褐色	(10W6/2)	褐色	ロクロナダ	ロクロナダ	ヘラギザキ	1/36	
35	S 89001	P119	4E11	土層	無釉陶	(13.0)					褐色	(10W6/6)	褐色	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	2/36	
35	II S 89001	P119	4F11-1	土層	無釉陶	(12.0)	長・赤				褐色	(10W7/4)	褐色	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	12/36	
35	II S 89001	P119	4F16	土層	無	38.7	長・石・海・赤				に赤い斑	(10W6/3)	褐色	タッカ後・張	タッカ後・張	ヘラギザキ	12/36	
35	II S 89001	P119	5D6	土層	無釉陶	13.2	石・赤				褐色	(2SVR7/4)	褐色	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	7/36	
35	II S 89001	P152	4D5	無底器	長瓶	4.8	白				褐色	(N8/1)	褐色	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	3/36	
35	II S 89001	P187	5D1	土層	小便	(14.0)	長・石・赤・砂				褐色	(10W7/3)	褐色	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	3/36	
35	II S 89001	P191	5D4	無底器	長瓶	長	白				褐色	(10W6/3)	褐色	ロクロナダ	ロクロナダ	左側斜面	14/36	
35	II S 89001	P191	5D4	土層	無釉陶	6.6	石・赤				褐色	(7.5YR7/4)	褐色	ロクロナダ	ロクロナダ	ヘラギザキ	17/36	
35	II S 89001	P191	5D4	土層	長瓶	(15.6)	石・赤・砂				褐色	(2SVR8/4)	褐色	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	2/36	
35	II S 89001	P191	5D4	土層	長瓶	7.0	石・石(5mm)・砂				褐色	(7.5YR6/3)	褐色	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	14/36	
35	II S 89001	P191	5D4	土層	長瓶	7.0	石・石(5mm)・砂				褐色	(10W7/3)	褐色	タッカ	タッカ	底面	3/36	
35	II S 89001	P194	5D8	土層	長瓶	(15.4)	白・砂				褐色	(7.5YR6/1)	褐色	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	2/36	
35	II S 89001	P197	4E22	2層	無底器	無釉陶	(12.0)	白			褐色	(7.5YR6/1)	褐色	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	2/36	
35	II S 89001	P202	4D17	土層	無釉陶	(12.8)	長・石・白				褐色	(5YH6/6)	褐色	ロクロナダ	ロクロナダ	ヘラギザキ	1/36	
35	II S 89001	P203	4F7	1層	無底器	無釉陶	11.5	8.4	2.80	石・白		褐色	(7.5YR7/1)	褐色	ロクロナダ	ロクロナダ	ヘラギザキ	16/36
35	II S 89001	P203	4F7	1層	土層	小便	14.0			長・石・赤・砂		褐色	(10W7/3)	褐色	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	4/36
35	II S 89001	P205	4D18	土層	長瓶	(25.0)	長・石・白				褐色	(10W5/2)	褐色	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	3/36	
35	II S 89001	P206	4D18	土層	長瓶	6.8	長・石・赤・砂				褐色	(10W6/2)	褐色	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	13/36	
35	II S 89001	P206	4D12	無底器	無釉陶	(15.0)	白				褐色	(7.5YR7/4)	褐色	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	1/36	
35	II S 89001	P206	4D12	無底器	無釉陶	12.0					褐色	(N8/1)	褐色	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	6/36	
35	II S 89001	P206	4D12	無底器	無釉陶	(8.4)	白・砂				褐色	(5BG5/1)	褐色	ロクロナダ	ロクロナダ	ヘラギザキ	4/36	
35	II S 89001	P207	5D3	無底器	無釉陶	12.0	7.8	3.1	白		褐色	(N8/1)	褐色	ロクロナダ	ロクロナダ	ヘラギザキ	5/36	
35	II S 89001	P207	5D3	無底器	無釉陶	(13.0)	黒・白				褐色	(N8/1)	褐色	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	10/36	

## 観察表

植物 学名 英名	固 定 標 本 番 号	出 生 地 名	標 本 数	標 本 位 置	標 本 種	法 律 (cm)	附 上 物	色 調	感 官	薬 物 ・ 手 術			進行 率	考 察			
										白 根	赤 根	黒 根	分類 (部)	外 面	内 面	底部	
35 32 SB601 P207	503	鹿児島県	無白根	(12.8)	白	B 黄 (NSU)	浅紅	ロクロナデ	ロクロナデ				1/36				
35 33 SB601 P207	503	上野原	長根	7.4	長・石・緑・砂	褐色 (SYR5/1)										木葉枝 (新 秋葉枝)	36/36 新か・葉物多様に 含む
36 34 SE422 4C33	無	有白根	(16.9)	白	B 黄 (2.5Y6/1)	浅紅	ロクロナデ	ロクロナデ								2/36	
36 35 SB603 P503	5C14	鹿児島	無根	15.0	2.0	白	B 黄 (10Y9R8/4)	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36	ゆがみらしい
36 36 SE443 5B12	上野原	無白根	(13.0)	赤	浅黄	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ						3/36		
36 37 SK17 3C25	3根	鹿児島	無白根	12.4	7.2	2.95	白	B 黄 (NSU)	浅紅	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整			12/36	24/36 在野種
36 38 SK17 3C25	無	有白根	15.6	白・赤	B 紫 (7.5Y6/5)	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ						6/36		
36 39 SK17 3C25	上野原	長根	23.0	長・角・赤・白・ 砂	褐色 (7.5Y6/4)											5/36	
36 40 SK77 4D15	1根	小根	6.6	白・赤・赤	褐色 (7.5Y6/7)	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	白切り						18/36	矢状形・体各部	
36 41 SK77 3D15	鹿児島	無白根	13.3	2.3	白	B 青 (5H6/1)	浅紅	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整					8/36		
36 42 SK92 4E12	3根	鹿児島	無白根	12.4	7.5	2.8	白	B 黄 (NSU)	浅紅	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整			12/36	14/36 在野種
36 43 SK92 4E17	無	有白根	12.2	6.0	3.5	白	B 黄 (NSU)	浅紅	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ			9/36	5/36	
36 44 SK92 4E17	上野原	無白根	12.7	6.2	4.05	白・石・海	B 紫 (7.5Y6/6)	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ			6/36	34/36 在野種	
36 45 SK36 4E12	3根	上野原	無白根	12.0	5.0	4.2	白・石・海	B 紫 (7.5Y6/5)	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	白切り		23/36	36/36 在野種	
36 46 SK36 4E12	3根	上野原	無白根	12.8	5.8	4.3	長・石・赤・海	B 紫 (7.5Y6/4)	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	白切り		12/36	14/36 在野種	
36 47 SK92 4E12	3根	上野原	無白根	12.2	5.7	3.5	長・石・赤・砂	浅紅 (2.5Y6/3)	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	白切り		12/36	34/36 在野種	
36 48 SK92 4E12	上野原	無白根	12.7	白	浅黄	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ						5/36		
36 49 SK36 4E17	上野原	無白根	12.3	4.8	4.5	白・石・赤・海	B 紫 (7.5Y6/6)	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	白切り		15/36	15/36		
36 50 SK92 4E12	2根	上野原	無白根	12.8	5.0	4.7	白・石・雲	B 紫 (7.5Y6/5)	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	白切り		2/36	34/36 墓石苔・石付	
36 51 SK92 4E12	2根	鹿児島	山腹風	2.7	長・白	B 黄 (NSU)	浅紅	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り				36/36 在野種		
36 52 SK92 4E12	1~4 根	鹿児島	無白根	22.0			長・石・海・白	B 白 (N/7)	浅紅	タリキ カキメ	タリキ カキメ	当て貝殻			10/36	在野種 各種場所 高台	
36 53 SK92 4E12	上野原	長根	(22.6)	長・石・赤	浅黄	褐色 (7.5Y6/4)									1/36		
36 54 SK92 4E12	3根	上野原	無	40.8	白・赤・白	褐色 (7.5Y6/3)									5/36		
37 55 SK92 4E12	3根	上野原	無	35.0	白・石・赤	褐色 (10Y6R6/1)									6/36	口・体内腐生物	
37 56 SK92 4E12	2根	上野原	無	(36.0)	白・石・赤・海	褐色 (10Y6R3/1)									2/36	口・体外スズ	
37 57 SK92 4E17	1根	上野原	無	(42.0)	白・石・赤・白・ 海	褐色 (7.5Y7/6)									4/36	体外スズ、体外膜 当て貝殻	
37 58 SK96 4D6	鹿児島	有白根	8.4	白	B 黄 (NSU)	浅紅	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ						17/36		
37 59 SK96 4D6	鹿児島	無白根	12.4	5.9	3.9	白・石・赤・白	浅紅 (2.5Y7/3)	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	白切り		9/36	18/36		
37 60 SK95 4D5	上野原	無白根	12.6	6.0	3.4	白・石・赤・白	褐色 (7.5Y7/4)	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	白切り		20/36	25/36 在野種		
37 61 SK105 4D10	上野原	小根	15.2	長・石・赤	浅黄	褐色 (2.5Y7/2)									5/36	口・体内炭化物	
37 62 SK107 4D15	上野原	無白根	14.0	長・石	褐色	褐色 (2.5Y7/2)									5/36		
37 63 SK122 4D15	鹿児島	山腹風	5.3	白・石・赤・白	B 黄 (SYR5/1)	浅紅	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ						63/63 同一個体		
37 64 SK122 4D15	鹿児島	有白根	13.8	白	B 黄 (NSU)	浅紅	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ						10/36	33aと同一個体 高台部下根	
37 65 SK122 4D15	上野原	小根	11.2	長・石・赤・白・ 砂	褐色 (SYR5/6)											6/36	細長い毛葉絲多 く含む
37 66 SK122 4D15	上野原	長根	(28.0)	長・石・赤	褐色 (5Y7/6)											3/36	
37 67 SK122 4D15	上野原	無白根	(26.4)	長・石・赤	褐色 (7.5Y6/4)										2/36		
37 68 SK125 3D25	上野原	無	(22.0)	長・石・赤	褐色 (5Y7/6)										3/36		
38 70 SK129 3E18	上野原	無白根	12.4	4.0	3.85	白・石	褐色 (2.5Y7/4)	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘタモガ			18/36	16/36 在野種	
38 71 SK141 5D9	上野原	無白根	11.8	5.0	3.6	白・石・赤・白・ 砂	浅黄	褐色 (2.5Y8/2)	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	白切り		34/36	20/36 在野種	
38 72 SK145 4D5	鹿児島	有白根	(5.7)	白	B 黄 (2.5Y6/1)	浅紅	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ						3/36	鹿児島苔	
38 73 SK145 4D5	上野原	無白根	5.5	白・石・赤	褐色 (2.5Y7/6)										34/36	鹿児島苔・石付	
38 74 SK145 4D10	黑色上部 4D10	有白根	7.5	白・石・赤	褐色 (2.5Y7/2)										34/36	鹿児島苔 内葉被 高台	
38 75 SK145 4D5	上野原	無白根	13.0	白・石	褐色	褐色 (2.5Y7/2)									8/36		
38 76 SK145 4D5	上野原	無白根	13.4	6.0	5.0	白・石・赤・白	褐色	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後 ナデ調整			4/36	36/36 在野種	
38 77 SK145 4D5	上野原	無白根	13.0	白	褐色 (2.5Y7/4)										10/36		
38 78 SK145 4D5	上野原	小根	13.0	白	褐色	褐色 (2.5Y7/3)									11/36	口・体外スズ、口 内炭化物	
38 79 SK145 4D5	上野原	小根	6.7	白	褐色	褐色 (2.5Y7/3)									7/36	体外スズ	
38 80 SK150 4D5	鹿児島	無白根	12.8	白	B 黄 (SYR6/1)	浅紅	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ						4/36		

固有 植物名 通称	生 長 度 (cm)	根被	葉被	法 律 (cm)			断 土 (部)	色 調	地成	葉 物 ・ 子 孫			進 歩 度 (部)	備考		
				日被	夜被	露面				含有物	分類(部)	外 面	内 面	底部		
38 81 SK150 4D5	上部葉 無白粉	14.0	6.0	4.6	長・石・露・海	に白い斑模 (10YR7/3)	地化	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	8/36	7/36	
38 82 SK150 4D5	上部葉 無白粉	5.6	—	—	石・チ・露・白・ 砂	地白 (2.5YR8/2)	地化	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	34/36	墨青土苔	
38 83 SK150 4D5	前庭葉 葉	27.0	—	—	白・砂	地白 (NNU)	地化	カキメ	カキメ	当て具底	カキメ	カキメ	カキメ	7/36		
38 84 SK181 4C24	上部葉 無白粉	12.4	5.2	3.9	長・G・露・赤	地白 (10YR8/3)	地化	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	22/36	9/36	
38 85 SK181 4C24 SC4	上部葉 無白粉	16.5	6.4	6.25	石・露・海・砂	地白 (10YR8/4)	地化	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	1/36	34/36 墨青土苔	
38 86 SK183 4D24	前庭葉 無白粉	12.0	6.6	3.0	白	B オーバーク (10YR6/1)	墨元	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	1/36	9/36	
38 87 SK183 4D24	前庭葉 無白粉	13.8	—	—	長・露	C 黄 (2.5Y6/1)	墨元	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	6/36		
38 88 SK183 4D24	前庭葉 枝葉	6.0	—	—	白	B 露 (5P6/1)	墨元	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	6/36		
38 89 SK183 4D24	前庭葉 枝葉	6.0	—	—	白	C 地 (NNU)	墨元	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	7/36	内側固着	
39 90 SK183 4D24	前庭葉 枝葉	10.0	—	—	白	B 露 (5P6/1)	墨元	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	7/36		
39 91 SK190 5D4	前庭葉 無白粉	12.2	7.6	3.1	白	B 地 (10Y7/1)	地化	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	5/36	13/36	
39 92 SK190 5D4	上部葉 長葉	23.0	—	—	長・石・露	地白 (2.5Y7/2)	地化	カキメ	カキメ	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	6/36		
39 93 SK190 5D4	上部葉 小葉	14.0	—	—	露・赤	地白 (5YR7/4)	地化	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	5/36		
39 94 SK190 5D4	上部葉 小葉	5.8	—	—	長・石・赤・白	地白 (10YR6/3)	地化	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	34/36	体外共生 化合物	
39 95 SK220 4D12	前庭葉 無白粉	11.8	6.8	2.8	白	B 地 (NNU)	墨元	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	20/36	34/36 内側固着	
39 96 SK220 4D12 4D13	前庭葉 無白粉	12.4	7.2	3.7	白	B 地白 (10Y7/1)	墨元	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	19/36	墨青土苔 上部固着	
39 97 SK220 4D12	前庭葉 有白粉	13.0	—	—	白	B 地白 (10Y4/1)	地化	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	6/36		
39 98 SK220	上部葉 長葉	—	—	—	長・石・白	地白 (2.5Y7/2)	地化	ハサメ	ハサメ	ハサメ	ハサメ	ハサメ	ハサメ	体内炭化物		
39 99 SK220	上部葉 小葉	7.4	—	—	長・石・露・赤	地白 (5YR6/4)	地化	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	20/36	内側固着	
39 100 SD34 4C5 4C5	前庭葉 有白粉	7.0	—	—	露・海	C 地 (NNU)	墨元	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	5/36	外端地帶	
39 101 SD34 4C5 4C5	前庭葉 無白粉	(7.0)	—	—	石・白	B 露 (5B6/1)	墨元	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	3/36	墨青土苔	
39 102 SD34 4C5 2B	上部葉 無白粉	13.0	—	—	長・石・露・赤	地白 (5YR6/4)	地化	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	6/36		
39 103 SD34 4C5 2B	上部葉 小葉	7.8	—	—	長・石・露・赤・ 石・白・白	地白 (2.5YR7/4)	地化	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	14/36		
39 104 SD66 5D4 5D4	前庭葉 無白粉	13.2	9.0	3.1	長・石・白	C 地白 (2.5YR6/1)	墨元	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	15/36	22/36	
39 105 SD66 4E20 4E20	前庭葉 無白粉	12.4	9.0	3.3	長・赤・白	C 地白 (10Y7/1)	墨元	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	15/36	18/36 固着	
39 106 SD66 4E20 4E20	前庭葉 無白粉	12.0	—	—	白	B 地白 (10Y7/1)	墨元	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	6/36		
39 107 SD66 5E10 5E10	前庭葉 有白粉	6.2	—	—	白	B 地白 (10Y7/1)	墨元	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	12/36		
39 108 SD66 4E15 4E15	上部葉 無白粉	4.8	—	—	石	地白 (5YR7/4)	地化	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	11/36	墨青土苔	
39 109 SD66 4E15 4E15	前庭葉 有白粉 (14.0)	—	—	—	赤・白	C 喀藻 (5B3/1)	墨元	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	2/36		
39 110 SD66 4E13 4E13	前庭葉 無白粉	13.4	—	—	長・石・白	C 喀藻 (5B6/1)	墨元	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	8/36		
39 111 SD66 5E9 1B	前庭葉 無白粉	8.2	—	—	石・赤	C 地白 (2.5Y8/2)	地化	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	20/36	左側固着	
39 112 SD66 5P21 5P21	前庭葉 枝葉	13.7	2.4	—	長 (3mm倒伏 心む)・石・白・ 砂	C (SPB7/1)	墨元	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	25/36		
39 113 SD66 4F2 4F2	2B 2B	前庭葉 枝葉	15.0	2.3	—	白	C (SPB7/1)	墨元	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	2/36	
39 114 SD66 4F11 4F11	4B 4B	前庭葉 枝葉	12.0	—	—	白	C (SPB7/1)	墨元	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	6/36	内側固着
39 115 SD66 5E10 5E10	5E10 5E10	前庭葉 長葉	21.6	—	—	長・石・露・海	C (SPB7/2)	墨元	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	20/36	体外下生ス、西 古占空葉
39 116 SD66 5P71 5P71	前庭葉 長葉	21.4	—	—	長	灰 (2.5Y8/5)	墨元	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	5/36		
39 117 SD66 5D6 5D6	5D6 5D6	前庭葉 長葉 (21.0)	—	—	長・石・露・赤・ 砂	地白 (10YR8/2)	地化	ハサメ	ハサメ	ハサメ	ハサメ	ハサメ	ハサメ	4/36	西古占空葉	
39 118 SD66 5E14 5E14	1B 1B	前庭葉 長葉	22.0	—	—	長・石・露・赤	地白 (10YR8/3)	地化	カキメ	カキメ	カキメ	カキメ	カキメ	6/36		
40 119 SD66 5E14 5E14	上部葉 葉	(26.4)	—	—	長・石・露・赤	地白 (5YR8/4)	地化	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	カキメ	ロクロナデ カキメ	カキメ	ロクロナデ カキメ	3/36	試験ATに同一般 地	
40 120 SD66 4E25 4E25	上部葉 小葉	14.0	—	—	長・石・赤・赤	地白 (2.5Y8/1)	地化	ハサメ	ハサメ	ハサメ	ハサメ	ハサメ	ハサメ	6/36	西古占空葉 (CN 内側炭化物)	
40 121 SD66 4F2 2-5B	上部葉 小葉 (19.0)	—	—	—	長・石・露	地白 (2.5YR7/3)	地化	ハサメ	ハサメ	ハサメ	ハサメ	ハサメ	ハサメ	2/36		
40 122 SD66 4E20 4E20	上部葉 小葉 (16.0)	—	—	—	長・石・露・海	地白 (2.5YR6/6)	地化	ハサメ	ハサメ	ハサメ	ハサメ	ハサメ	ハサメ	4/36		
40 123 SD66 1B 1B	上部葉 葉 (34.2)	—	—	—	長・石・露・赤	地白 (10YR8/2)	地化	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	3/36		
40 124 SD69 4E23	前庭葉 無白粉 (11.8) (8.0)	3.05	—	—	長・石・露・海	地白 (5B7/1)	墨元	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	カキメ	ロクロナデ カキメ	カキメ	ロクロナデ カキメ	2/36	1/26	
40 125 SD69 4E23 4E23	前庭葉 無白粉	—	—	—	白	B 地白 (7.5Y7/1)	墨元	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	5/36		
40 126 SD69 4E18 4E18	上部葉 無白粉	12.7	—	—	石	地白 (2.5Y7/6)	地化	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	5/36		
40 127 SD69 4E18	上部葉 無白粉	14.0	—	—	長・石・白	地白 (2.5YR8/1)	地化	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	無	ロクロナデ カキメ	13/36		
40 128 SD68 3E22	上部葉 小葉	7.4	—	—	長・石・露・赤	地白 (10YR7/2)	地化	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	カキメ	ロクロナデ カキメ	カキメ	ロクロナデ カキメ	9/36		
40 129 SD68 3E22	上部葉 小葉	13.0	—	—	長・石・露・赤	地白 (10YR7/1)	地化	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	カキメ	ロクロナデ カキメ	カキメ	ロクロナデ カキメ	11/36		
40 130 SD66 3E12 3E12	前庭葉 無白粉	8.0	—	—	白	B 喀藻 (5B7/1)	墨元	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	カキメ	ロクロナデ カキメ	カキメ	ロクロナデ カキメ	13/36		
40 131 SD66 3E12 3E12	前庭葉 長葉	23.0	—	—	長・石・露・白	地白 (5YR7/6)	地化	カキメ	カキメ	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	5/36		
40 132 SD130 3E23 3E23	前庭葉 有白粉 (4.4)	11.0	—	—	白	B 喀藻 (2.5YR5/6)	墨元	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	ハサメ	ロクロナデ カキメ	ハサメ	ロクロナデ カキメ	8/36		
40 133 SD137 3E12 3E12	前庭葉 無白粉	11.8	8.2	3.05	白	B 地 (NNU)	墨元	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	カキメ	ロクロナデ カキメ	カキメ	ロクロナデ カキメ	11/36		
40 134 SD137 3E12 3E12	前庭葉 無白粉	9.0	—	—	白	B 地 (10YR7/1)	墨元	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ カキメ	カキメ	ロクロナデ カキメ	カキメ	ロクロナデ カキメ	6/36	墨青土苔	

## 観察表

固有 植物 名	固有 植物 名	生 長 部 位	種別	基盤	法 面 (cm)		断 土 (剖 面)	色 調	地成 分	質 物 ・ 子 孫			進 歩 度 (段 度)	考 査	
					日径	直径				含有物	分類 (部)	外 面	内 面	底部	
49 SD137	3E20	4~5葉	上部	無白桜	(12.6)		長・黒・海	に赤い塊 (5YR8/4)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ		4/36		
40 136 SD127	3E20	4~5葉	黒色1路	無白桜	5.9		長・石	橙(5YR7/6)	地化	ロクロナデ	ヘラミガキ		5/36	内墨斑地	
49 137 SD137	3E20	4~5葉 前部	上部	桜目	13.5	1.5	白	B M. (N/M)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	U斑地	
49 138 SD137	3E25	前部	上部	長脚風	9.0		長・G (5mm 太)	A M. (7.5YV1/1)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ		36/36	内端錐地高台	
49 139 SD210	50%	1葉	葉先部	有白桜	11.4	7.0	3.5 長・白	B M. (N/M)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	1/36	外端錐地高台	
49 140 SD210	4G11	1葉	葉先部	有白桜	14.0	(7.6)	(4.5) 長・白 (6mm 太め)	C 明黄(5YR7/1)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	3/36	2/36 内端錐地高台	
49 141 SD210	4G6	1葉	葉先部	有白桜	13.2	7.7	5.2 長	M. (5YR7/1)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	6/36	21/36 石斑地、内端錐地 高台	
49 4E6 1葉															
49 4F25 1葉															
49 4F24 1葉															
49 5E5 1葉															
49 143 SD210	50%	1葉	葉先部	桜目	12.9		長・黒・白	C M. (N/M)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ		8/36	転用地	
49 144 SD210	50%	1葉	葉先部	桜目	12.8		2.7 白	B M. (7.5YV1/1)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ		12/36		
49 145 SD218	4G18	1葉	葉先部	桜目	12.0	7.0	3.75	C M. (10G4/1)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	4/36	12/36 外端錐地高台	
49 146 SD219	4F19	1葉	葉先部	無白桜	12.0	8.2	3.2 長・白	B 明黄(5BG7/1)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り (植 ナメ菌)	13/36	28/36	
49 147 SX209	50%	1葉	葉先部	有白桜	16.0	9.4	8.3 (5mm大 き)	A M. (N/7)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り (植 ナメ菌)	6/36	36/36 U斑地	
49 148 SX229	4E18	上部	無白桜		12.2	6.0	3.6 長・石・チ		浅根地	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り (10YR8/3)	32/36	32/36	
49 149 SX229	4E23	上部	無白桜		13.0	5.0	3.9 長・石		浅根地	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り (10YR8/3)	19/36	26/36	
49 150 SX229	4E13	3葉	葉先部	桜目	12.0		白	B M. (5YV1/1)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ			石斑地	
49 151 SX229	4E9	上部	無白桜		12.4	5.4	4.1 長・石 (5mm大 き)後定型	C M. (5YR7/3)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り (植 ナメ菌)	1/36	36/36	
49 152 SX229	4E18	上部	無白桜		12.8	4.3	4.3 長・黒・海	C M. (5YR7/4)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り (植 ナメ菌)	1/36	36/36 石斑地	
49 153 SX229	4E13	1葉	上部	無白桜	13.0	5.2	3.2 長・石・黒・ 白		浅根地	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り (10YR8/2)	14/36	6/36	
49 154 SX229	4E12	上部	無白桜		13.0	4.8	4.4 長・石・黒・ 白		地化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り (10YR8/2)	9/36	12/36	
49 155 SX229	4E9	上部	無白桜		12.4	4.8	4.55 長・石・黒・ 海		浅根地	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り (10YR8/3)	13/36	36/36 墓石帶 左側斜	
49 156 SX229	4E23	上部	無白桜		12.0		5.0		地白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り (10YR8/2)	25/36	36/36 墓石帶 右側斜	
49 157 SX229	4E17	上部	無白桜		12.8	5.8	3.65 長・石・黒・ 白		地白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り (10YR8/2)	7/36	9/36 墓石帶	
49 158 SX229	4E18	3葉	上部	無白桜	12.0	5.6	3.85 長・石・チ		地白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り (10YR8/2)	14/36	29/36 墓石帶	
49 159 SX229	4E18	3葉	上部	無白桜	12.0	5.2	4.3 長・石・黒・ 海		地白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り (10YR7/4)	16/36	23/36 墓石帶 右側斜	
49 160 SX229	4E17	上部	無白桜		5.0		長・石・黒		地白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り (10YR7/4)	24/36	36/36 墓石帶 右側斜	
49 161 SX229	4E18	上部	無白桜		5.4		長・石・黒		地白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り (5YR1/1)	12/36	36/36 墓石帶	
49 162 SX229	4E7	1葉	黒色土帯	有白桜	7.4		長・石・黒		地白	ロクロナデ	ロクロナデ	状貌地ヘラ カキ	28/36	高台内用根 内端錐地高台 内墨斑地	
49 163 SX229	4E18	上部	長脚		12.6		長・石・黒		地白	ロクロナデ	ロクロナデ	格子タキ 尚て具頭	6/36		
49 164 SX229	4E18	4葉	上部	小枝	7.4		長・石・黒・ チ		浅根地	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り (2.5YH7/4)	14/36	体・尻皮灰在物 右側斜	
49 165 SX229	4E18	3葉	上部	無白桜	34.0		長・石・黒・ 海		地白	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り (10YR8/2)	6/36		
49 166 P102	4E20	1葉	葉先部	長脚地	11.6		石・黒・白	C M. (7.5Y7/1)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	14/36	高台内用根地	
49 167 P103	4D18	1葉	葉先部	有白桜	12.4	7.2	5.6 白	B M. (5Y6/1)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	4/36	21/36 U斑地、内端錐 地高台	
49 168 P103	4D19	1葉	葉先部	有白桜	13.0	5.4	4.2 長・石・黒		浅根地 (2.5Y7/3)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	15/36	19/36
49 169 P110	P109	1葉	上部	無白桜	39.0		長・石・黒・ 海		浅根地 (10YR8/3)	地化	ロクロナデ	カキメ カキメ		9/36	体内下不スヌ、体 内下平化物化
49 170 a	4D22	1葉	上部	内用根	10.2		長・石・黒・ 海・チ		浅根地 (10YR6/1)	地化	ロクロナデ	カキメ		5/36	植物多く含む物 影山・宝鏡山
49 170 b	P110	4D19	1葉	上部	内用根	9.2	長・石・黒・ 海・チ		浅根地 (10YR6/4)	地化	ロクロナデ	カキメ		13/36	植物多く含む物 影山・宝鏡山
49 171 P118	4D20	1葉	上部	無白桜	42.2		長・石・黒・ 海・チ		浅根地 (10YR6/3)	地化	ロクロナデ	カキメ		11/36	
49 172 P127	4D19	1葉	葉先部	無白桜	7.3		長・石・黒		地白 (N/M)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	5/36	墨山土
49 173 P153	4C10	1葉	上部	長脚	(22.0)		長・石・黒		地白 (10YR8/3)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	
49 174 P168	4C24	1葉	上部	小枝	12.8		長・石・黒		地白 (7.5Y7/3)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ		13/36	口・体外吸入、 内用化物
49 175 P172	4C5	1葉	葉先部	無白桜	12.6	7.6	3.3 長・石・黒・ 白	C M. (5YR7/4)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	6/36	26/36 石斑地	
49 176 P172	4C5	1葉	葉先部	無白桜	12.7	6.4	3.1 白	B M. (N/M)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	8/36	9/36	
49 177 P175	4D1	1葉	上部	無白桜	12.8	5.4	3.85 長・石		地白 (2.5YR7/6)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ		4/36	7/36 墓山の摩滅地LA
49 178 P175	4D1	1葉	上部	無白桜	13.0				地白 (2.5YR7/3)	地化	ロクロナデ			4/36	

固有 植物 名	固 有 度 数	生 長 部 位	種別	基原	法 律 (cm)	断 土 部 分 含 有 物	色 調	地成 性	質 物 ・ 手 法			進行 率	備考		
									白 接 近 接 露 石 含 有 物	外 面	内 面				
42 179 P175 4D1	1脚	底北部	無白粉	B	11.0	5.8	3.35	白	青灰 (10B6C6/1)	浅紅 (10R8E6/4)	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	7/36 28/36	石脚部	
42 180 P175 4D1	1脚	上部部	小根	B	16.0			長・石・露	浅黃褐色 (10Y8E8/3)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ		5/36	内炭化物	
42 181 P175 2B	2脚	底北部	葉	B	20.0			白	白 (7.5Y6C1)	褐色	椅子ナタク 当て其頭		9/36		
42 182 P204		上部部	無白粉	B	14.2	6.0	4.0	長・石・露・赤	淡黃褐色 (10Y8E4/2)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	1/36 35/36	左脚部	
42 183 P204 4D1B		上部部	小根	(14.8)				長・石・露・赤	淡黃褐色 (7.5Y8E6/4)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ		1/36	脚部の骨威脅 体外入ス	
42 184 P206 4D1Z		上部部	葉	B	23.0			長・石・葉・角	淡黃褐色 (5Y9E7/6)	褐色	カキメ ナデ		7/36	S8H01	
42 185 道筋係	4F12	上部	底北部	無白粉	12.0	9.0	4.5	長・石・5mm (頭幅あり)・白	A	灰 (7.5Y6C1)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り替 ナデ調節	7/36 25/36	右脚部
42 186 道筋係	4F14	上部	底北部	無白粉	12.0	7.4	3.2	白	灰 (5Y6C1)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	4/36 15/36	右脚部	
42 187 道筋係	4F15	上部	底北部	無白粉	12.6	8.5	3.2	長・石・(完茎) 1.5・白	C	灰 (10Y7E7/6)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	9/36 22/36	右脚部
42 188 道筋係	4F14	上部	底北部	無白粉	12.0	7.8	3.1	長・石・G・白	B	青灰 (5B6C6/1)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	10/36 19/36	
42 189 道筋係	4F12	上部	底北部	無白粉	11.8	7.6	3.2	長・石・G・白	B	灰 (7.5Y6C1)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	7/36 22/36	墨青上部 右脚部
42 190 道筋係	4C13	上部	底北部	無白粉	11.5	5.4	3.2	長・石・白	B	青灰 (5B6C6/1)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	8/36 11/36	墨青上部
42 191 道筋係	301B	上部	底北部	無白粉	12.0	7.0	2.8	白	灰 (5G6C1)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	7/36 22/36	石脚部 心	
42 192 道筋係	3D24	上部	底北部	無白粉	2.0			白	明黄褐色 (5B7C1)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	8/36	墨青上部	
42 193 道筋係	4D19	上部	底北部	無白粉	7.4			白	灰 (5Y6C1)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	12/36 墨青上部 右脚部		
42 194 道筋係	3C23	上部	底北部	無白粉	9.0			白	灰 (N)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	8/36	墨青上部	
42 195 道筋係	3E23	上部	底北部	無白粉	9.0			白	灰 (2.5G9Y8/1)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	10/36	墨青上部	
42 196 道筋係	4G16	上部	底北部	無白粉	9.0			白	明黄リマーク (5G7C1)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	5/36	墨青上部	
42 197 道筋係	3D12	上部	底北部	無白粉	7.4			白	灰 (5Y6C1)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	9/36	墨青上部	
42 198 道筋係	5F12	上部	底北部	無白粉	8.0			白	灰 (2.5G7Y8/1)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	10/36	墨青上部	
42 199 道筋係	4E8 4F14	上部	底北部	無白粉	6.0			白・赤・白	C	青灰 (5B6C6/1)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り替 ナデ調節	5/36	墨青上部
42 200 道筋係	5F10	上部	底北部	有白粉	9.6	6.4	4.5	黒・白	B	M (N6/)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	2/36 17/36	石脚部 外周地帯 高台
42 201 道筋係	4F24	上部	底北部	有白粉	9.3	5.6	4.9	黒・白	B	明黄褐色 (5B7C1)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	11/36 34/36	墨青上部 平地 水辺
42 202 道筋係	3P10	上部	底北部	有白粉	12.4	7.2	4.0	黒・白・海・白 (5mm・人あり)	C	M (N7/)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り替 ナデ調節	2/36 12/36	左脚部 内環境
43 203 道筋係	3D19	上部	底北部	种苔	13.7			白	灰 (M)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ		5/36	内輪用瓶	
43 204 道筋係	3D25 4E1	上部	底北部	底葉	12.5			白	B (M (N4/))	褐色	ロクロナデ ロクロナデ		3/36		
43 205 道筋係	4E17	上部	上部部	無白粉	15.6	5.2	5.5	白・黒・海・赤	浅黃褐色 (7.5Y8E8/4)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り替 ナデ調節	5/36	墨青上部 赤苔群	
43 206 道筋係	4E17	上部	上部部	無白粉	12.0	5.6	4.95	白・黒・露・赤	11V9E8/3)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	5/36 36/36	右脚部	
43 207 道筋係	4E17	上部	上部部	無白粉	13.6	5.8	4.5	白・黒・白	にごり (7.5Y7E7/4)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	7/36 16/36	右脚部	
43 208 道筋係	4E17	上部	上部部	無白粉	12.8	5.2	4.4	白・石	にごり (10V7E7/4)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	5/36 13/36	右脚部 赤苔群	
43 209 道筋係	4E17	上部	上部部	無白粉	12.8	4.7	4.0	白・海	にごり (10V8E8/3)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	5/36 36/36	右脚部	
43 210 道筋係	4D14	上部	上部部	無白粉	12.2	5.6	4.1	白・黒・露・白	にごり (5Y7C1)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	2/36 13/36	左脚部 右脚部	
43 211 道筋係	4C24	上部	上部部	無白粉	11.8	5.4	3.6	白・黒・角・赤	にごり (10V7E7/2)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	7/36 19/36	右脚部	
43 212 道筋係	4E17	上部	上部部	無白粉	5.4			白	浅黃褐色 (7.5Y8E8/3)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	6/36	墨青上部	
43 213 道筋係	3E18	上部	上部部	無白粉	12.8	4.7	3.85	長・石・海	浅黃褐色 (7.5Y8E8/4)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	4/36 34/36	右脚部	
43 214 道筋係	3E18	上部	上部部	無白粉	12.2	4.8	4.4	白 (7.5Y7E8/4) +チ・サ・赤	にごり (7.5Y8E8/4)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	13/36 12/36		
43 215 道筋係	3P16	黑色部	無白粉	B	6.0			長・石・手	にごり (10V7E7/4)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	17/36	褐輪地帯根株 内環境	
43 216 道筋係	4E19	上部	上部部	無白粉	5.8			石	赤 (10V8E8/2)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	8/36	墨青上部	
43 217 道筋係	4E12	上部	上部部	無白粉	12.1	5.0	4.4	長・石・露	にごり (10V7E7/3)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	9/36 36/36	墨青上部 右脚部 赤苔群	
43 218 道筋係	3D25	上部	上部部	無白粉	12.0	5.6	3.9	長・石・露・手	にごり (10V7E7/4)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	12/36	墨青上部 右脚部	
43 219 道筋係	5C4	上部	上部部	無白粉	5.6			長・石・白	にごり (2.5Y8E8/4)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	18/36	墨青上部 右脚部	
43 220 道筋係	3D25	上部	上部部	無白粉	13.0	5.0	4.2	白・黒・露・赤	浅黃褐色 (10V8E8/4)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	11/36	29/36 墨青上部 右脚部	
43 221 道筋係	4E17	上部	上部部	無白粉	5.2			白・石・手	淡黃褐色 (2.5Y8/3)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	18/36	墨青上部 右脚部	
43 222 道筋係	3E23	上部	上部部	無白粉	5.8			白・石	淡黃褐色 (2.5Y7/3)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	34/36	墨青上部 赤苔群	
43 223 道筋係	5D13	上部	上部部	無白粉	5.6			白・海	浅黃褐色 (10V8E8/4)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	9/36	墨青上部	
43 224 道筋係	5D15	上部	上部部	無白粉	5.2			白・石・露・赤	にごり (10V7E7/4)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	18/36	墨青上部 右脚部	
43 225 道筋係	3C19	上部	上部部	無白粉	5.4			白	赤 (2.5Y8/2)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	11/36	墨青上部 右脚部	
43 226 道筋係	3E16	上部	上部部	無白粉	6.0			白・石	にごり (10V7E7/3)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	22/36	墨青上部 内環境	
43 227 道筋係	4D18	上部	上部部	無白粉	4.4			白・石・露・赤	にごり (10V7E7/4)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	34/36	墨青上部 右脚部	
43 228 道筋係	4E17	上部	上部部	無白粉	5.2			長・石・露・赤	にごり (7.5Y8E8/6)	褐色	ロクロナデ ロクロナデ	ヘラ切り	24/36	墨青上部 右脚部	
43 229 道筋係	4E17	上部	上部部	長葉	(25.8)			長・石・露・赤	ハケヌメ アラシテナ	褐色	ハケヌメ アラシテナ	ヘラ切り	2/36	墨青上部 内環境	
43 230 道筋係	4D12	上部	底北部	种苔				白	B (N)	褐色	ロクロナデ				
43 231 道筋係	3D14	上部	底北部	無白粉	6.0			浅黃褐色 (2.5Y7/3)	褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	13/36	墨青上部 右脚部	

## 観察表

固有 植物 名	出 生 地 名	土 位 質	標高	面積	法 規 (cm)			的 土		調 査 ・ 手 法			進 歩 申 報		備考
					口徑	底径	周長	含有物	分類 (部)	色 調	地城	表面	内面	底部	口縫部
43 232 道網外 4D19 日照 土層帶 小根 14.3 石・岩・雲 黄茶褐 (10YR6/2) 極化 ハケメ 14/36 西古志空堀、口体外スズ、口底化物															
43 233 道網外 3E14 日照 土層帶 大根 6.8 石・岩・土・赤・白・砂 に赤い斑状 (10YR7/2) 極化 ハラケズリ・ナデ ナデ 初花 14/36 茎葉を多く含む形															
43 234 道網外 5D4 日照 土層帶 小根 5.6 石・岩・雲 に赤い斑状 (10YR7/4) 極化 ロクロナデ ロクロナデ 細切り 36/36 石岡咲															

## 下層

固有 植物 名	出 生 地 名	土 位 質	標高	面積	法 規 (cm)			的 土		調 査 ・ 手 法			進 歩 申 報		備考
					口徑	底径	周長	含有物	分類 (部)	色 調	地城	表面	内面	底部	口縫部
47 294 S90906 P-340 2E7 黒泥質 無白粉 7.0 白 B 黄 (7AY6/1) 亂流 ロクロナデ ロクロナデ ハラ刈り 6/36 西平 (内層) 積塊高台															
47 295 SK284 黒泥質 無白粉 12.3 9.3 3.7 石・G (2~3mm)、砂・鈍 C 黑 (N6/1) 亂流 ロクロナデ ロクロナデ ハラ刈り 8/36 13/36 西古志空堀、口体外スズ、口底化物															
47 296 SK331 4E7 3層 土層帶 小根 13.0 長・G・石・砂 に赤い斑状 (10YR7/3) 極化 ハケメ 14/36															
47 297 SK360 3F14 4樹 黃泥質 無白粉 12.4 9.4 3.3 石・岩・砂 C 黑 (N6/1) 亂流 ロクロナデ ロクロナデ ハラ刈り後 ナデ調整 7/36 36/36 石岡咲															
47 298 SK366 2P20 2層 土層帶 小根 14.0 石・岩・雲・赤・白・砂 に赤い斑状 (10YR8/3) 極化 ハナナデ 1/36 口内変化物															
47 299 SK388 5E4 灰土層 黄泥質 有白粉 13.1 7.3 4.2 石・G・砂・白・砂 C 黄 (SY7/1) 亂流 ロクロナデ ロクロナデ ハラ刈り後 ナデ調整 8/36 20/36 積塊混在高台															
47 300 SK411 土層帶 小根 13.4 G・砂・白・砂・砂・鈍・鈍・砂 伐倒木 (7.5YR6/3) 極化 ハケメ 2/36 西古志空堀															
47 301 SK510 黒泥質 無白粉 12.2 7.0 3.3 石・G・白 B 黄 (7SY6/1) 亂流 ロクロナデ ロクロナデ ハラ刈り 35/36 36/36 石岡咲															
47 302 SK510 黒泥質 無白粉 11.8 7.0 2.9 白 B 黄 (5B6/1) 亂流 ロクロナデ ロクロナデ ハラ刈り後 ナデ調整 5/36 14/36 黒のぬみ風															
47 303 SK510 黒泥質 有白粉 12.8 6.8 3.8 石・岩・白・砂 C 黑 (N6/1) 亂流 ロクロナデ ロクロナデ 7/36 11/36 外端混在高台															
47 304 SK510 黒泥質 無白粉 7.0 石・岩・白 B 黄 (5B7/1) 亂流 ロクロナデ ロクロナデ ハラ刈り 9/36 墓古土跡															
47 305 SK510 黒泥質 有白粉 12.4 8.0 3.1 石・白 B 黄 (10B6/1) 亂流 ロクロナデ ロクロナデ ハラ刈り 4/36 18/36 墓古土跡															
47 306 SK510 2E25 2E25 灰土層 黑泥質 無白粉 12.0 8.0 3.15 石・岩・白 黄 (5W6/1) 亂流 ロクロナデ ロクロナデ ハラ刈り 5/36 5/36 9/36 墓古土跡															
47 307 SK510 土層帶 有白粉 21.4 石・岩・雲 (10YR6/2) 極化 ハラ刈り後 ナデ調整 4/36 体外スズ、体内固化物															
47 308 SK510 土層帶 有白粉 (19.0) 石・岩・雲・砂 明斑斑 (2.5YR6/6) 極化 ハラ刈り 3/36 体外スズ															
47 309 SK524 5D7 5D7 灰土層 黑泥質 有白粉 (12.0) 石 明斑斑 (10B6/7/1) 亂流 ロクロナデ 3/36 墓古土跡															
47 310 SK526 5D7 5D7 灰土層 黑泥質 有白粉 12.6 8.0 3.3 白 B 黑 (N6/1) 亂流 ロクロナデ ロクロナデ ハラ刈り後 ナデ調整 19/36 36/36															
47 311 SK583 3C24 3層 黒泥質 有白粉 11.8 8.2 3.0 石・白 B 黑 (N6/1) 亂流 ロクロナデ ロクロナデ ハラ刈り後 ナデ調整 31/36 36/36 取り上げNo.5															
47 312 SK583 3C24 3層 黒泥質 有白粉 12.4 8.6 3.05 白 B 黑 (7.5Y6/1) 亂流 ロクロナデ ロクロナデ ハラ刈り 29/36 36/36 取り上げ No.2~3															
47 313 SK583 3C24 3層 黒泥質 有白粉 12.0 8.8 3.0 石・白 B 黑 (N6/1) 亂流 ロクロナデ ロクロナデ ハラ刈り 18/36 19/36 取り上げ No.6															
47 314 SK583 3C24 3層 黒泥質 有白粉 13.3 8.0 3.9 石・白 B 黄 (5W6/1) 亂流 ロクロナデ ロクロナデ ハラ刈り 31/36 36/36 取り上げ No.1~2															
47 315 SK583 3C24 4樹 黒泥質 有白粉 石・白 B 黑 (N6/1) 亂流 ハラ刈り 7/36 墓古土跡															
47 316 SK663 1E7 土層帶 有白粉 12.0 17.5 石・岩・雲・砂 C 黑 (SY6/2) 亂流 ハケメ・砂 (10YR6/2) 極化 ハラ刈り後 結合部 7/36															
47 317 SD246 5D9 黑泥質 有白粉 12.3 石 B 黑 (N6/1) 亂流 ハラ刈り後 ロクロナデ 8/36 墓古土跡															
47 318 SD271 4H18 黑土 1層 有白粉 (7.0) 石・海 に赤い斑状 (7.5YR7/3) 極化 ロクロナデ ハラ刈り後 ナデ調整 2/36 墓古土跡 内黒尾根															
47 319 SD696 4G1 2層 土層帶 大根 22.9 石・岩・雲・砂・砂・鈍・鈍・砂 (2.5Y6/8) 極化 ハラ刈り後 ナデ調整 7/36															
48 320 SD334 3P7 1層 黑泥質 有白粉 12.3 6.5 3.6 石・白 C 黄 (SY6/1) 亂流 ロクロナデ ロクロナデ ハラ刈り 20/36 36/36 100%外端混在高台															
48 321 SD334 3P7 1層 黑泥質 有白粉 12.3 7.8 3.9 石・岩・雲 C 黑 (SY7/2) 亂流 ロクロナデ ロクロナデ ハラ刈り後 ナデ調整 21/36 36/36 100%外端混在高台															
48 322 SD417 土層帶 有白粉 12.6 4.9 4.3 石・岩・雲・海 残根 (10YR6/4) 極化 ロクロナデ ロクロナデ ハラ刈り 3/36 22/36 石岡咲															
48 323 SD461 4C15 黑泥質 有白粉 12.0 6.8 5.45 石・岩・白 B 黄 (10B6/5/1) 亂流 ロクロナデ ロクロナデ ハラ刈り 30/36 36/36 石岡咲															
48 324 SD461 4C14 黑泥質 有白粉 11.8 6.8 3.1 白 B 黄 (2.5G6/6/1) 亂流 ロクロナデ ロクロナデ ハラ刈り後 ナデ調整 14/36 18/36 墓古土跡 石岡咲															
48 325 SD481 黑泥質 有白粉 11.6 8.0 3.1 石・岩・白 B 黑 (N6/1) 亂流 ロクロナデ ロクロナデ ハラ刈り後 ナデ調整 23/36 36/36 左倒軸															
48 326 SD481 黑泥質 有白粉 12.0 7.8 3.5 石・岩・白 B 黑 (N6/1) 亂流 ロクロナデ ロクロナデ ハラ刈り後 ナデ調整 2/36 9/36															
48 327 SD481 土層帶 小根 15.0 石・岩・雲・砂 (SY8/3) 極化 ロクロナデ ロクロナデ 7/36 口内変化物															
48 328 SD507 黑泥質 有白粉 12.8 8.3 2.75 石・白 B 黄 (5W6/1) 亂流 ロクロナデ ロクロナデ ハラ刈り後 ナデ調整 6/36 8/36															
48 329 SD508 3C24 黑泥質 長根帶 14.0 石・白 B 黄 (5B6/1) 亂流 ロクロナデ ロクロナデ 4/36															
48 330 SD508 3C24 黑泥質 有白粉 12.6 7.8 3.15 石・岩・白・雲 C 剥離 (2.5G7/1) 亂流 ロクロナデ ロクロナデ ハラ刈り後 ナデ調整 1/36 19/36 墓古土跡 左倒軸															
48 331 SD508 3C24 黑泥質 長根帶 10.4 石・白 B 黑 (7SY6/1) 亂流 ロクロナデ ロクロナデ ハラ刈り 9/36 19/36 内隠接着高台															
48 332 SD543 4D11 1V16 灰土層 伸長 14.5 2.6 白 B 黄 (10YR6/2) 極化 ハラケズリ・カキメ 2/36															
48 333 SD600 4K19 土層帶 小型巣 (13.4) 石・岩・雲・砂 (10YR6/2) 極化 ハラケズリ・カキメ 2/36															
48 334 SD601 3P16 1V16 土層帶 長根 8.0 石・岩・雲・砂 (10YR7/4) 極化 ハラケズリ・ハケメ 14/36															

固有 植物 名号	田 上 位 置	標高 m	種別	基種	法 面 (cm)	断 土 (剖面 部)	色 調	地成 分	調 査 手 法		進 歩 度 目 標	備 考			
									日光 透光 率	遮光 率					
48-335	SX364	高 山 帶	高 原 帶	高 原 帶	8.9	石・白	C 木白(10YR6/4)	混生	ロクロナデ	ロクロナデ	8/36	内離接合苔			
48-336	P247	594	高 山 帶	高 原 帶	9.0	長・石・白	C 木白(10YR6/1)	混生	ロクロナデ	ロクロナデ	20/36	着生土帯 石灰化			
48-337	P248	238	高 山 帶	高 原 帶	7.6	5.4	8.2	白	混生	ロクロナデ	ロクロナデ	11/36	内離接合苔		
48-338	P287	100	高 山 帶	小 林	4.7	長・石・白・青	C 木白(10YR6/3)	混生	ロクロナデ	ロクロナデ	34/36	高木立樹 壓 伏化			
48-339	P101	4F19	高 山 帶	高 原 帶	12.0	8.0	2.9	石・白	C 木白(10YR7/1)	混生	ロクロナデ	ロクロナデ	2/36	10/36	
48-340	P406	4F6	高 山 帶	高 原 帶	(15.8)	(6.0)	(5.8)	石・海①	浅黄(2.5Y7/3)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ	2/36	花紋状の凹み多 溝毛土器	
48-341	P456	503	山地 帶	山地 帶	12.0	長・石・白	浅 黄 木白(10YR8/4)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ	2/36	4/36			
48-342	P452	4D11	山地 帶	長 倉	(21.5)	長・石・チ・ホ	木白(2.5Y8/2)	地化	ハケメ	ハケメ	4/36	西古志寮 体外 スス 1~2mm の氣泡多く含む			
48-343	P478	4C9	山地 帶	小 倉	6.9	長・石・青・海 チ・ホ	浅 黄 木白(7.5Y8/3)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ	18/36				
48-344	P468	高 山 帶	杆 苔	高 山 帶	15.0	2.5	石・白	B 木(7N7/1)	混生	ロクロナデ	ロクロナデ	9/36	着生土帯 内離 接合		
48-345	P498	高 山 帶	高 原 帶	高 原 帶	13.0	7.5	3.3	石・白	木 木白(2.5Y6/1)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ	14/36	18/36 高山土帯	
49-346	P545	10	山地 帶	小 倉	5.0	長・石・部・白	木 木白(10YK7/2)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ	18/36				
49-347	P561	10	山地 帶	小 倉	13.7	長・石・青・海	木 木白(10YH4/1)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ	5/36	体外スス 口内深 化物			
49-348	P575	5F1	1層	山地 帶	小 倉	14.5	長・石・白	浅 黄 木白(7.5Y8/3)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ	4/36	体外スス 口内深 化物		
49-349	道植外	5F5	山地 帶	高 原 帶	14.0	10.0	4.1	白	木白(1N7/1)	混生	ロクロナデ	ロクロナデ	10/36	19/36 未回転	
49-350	道植外	5E16	山地 帶	高 原 帶	無 性	12.8	8.6	3.5	長・石・(5- 7mm)薄葉垂枝	A 木(NG/1)	混生	ロクロナデ	ロクロナデ	2/36	21/36
49-351	道植外	4F16	山地 帶	高 原 帶	無 性	12.0	8.8	3.0	石・圓	C 木白(7.5Y8/1)	混生	ロクロナデ	ロクロナデ	2/36	18/36
49-352	道植外	4F13	山地 帶	高 原 帶	無 性	12.2	8.4	3.6	白	B 木(NG/1)	混生	ロクロナデ	ロクロナデ	11/36	34/36 未回転
49-353	道植外	4G19	山地 帶	高 原 帶	無 性	11.8	7.3	2.9	白	B 木(NG/1)	混生	ロクロナデ	ロクロナデ	10/26	28/36
49-354	道植外	4E24	山地 帶	高 原 帶	無 性	12.7	9.2	2.85	長・石・白	C 木(7.5Y6/1)	混生	ロクロナデ	ロクロナデ	7/36	15/36
49-355	道植外	5D15	山地 帶	高 原 帶	無 性	12.6	8.1	3.25	長・石・白	B 木(7.5Y8/1)	混生	ロクロナデ	ロクロナデ	18/36	36/36 未回転
49-356	道植外	4E10	山地 帶	高 原 帶	無 性	13.6	10.4	3.7	長・石・青・海	C 木白(10YK7/1)	混生	ロクロナデ	ロクロナデ	8/36	23/36 未回転
49-357	道植外	5D7	山地 帶	高 原 帶	無 性	12.6	8.4	3.2	白	B 木(7.5Y6/1)	混生	ロクロナデ	ロクロナデ	3/36	17/36
49-358	道植外	4E20	山地 帶	高 原 帶	無 性	14.2	8.4	3.3	長・石・白	A 木白(7.5Y7/1)	混生	ロクロナデ	ロクロナデ	13/36	21/36
49-359	道植外	4E22	山地 帶	高 原 帶	無 性	10.0	7.4	4.0	石・白	B 木(7SY7/1)	混生	ロクロナデ	ロクロナデ	13/36	19/36 未回転
49-360	道植外	4E24	山地 帶	高 原 帶	無 性	12.0	7.5	3.2	(石・5mm 葉脈あり)-白	C 木(5V6/1)	混生	ロクロナデ	ロクロナデ	5/36	14/36
49-361	道植外	4C9	山地 帶	高 原 帶	無 性	14.8	9.5	6.95	白	B 木(5V6/1)	混生	ロクロナデ	ロクロナデ	2/36	14/36 内離接合苔
49-362	道植外	5F9	山地 帶	高 原 帶	無 性	11.0	7.0	4.2	長・石・白	C 木白(10YK7/1)	混生	ロクロナデ	ロクロナデ	3/36	5/36 水平根糸化
49-363	道植外	5E7	山地 帶	高 原 帶	無 性	12.2	7.4	3.8	長・石・白	C 木(NG/1)	混生	ロクロナデ	ロクロナデ	8/36	28/36 外離接合 地化
49-364	道植外	3C19	山地 帶	高 原 帶	無 性	8.0			長・白	B 木(5V6/1)	混生	ロクロナデ	ロクロナデ	3/36	黒紫土帯
49-365	道植外	4C14	山地 帶	高 原 帶	無 性	12.0	7.5	3.2	(石・5mm 葉脈あり)-白	C 木(5V6/1)	混生	ロクロナデ	ロクロナデ	5/36	14/36
49-366	道植外	4C19	山地 帶	高 原 帶	無 性	14.8	9.5	6.95	白	B 木(5V6/1)	混生	ロクロナデ	ロクロナデ	2/36	14/36 内離接合苔
49-367	道植外	4P2	山地 帶	高 原 帶	無 性	14.8	2.1	2.1	白	B 木(5V6/1)	混生	ロクロナデ	ロクロナデ	2/36	24/36
49-368	道植外	4P12	山地 帶	高 原 帶	無 性	12.6	7.4	3.8	長・石・白	C 木白(7N7/1)	混生	ロクロナデ	ロクロナデ	3/36	
49-369	道植外	4C10	山地 帶	高 原 帶	無 性	12.6	4.5	3.9	長・石・青・海	浅 黄 木白(7.5Y8/6)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ	22/26	21/36
49-370	道植外	4F22	山地 帶	高 原 帶	無 性	4.4			長・石・青	B 木(7.5Y7/6)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ	3/36	40/36 黒紫土 带外 部
49-371	道植外	5D7	山地 帶	高 原 帶	長 倉	22.0			長・石・青・白	C 木白(7SY8/6)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ	22/36	体外スス 西古志 寮
49-372	道植外	3C25	山地 帶	高 原 帶	長 倉	22.8			長・石・青・白	C 木(7SY7/6)	地化	カキメ	カキメ	6/36	体外スス
50-373	道植外	4E23	山地 帶	高 原 帶	長 倉	19.0			長・石・青	B 木(10YH8/2)	地化	カキメ	不明	4/36	体外スス
50-374	道植外	5F6	山地 帶	高 原 帶	長 倉	20.6			長・石・青・白	C 木(7.5Y8/6)	地化	カキメ	カキメ	8/36	西古志寮
50-375	道植外	4D25	山地 帶	小 倉	13.4			長・石・青	C 木白(10YH6/3)	地化	カキメ	カキメ	5/36	西古志寮	
50-376	道植外	5F6	山地 帶	小 倉	14.3			長・石・青	C 木白(10YH6/3)	地化	カキメ	カキメ	3/36		
50-377	道植外	4C16	山地 帶	長 倉	10.0			長・石・青・白	C 木白(10YH6/4)	地化	カキメ	カキメ	2/36	体外スス	
50-378	道植外	4C14	山地 帶	山地 帶	7.1			長・石・青・白	C 木(7SY8/6)	地化	ロクロナデ	ロクロナデ	3/36	石臼輪、体外 スス、底・内離 接合	
50-379	道植外	4G16	山地 帶	山地 帶	5.0			長・石・青	木白(10YH7/4)	地化	カキメ	カキメ	3/36	外志耶	

## 観察表

## 上層・下層・陶磁器

出典 図版番号	通称	地質層	層別	法量(cm)	地質	剖面	調査・手法			進行率	備考				
							長	幅	高さ						
52 394	通積物	3D25.トレンチ	底部層	無白材	12.6	8.5	3.25	石・白	B 明治区(5B7/1)	透光	ロクロナデ	ロクロナデ	23/36	30/36 右側斜面	
52 395	通積物	4GR1.ソコウ	底部層	無白材	12.4	8.2	2.9	石・白	C 明治区(5B7/1)	透光	ロクロナデ	ロクロナデ	2/36	36/36 右側斜面	
52 396	通積物	4G18.トレンチ	底部層	有白材	9.2	長・石〇・白〇	C 黒(5N4/)	透光	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り鋸 ナデ調査 糊剤「X」	ハラ切り鋸 ナデ調査	36/36	36/36 右側斜面	
52 397	通積物	4G31.ソコウ	底部層	有白材	11.8	6.0	3.8	長・石・黒	C 黒(5N4/)	透光	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り鋸 ナデ調査	東京上層「川口台」 右側斜面 内側傾斜 高台	
52 398	通積物	5F1.ソコウ	底部層	無白材	11.6	7.5	3.4	長・石・白	C 黒(5N5/)	透光	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り鋸 ナデ調査	36/36	36/36 右側斜面
52 399	通積物	4GR1.ソコウ	底部層	無白材	12.2	8.0	3.3	チ・白	C 白(5Y7/1)	透光	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り鋸 ナデ調査 糊剤「X」	3/36	21/36 右側斜面
52 400	通積物	4G19.トレンチ	底部層	無白材	12.0	7.6	3.8	石・陶・白	B 青(5B6/1)	透光	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り鋸 ナデ調査	7/36	36/36 黒土層
52 401	通積物	3E1.ソコウ	底部層	無白材				石・白	B 黒(7.5Y6/1)	透光	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り鋸 ナデ調査	黒土層	
52 402	通積物	確認せず	上層	無白材	11.8	5.0	2.8	長・石・黒	にら・白(7.5Y6/3)	透光	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	4/36	27/36 右側斜面 井戸斜面
52 403	通積物	3C18.1.ソコウ	上層層	無白材	5.6	長・石・黒	浅黄	無	無	無	ロクロナデ	無	無	36/36 塗付土層 石斑層	
52 404	通積物	4G8.トレンチ	上層層	黒	(13.8)	長・石・黒	淡黄(5.5Y6/4)	無	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	1/36		
52 405	通積物	5D21.1.ソコウ	上層層	灰質	(23.4)	長・石・黒	淡黄(5Y6/3)	無	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	3/36	西古志野層	
52 406	通積物	3E2.ソコウ	上層層	灰質	15.2	長・石・黒・海・ 白	にら・白(7.5Y6/4)	無	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	1/36		
52 407	通積物	3E3.ソコウ	上層層	灰質	20.4	石・黒	にら・白(7.5Y7/4)	無	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	カキメ	7/36		
52 408	通積物	4D7.原瓦	上層層	灰質	19.8	長・石・黒・チ・ 赤・白	浅黄(7.5Y8/4)	無	ロクロナデ	カキメ強 カキメ強	ロクロナデ	カキメ強 カキメ強	7/36	体外解離 水平傾 斜高台	
52 409	通積物	3D19.日野	底層	肥沃陶質	3.3			白(2.5Y7/1)	無	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り鋸 ナデ調査	28/36	内外解離 水平傾 斜高台
52 410	通積物	3E19.日野	底層	褐泥質	4.0			黒(5N1/)	透光	ロクロナデ	カキメ	カキメ	ハラナデ・ カキメ	4/36	

別表3 土製品観察表

## 上層

出典 図版番号	通積物番号	地質層	層別	法量(cm)	重量(g)	色	底	調査・手法			備考		
								長	幅	厚			
44 235	SH001-P207	3D3	支承	2.45	3.5	17.5	にら・白(10Y9/6/1)	無	4.0	4.0	4.0	無化	
44 236		4P19	底層	柱1	2.8	4.0	2.2	12.5	黒(5Y6/1)	無	4.0	4.0	4.0
44 237	SK57	4H16	上層	4.85	1.2	0.45	0.6	にら・白(7.5Y7/4)	無	4.5	4.5	4.5	無化
44 238	SK92	4E12	2層	1.0	3.7	1.4	0.4	5.5	黒(2.5Y8/1)	無	4.0	4.0	4.0
44 239	SK183	4D24	1層	4.1	1.4			6.0	黒(2.5Y7/2)	無	4.0	4.0	4.0
44 240	SD1210	5P5	1層	3.2	1.5	0.6	5.5	にら・白(10W8/2)	無	4.0	4.0	4.0	無化
44 241	SN229	4E18	6層	4.7	1.2	0.4	4.5	浅黄(10Y8R/3)	無	4.0	4.0	4.0	無化
44 242	SN229	4E23	1層	3.4	1.2	0.35	3.0	黒(2.5Y7/2)	無	4.0	4.0	4.0	無化
44 243	SN229	4E18	1層	3.5	1.25	0.45	4.0	黒(2.5Y7/2)	無	4.0	4.0	4.0	無化
44 244	SN229	4E18	6層	4.1	1.2	0.4	4.0	黒(10Y8R/2)	無	4.0	4.0	4.0	無化
44 245		4D15	土層	4.1	1.75	0.55	8.5	標	(7.5Y7/6)	無	4.0	4.0	4.0
44 246		4C20	底層	1.0	4.2	1.1	4.5	にら・白(10Y8/6/4)	無	4.0	4.0	4.0	無化
44 247		4D18	1層	4.6	1.4	0.4	7.5	黒(2.5Y4/1)	無	4.0	4.0	4.0	無化
44 248		4E22	1層	4.2	1.05	0.35	4.5	浅黄(10Y8R/3)	無	4.0	4.0	4.0	無化
44 249		4E21	1層	4.2	1.3	0.4	5.0	にら・白(10W8/4)	無	4.0	4.0	4.0	無化
44 250		4D20	1層	3.7	1.1	0.35	3.5	にら・白(10W8/4)	無	4.0	4.0	4.0	無化
44 251		SD110	1層	4.0	1.65	0.5	8.0	にら・白(10W8/3)	無	4.0	4.0	4.0	無化
44 252		4E24	1層	2.45	1.25	0.4	2.5	にら・白(10W8/3)	無	4.0	4.0	4.0	無化
44 253		SD113	1層	2.5	1.0	0.4	2.0	浅黄(2.5Y7/3)	無	4.0	4.0	4.0	無化
44 254		SD4	1層	2.2	0.9	4.5	1.0	黒(5Y8/2)	無	4.0	4.0	4.0	無化

## 下層

出典 図版番号	通積物番号	地質層	層別	法量(cm)	重量(g)	色	底	調査・手法			備考	
								長	幅	厚		
50 280		SC9	1層	2.8	1.8	0.5	6.5	にら・白(7.5Y7/3)	無	4.0	4.0	4.0
50 281		4C20	5層	3.2	1.1	0.4	4.0	黒(2.5Y6/2)	無	4.0	4.0	4.0
50 282		SC6	1層	3.9	1.15	0.4	4.5	黒(2.5Y8/2)	無	4.0	4.0	4.0
50 283		4D13	5層	4.1	4.2		31.5	黒(10Y8A/2)	無	4.0	4.0	4.0

別表4 石製品観察表

## 上層

提出図版番号	遺物番号	出土位置			種類	機械	遺存状態	法量(cm)			重量(g)	備考
		通路	グリッド	層位				長	幅	厚		
44	255	SK92		3層	石製品	石墨	ほぼ完形	3.65	3.85	0.8	26.5	石墨
44	256	4E17		4E17	石製品	石器跡	ほぼ完形	4.9	3.3	2.3	45.5	鉛鉛刃
44	257	SK78		3層	石製品	砾石	下端欠	4.5	4	1.5	43.5	
44	258		4C3	3層	石製品	砾石	表面・一部剥	3.8	3.05	0.9	7.5	
44	259	P1-47		5D9	石製品	砾石	上端・一部剥	5.9	3.2	2.2	54	
44	260		5G9	3層	石製品	砾石	上下端・一部欠	5.3	3.5	1.7	47.5	
44	261		4D22	3層	石製品	砾石	ほぼ完形	6.9	13.3	5.2	232	
44	262		4E12	3層	石製品	砾石	上端・側欠	13.3	12.6	8.6	419	

## 下層

提出図版番号	遺物番号	出土位置			種類	機械	遺存状態	法量(cm)			重量(g)	備考
		通路	グリッド	層位				長	幅	厚		
50	384	SK388		3層	石製品	磨石状石製品	ほぼ完形	12.9	16.2	6.0	1910	
50	385	SD3271	4E19		石製品	砾石	上下端・側一部欠	5.8	3.7	0.8	22	
50	386	SD461			石製品	砾石	上下端・側一部欠	4.7	2.7	0.8	16	
51	387	F313	SD13		石製品	砾石	下端欠	5.7	4.7	3.1	83.5	
51	388	SC15	4G15	3層	石製品	砾石	下端欠	4.7	3	1.55	23.0	
51	389		4F18	3層	石製品	磨石状	側一部欠	7.0	4.1	2.4	90.5	

別表5 木製品観察表

## 上層

提出図版番号	遺物番号	出土位置			種類	機械	遺存状態	法量(cm)			自然科學分析(放射性同位素年代測定・樹種同定)試料No.	取上げNo.
		通路	グリッド	層位				長	幅	厚		
45	263	SK901-P10	4E16	木柱	木柱	丸木柱	実	69.5	12.7	10.8	丸木柱	1
45	264	SK901-P112	3D05, 4D5	木柱	木柱	丸木柱	実	70.5	28.1	26.2	丸木柱	3
45	265	SK901-P119	4E11	木柱	木柱	丸木柱	実	57.1	13.1	8.1	丸木柱	4
45	266	SK901-P149	5E6	木柱	木柱	丸木柱	実	63.7	9.1	8.3	丸木柱	6
45	267	SK901-P152	4D10	木柱	木柱	丸木柱	実	96.8	15.8	15.2	丸木柱	7
45	268	SK901-P187	5E1	木柱	木柱	丸木柱	実	43.5	9.5	5.9	丸木柱	8
45	269	SK901-P191	5D4	木柱	木柱	丸木柱	実	90.9	17.0	17.0	丸木柱	9
45	270	SK901-P192	5D15	木柱	木柱	丸木柱	実	165.0	12.3	13.4	丸木柱	10
45	271	SK901-P194	5D8	木柱	木柱	丸木柱	実	66.6	13.5	11.1	丸木柱	11
45	272	SK901-P197	4E22	木柱	木柱	丸木柱	実	53.6	12.0	8.2	丸木柱	12
45	273	SK901-P202	4D17	木柱	木柱	丸木柱	実	41.2	10.8	12.0	丸木柱	14
45	274	SK901-P203	4D17	木柱	木柱	丸木柱	実	41.3	16.7	16.8	丸木柱	15
45	275	SK901-P204	4D18	木柱	木柱	丸木柱	実	51.3	17.4	16.4	丸木柱	16
45	276	SK901-P206	4D13	木柱	木柱	丸木柱	実	77.6	31.9	27.5	丸木柱	17
45	277	SK901-P207	5D3	木柱	木柱	丸木柱	実	91.7	12.2	14.4	丸木柱	18
46	278	SK901-P216	SE2-3	木柱	木柱	丸木柱	実	95.0	10.7	11.2	丸木柱	19
46	279	SK901-P232	4D14	木柱	木柱	丸木柱	実	64.2	13.8	13.5	丸木柱	20
46	280	SK901-P238	3D20	木柱	木柱	丸木柱	実	42.7	8.7	8.0	丸木柱	21
46	281	SK901-P383	4E17	木柱	木柱	丸木柱	実	55.8	13.9	8.6	丸木柱	23
46	282	SK903-P422	4C24	木柱	木柱	丸木柱	実	75.9	14.6	16.2	丸木柱	24
46	283	SK903-P503	5C14	木柱	木柱	丸木柱	実	58.7	16.0	11.2	丸木柱	26
46	284	SE10	SC9	B	神社製品	上端欠	13.0	0.6	0.5	神社製品	2	
46	285	SE10	SC9	B	神社製品	上端欠	16.7	1.3	1.0	神社製品	3	
46	286	SE10	SC9	B	神社製品	下端・側一部欠	21.9	2.5	1.4	神社製品	4	
46	287	SE10	SC9	B	神社製品	欠損	19.3	0.6	0.4	神社製品	1	
46	288	SE10	SC9	B	円筒形陶製品 (植物の芯)	半分欠	8.2	0.8	0.5	円筒形陶製品 (植物の芯)	5	
46	289	SE40		4	神社製品	下端・側一部欠	14.8	0.6	0.4	神社製品	2	
46	290	SE443	SD7	2	円筒形陶製品 (植物の芯)	欠損	16.7	0.9	0.8	円筒形陶製品 (植物の芯)	1	
46	291	SK229	4E14	2	円筒形陶製品 (植物の芯)	端一部欠	19.1	0.8	0.5	円筒形陶製品 (植物の芯)		

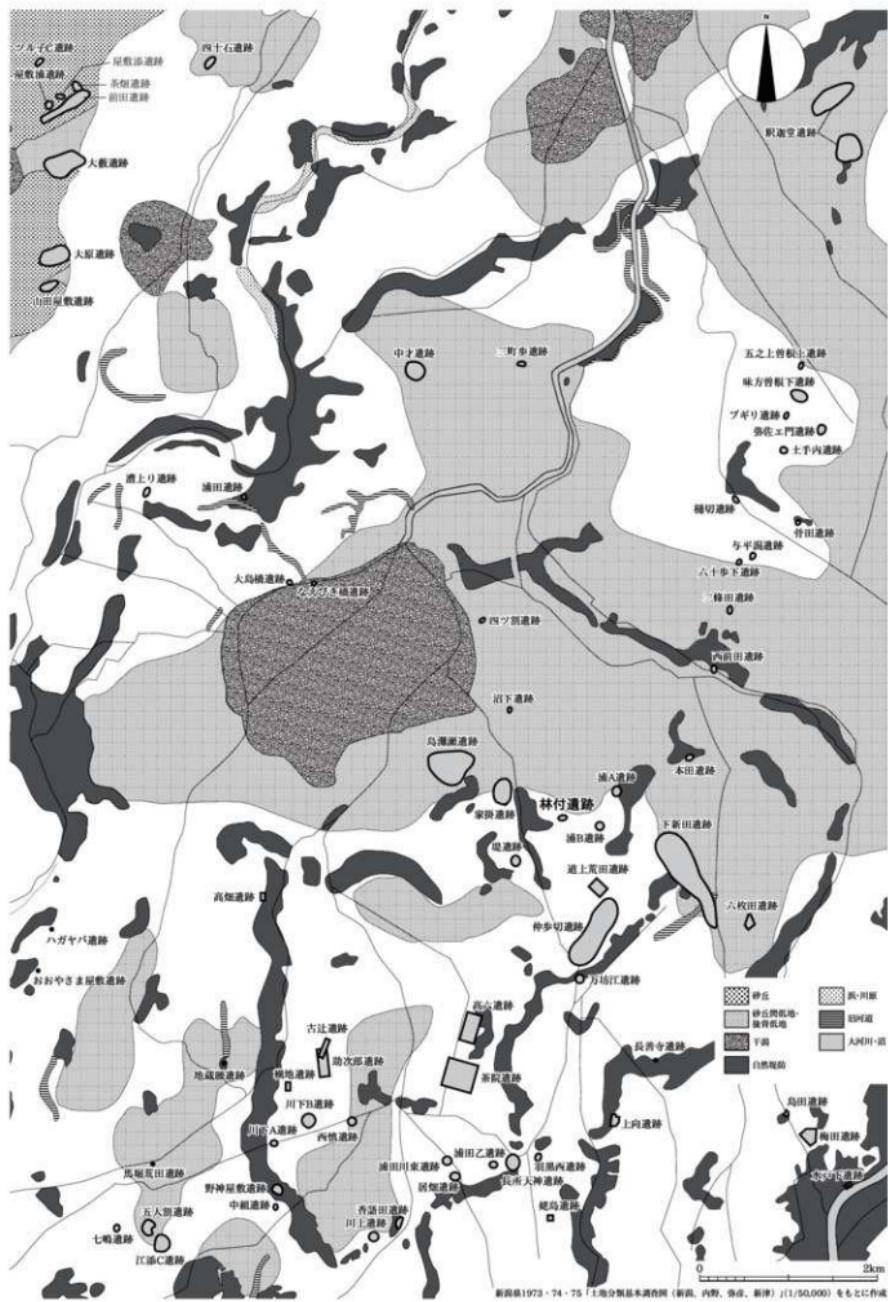
## 下層

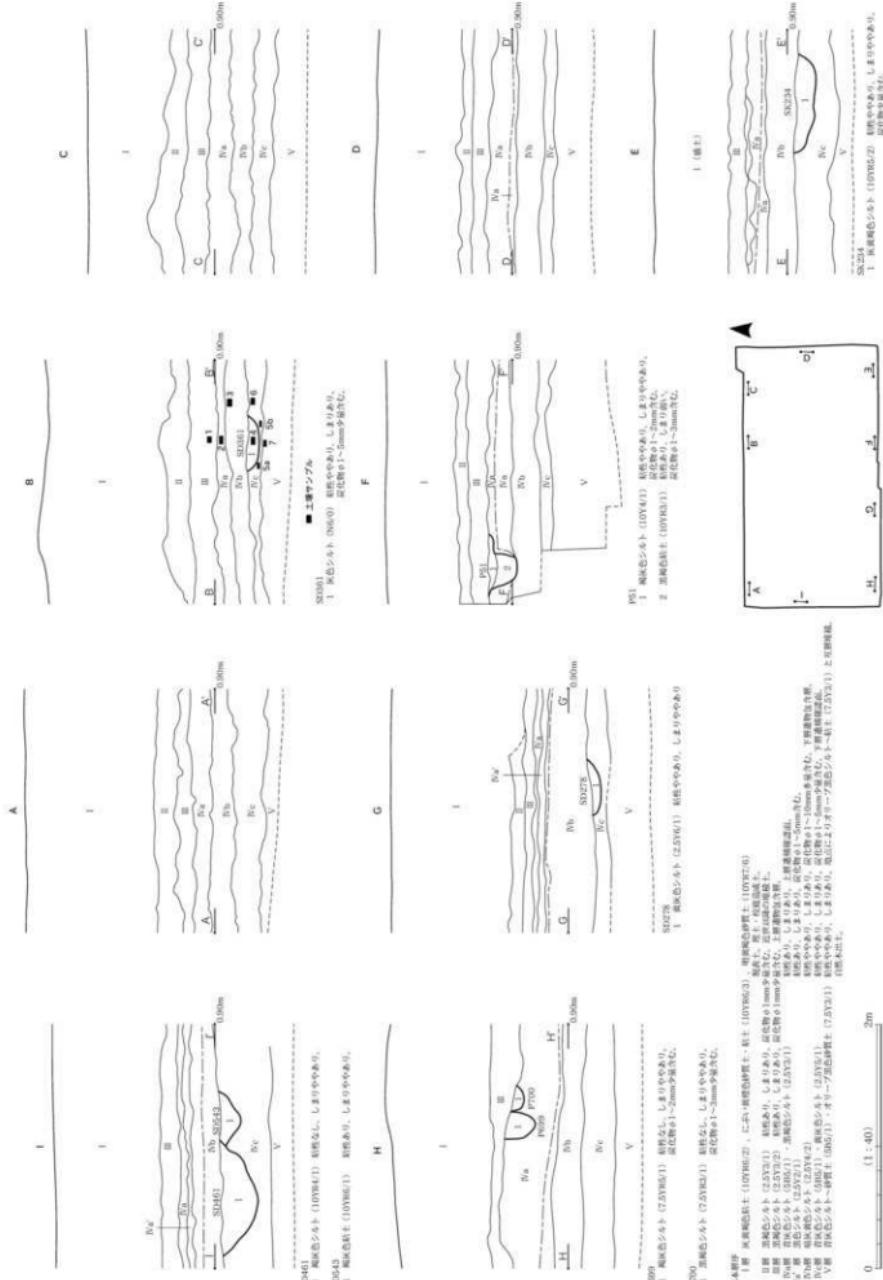
提出図版番号	遺物番号	出土位置			種類	機械	遺存状態	法量(cm)			自然科學分析(放射性同位素年代測定・樹種同定)試料No.	取上げNo.
		通路	グリッド	層位				長	幅	厚		
51	390	SK906-P329	3F22	木柱	木柱	丸木柱	平	69.4	12.0	10.8	丸木柱	22
51	391	SK907-P426	3F12-13	木柱	木柱	丸木柱	平	33.7	11.7	11.1	コナラ属コナラ	25
51	392	PS10	3F16-17	木柱	木柱	丸木柱	平	46.2	12.4	8.4	コナラ属コナラ	27
51	393	PS69	SE8	木柱	木柱	丸木柱	平	24.5	9.5	6.0	丸木柱	28

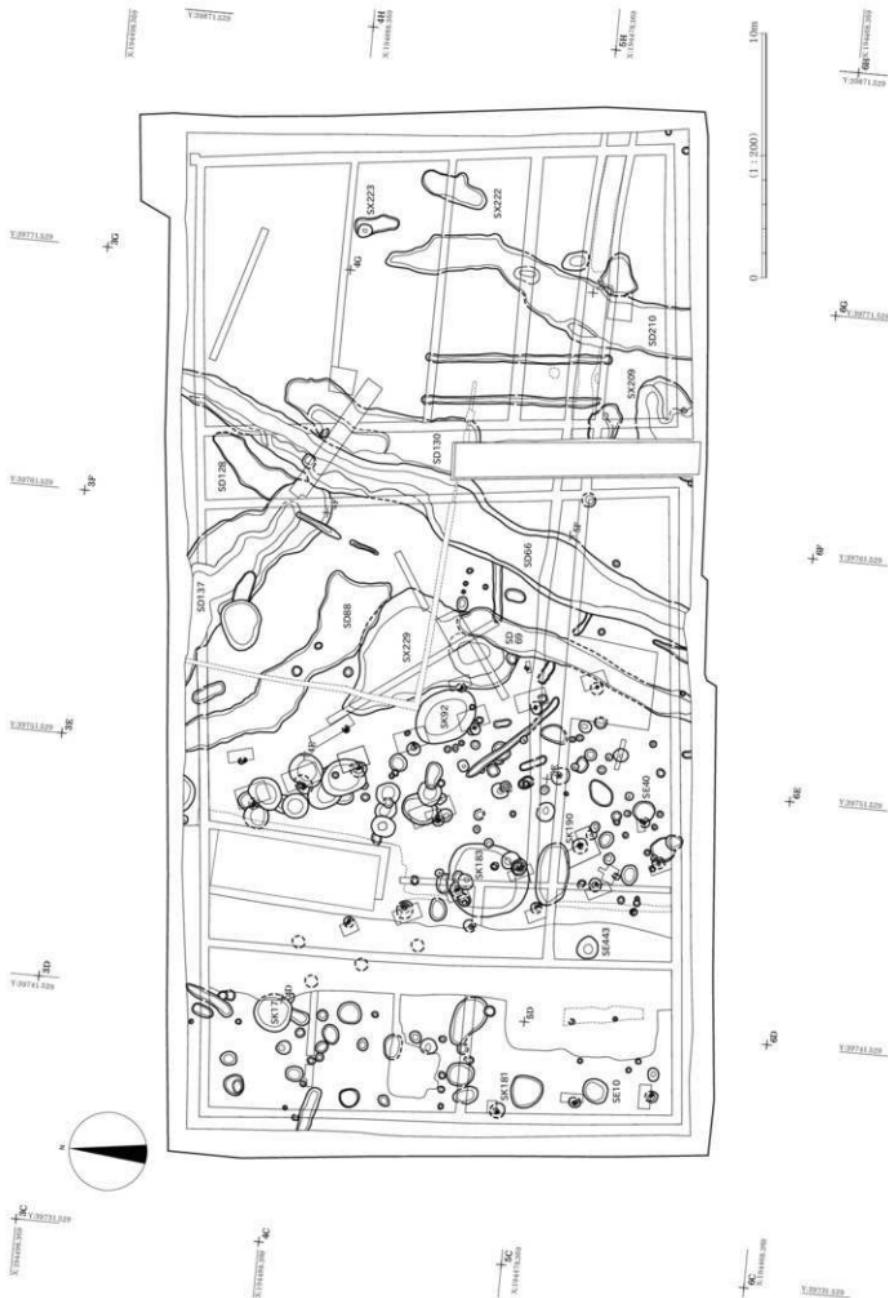
別表6 金属製品観察表

提出図版番号	遺物番号	出土位置			種類	機械	遺存状態	法量(cm)			重量(g)	鉢鉢年	備考
		グリッド	層位	鉢名				外径	内径	厚			
46	292	4E17	3層	大型元寶	2.4	0.7	0.15	2.5			1023年	完形	
46	293	4G16	3層		2.2	0.7	0.05	0.5			半分欠損・薄鋼板	しづい	

図 版

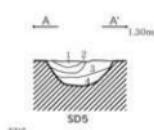




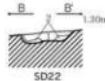


図版 4

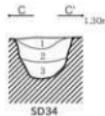
上層平面分割図 1



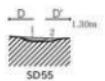
SD5  
1. 塗炭黃色粘土 (2.5Y4/2) 動性あり。しまりあり。  
2. 塗炭黃色粘土 (2.5Y4/2) 動性あり。しまりあり。  
3. 塗炭黃色粘土 (2.5Y4/2) 動性あり。しまりあり。  
4. 塗炭色シルト (10YR8/1) 動性やあり。しまりややあり。



SD22  
1. 塗炭色シルト (10YR8/2) 動性ややあり。  
2. 塗炭色粘土 (10YR8/4) 動性あり。  
3. にせい塗炭色粘土 (10YR8/3) 動性ややあり。



SD34  
1. 塗炭色シルト (10YR8/1) 動性ややあり。  
2. 塗炭色シルト (10YR8/1) 動性ややあり。  
3. にせい塗炭色粘土 (10YR8/3) 動性ややあり。  
4. 塗炭色シルト (10YR8/1) 動性ややあり。

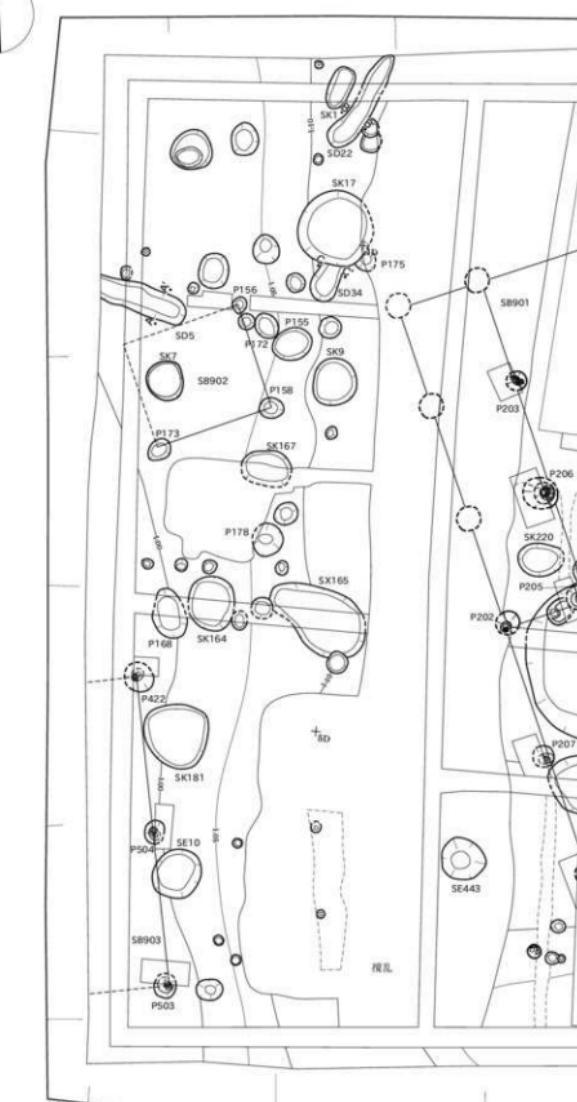


SD55  
1. 塗炭色シルト (2.5Y4/1) 動性ややあり。  
2. 塗炭黃色シルト (2.5Y4/2) 動性ややあり。  
3. 塗炭黃色粘土 (2.5Y4/2) 動性ややあり。  
4. 塗炭色シルト (2.5Y4/2) 動性ややあり。

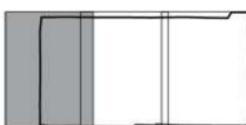


SD56  
1. オリーブ色シルト (SY3/1) 1~6mmの混含。  
2. 灰色粘土 (SY4/1) 動性ややあり。  
3. 灰色粘土 (SY4/1) 動性ややあり。  
4. 灰色粘土 (SY4/1) 動性ややあり。

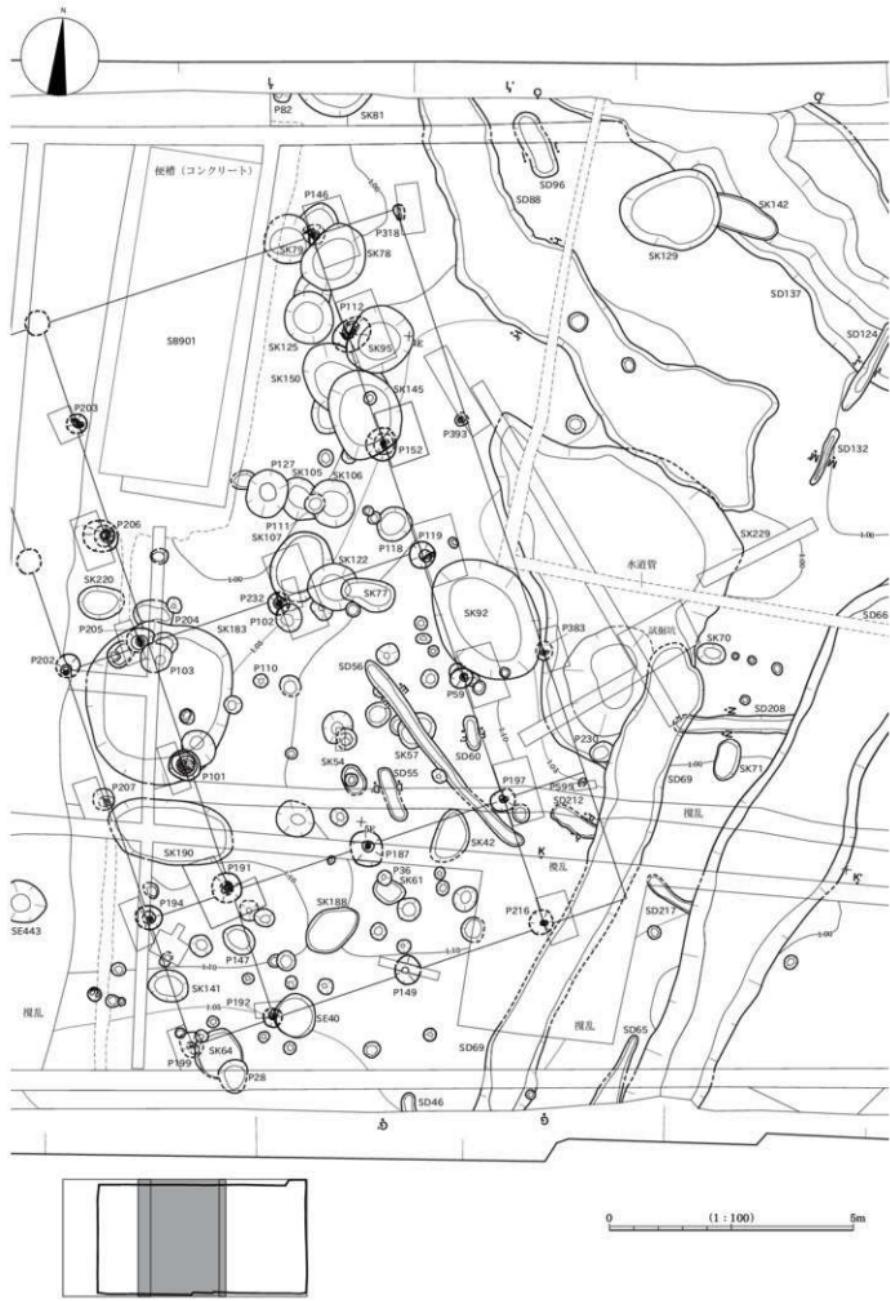
SD60  
1. 塗炭色シルト (7.5Y4/1) 動性ややあり。しまりあり。  
2. 塗炭色シルト (7.5Y4/2) 動性ややあり。しまりややあり。



0 (断面図 1:40) 2m

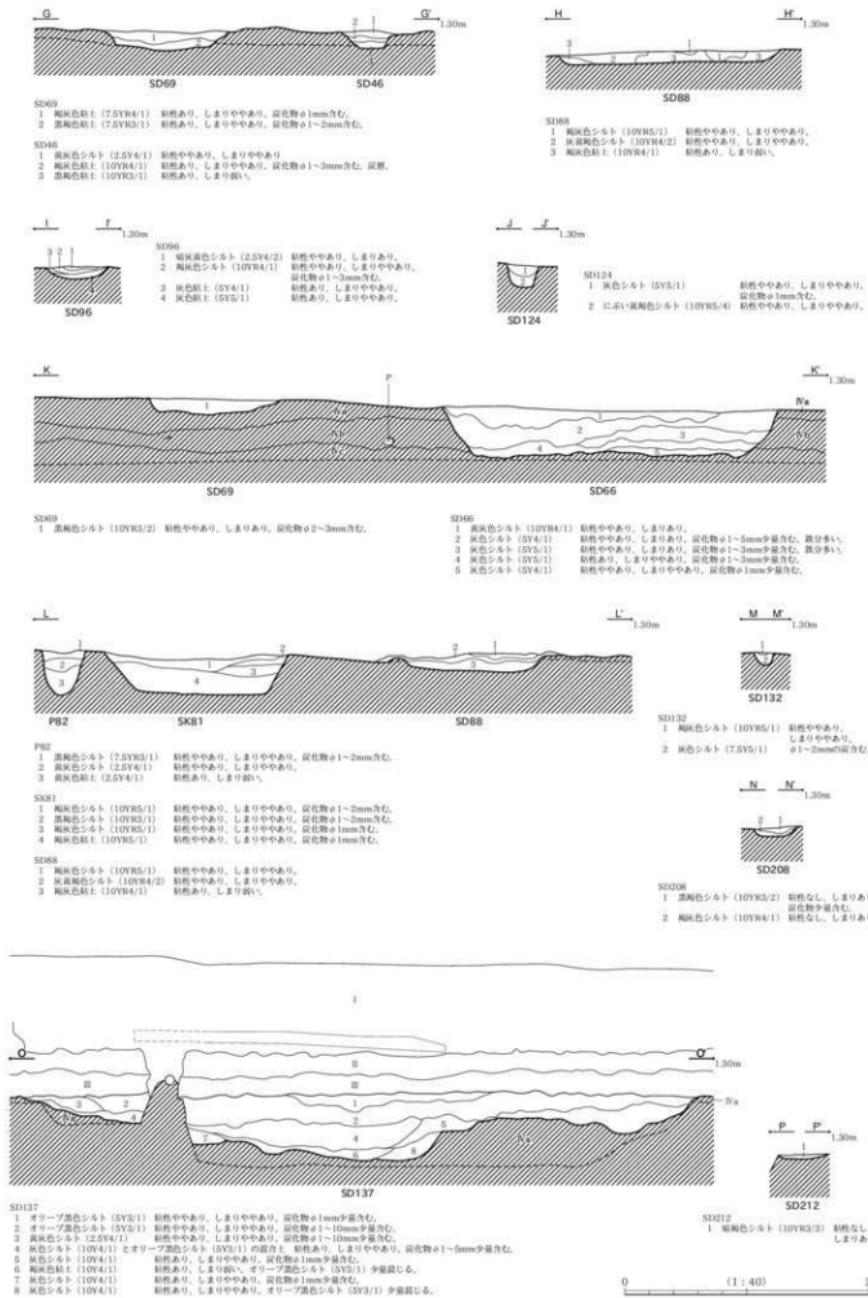


0 (平面図 1:100) 5m

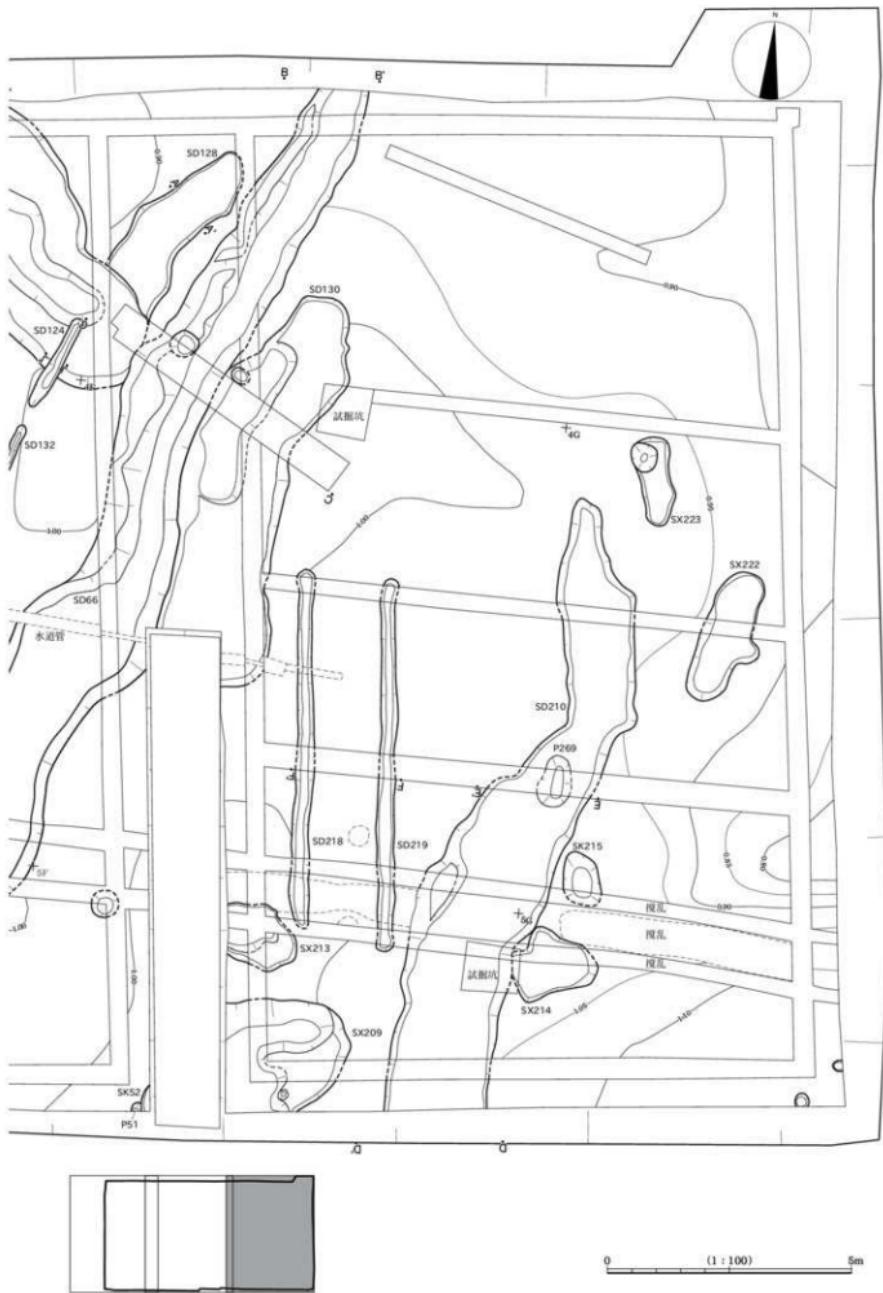


図版 6

上層遺構個別図 1 SD (1)

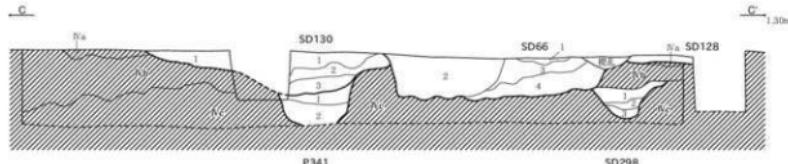
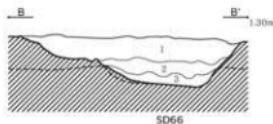
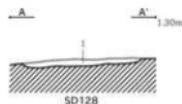


0 (1:40) 2m

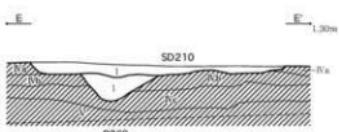
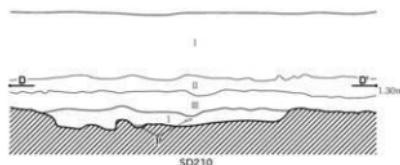


図版 8

上層遺構個別図 2 SD (2)

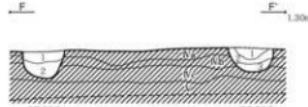


- SD66  
1. 黄褐色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり。しまりやや。  
2. 黄褐色シルト (10YR4/1) と 黄褐色シルト (10YR5/1) の混生土  
3. 黄褐色シルト (5YV4/1) 粘性ややあり。しまりやや。炭化物φ1~5mm少量含む。鉄分多い。  
4. 黄褐色シルト (5YB/1) 粘性ややあり。しまりやや。炭化物φ1~3mm少量含む。鉄分多い。
- SD130  
1. 黄褐色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり。しまりやや。炭化物φ1~5mm少量含む。  
2. 黄褐色シルト (10YR3/1) 粘性ややあり。しまりやや。炭化物φ1~5mm少量含む。  
3. 黄褐色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり。しまりやや。炭化物φ1~5mm少量含む。

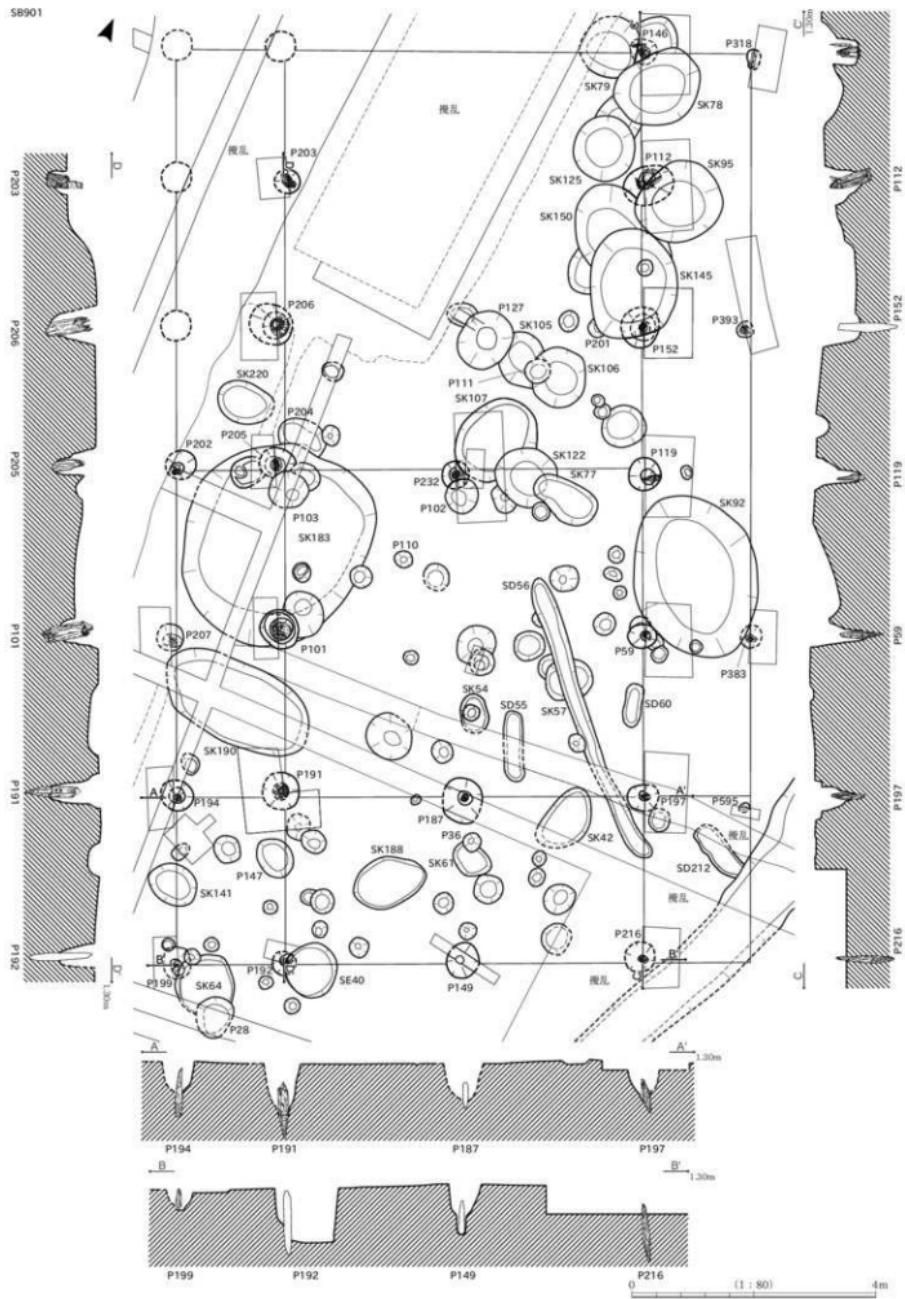


- SD210  
1. 黄褐色粘土 (N6/1) 粘性あり。しまりややあり。暗灰色粘土多量混じる。黄色鉀質土少量混じる。炭化物φ1~2mm少量含む。

- SD210  
1. 黄褐色粘土 (N6/1) 粘性あり。しまりややあり。暗灰色粘土多量混じる。黄色鉀質土少量混じる。炭化物φ1~2mm少量含む。
- P269  
1. 黄褐色粘土 (N5/1) 粘性あり。しまりややあり。炭化物φ2~10mm含む。

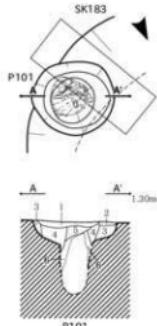


- SD219  
1. 黄褐色シルト (N6/1) 粘性ややあり。しまりやや。黄色鉀質土少量混じる。炭化物φ1~5mm少量含む。  
2. 黄褐色粘土 (N5/1) 粘性あり。しまりやや。黄色鉀質土少量混じる。炭化物φ5~10mm少量含む。
- SD218  
1. 黄褐色シルト (N6/1) 粘性ややあり。しまりやや。黄色鉀質土少量混じる。炭化物φ2~5mm少量含む。  
2. 黄褐色シルト (N5/1) 粘性ややあり。しまりやや。炭化物φ5~10mm少量含む。  
3. 黄褐色粘土 (N5/1) 粘性あり。しまりやや。炭化物φ5~10mm少量含む。

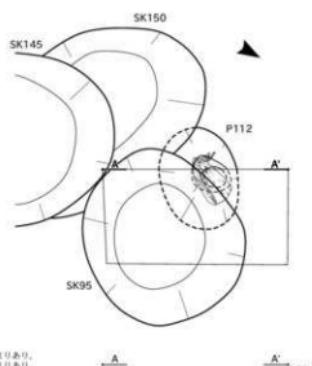


図版 10

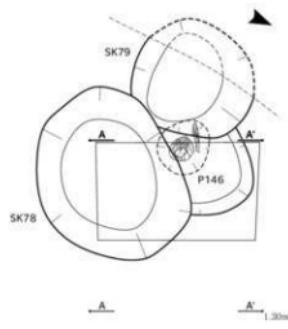
上層造構個別図 4 SB (2) SB901



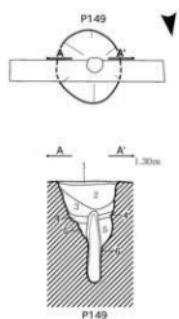
- P101  
 1 黒褐色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり。しまりあり。  
 2 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性ややあり。しまりあり。  
 3 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性ややあり。しまりあり。  
 4 黒褐色粘土 (10YR5/1) 粘性あり。しまりややあり。  
 5 黑灰色粘土 (10YR4/1) 粘性ややあり。しまりあり。  
 6 黑灰色粘土 (10YR4/1) 粘性あり。しまり弱い。



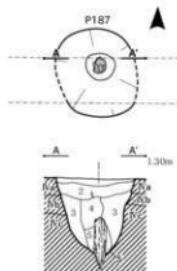
- P112  
 1 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性ややあり。しまりあり。  
 2 黒褐色シルト (10YR3/1) 粘性ややあり。しまりややあり。  
 3 黑灰色粘土 (10YR4/1) 粘性ややあり。しまりあり。  
 4 黑灰色粘土 (10YR4/1) 粘性あり。しまり弱い。



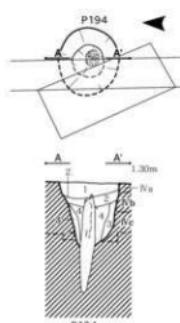
- P146  
 1 解灰褐色シルト (5G6/1) 粘性ややあり。しまりややあり。  
 2 黑灰色粘土 (N5/1) 粘性あり。しまり弱い。



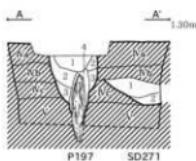
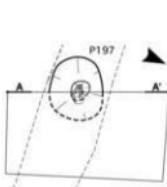
- P149  
 1 に赤い黄褐色シルト (10YR4/3) 粘性ややあり。しまりややあり。  
 2 黑灰色シルト (10YR5/2) 粘性ややあり。しまりややあり。  
 3 黑褐色粘土 (2.5Y4/2) 粘性あり。しまりややあり。  
 4 黑褐色粘土 (10YR4/1) 粘性あり。しまりややあり。  
 5 黑色粘土 (10YR2/1) 粘性あり。しまり弱い。



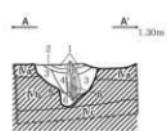
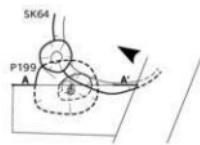
- P187  
 1 黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性ややあり。しまりややあり。  
 2 黑褐色粘土 (2.5Y4/2) 粘性ややあり。しまりややあり。  
 3 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性あり。しまり弱い。  
 4 黑褐色粘土 (10YR4/1) 粘性あり。しまりややあり。  
 5 黑色粘土 (10YR2/1) 粘性あり。しまり弱い。



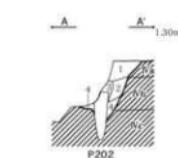
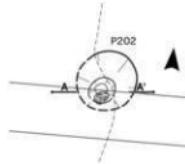
- P194  
 1 黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性ややあり。しまりややあり。  
 2 黑褐色粘土 (10YR4/2) 粘性あり。しまりややあり。  
 3 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性あり。しまり弱い。  
 4 黑色粘土 (10YR2/1) 粘性あり。しまり弱い。



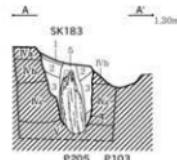
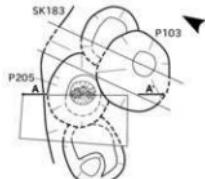
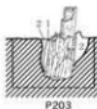
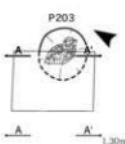
- P197  
 1 黄褐色シルト (10YR0/1) 剥離やあり。しまりややあり。  
 2 灰色粘土 (2.5Y5/1) 剥離やあり。しまりややあり。  
 3 灰白色粘土 (NS3/1) 剥離あり。しまりややあり。  
 4 褐色粘土 (N3/1) 剥離あり。しまり弱い。  
 5 灰色粘土 (NS1/1) 剥離あり。しまり弱い。
- SD271  
 1 黄色シルト (SY4/1) 剥離ややあり。しまりややあり。  
 2 灰色粘土 (2.5Y5/1) 剥離ややあり。しまりややあり。  
 3 灰白色粘土 (NS1/1) 剥離あり。しまりややあり。  
 4 黄褐色粘土 (N3/1) 剥離あり。しまり弱い。  
 5 灰色粘土 (NS1/1) 剥離あり。しまり弱い。



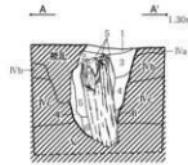
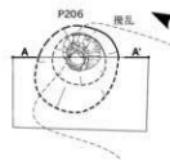
- P199  
 1 褐黃色シルト (2.5Y4/2) 剥離ややあり。しまりややあり。  
 2 灰色シルト (NS5/1) 剥離ややあり。しまりややあり。  
 3 褐黃色粘土 (2.5Y3/2) 剥離ややあり。しまりややあり。  
 4 褐黃色粘土 (2.5Y3/2) 剥離ややあり。しまりややあり。  
 5 灰色粘土 (N4/1) 剥離あり。しまり弱い。  
 6 灰色粘土 (NS1/1) 剥離あり。しまり弱い。



- P202  
 1 黒色シルト (N4/1) 剥離ややあり。しまりややあり。  
 2 黄褐色シルト (2.5Y5/1) 剥離ややあり。しまりややあり。  
 3 褐色粘土 (N3/1) 剥離あり。しまり弱い。  
 4 黑色粘土 (NS1/1) 剥離あり。しまり弱い。



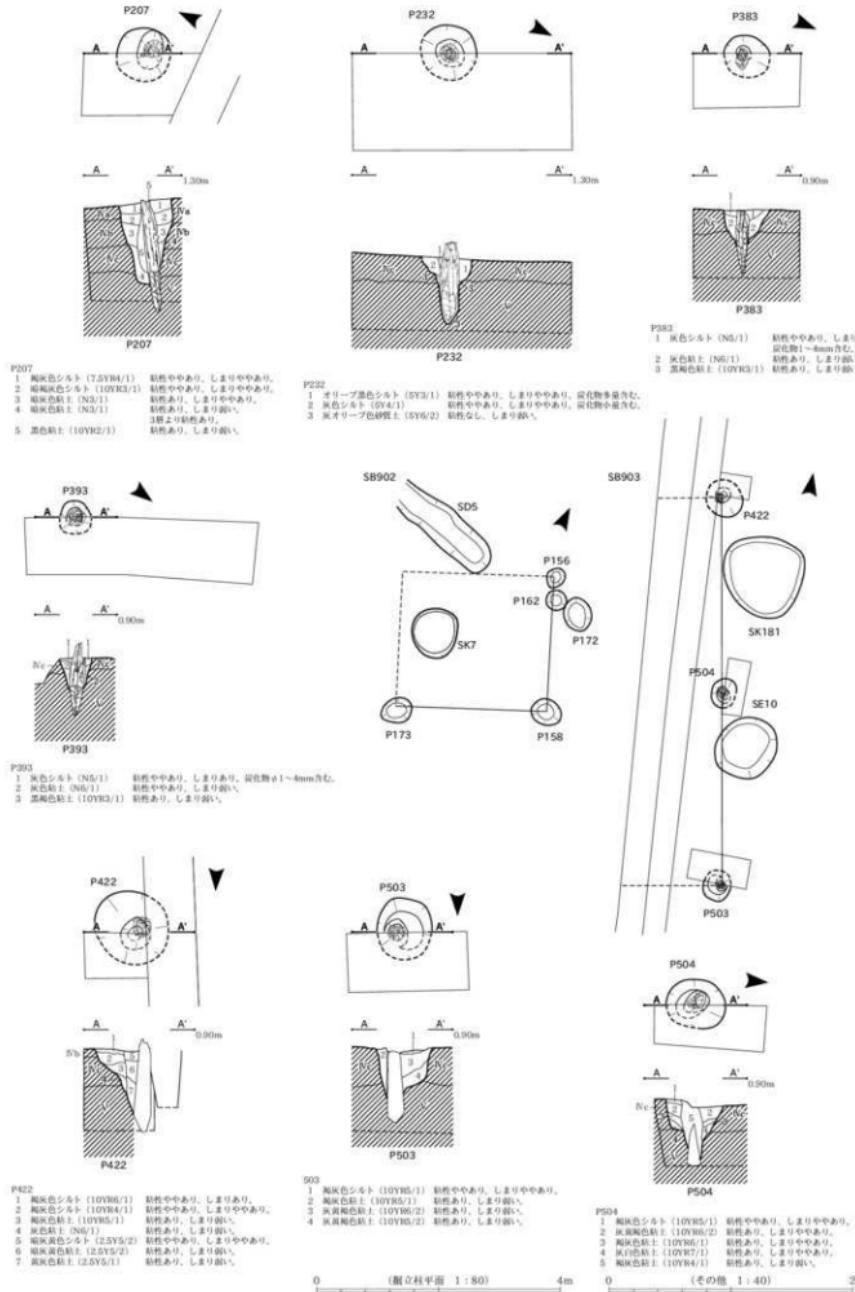
- P205  
 1 褐黃色シルト (10YR0/1) 剥離ややあり。しまりややあり。  
 2 褐色シルト (2.5Y6/1) 剥離ややあり。しまりややあり。  
 3 褐色粘土 (N3/1) 剥離ややあり。しまりややあり。  
 4 灰色粘土 (NS1/1) 剥離あり。しまりややあり。  
 5 褐黃色粘土 (10YR3/1) 剥離あり。しまり弱い。

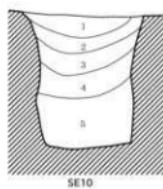
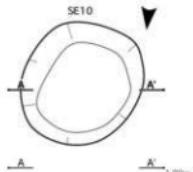


- P206  
 1 褐黃色シルト (10YR5/2) 剥離ややあり。しまりややあり。  
 2 褐黃色シルト (2.5Y6/1) 剥離ややあり。しまりややあり。  
 3 褐色粘土 (N3/1) 剥離ややあり。しまりややあり。  
 4 褐色粘土 (10YR3/1) 剥離あり。しまり弱い。  
 5 褐色粘土 (N4/1) 剥離あり。しまり弱い。

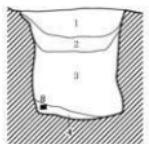
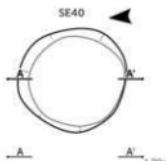
図版 12

上層遺構個別図 6 SB (4) SB901・902・903

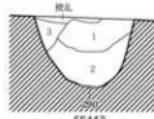
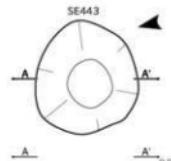




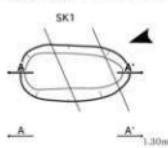
- SE10  
1 黄褐色粘土 (N3/0) 粘性あり、しまりやあり。固結物φ1~3mm多量含む。  
2 黒色粘土 (N4/0) 粘性あり、しまりやあり。固結物φ1~3mm少量含む。  
3 黑褐色粘土 (N4/0) 粘性あり、しまりやあり。固結物φ1~3mm少量含む。  
4 黑褐色粘土 (N3/0) 粘性あり、しまりやあり。固結物φ1~3mm少量含む。  
5 黑褐色粘土 (N3/0) 粘性あり、しまりやなし。固結物φ1~3mm少量含む。



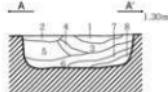
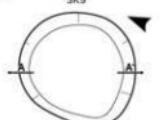
- SE40  
1 黄褐色シルト (10YB2/2) 粘性やあり、しまりややあり。  
2 黑褐色粘土 (10Y4/1) 粘性あり、しまりややあり。  
3 黑褐色粘土 (10YH2/1) 粘性あり、しまりややあり。  
4 黑色粘土 (10YH2/1) 粘性あり、しまりややあり。本剖面多量含む。



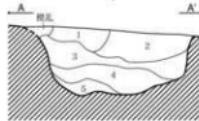
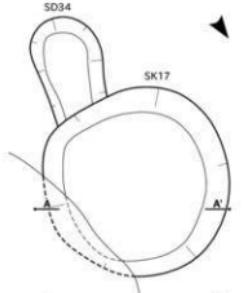
- SE443  
1 黑褐色粘土 (10YH3/2) 粘性あり、しまりややあり。  
2 黑褐色粘土 (10YH3/1) 粘性ややあり。黒褐色粘土ブロック混じる。  
3 黑褐色粘土 (2.5Y6/2) 粘性あり、しまりややあり。



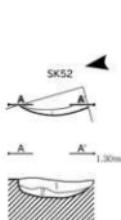
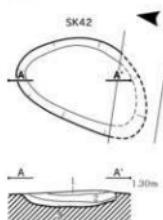
- SK1  
1 褐灰黄色粘土 (10YR3/3) 粘性あり、しまりやあり。



- SK9  
1 黃褐色粘土 (7.5YK3/1)  
2 褐灰黄色シルト (7.5YR5/3)  
3 黑褐色粘土 (7.5YH4/1)  
4 黑褐色粘土 (7.5YH3/1)  
5 黑褐色粘土 (7.5YH3/1)  
6 にぶい褐灰黄色シルト (7.5YR5/3)  
7 黃褐色シルト (7.5YH3/1)  
8 黄褐色粘土 (7.5YR5/6)

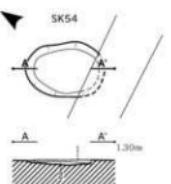


- SK7  
1 褐灰黄色粘土 (2.5Y4/2) 粘性あり、しまりやあり。固結物φ1~4mm少量含む。



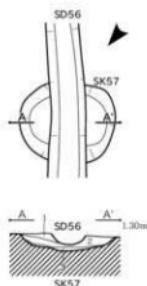
- SK42  
1 黄褐色シルト (10YH4/1)  
2 にぶい黄褐色シルト (10YH4/3) 粘性ややあり、しまりややあり。固結物φ1~2mm含む。  
3 にぶい黄褐色シルト (10YH5/3) 粘性ややあり、しまりややあり。固結物φ1~2mm含む。

- SK52  
1 黄褐色粘土 (10YH3/1) 粘性あり、しまりややあり。固結物φ1~3mm含む。  
2 黄褐色シルト (2.5Y5/3) 粘性ややあり、しまりややあり。固結物φ1~2mm含む。



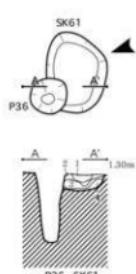
- SK54  
1 黄褐色シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。固結物φ1~10mm多量含む。  
2 褐灰黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性ややあり、しまりややあり。固結物φ1~3mm含む。

0 (1:40) 2m



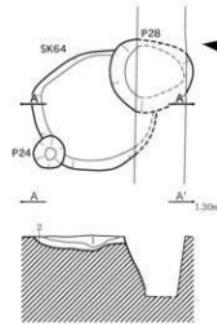
SK57

- 1 黄色シルト (7.0YR4/6) 粘性中やあり。しまりややあり。  
炭化物±1mm含む。
- 2 黒褐色シルト (7.0YR3/3) 粘性ややあり。しまりややあり。
- 3 黄色シルト (7.0YR4/3) 粘性ややあり。しまりややあり。



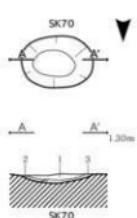
SK61

- 1 黒褐色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり。しまりややあり。  
炭化物±1mm含む。
- 2 にい黄褐色シルト (10YR4/3) 粘性ややあり。しまりややあり。  
炭化物±1mm含む。
- 3 黄色シルト (10YR1.7/1) 粘性ややあり。しまりややあり。
- 4 黑褐色シルト (10YR4/2) 粘性ややあり。しまりややあり。



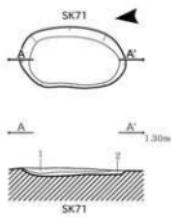
SK64

- 1 オリーブ褐色シルト (5YR3/1) 粘性ややあり。しまりややあり。  
炭化物±1mm含む。
- 2 黄色粘土 (5Y4/1) 粘性ややあり。しまりややあり。  
炭化物±1mm含む。



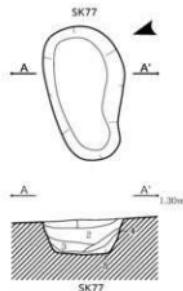
SK70

- 1 黄褐色シルト (10YR4/3) 粘性中やあり。しまりややあり。
- 2 黄褐色シルト (10YR2/1) 粘性ややあり。しまりややあり。
- 3 黄褐色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり。しまりややあり。



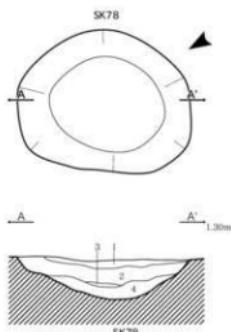
SK71

- 1 黑褐色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり。しまりあり。  
炭化物±1~3mm含む。
- 2 黄色シルト (5Y4/1) 粘性あり。しまりややあり。  
炭化物±1~2mm含む。



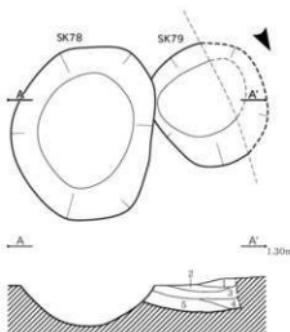
SK77

- 1 黑褐色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり。しまりややあり。  
炭化物±1~2mm含む。
- 2 黄色シルト (5Y4/1) 粘性ややあり。しまりややあり。
- 3 黑色粘土 (10YR2/1) 粘性あり。しまり弱い。
- 4 黑褐色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり。しまりややあり。
- 5 黑褐色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり。しまりややあり。  
炭化物±1~2mm含む。



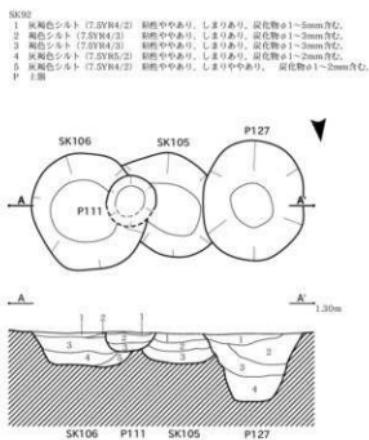
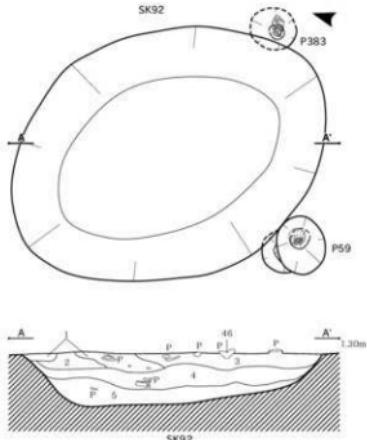
SK78

- 1 黑褐色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり。しまりあり。炭化物±2mm含む。
- 2 黑褐色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり。しまりややあり。炭化物±1~2mm含む。
- 3 黑褐色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり。しまりややあり。炭化物±1~3mm多量含む。
- 4 黑色粘土 (10YR5/1) 粘性ややあり。しまり弱い。炭化物±1~2mm含む。



SK79

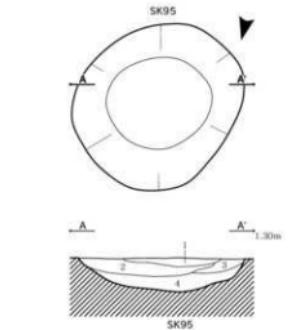
- 1 黑褐色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり。しまりややあり。
- 2 黑褐色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり。しまりややあり。
- 3 黑褐色シルト (10YR2/2) 粘性ややあり。しまりややあり。炭化物±1~2mm含む。
- 4 黑色粘土 (10YR5/1) 粘性ややあり。しまり弱い。炭化物±1~2mm含む。
- 5 黑オリーブ色シルト (5Y5/2) 粘性ややあり。しまり弱い。



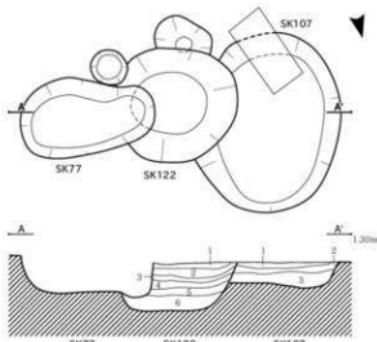
SK105  
1 黄褐色シルト (7.5YR4/2) 剥離ややあり、しまりあり。炭化物φ1~3mm含む。  
2 黄褐色シルト (7.5YR4/2) 剥離ややあり、しまりあり。炭化物φ1~3mm含む。  
3 黄褐色シルト (7.5YR4/2) 剥離ややあり、しまりあり。炭化物φ1~3mm含む。  
4 黄褐色シルト (7.5YR4/2) 剥離ややあり、しまりあり。炭化物φ1~3mm含む。  
P 黄褐色粘土 (7.5YR4/2) 剥離ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。

SK111  
1 黄褐色シルト (7.5YR4/1) 剥離ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~4mm含む。  
2 黄褐色シルト (7.5YR4/1) 剥離ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~4mm含む。  
3 黄褐色シルト (7.5YR4/1) 剥離ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~4mm含む。  
4 黄褐色シルト (7.5YR4/1) 剥離ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~4mm含む。

P127  
1 黄褐色シルト (7.5YR4/1) 剥離ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。  
2 黄褐色シルト (7.5YR4/1) 剥離ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。  
3 黄褐色シルト (7.5YR4/1) 剥離ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。  
4 黄褐色粘土 (7.5YR4/1) 剥離ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。

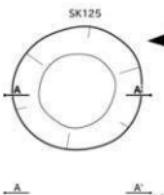


SK95  
1 黄褐色シルト (10YR6/1) 剥離ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~4mm含む。  
2 黄褐色シルト (10YR6/1) 剥離ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。  
3 黄褐色シルト (10YR6/2) 剥離ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。  
4 黄褐色粘土 (10YR6/1) 剥離ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。

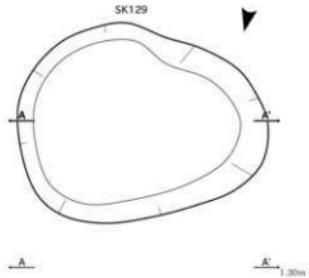


SK107  
1 黄褐色シルト (7.5YR3/1) 剥離ややあり、しまりあり。炭化物φ1~2mm含む。  
2 黄褐色シルト (7.5YR4/1) 剥離ややあり、しまりややあり。  
3 黄褐色粘土 (10YR4/1) 剥離あり、しまりややあり。

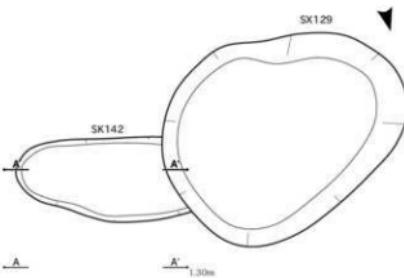
SK122  
1 黄褐色シルト (7.5YR5/1) 剥離ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。  
2 にじぬ黄褐色シルト (10YR5/3) 剥離ややあり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。  
3 黄褐色粘土 (10YR4/1) 剥離あり、しまりややあり。  
4 黄褐色粘土 (2.5YR4/1) 剥離あり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。  
5 黄褐色粘土 (2.5YR4/1) 剥離あり、しまりややあり。  
6 黄褐色粘土 (2.5YR4/1) 剥離あり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。



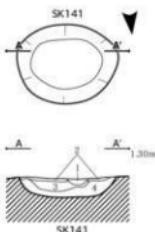
SK125  
1 黄褐色シルト (2.5Y3/1) 剥離ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~6mm含む。  
2 黄褐色粘土 (7.5Y5/1) 剥離あり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。  
3 灰色粘土 (7.5Y6/1) 剥離あり、しまりややあり。



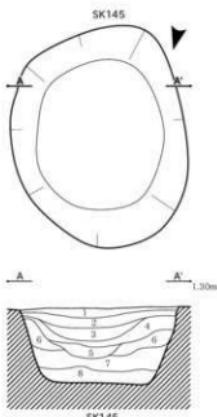
SK129  
1 黄色黄色シルト (2.5V4/2) 粘性ややあり。しまりややあり。炭化物φ1mm含む。  
2 黒色シルト (2.5V3/1) 粘性ややあり。しまり弱い。腐根  
3 黄褐色シルト (2.5V5/1) 粘性ややあり。しまりややあり。炭化物φ1mm含む。



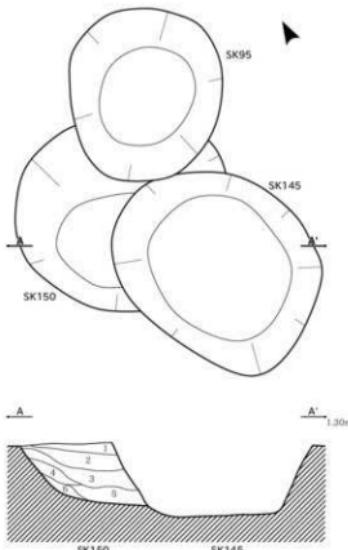
SK142  
1 黑褐色シルト (10YR3/1) 粘性ややあり。しまりあり。炭化物φ1~10mm多量含む。  
2 に述べ黄褐色シルト (10YR4/3) 粘性ややあり。しまりややあり。炭化物φ1mm含む。



SK141  
1 黄褐色シルト (10YB4/1) 粘性ややあり。しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。  
2 黑褐色シルト (10YR3/1) 粘性ややあり。しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。  
3 黑褐色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり。しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。  
4 灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり。しまりややあり。炭化物φ1~4mm含む。

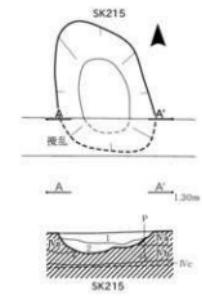
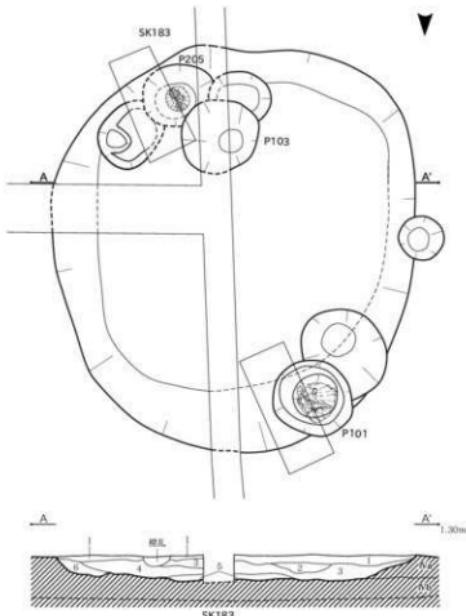


SK145  
1 黑色シルト (7.5Y5/1) 粘性ややあり。しまりややあり。  
2 黑色シルト (5Y6/1) 粘性ややあり。しまりややあり。  
3 黑色シルト (3Y4/1) 粘性ややあり。しまり弱い。炭化物φ1~4mm含む。  
4 黑色シルト (10YR2/1) 粘性ややあり。しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む (3層に比べ少なし)。  
5 黑色シルト (10YR2/1) 粘性ややあり。しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。  
6 黑色粘土 (2.5Y5/1) 粘性あり。しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。  
7 黑色粘土 (5Y4/1) 粘性あり。しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。  
8 黑色粘土 (5Y6/1) 粘性あり。しまりややあり。炭化物φ1mm含む。

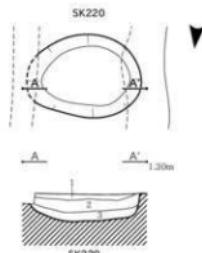
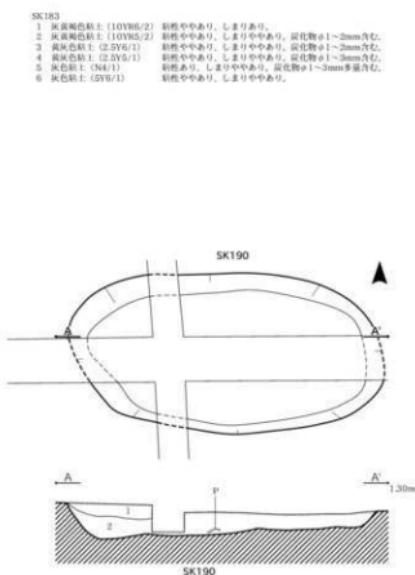


SK150  
1 黑色シルト (7.5Y5/1) 粘性ややあり。しまりややあり。  
2 黑色シルト (5Y6/1) 粘性ややあり。しまりややあり。  
3 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性あり。しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。  
4 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性あり。しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。  
5 オリーブ黒色粘土 (5Y3/1) 粘性あり。しまりややあり。炭化物φ1mm含む。  
6 黑色粘土 (5Y5/1) 粘性あり。しまりややあり。炭化物φ1mm含む。

0 (1:40) 2m

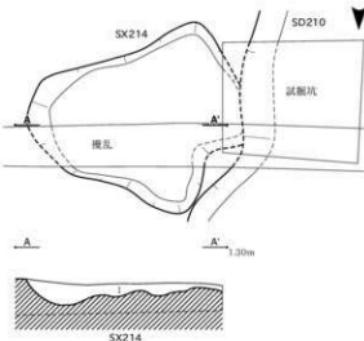
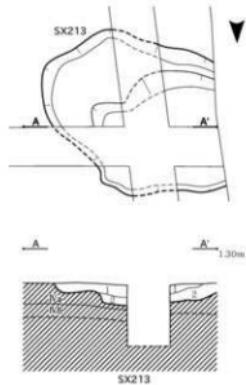
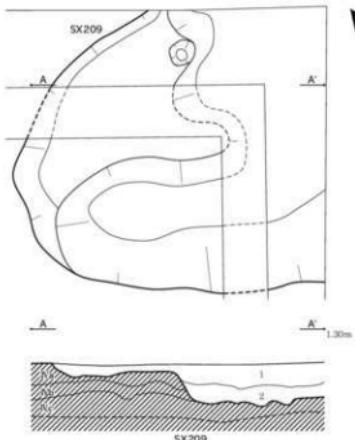
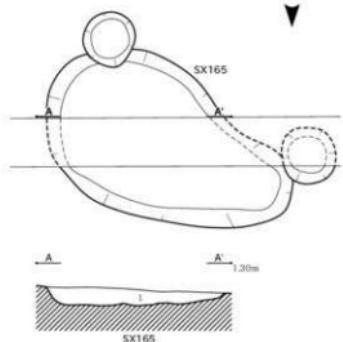


**SK215**  
1 黄色シルト (NS/0) 粘性ややあり、しまりあり。  
2 黄色シルト (NS/0) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~10mm多量含む。

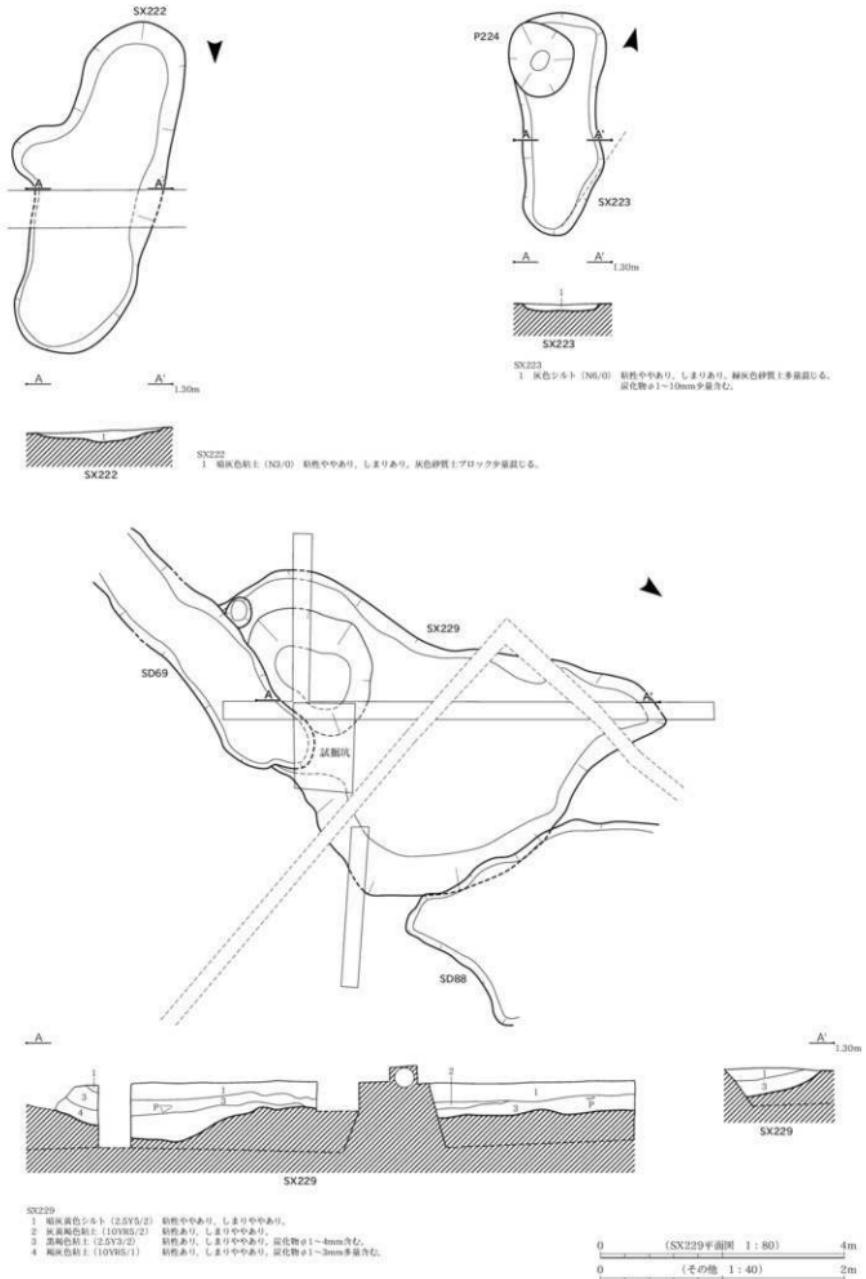


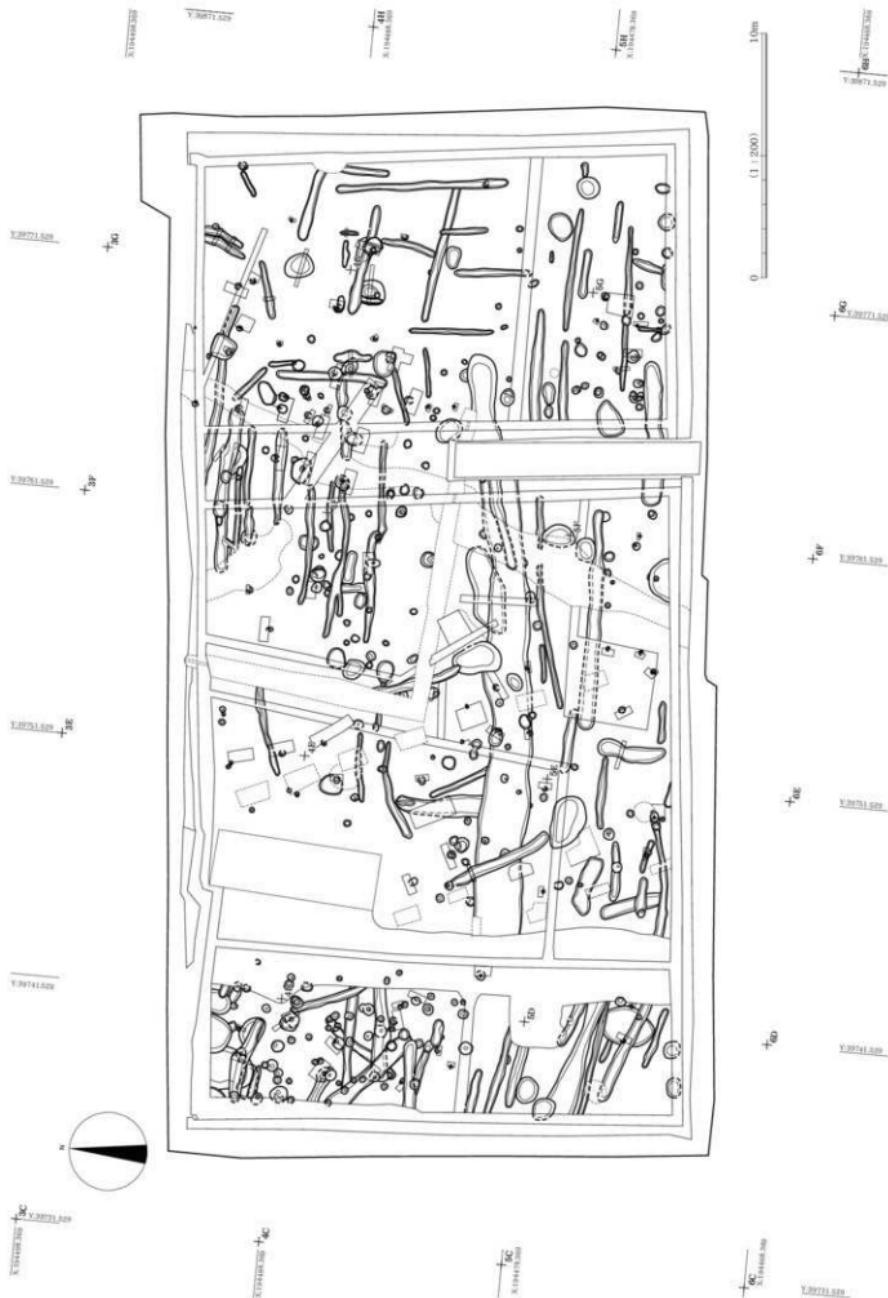
図版 18

上層造構個別図 12 SX (1)

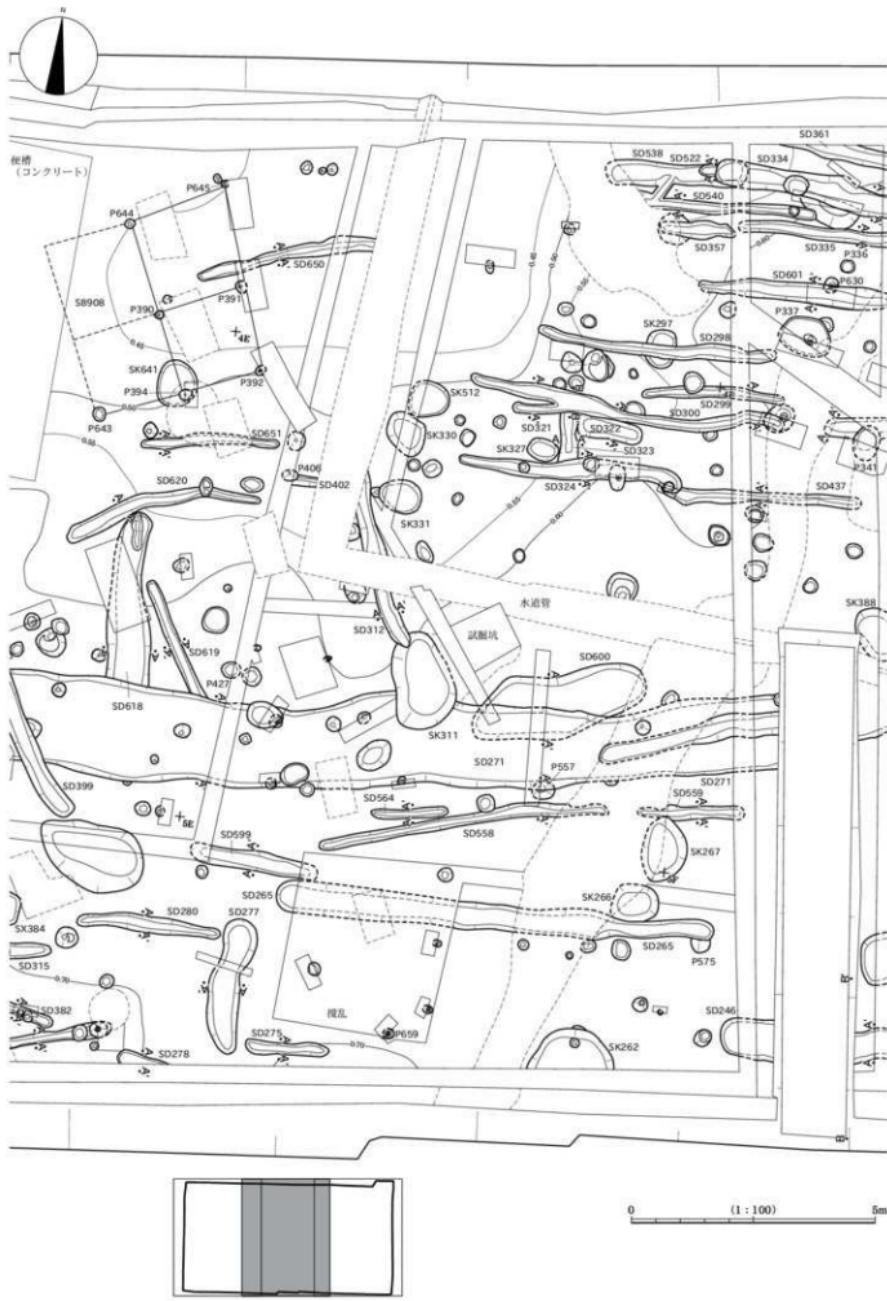


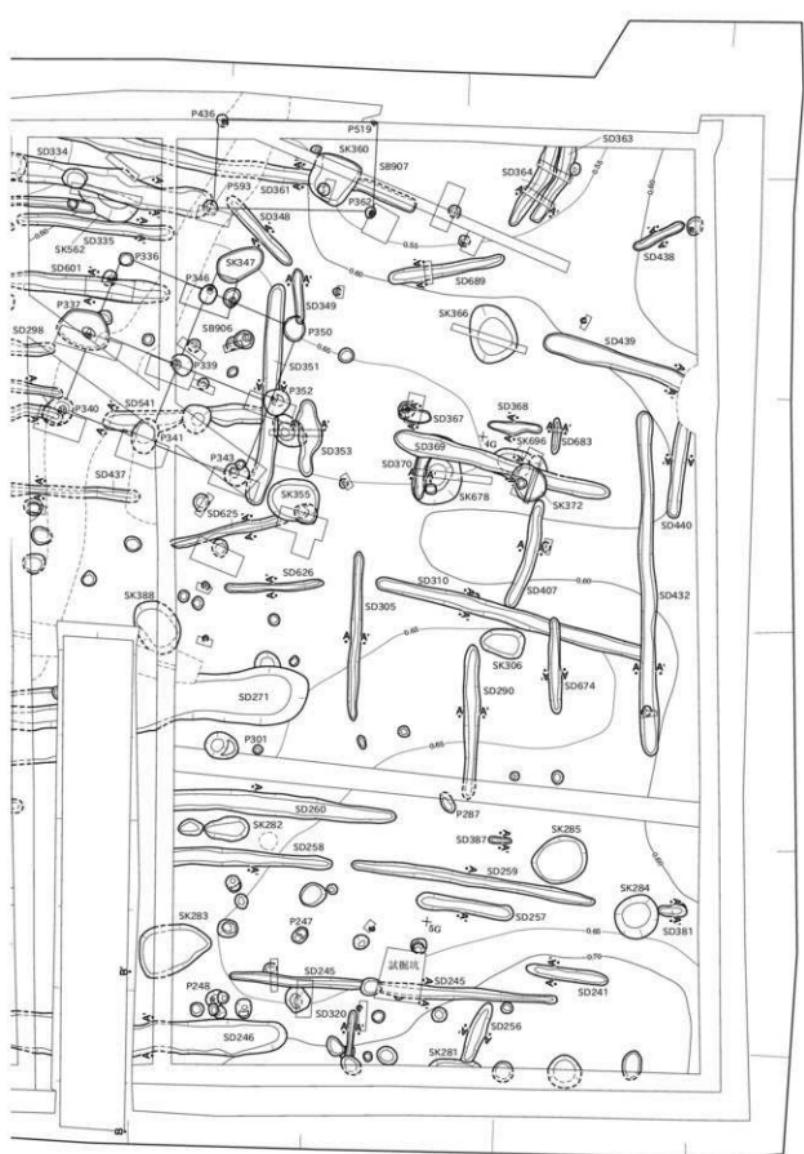
**SX213**  
1 黄色シルト (NS/0) 粘性なし、しまりあり。黄褐色砂質土多量混じる。炭化物φ10~20mm少量含む。  
2 黄色粘土 (NS/0) 粘性あり、しまりあり。灰白色砂質土少量混じる。







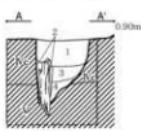
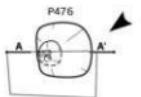
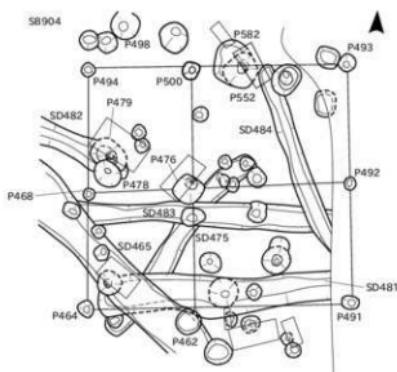




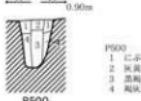
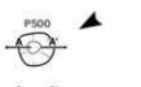
0 (1 : 100) 5m

図版 24

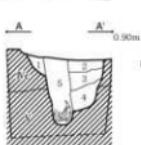
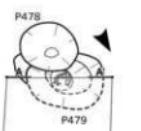
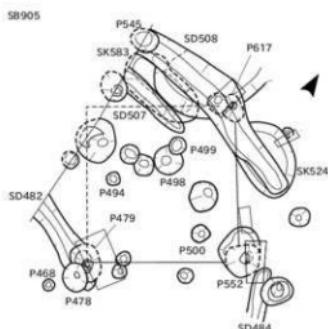
下層遺構個別図 1 SB (1) SB904・905



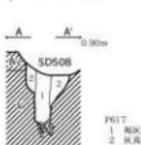
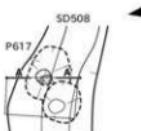
- P476  
 1 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粒性やあり。しまりやあり。  
 2 暗灰色粘土 (10YR5/1) 粒性やあり。しまりやあり。  
 3 灰白色粘土 (10YR7/1) 粒性あり。しまりややあり。  
 4 灰白色粘土 (10YR7/1) 粒性あり。しまりややあり。



- P500  
 1 黄灰色シルト (10YR7/2) 粒性やあり。しまりややあり。  
 2 暗灰色シルト (10YR4/2) 粒性やあり。しまりややあり。  
 3 黑褐色粘土 (10YR3/2) 粒性あり。しまり弱い。  
 4 黑褐色粘土 (10YR5/1) 粒性あり。しまりややあり。

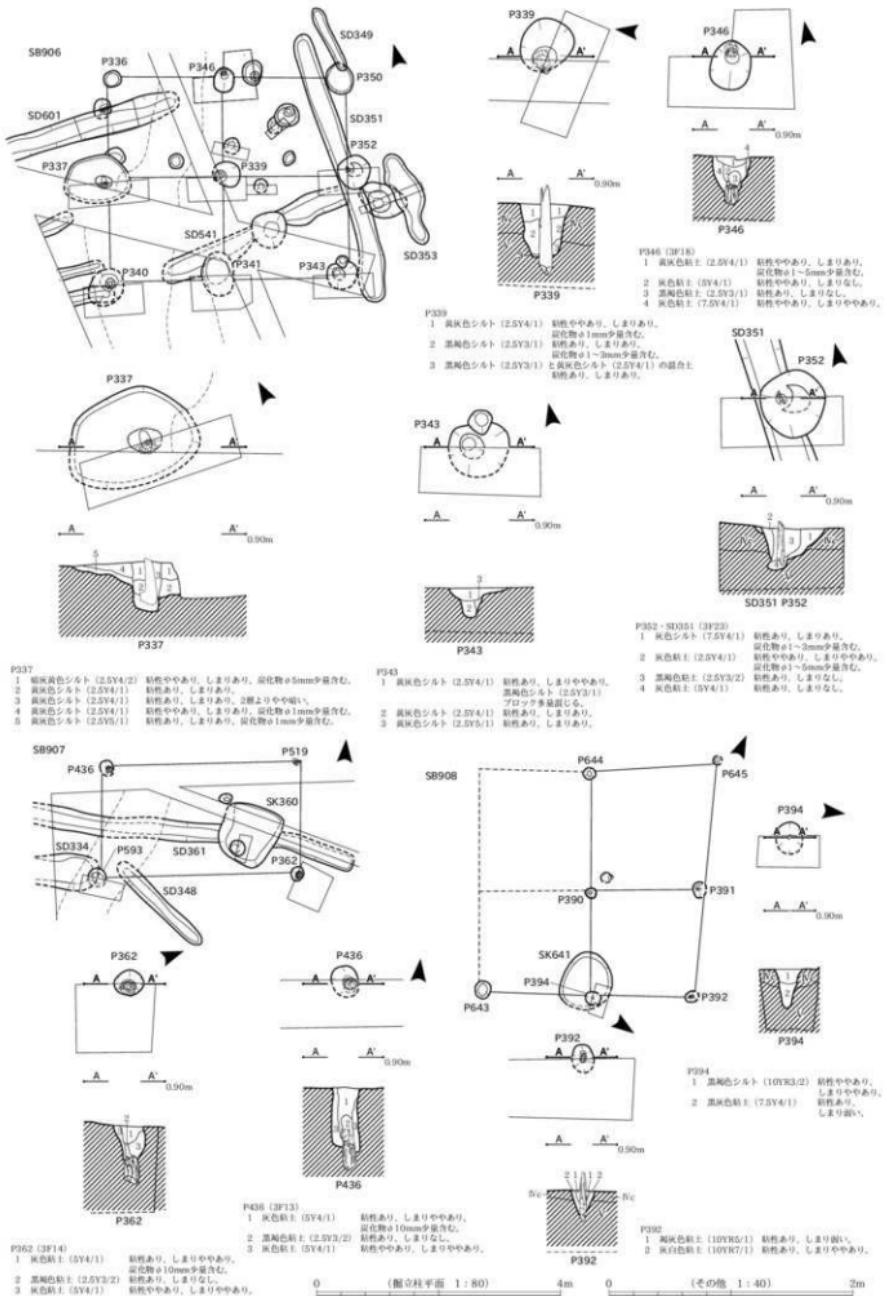


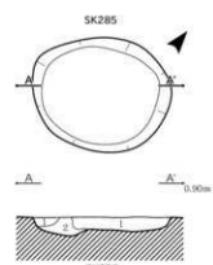
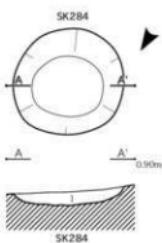
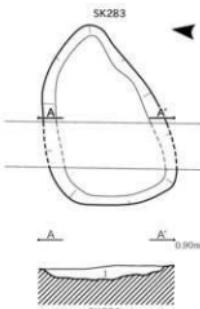
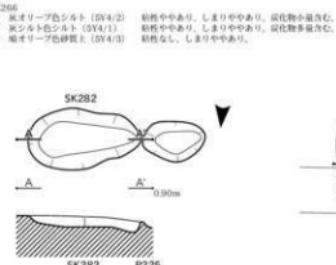
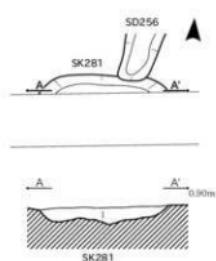
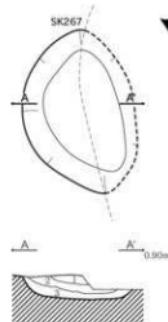
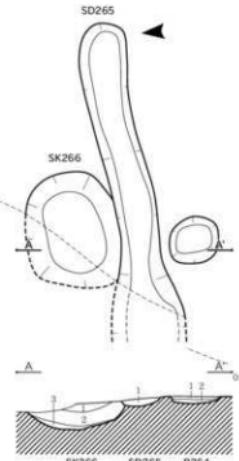
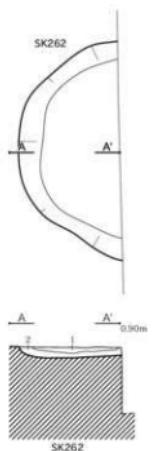
- P478  
 1 灰白色シルト (10YH7/1) 粒性ややあり。しまりあり。  
 2 暗灰色シルト (10Y5S/1) 粒性やや中程度。しまりややあり。  
 3 黑褐色粘土 (10YR6/1) 粒性あり。しまりややあり。  
 4 灰白色粘土 (10YH7/1) 粒性あり。しまりややあり。  
 5 黑褐色粘土 (2.5Y3/2) 粒性あり。しまりなし。



- P617  
 1 暗灰色粘土 (10YR4/1) 粒性あり。しまりややあり。  
 2 暗黄褐色粘土 (10YR5/2) 粒性あり。しまりややあり。

0 (断面柱平面 1:80) 4m 0 (その他 1:40) 2m

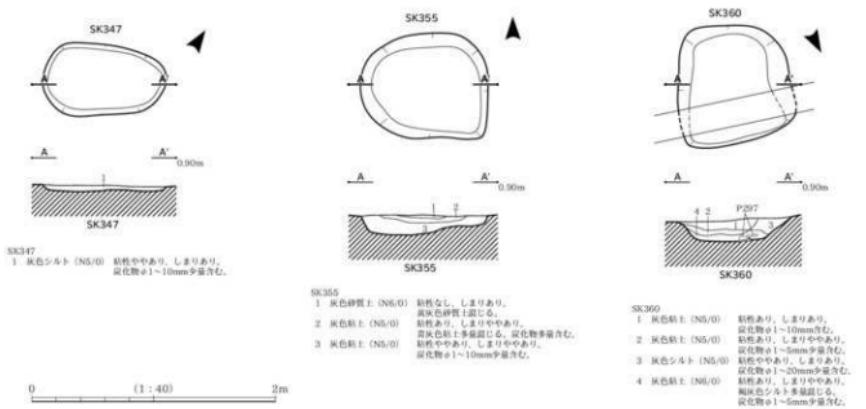
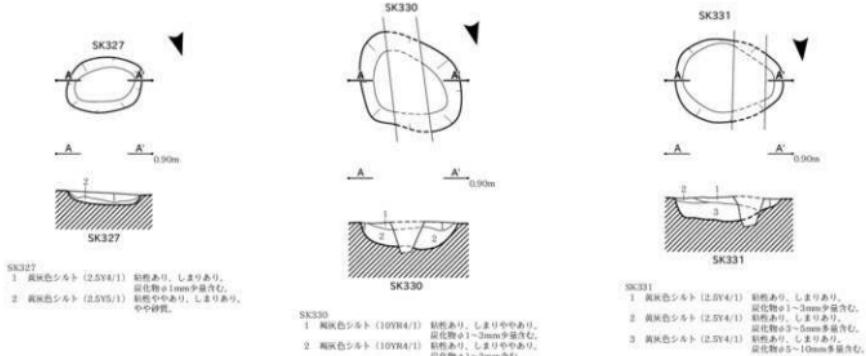
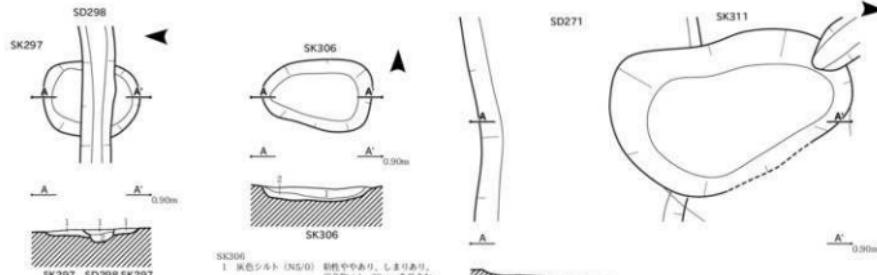




SK284  
1 黄褐色シルト (5/0) 粘性ややあり、しまりややあり。

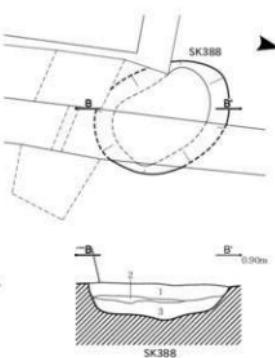
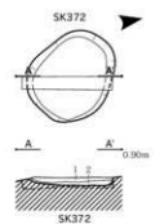
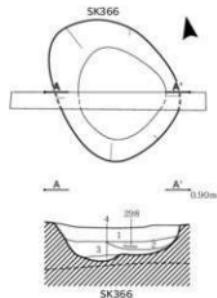
SK285  
1 黄褐色粘土 (10R5/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物少々-2mm多量含む。  
2 黄褐色粘土 (10R5/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物少々-2mm多量含む。

0 (1:40) 2m



図版 28

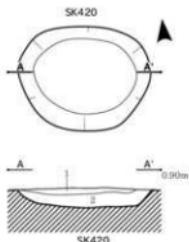
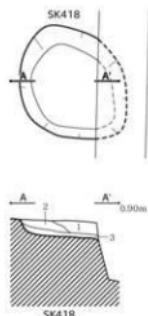
下層遺構個別図 5 SK (3)



SK366  
1 黄褐色シルト (2.SY5/2) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1~5mm少量含む。  
2 黄褐色シルト (2.SY6/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1mm少量含む。  
3 黄褐色シルト (2.SY5/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1~3mm含む。  
4 黄褐色シルト (2.SY4/1) 粘性あり、しまりあり。炭化物φ1mm少量含む。

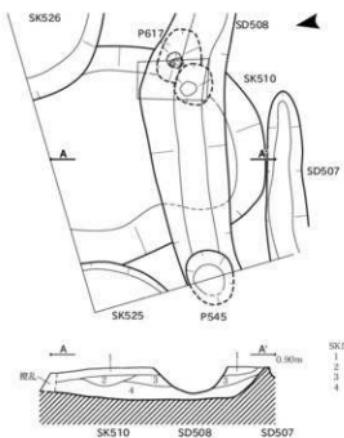
SK372  
1 黄褐色シルト (N6/0) 粘性ややあり、しまりあり。  
2 黄色粘土 (N6/0) 粘性ややあり、しまりややあり。  
3 黄褐色シルト (N6/0) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物少々含む。

SK388セクション  
1 黄褐色シルト (N6/0) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物φ1~20mm多量含む。  
2 黄褐色シルト (N6/0) 粘性ややあり、しまりあり。炭化物少々含む。  
3 黄色粘土 (N6/0) 粘性あり、しまりあり。



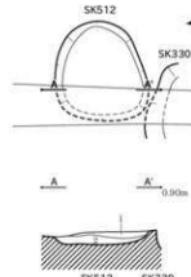
SK418  
1 黄褐色シルト (2.SY4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。  
2 オリーブ褐色粘土 (SY3/1) 粘性あり、しまりややあり。  
3 黄色粘土 (2.SY6/1) 粘性あり、しまりややあり。

SK420  
1 黄褐色シルト (2.SY4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。  
2 オリーブ褐色粘土 (SY3/1) 粘性あり、しまりややあり。

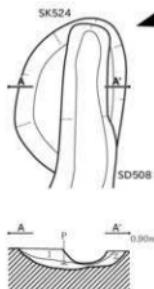


SK510  
1 黄褐色シルト (1.OYH5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~3mm含む。  
2 黄褐色シルト (1.OYH4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物多量含む。  
3 黄褐色シルト (1.OYH5/2) 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物φ1~2mm含む。  
4 黄褐色粘土 (1.OYH6/1) 粘性あり、しまりややあり。炭化物φ1mm含む。

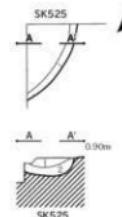
0 (1:40) 2m



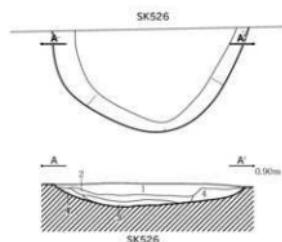
SK512  
1 黄褐色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。  
炭化物φ1~3mm少々含む。  
2 黄褐色シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり。  
やや砂混。



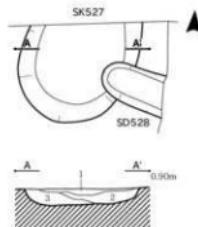
SK524  
1 黄褐色シルト (10Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり。  
炭化物φ1~2mm含む。  
2 黄褐褐色シルト (10Y5/2) 粘性ややあり、しまりややあり。



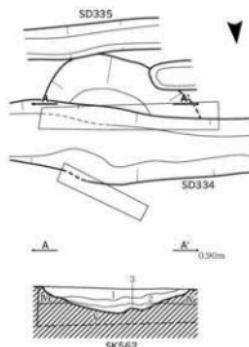
SK525  
1 黄褐色シルト (10Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり。  
2 黄褐褐色シルト (10Y5/2) 粘性ややあり、しまりややあり。



SK526  
1 黄褐色シルト (10Y5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。  
炭化物φ1~3mm含む。  
2 黄褐色粘土 (10YR2/1) 粘性あり、しまりややあり。微細。  
3 黄褐色粘土 (10YH5/1) 粘性あり、しまりややあり。  
4 黄褐褐色シルト (10Y5/2) 粘性ややあり、しまりややあり。



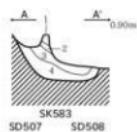
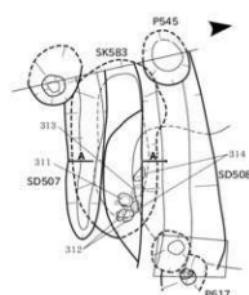
SK527  
1 C.述べ黄褐色シルト (10Y4/3) 粘性ややあり、  
しまりややあり。  
2 C.述べ黄褐色シルト (10Y6/6) 粘性ややあり、  
しまりややあり。  
3 黄色粘土 (7.5Y1/1) 粘性ややあり、  
しまりややあり。



SD335  
1 黄色シルト (5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。  
炭化物φ1~2mm少々含む。  
2 黄褐色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。  
炭化物φ1mm少々含む。  
中空骨胞。  
3 黄褐色シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、  
しまりあり。  
炭化物φ1mm少々含む。  
2倍よりやや明るい。

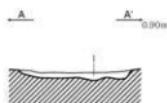
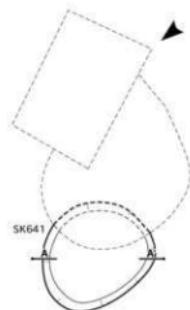
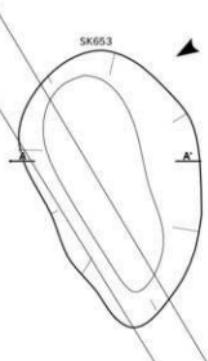
図版 30

下層遺構個別図 7 SK (5)

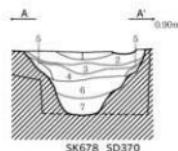
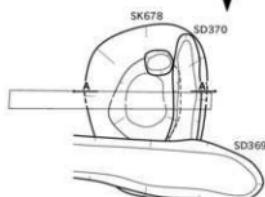
SK583  
SD507  
SD508

- 1 黄褐色シート (10YR8/1) 粒性やあり、しまりややあり。  
2 黄褐色シート (10YR7/1) 粒性やあり、しまりややあり。  
3 黄褐色砂粘土 (10YR4/2) 粒性あり、しまりややあり。  
4 黄褐色砂質土 (10YR5/2) 粒性あり、しまりややあり。

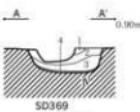
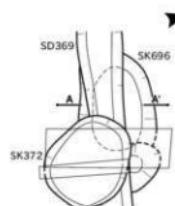
4 長黄褐色粘土 (10YR5/2) 粒性あり、しまりややあり。

SK641  
SK641

- SK653  
1 黄色シート (SY6/1) 粒性ややあり、しまりややあり。  
2 黄色粘土 (N5/0) 硬化物φ1~10mm多量含む。  
粒性あり、しまりややあり。  
3 黄褐色砂質土 (10YR6/1) 粒性ややあり、しまりややあり。  
4 黄色粘土 (N4/0) 硬化物φ1~10mm少量化含む。  
5 黄色粘土 (N0/0) 粒性少量化含む。  
6 黄色砂質土 (N6/0) 粒性なし。  
7 黄色シート (SY6/1) 粒性なし、しまりややあり。

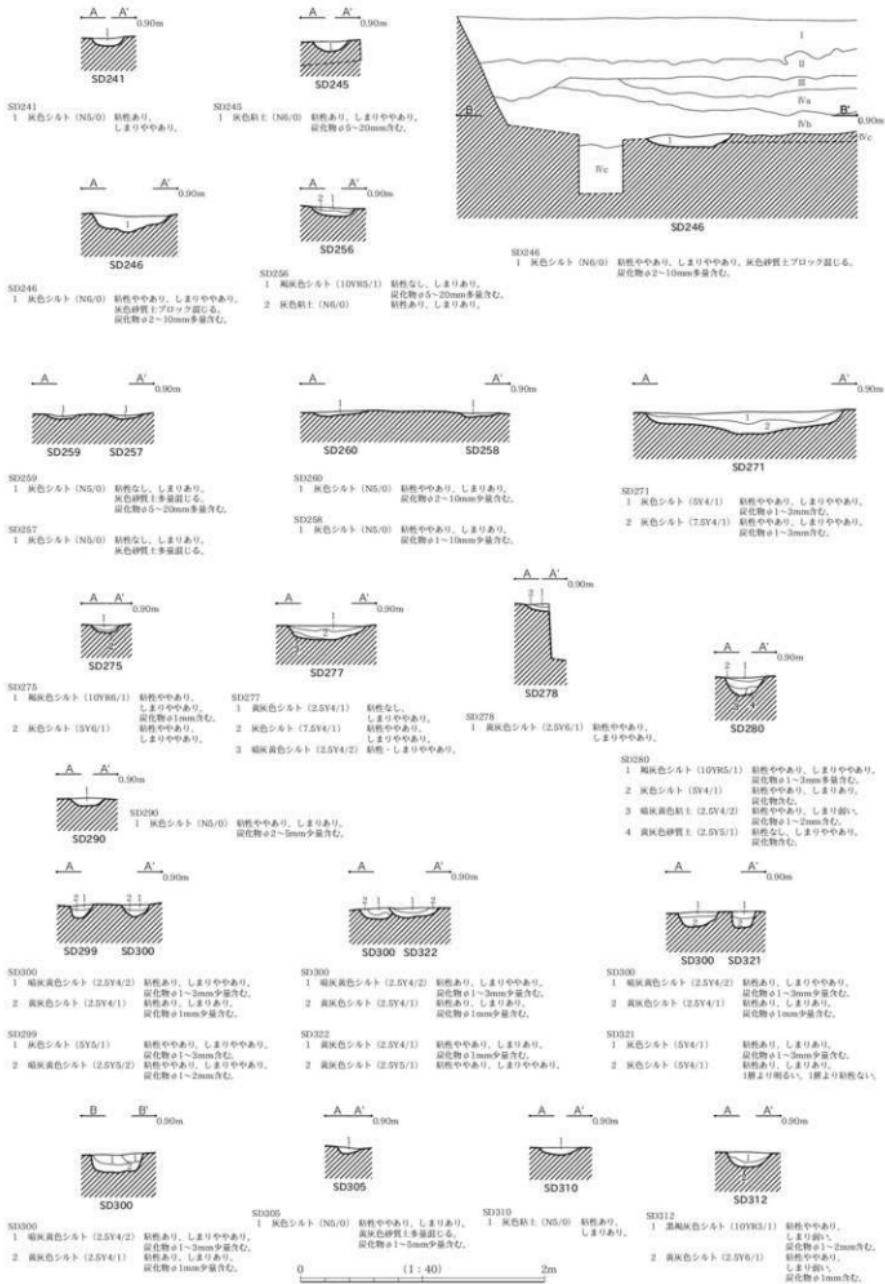


SK678 SD370

SK369  
SK369

- SK369  
1 基底黄色シート (2.5Y5/4) 粒性ややあり、しまりあり。硬化物φ1~3mm少量化含む。  
2 黄褐色シート (2.5Y5/2) 粒性ややあり、しまりあり。硬化物φ1~3mm少量化含む。  
3 黄褐色シート (2.5Y5/1) 粒性ややあり、しまりあり。やや砂質。  
4 黑色シート (2.5Y2/1) 粒性あり、しまりあり。层理。

- SK678  
1 黄褐色シート (2.5Y5/4) 粒性ややあり、しまりあり。硬化物φ1~3mm含む。  
2 基底黄色シート (2.5Y5/2) 粒性ややあり、しまりあり。硬化物φ1~5mm含む。  
3 黄褐色シート (2.5Y5/1) 粒性ややあり、しまりあり。硬化物φ1~2mm少量化含む。  
4 基底黄色シート (2.5Y5/1) 粒性あり、しまりあり。硬化物φ1~5mm少量化含む。  
5 基底黄色シート (2.5Y4/2) 粒性あり、しまりあり。やや砂質。  
6 黑色シート (2.5Y4/1) 粒性あり、しまりあり。硬化物φ1~5mm少量化含む。  
7 黑色シート (2.5Y4/1) 粒性あり、しまりあり。硬化物φ1~5mm少量化含む。やや砂質。



図版 32

下層遭構個別図 9 SD (2)



- SD314  
1 黄褐色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。  
炭化物φ1~3mm含む。  
2 黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性ややあり、しまりややあり。  
炭化物φ1mm含む。  
3 黄褐色シルト (10YR6/1) 粘性ややあり、しまりややあり。  
炭化物φ1~3mm含む。



- SD315  
1 黄褐色シルト (SY5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。  
炭化物φ1~3mm含む。  
2 帆状黄色シルト (2.5Y5/2) 粘性ややあり、しまりややあり。  
炭化物φ1mm含む。



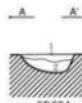
- SD316 (Aセクタ)  
1 黄褐色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。  
炭化物φ1~3mm含む。  
2 黄褐色シルト (10YR6/1) 粘性ややあり、しまりややあり。  
炭化物φ1~3mm含む。



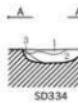
- SD320  
1 黄色シルト (N6/0) 粘性ややあり、しまりあり。  
炭化物φ1~2mm少量含む。



- SD323  
1 黄色シルト (7.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。  
炭化物φ1~3mm少量含む。  
2 黄色シルト (7.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。  
炭化物φ1mm含む。  
3 黄褐色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。  
炭化物φ1mm少量含む。



- SD324  
1 黄褐色シルト (2.5Y4/2) 粘性あり、しまりあり。  
炭化物φ1~3mm少量含む。  
2 黄色シルト (7.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。



- SD334  
1 黄褐色黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性あり、しまりあり。  
炭化物φ1~10mm含む。  
2 黄褐色シルト (2.5Y4/2) 粘性あり、しまりあり。  
炭化物φ1~5mm含む。  
3 帆状黄色シルト (2.5Y4/2) 粘性あり、しまりあり。



- SD335  
1 黄褐色シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり。  
炭化物φ1mm少量含む。  
2 黄褐色シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり。



- SD348  
1 黄色シルト (N6/0) 粘性ややあり、  
しまりあり。  
炭化物φ1~5mm  
少量含む。



- SD349  
1 黄色シルト (N6/0) 粘性ややあり、  
しまりあり。  
炭化物φ1~10mm  
少量含む。



- SD351  
1 黄色シルト (N6/0) 粘性ややあり、  
しまりややあり。  
炭化物φ1~2mm含む。



- SD353  
1 黄色シルト (N5/0) 粘性ややあり、しまりあり。  
炭化物φ1~20mm少量含む。  
2 黄色シルト (N6/0) 粘性ややあり、しまりあり。  
炭化物φ1~2mm少量含む。



- SD361  
1 黄色シルト (N6/0) 粘性ややあり、  
しまりあり。  
炭化物φ1~5mm  
少量含む。



- SD364  
1 黄色シルト (N6/0) 粘性なし、しまりあり。  
炭化物少含む。



- SD367  
1 黄色シルト (N6/0) 粘性ややあり、  
しまりあり。  
炭化物少多量含む。



- SD368  
1 黄色シルト (N5/0) 粘性ややあり、  
しまりあり。  
炭化物砂質土少量含む。  
2 黄褐色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、  
しまりあり。  
炭化物φ1~5mm少量含む。



- SD369  
1 黄色シルト (N5/0) 粘性ややあり、  
しまりあり。  
炭化物φ2~5mm  
少量含む。



- SD370  
1 黄褐色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、  
しまりあり。  
炭化物φ1~10mm  
少量含む。



- SD381  
1 黄色シルト (N6/0) 粘性ややあり、  
しまりあり。  
炭化物φ1~10mm  
少量含む。



- SD382  
1 黄褐色シルト (10YR5/1) 粘性ややあり、  
しまりややあり。  
炭化物φ1~3mm少量含む。  
2 黄褐色シルト (10YR6/1) 粘性ややあり、  
しまりややあり。  
炭化物φ1~3mm含む。



- SD387  
1 黄色シルト (N6/0) 粘性なし、  
しまりあり。  
炭化物φ1~2mm  
少量含む。



- SD390  
1 黄褐色黄色シルト (10YR5/2) 粘性ややあり、  
しまりややあり。  
2 黄褐色粘土 (10YR6/2) 粘性あり、  
しまりややあり。  
3 黄褐色粘土 (10YR6/1) 粘性あり、  
しまりややあり。  
4 黄褐色シルト (10YR5/2) 粘性あり、  
しまりややあり。  
5 黄褐色土 (5Y5/1) 粘性あり、  
しまりややあり。  
6 黑色粘土 (5Y6/1) 粘性あり、  
しまりややあり。

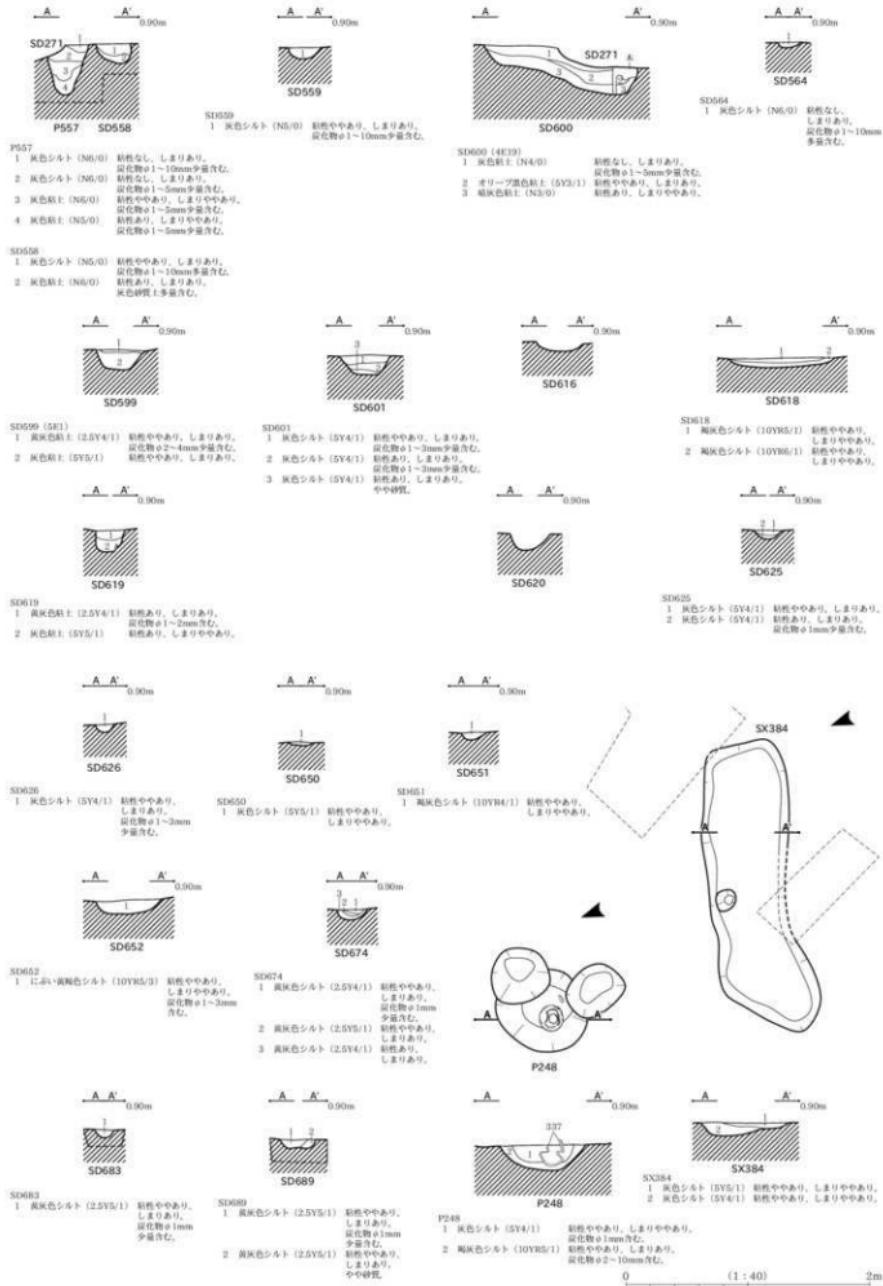


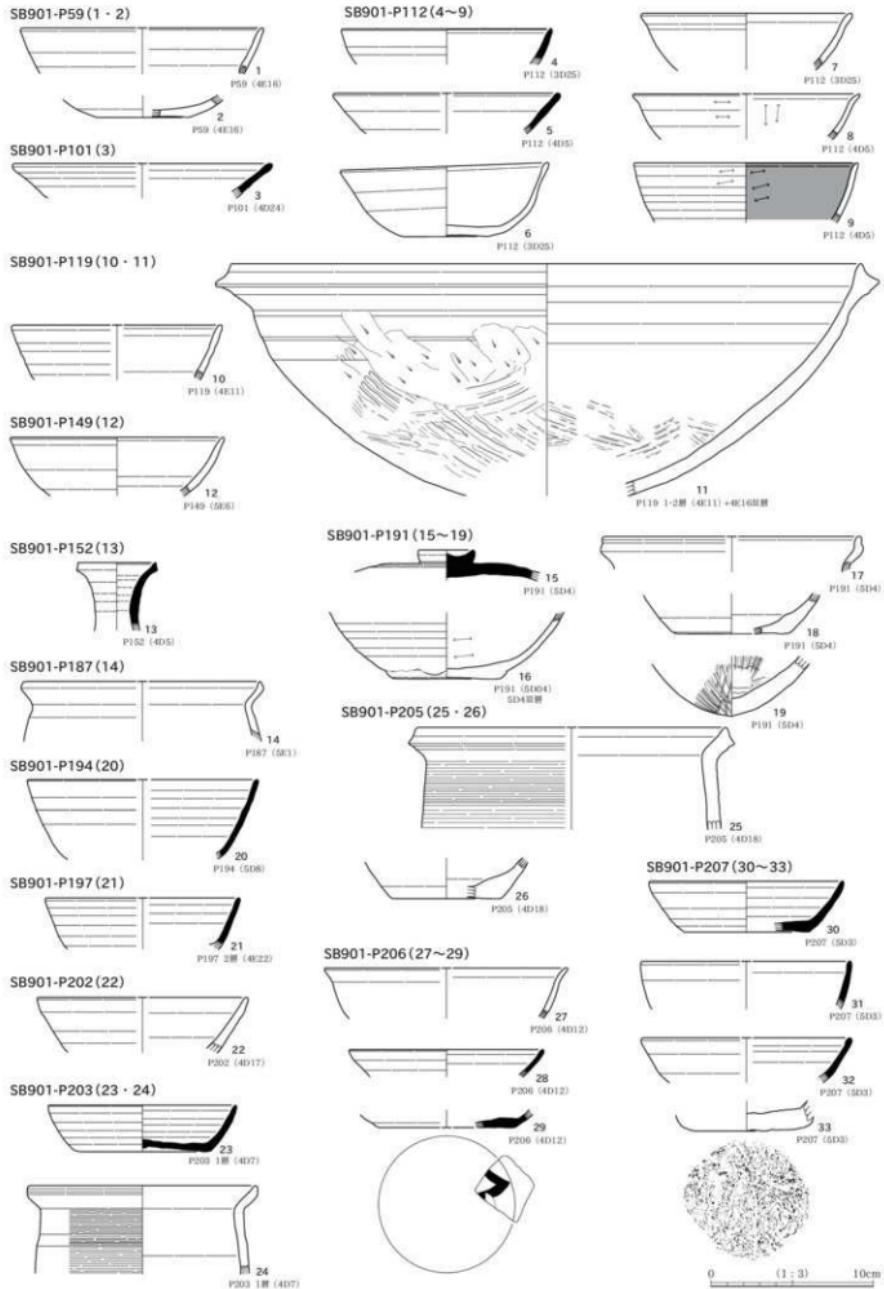
- SD407  
1 黑色粘土 (N6/0) 粘性あり、  
しまりあり。  
炭化物φ1~3mm  
少量含む。



図版 34

下層構造個別図 11 SD (4)・SX

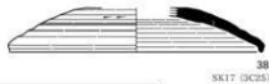




SB903-P422 (34)



SK17 (37~39)



SB903-P503 (35)



SE443 (36)



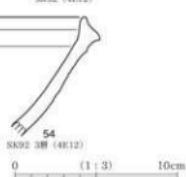
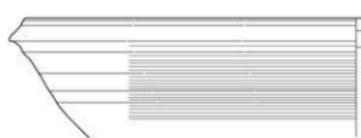
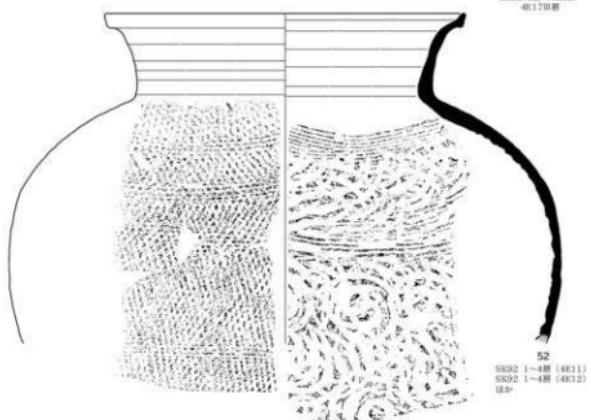
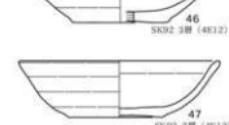
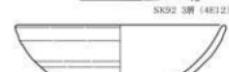
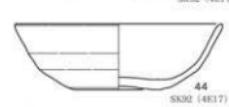
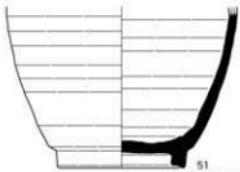
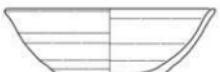
SK77 (40)



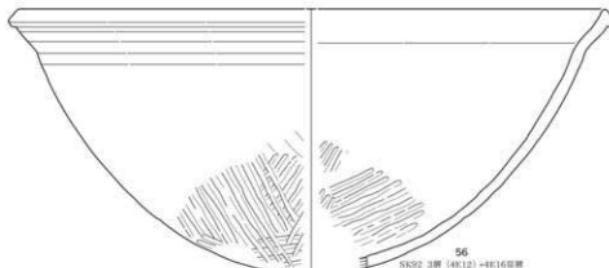
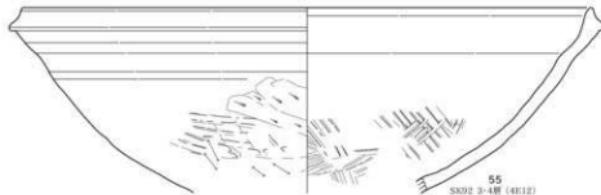
SK78 (41)



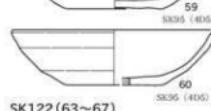
SK92 (42~54)



SK92(55~57)



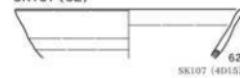
SK95(58~60)



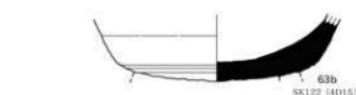
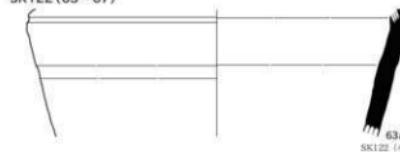
SK105(61)



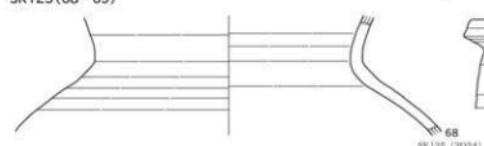
SK107(62)



SK122(63~67)



SK125(68・69)



SK122(4D15) + 4D13Ⅲ柄



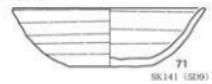
SK122 (4D15)

0 (1 : 3) 10cm

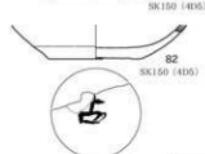
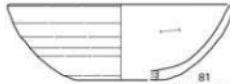
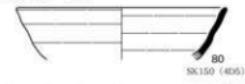
SK129 (70)



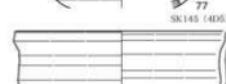
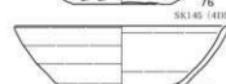
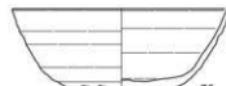
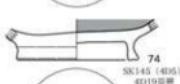
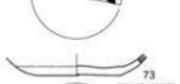
SK141 (71)



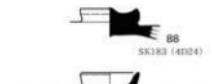
SK150 (80~83)



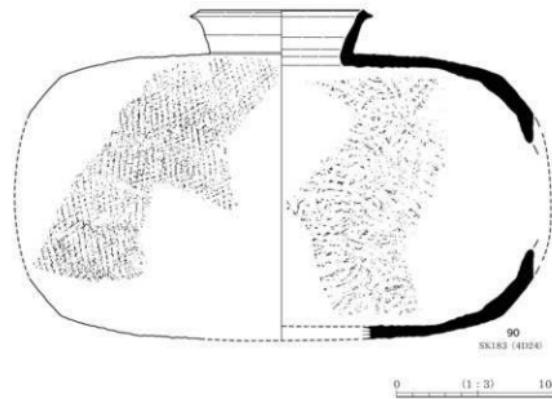
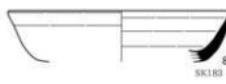
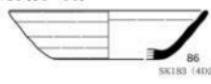
SK145 (72~79)



SK181 (84・85)

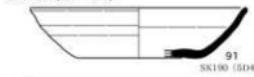


SK183 (86~90)

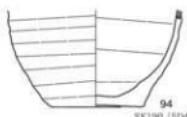
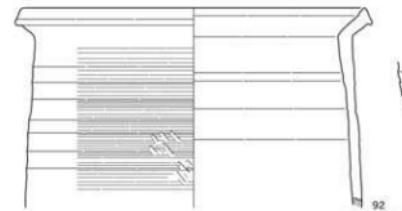


0 (1 : 3) 10cm

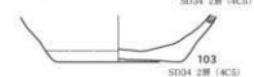
SK190 (91~94)



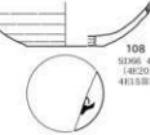
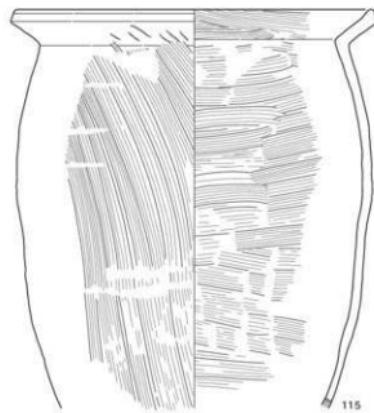
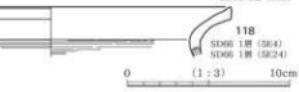
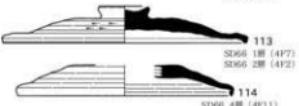
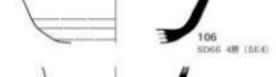
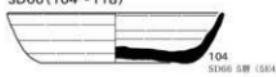
SK220 (95~99)



SD34 (100~103)

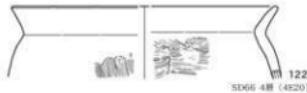
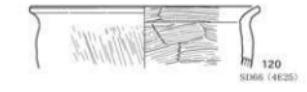


SD66 (104~118)

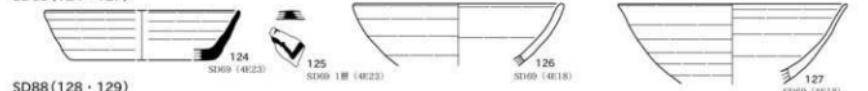


0 (1 : 3) 10cm

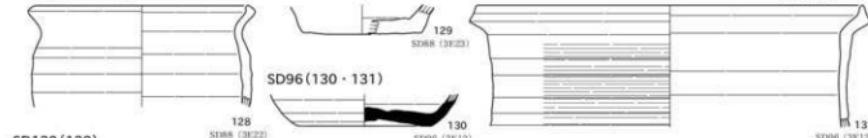
SD66(119~123)



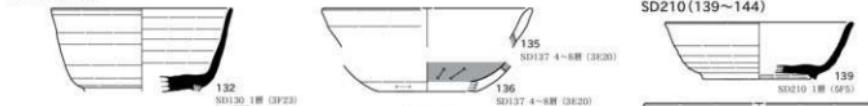
SD69(124~127)



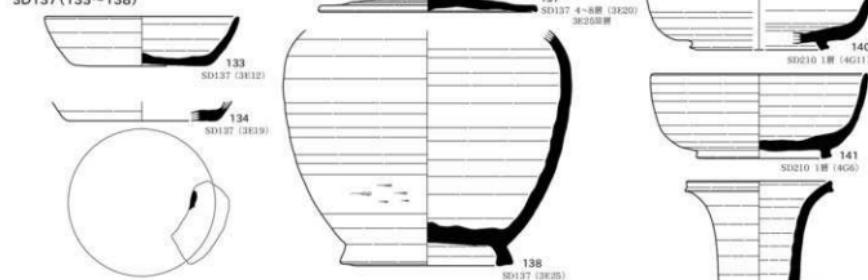
SD88(128·129)



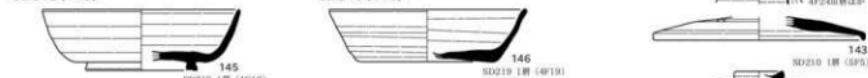
SD130(132)



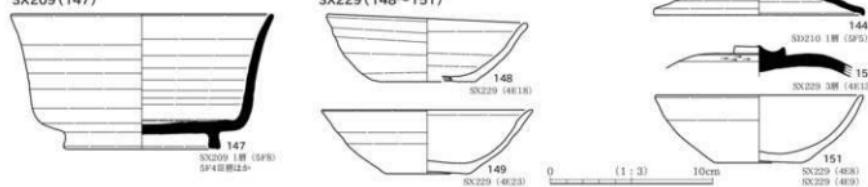
SD137(133~138)



SD218(145)

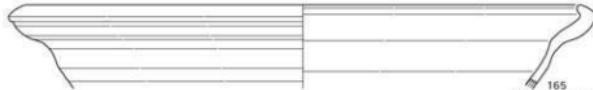
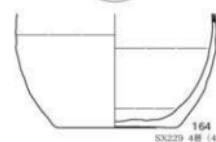
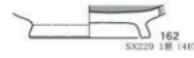
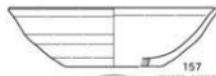


SX209(147)



0 (1 : 3) 10cm

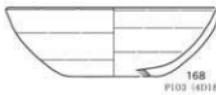
## SX229 (152~165)



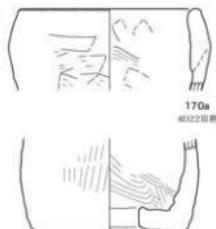
## P102 (166)



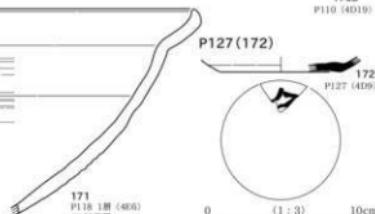
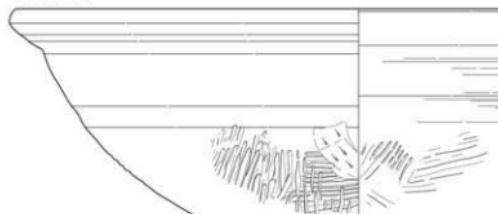
## P103 (167・168)



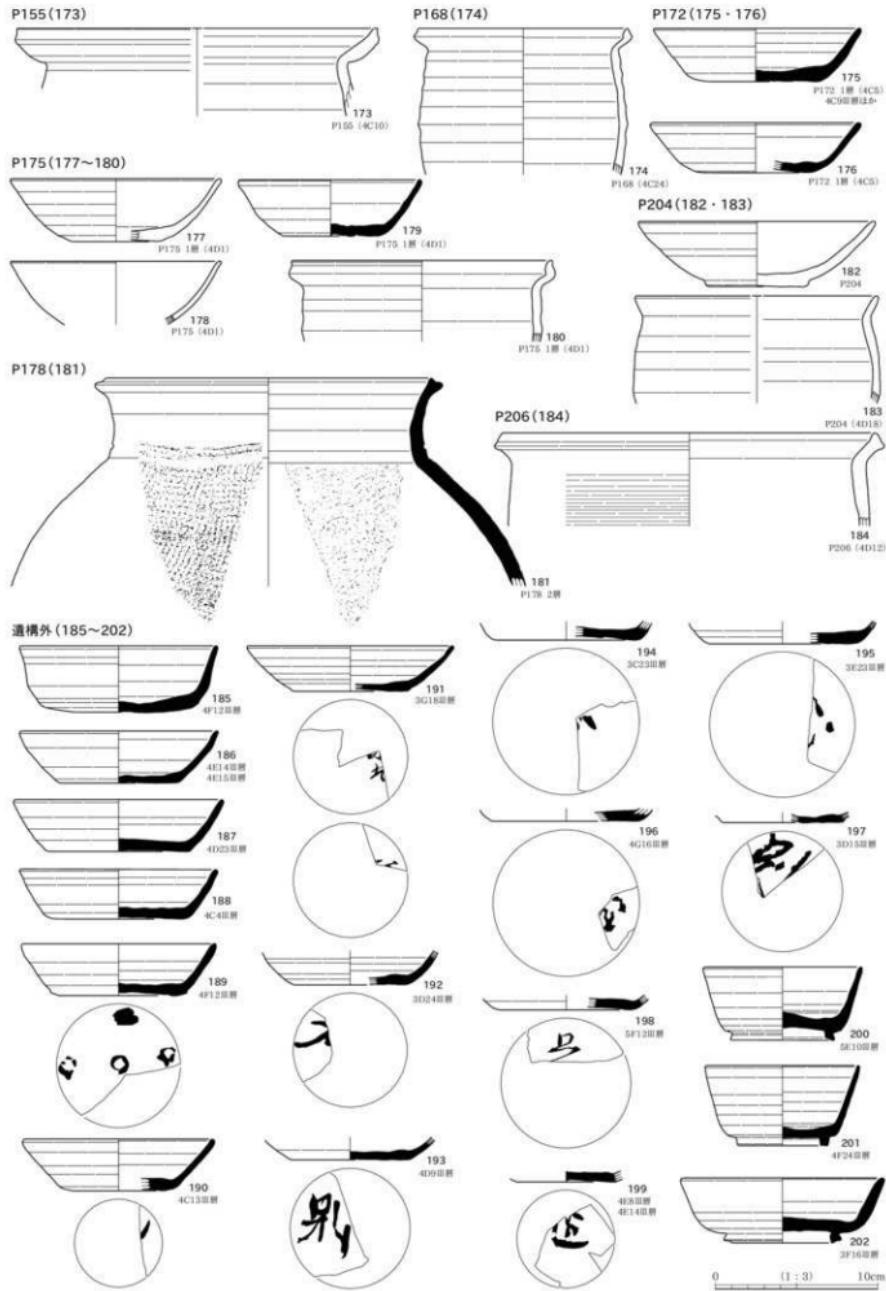
## P110 (169・170)



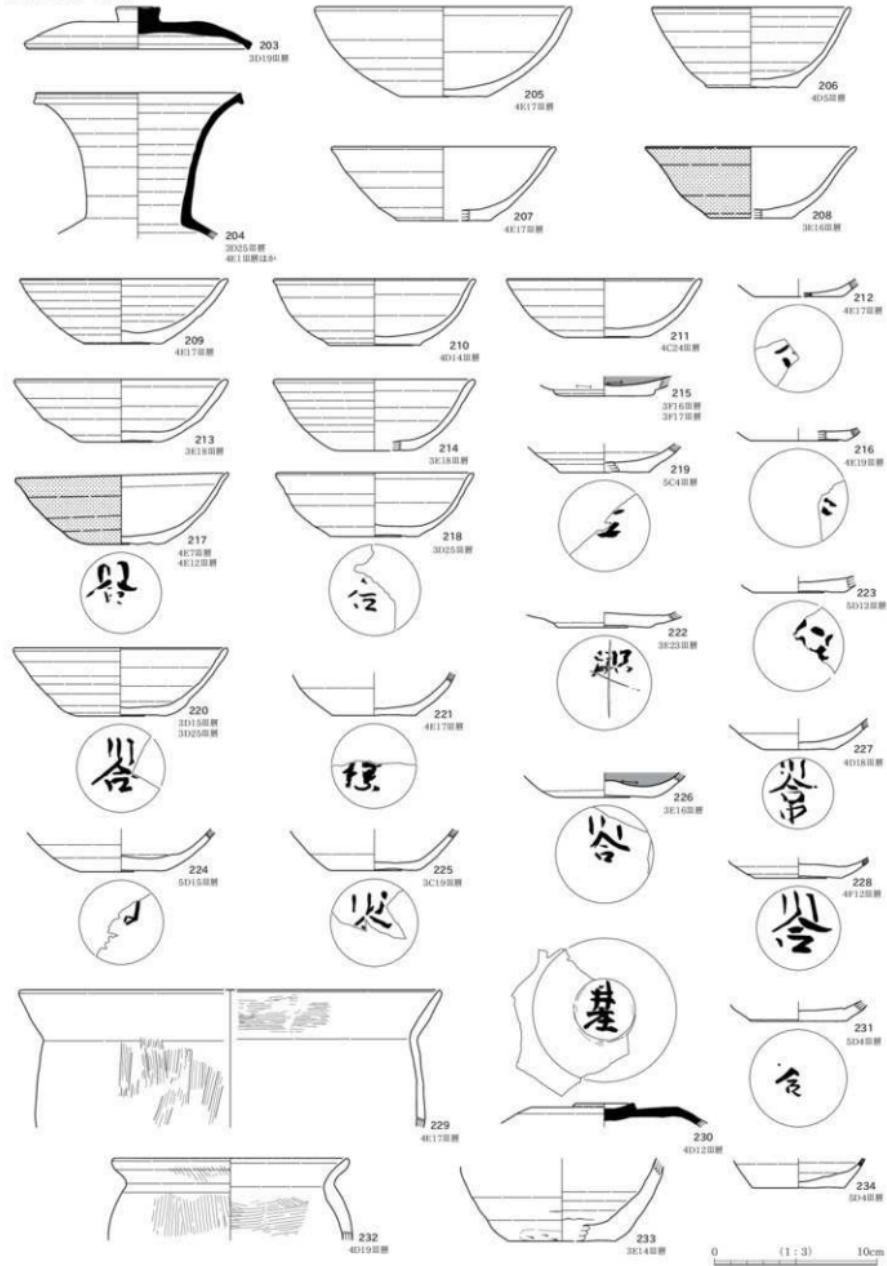
## P118 (171)

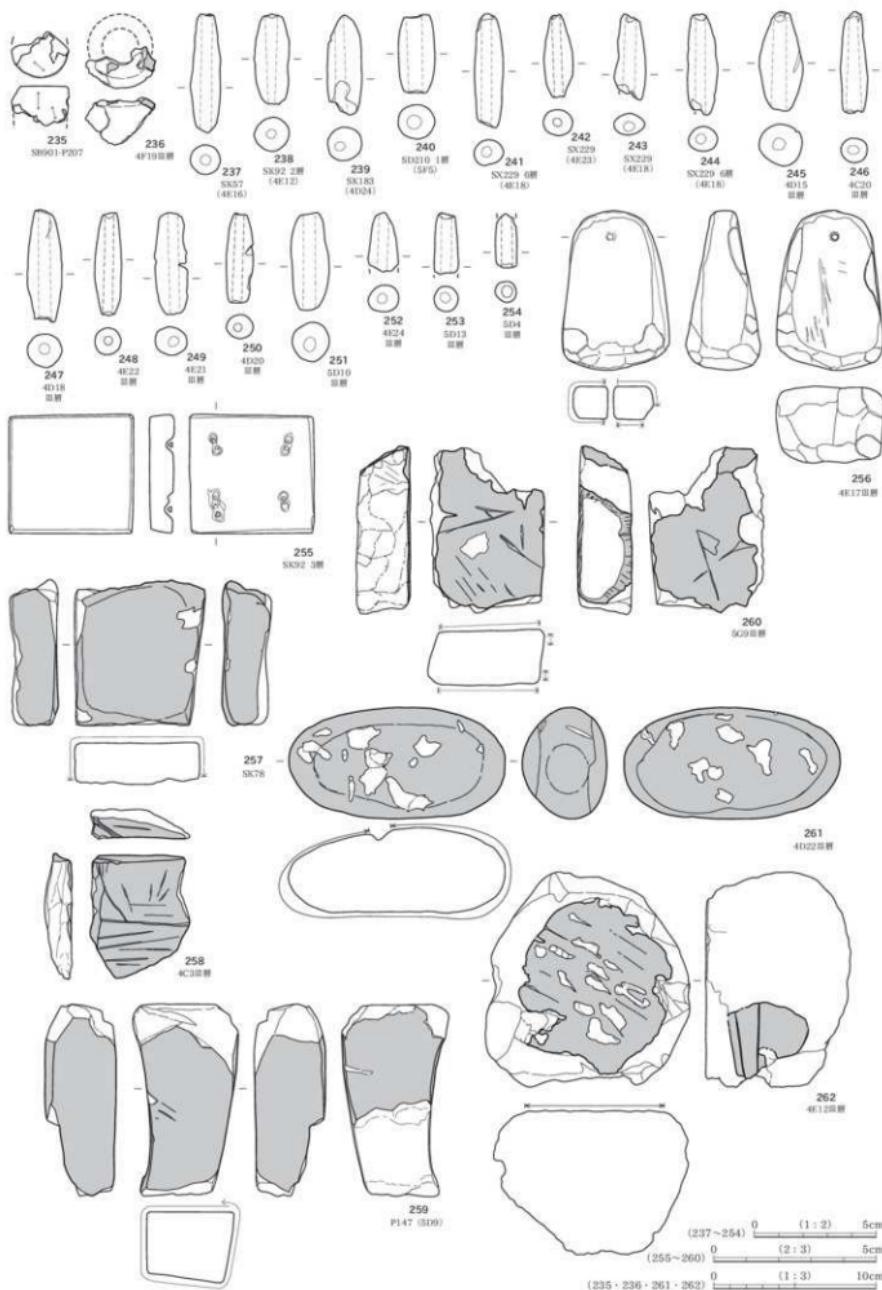


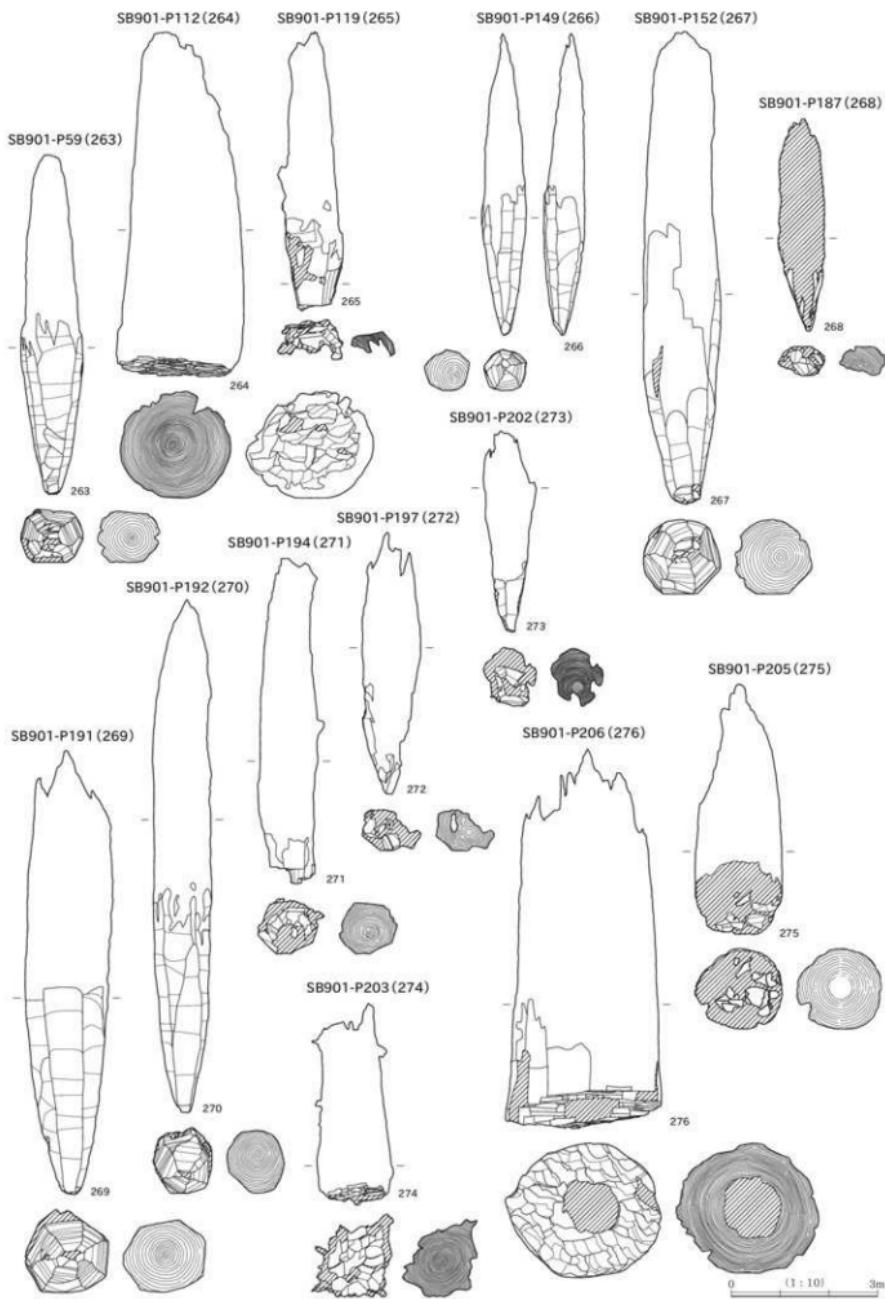
0 (1 : 3) 10cm



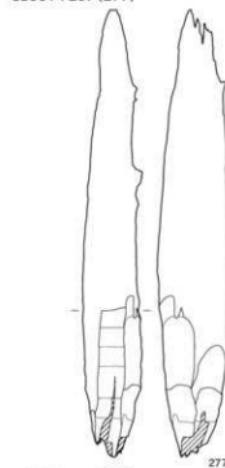
遺構外(203~234)



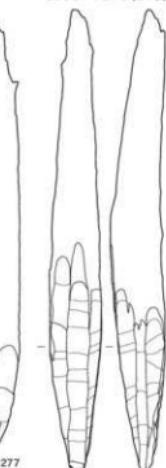




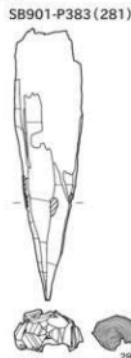
SB901-P207 (277)



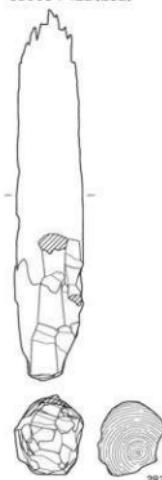
SB901-P216 (278)



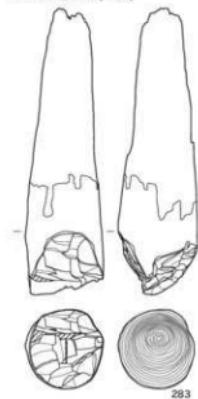
SB901-P318 (280)



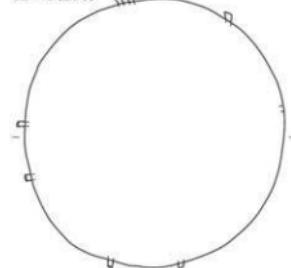
SB903-P422 (282)



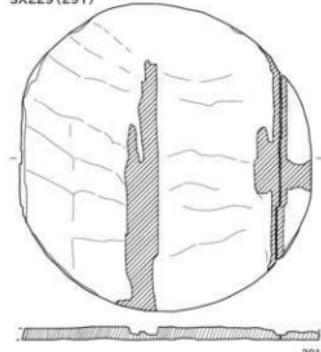
SB903-P503 (283)



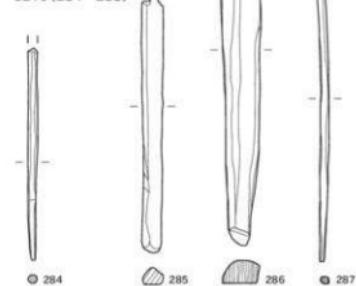
SE443 (290)



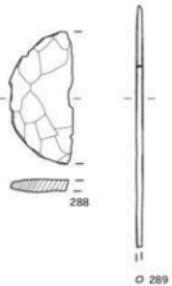
SX229 (291)



SE10 (284~288)



SE40 (289)



遺物外 (292・293)



(277~288) 0 (1 : 10) 3m  
(284~291) 0 (1 : 3) 10cm  
(292・293) 0 (2 : 3) 5cm

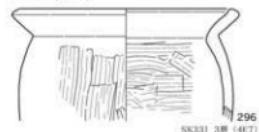
SB906-P340 (294)



SK284 (295)



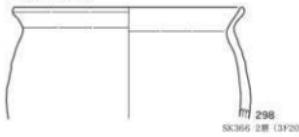
SK331 (296)



SK360 (297)



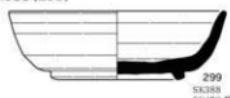
SK366 (298)



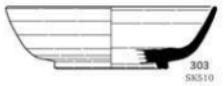
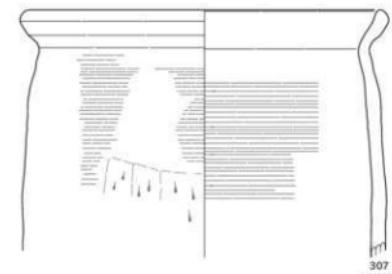
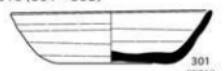
SK411 (300)



SK388 (299)



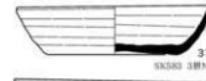
SK510 (301~308)



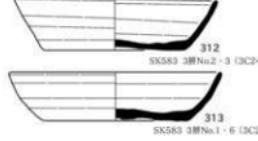
SK524 (309)



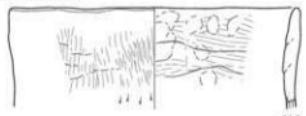
SK583 (311~315)



SK526 (310)



SK653 (316)



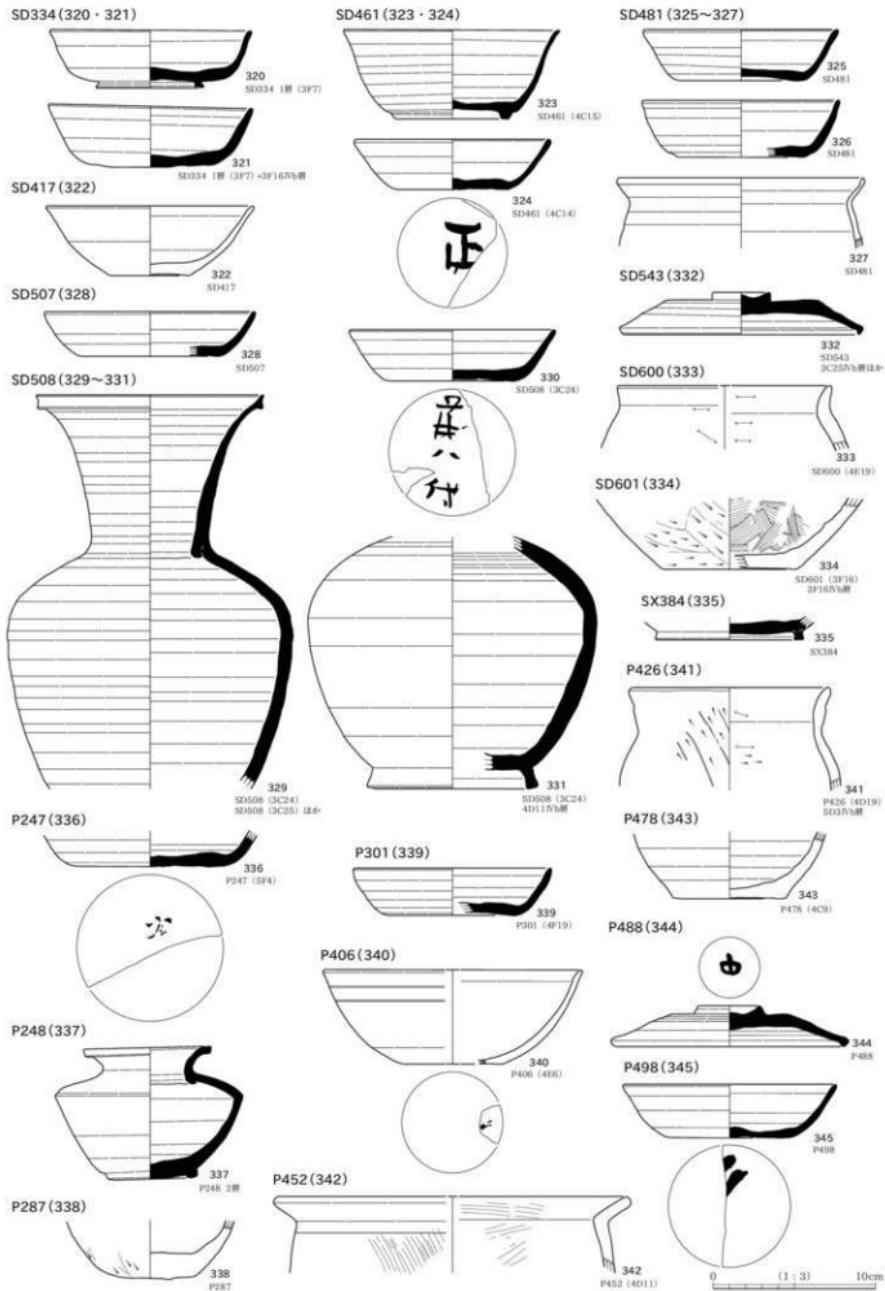
SK696 (319)



SD246 (317)



0 (1 : 3) 10cm



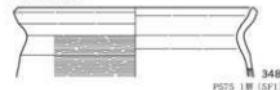
P545(346)



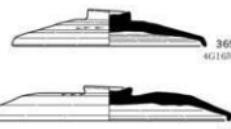
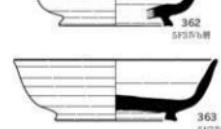
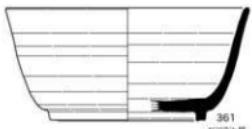
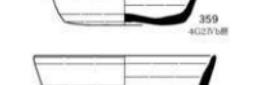
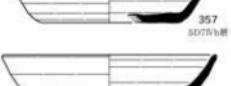
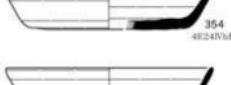
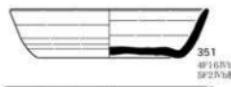
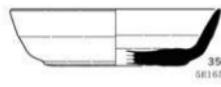
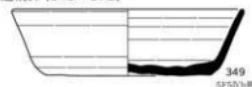
P561(347)



P575(348)

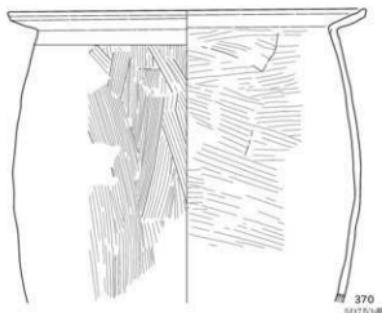
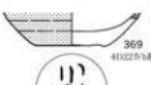
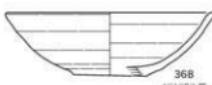


遺構外(349~372)

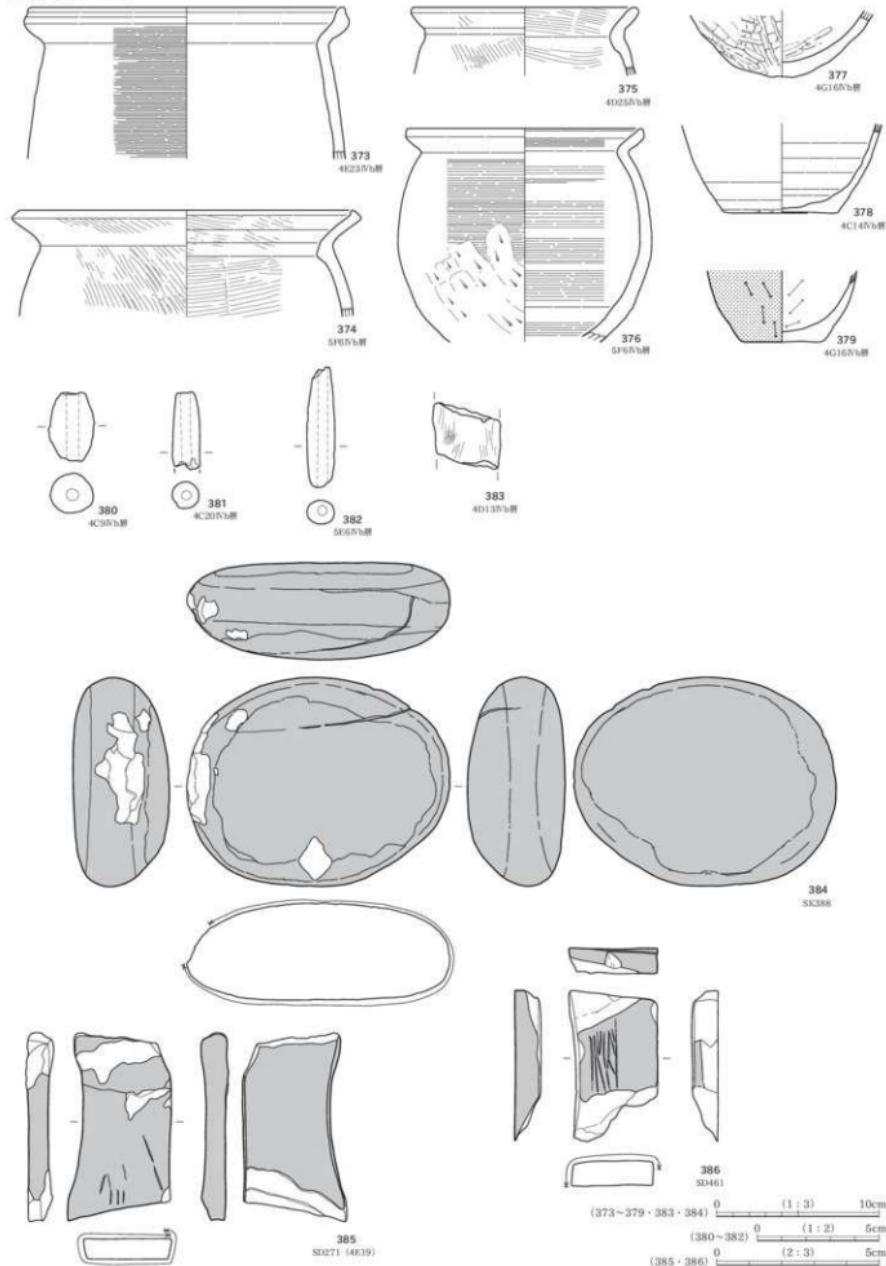


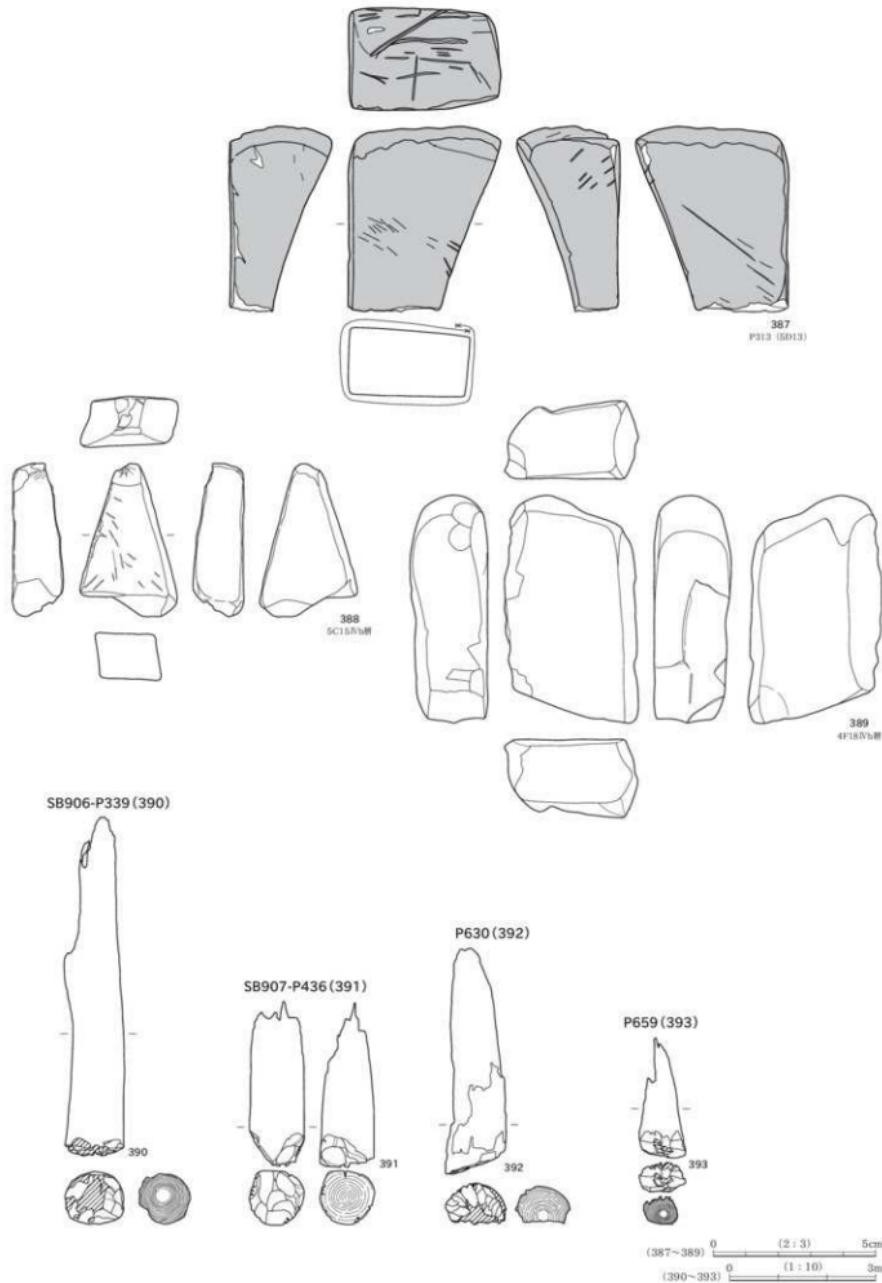
366

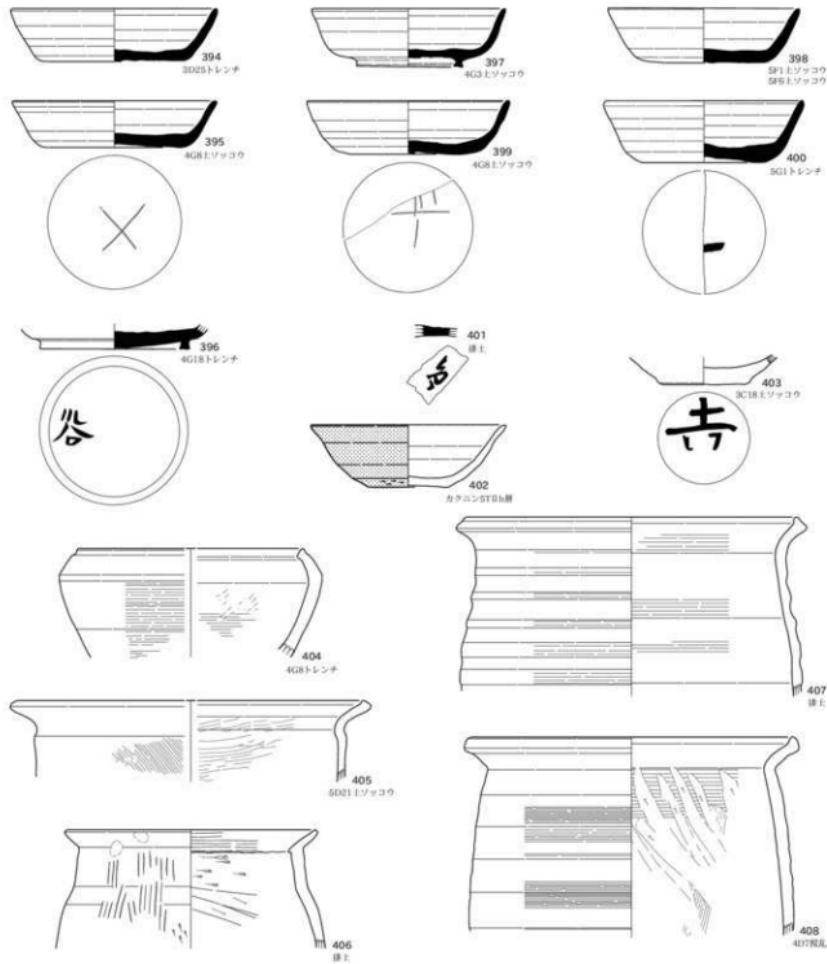
4D13N層



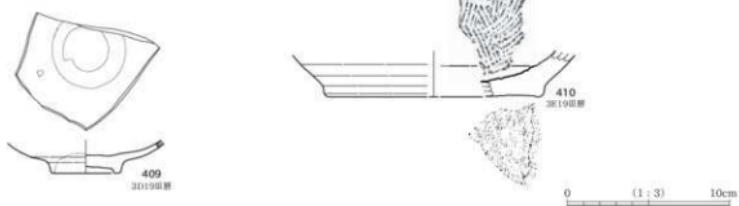
## 遺構外 (373~379)

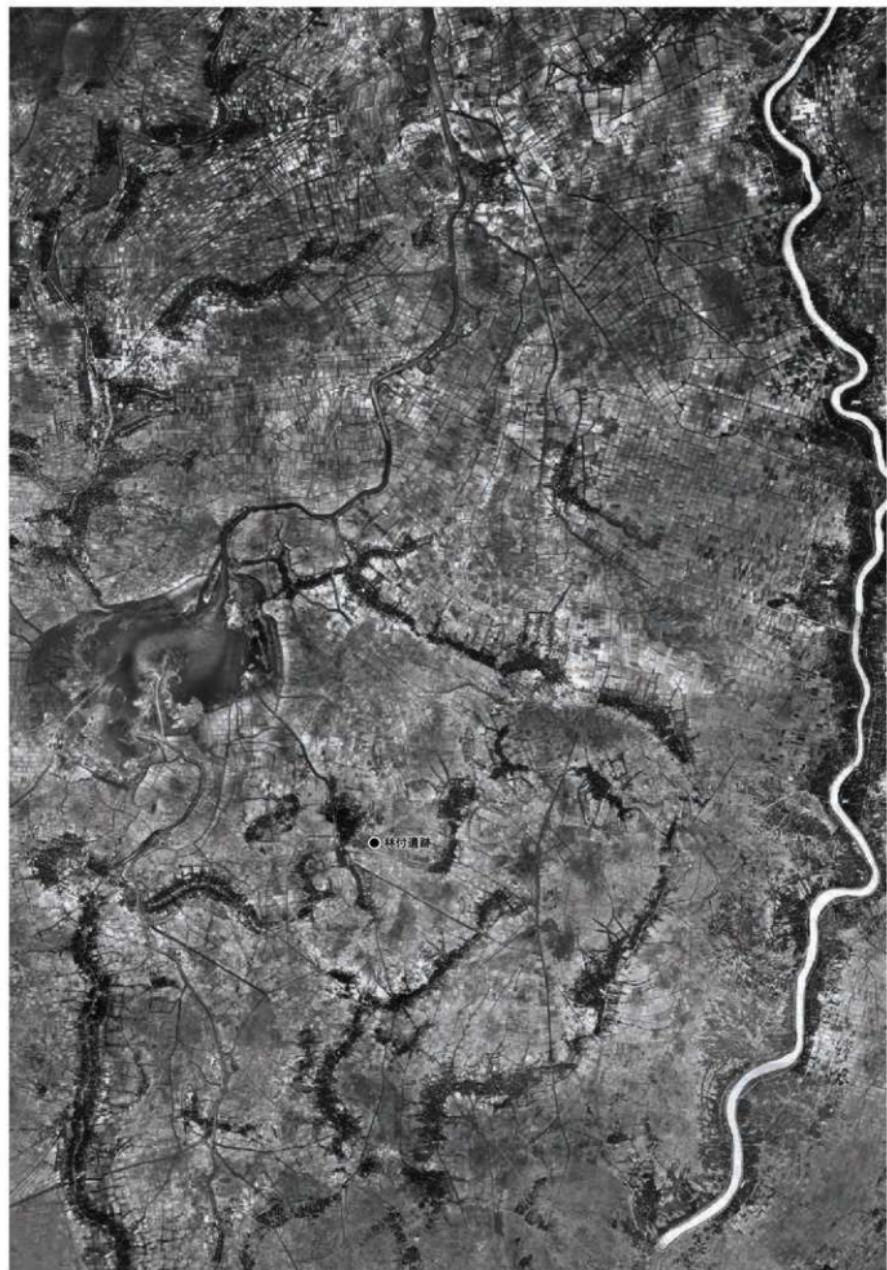






陶磁器 (409・410)





林付遺跡周辺空中写真

〔米軍撮影 1948年〕



上層 調査地全景 1（南東から）



上層 調査地全景 2（上が北）



SB901（南東から）



下層 調査地全景（上が北）



基本層序 A 地点（南から）



基本層序 B 地点（南から）



基本層序 C 地点（南から）



基本層序 D 地点（西から）



基本層序 E 地点（北から）



基本層序 F 地点（北から）



基本層序 G 地点（北から）



基本層序 H 地点（北から）



基本層序 I 地点（東から）



作業風景（左は SB901 南から）



P101 (SB901) 断面（北から）



P112 (SB901) 断面（東から）



P112 (SB901) 完掘（東から）



P146 (SB901) 断面（東から）



P146 (SB901) 完掘（東から）



P149 (SB901) 断面（北から）



P149 (SB901) 完掘 (北から)



P187 (SB901) 断面 (南から)



P187 (SB901) 完掘 (南から)



P194 (SB901) 断面 (西から)



P194 (SB901) 完掘 (西から)



P197 (SB901) 断面 (東から)



P197 (SB901) 完掘 (東から)



P199 (SB901) 断面 (西から)



P199 (SB901) 完掘（西から）



P202 (SB901) 断面（南から）



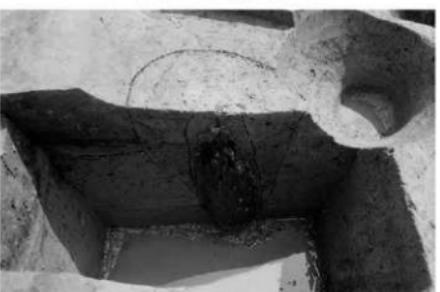
P202 (SB901) 完掘（南から）



P203 (SB901) 断面（西から）



P203 (SB901) 完掘（西から）



P205 (SB901) 断面（西から）



P205 (SB901) 完掘（西から）



P206 (SB901) 断面（西から）



P206 (SB901) 完掘（西から）



P207 (SB901) 断面（西から）



P207 (SB901) 完掘（西から）



P232 (SB901) 断面（東から）



P383 (SB901) 断面（東から）



P383 (SB901) 完掘（東から）



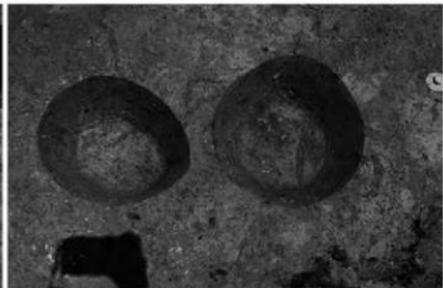
P393 (SB901) 断面（東から）



P393 (SB901) 完掘（東から）



P156 (SB902) 剪断面 (西から)



P156 (SB902) 完掘 (西から)



P158 (SB902) 剪断面 (西から)



P158 (SB902) 完掘 (西から)



SB903 完掘 (南から)



P422 (SB903) 剪断面 (北から)



P422 (SB903) 完掘 (北から)



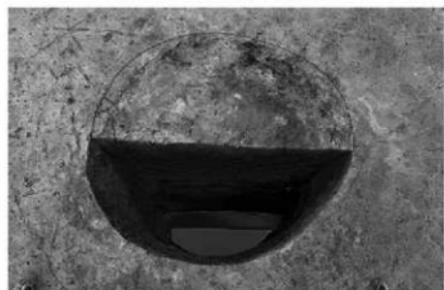
P503 (SB903) 剪断面 (北から)



P503 (SB903) 完掘 (北から)



P504 (SB903) 断面 (東から)



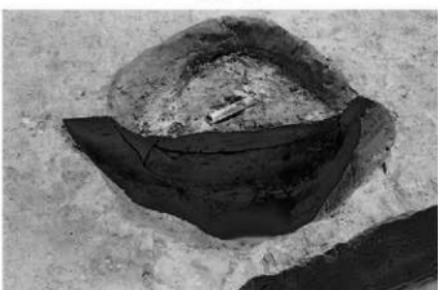
SE10 断面 (北から)



SE10 完掘 (北から)



SE40 断面 (西から)



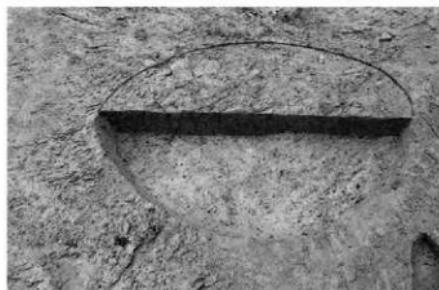
SE443 断面 (西から)



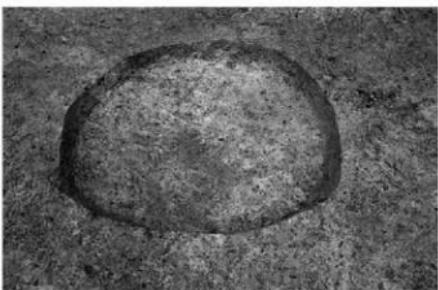
SE443 遺物出土状況 (西から)



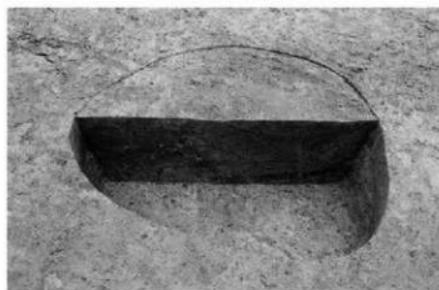
SK1 完掘 (南から)



SK7 断面（西から）



SK7 完掘（東から）



SK9 断面（西から）



SK9 完掘（西から）



SK17 断面（北から）



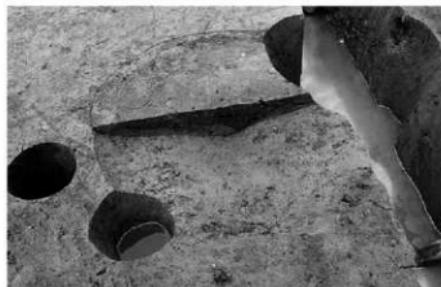
SK17 完掘（西から）



SK57 断面（北から）



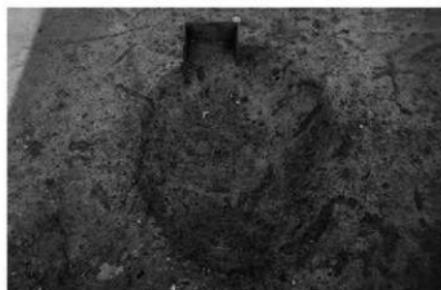
SK57 完掘（北から）



SK64 断面（西から）



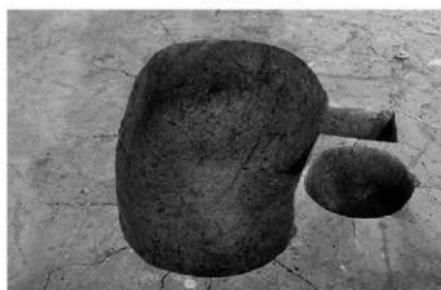
SK70 断面（北から）



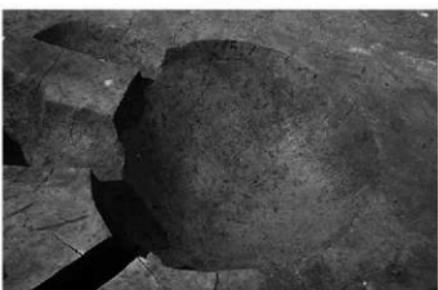
SK70 完掘（西から）



SK71 断面（西から）



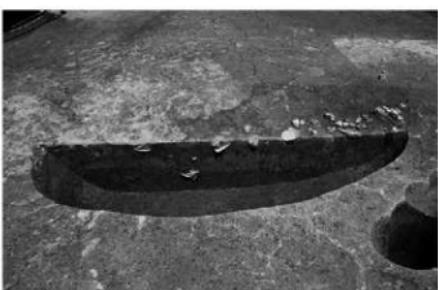
SK77 完掘（西から）



SK78 完掘（南から）



SK81 断面（南から）



SK92 断面（西から）



SK92 完掘（北から）



SK95 完掘（北から）



SK105・106, P111 断面（北から）



SK122 完掘（北から）



SK125 断面（西から）



SK125 完掘（東から）



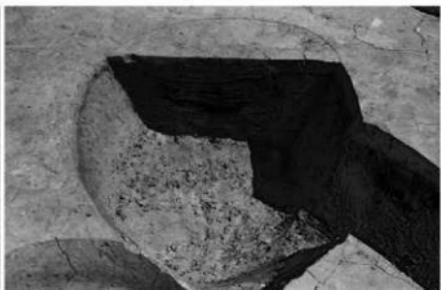
SK129 完掘（北から）



SK141 断面（北から）



SK142 剖面（北から）



SK145 剖面（北から）



SK150 剖面（南から）



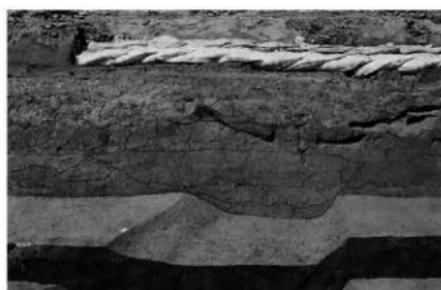
SK183 剖面（南から）



SK190 剖面（南から）



SK215 完掘（西から）



SD66 剖面（北から）



SD66 剖面（南から）



SD66 完掘（北から）



SD69 断面（北から）



SD88 断面（西から）



SD96 断面（南から）



SD124 断面（北から）



SD128 断面（南から）



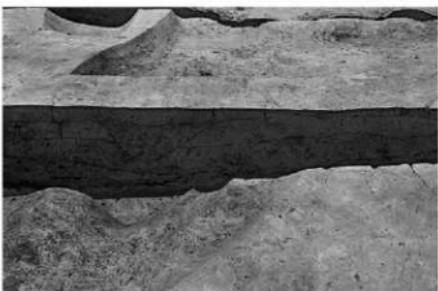
SD137 断面（南から）



SD66・128・130・137 断面（北から）



SD128・137 完掘 (北から)



SD210 断面 (北から)



SD210 完掘 (北から)



SD218 断面 (北から)



SX165 断面 (北から)



SX165 完掘 (北から)



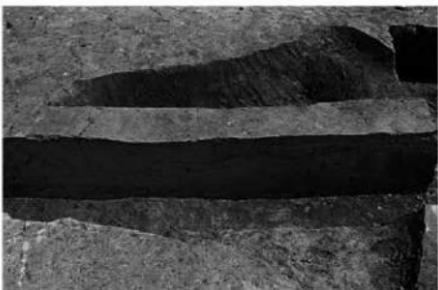
SX209 完掘 (南から)



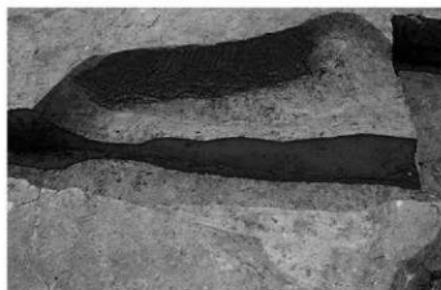
SX213 断面 (北から)



SX213 完掘（北から）



SX214 断面（北から）



SX214 完掘（北から）



SX222 断面（北から）



SX222 完掘（東から）



SX223 完掘（東から）



SX229 A-A' · B-B' 断面（南から）



SX229 A-A' 断面（東から）



SB904・905 遠景（北から）



SB904・905 近景（北から）



P476 (SB904) 断面（西から）



P476 (SB904) 完掘（西から）



P500 (SB904) 断面（西から）



P479 (SB905) 断面（北から）



P479 (SB905) 完掘（北から）



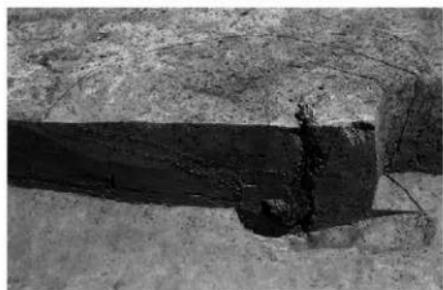
P617 (SB905) 断面（西から）



P617 (SB905) 完掘 (西から)



SB906 (北から)



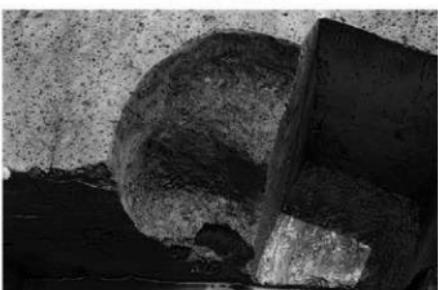
P337 (SB906) 断面 (南から)



P337 (SB906) 完掘 (南から)



P339 (SB906) 断面 (西から)



P339 (SB906) 完掘 (西から)



P343 (SB906) 断面 (南から)



P343 (SB906) 完掘 (南から)



P346 (SB906) 剖面 (南から)



P346 (SB906) 完掘 (東から)



P352 (SB906) 剖面 (南から)



P352 (SB906) 完掘 (南から)



P362 (SB907) 剖面 (東から)



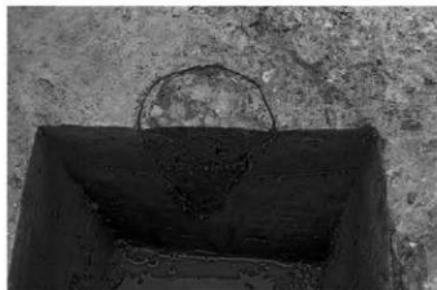
P362 (SB907) 完掘 (東から)



P436 (SB907) 剖面 (南から)



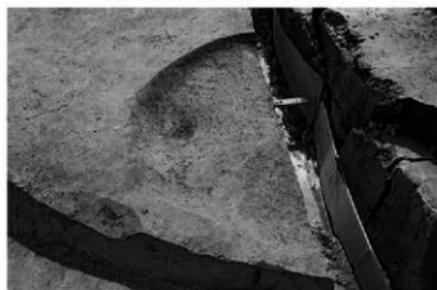
P436 (SB907) 完掘 (南から)



P394 (SB908) 断面（東から）



P394 (SB908) 完掘（東から）



SK262 完掘（西から）



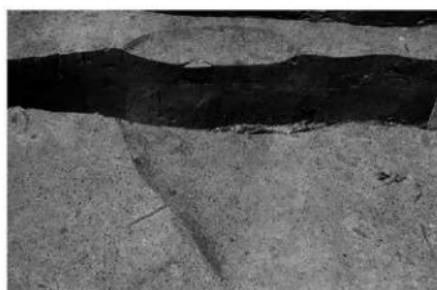
SK266 完掘（西から）



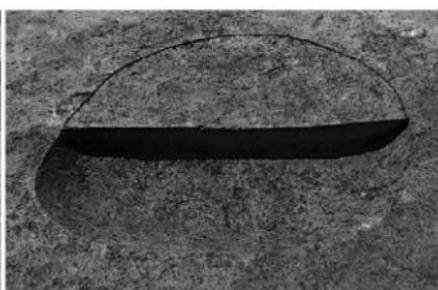
SK267 完掘（北から）



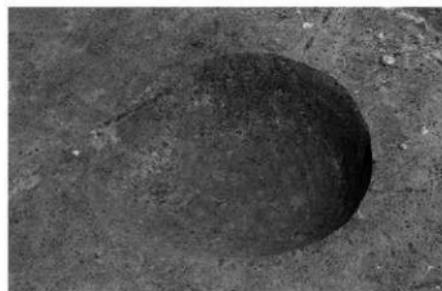
SK282 完掘（北から）



SK283 完掘（東から）



SK284 断面（北から）



SK284 完掘 (北から)



SK285 断面 (南から)



SK285 完掘 (南から)



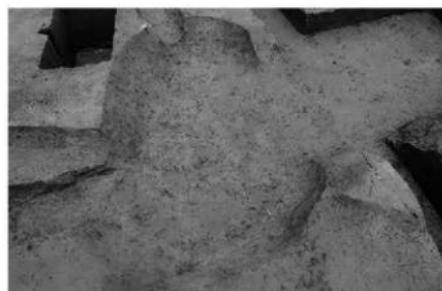
SK297, SD298 完掘 (西から)



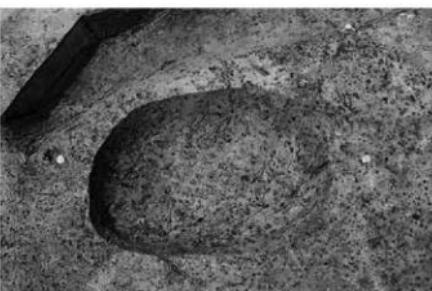
SK306 断面 (南から)



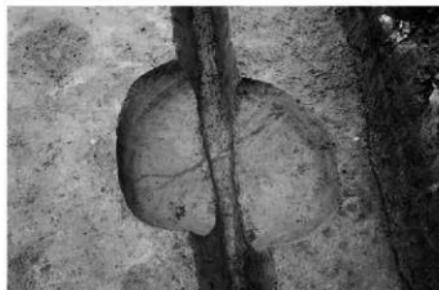
SK306 完掘 (南から)



SK311 完掘 (南から)



SK327 完掘 (北から)



SK330 完掘（北から）



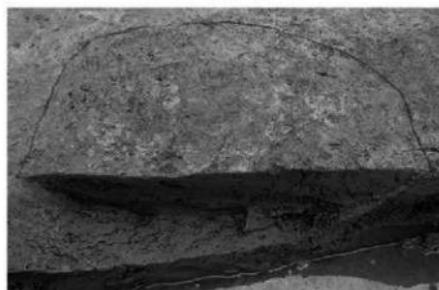
SK331 完掘（北から）



SK347 断面（南から）



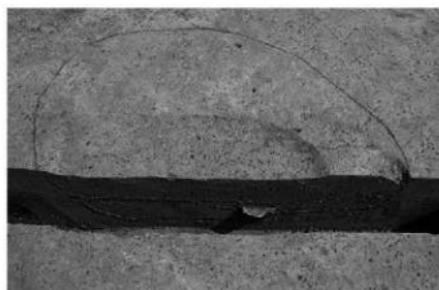
SK355 完掘（南から）



SK360 断面（北から）



SK360 遺物出土状況（北から）



SK366 断面（北から）



SK366 完掘（北から）



SK372 剖面 (東から)



SK372 完掘 (東から)



SK388 剖面 (東から)



SK418 完掘 (東から)



SK420 完掘 (南から)



SK510 完掘 (南から)



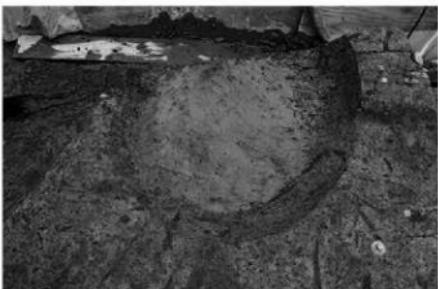
SK512 完掘 (西から)



SK524 完掘 (西から)



SK527 断面（西から）



SK527 完掘（北から）



SK562 断面（北から）



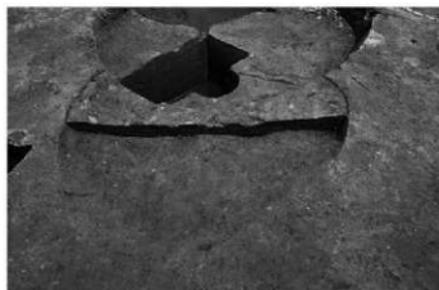
SK562 完掘（北から）



SK583 断面（東から）



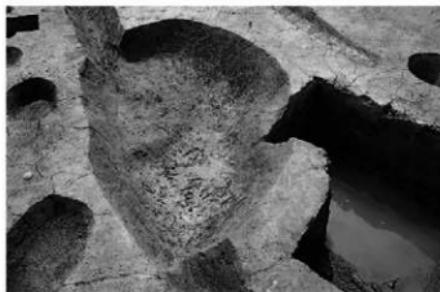
SK583 遺物出土状況（東から）



SK641 断面（北から）



SK653 断面（西から）



SK653 完掘 (西から)



SK678 完掘 (北から)



SK696 断面 (東から)



SK696 遺物出土状況 (東から)



SK696 完掘 (東から)



調査区北東側 溝群 (東から)



調査区西侧 溝群 (北西から)



SD246 B-B' 断面 (東から)



SD271 断面（西から）



SD277 完掘（北から）



SD300・321 断面（西から）



SD316 A-A' 断面（西から）



SD314・315・316・382 完掘（西から）



SD334 遺物出土状況（東から）



SD353 完掘（北から）



SD414・415・416・417 断面（東から）



SD410・413・414・415・416 完掘（東から）



SD417・421・423・424 完掘（東から）



SD461・543 断面（東から）



SD461・465・543 完掘（南から）



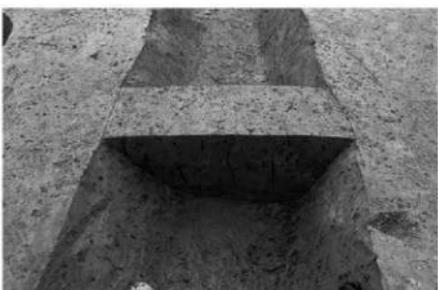
SD475 完掘（北から）



SD483 完掘（東から）



SD599 断面（東から）



SD601 断面（東から）



SD618 断面（北から）



SD620 完掘（西から）



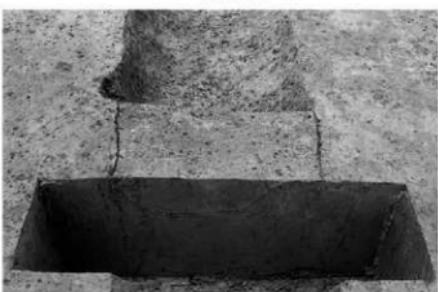
SD650 断面（西から）



SD652 断面（北から）



SD652 完掘（北から）



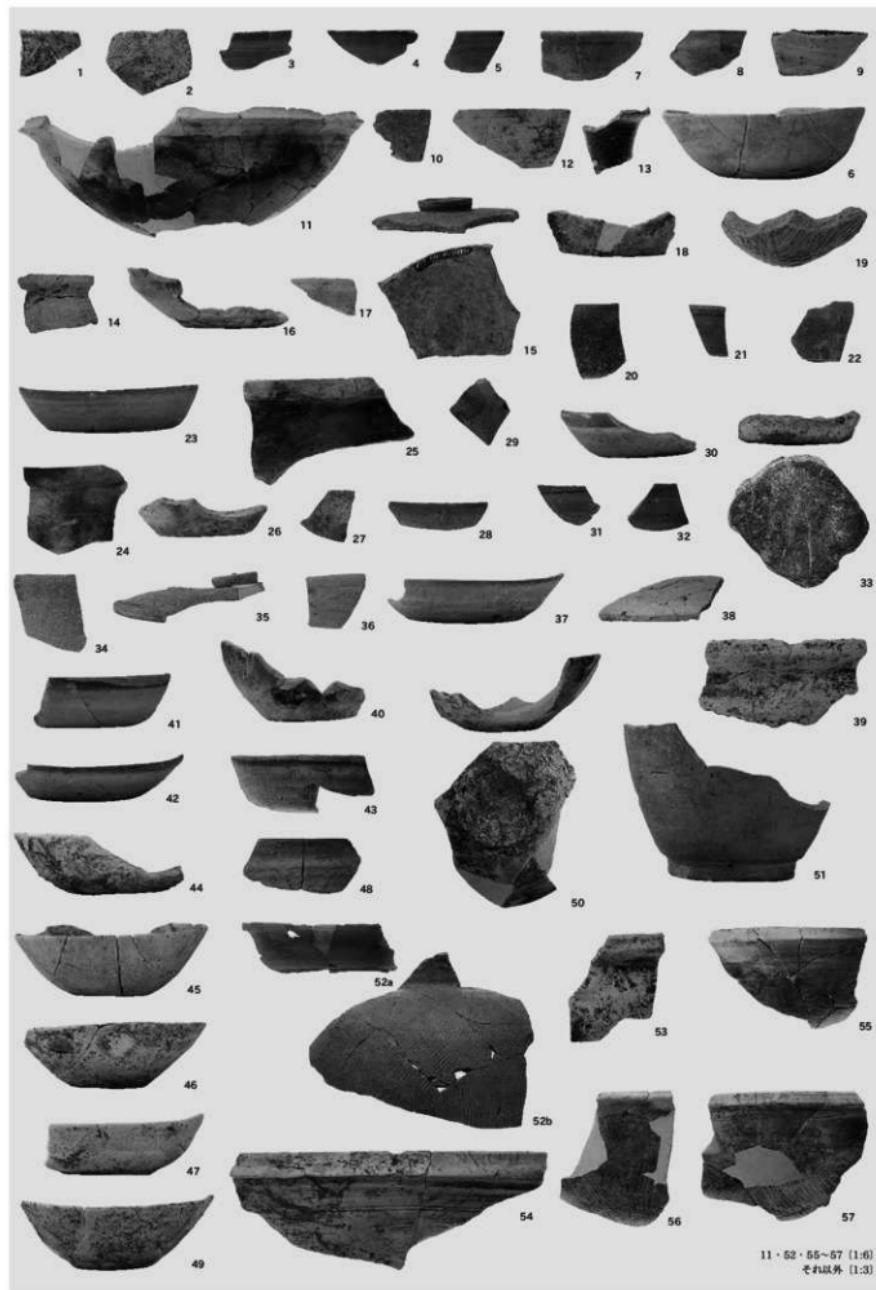
SD689 断面（東から）



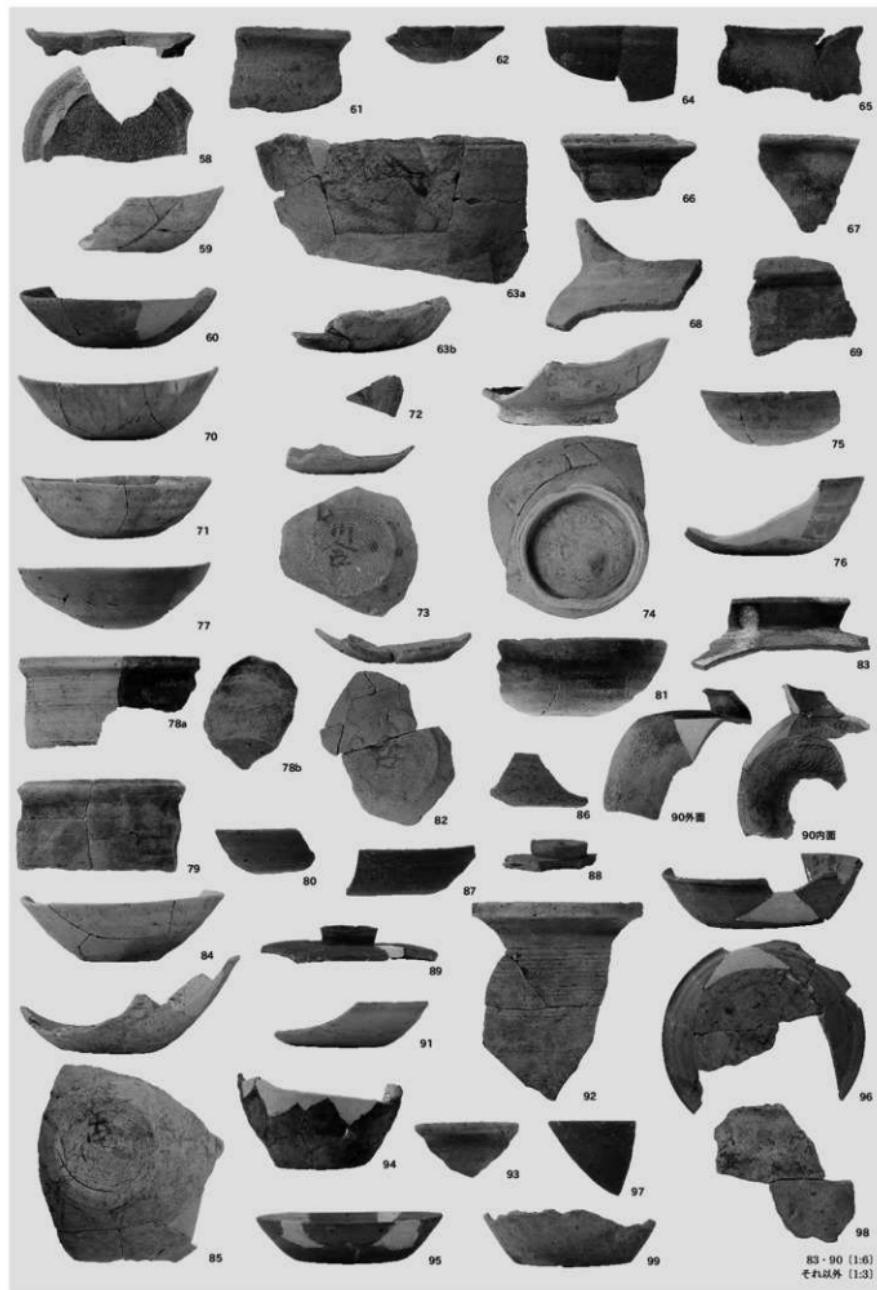
SX384 断面（西から）

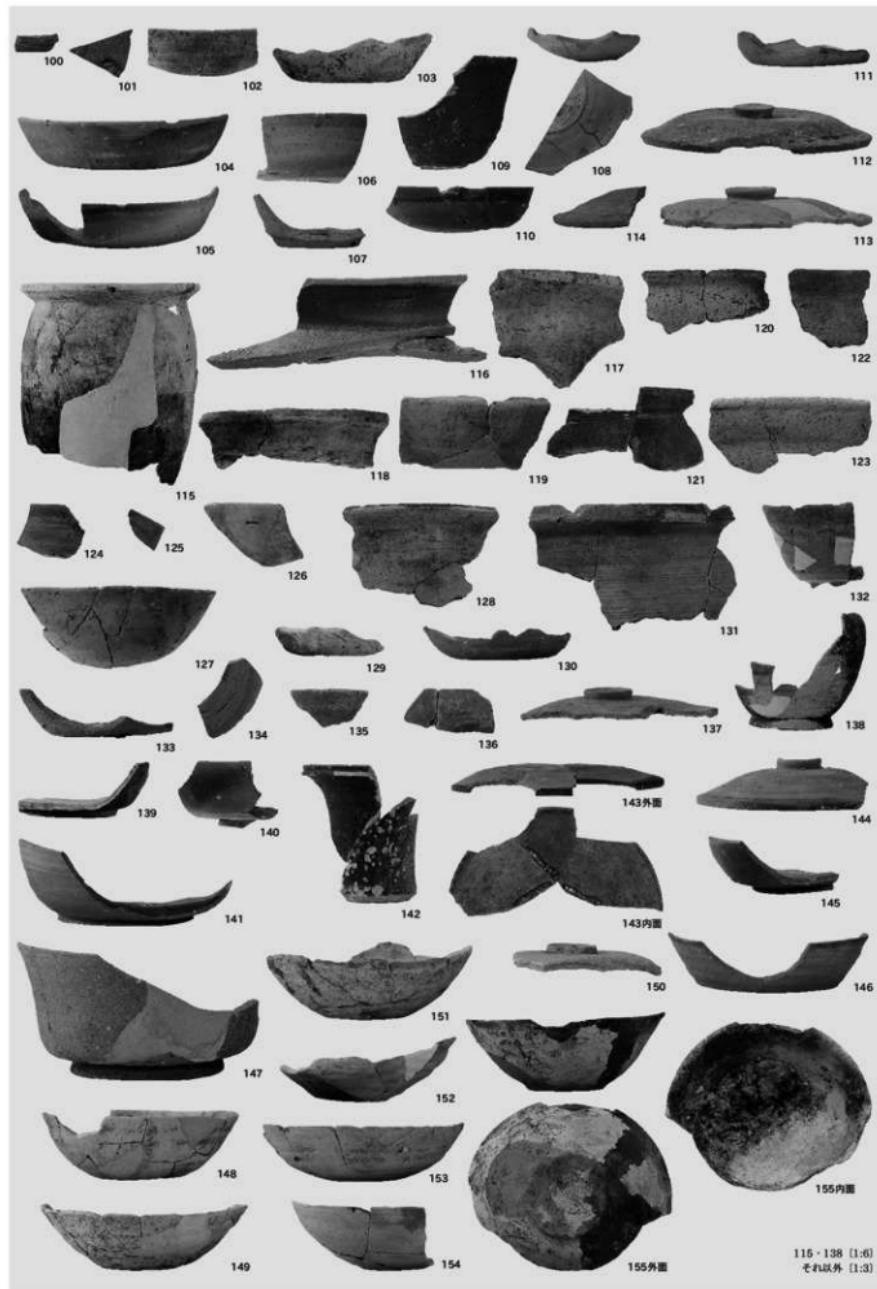


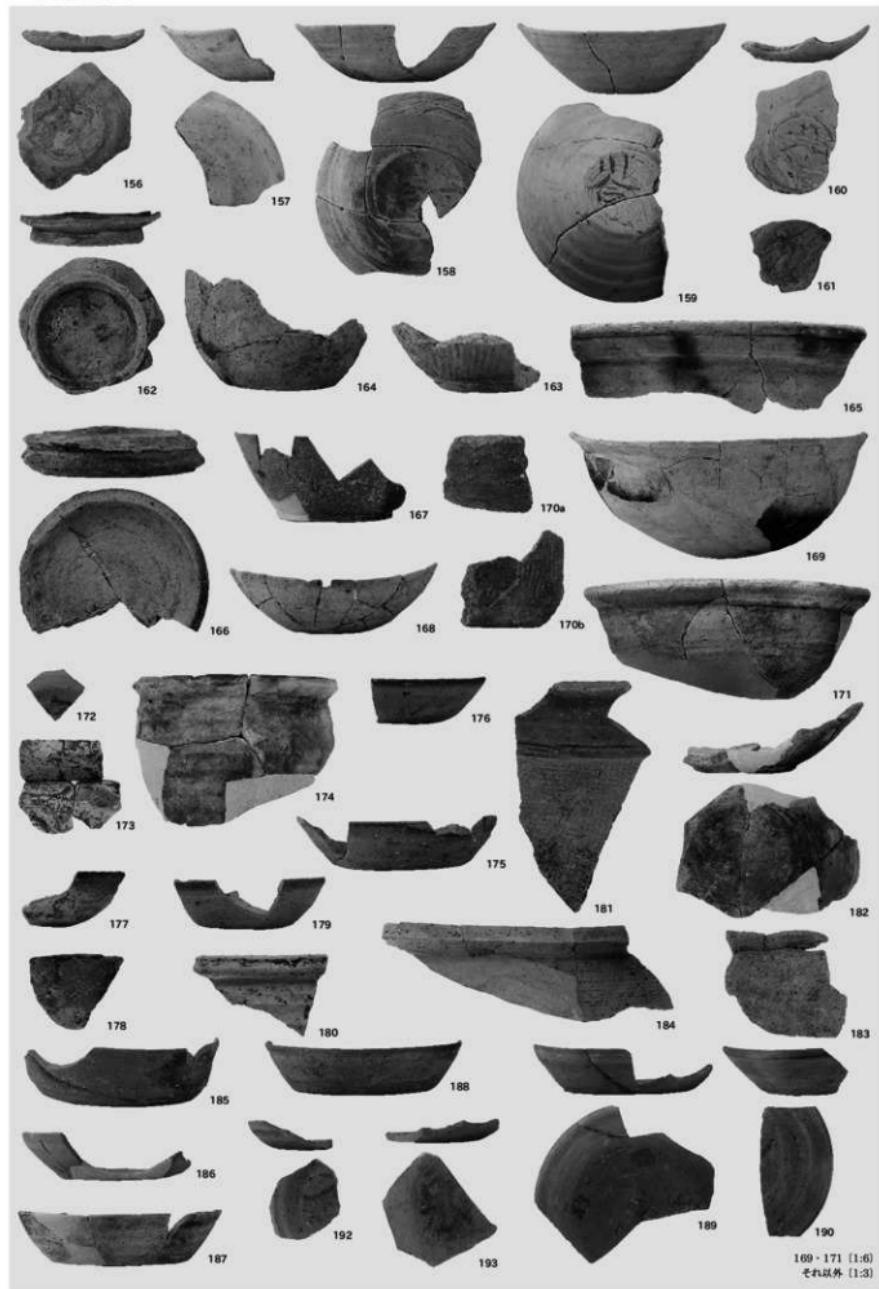
SX384 完掘（西から）



11・52・55~57 (1:6)  
それ以外 (1:3)

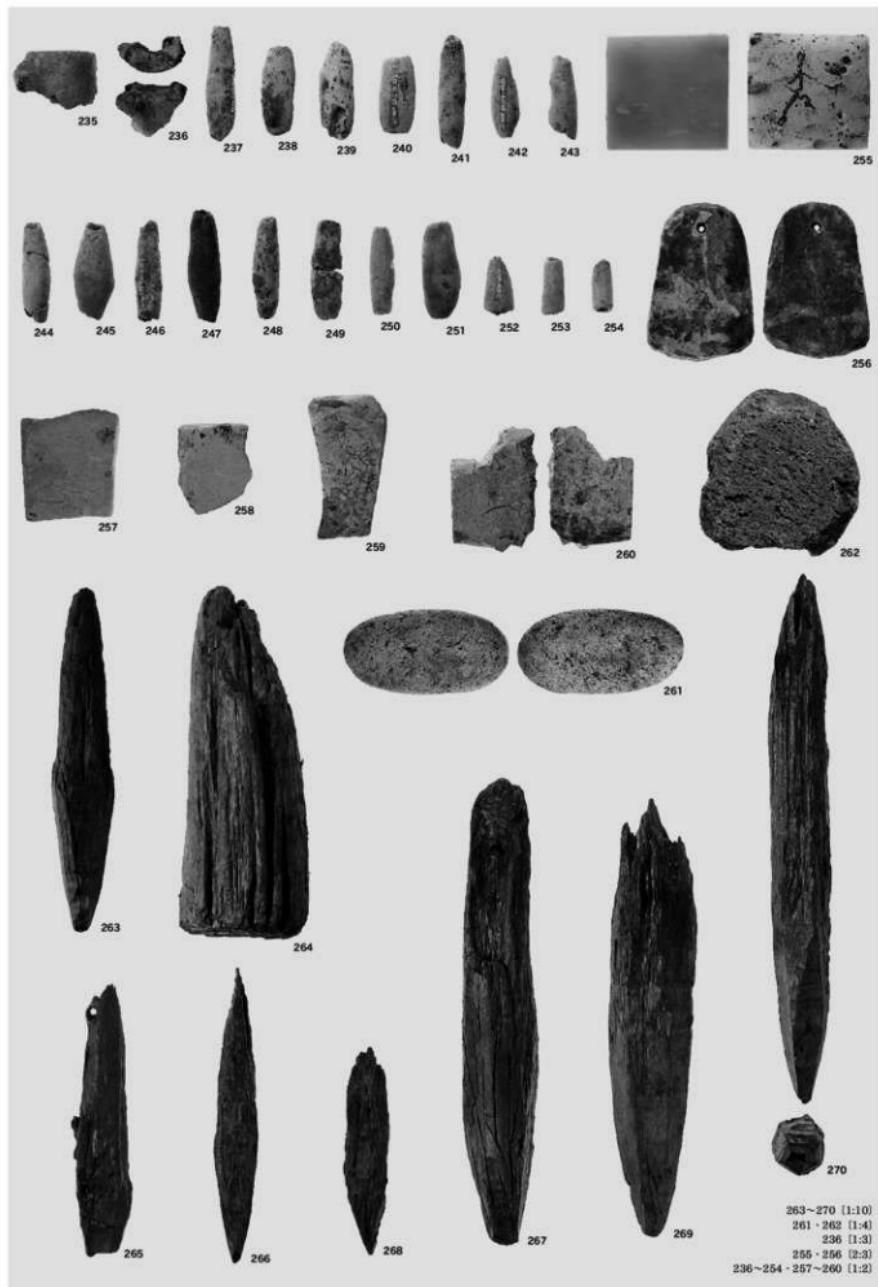


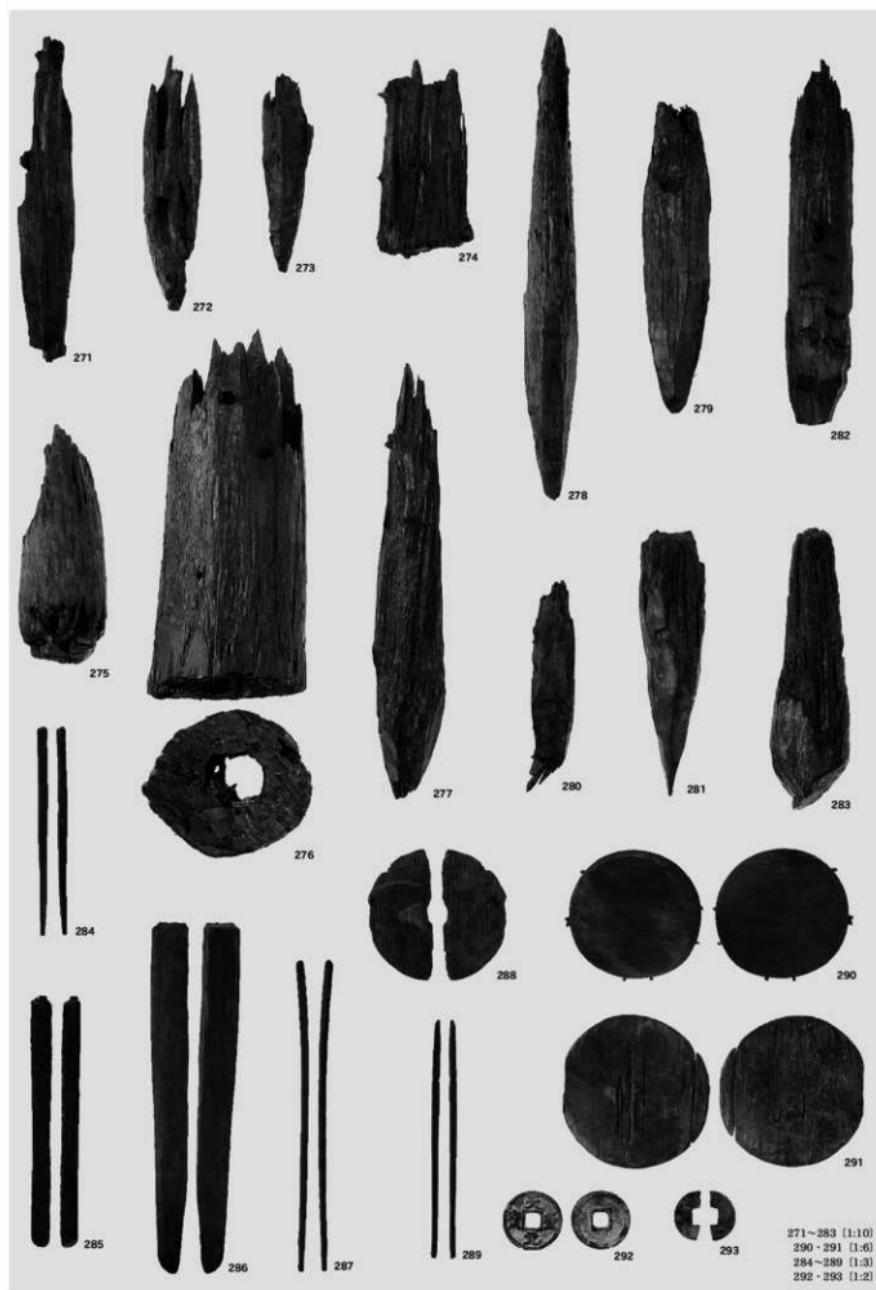
116・138 (1:6)  
それ以外 (1:3)



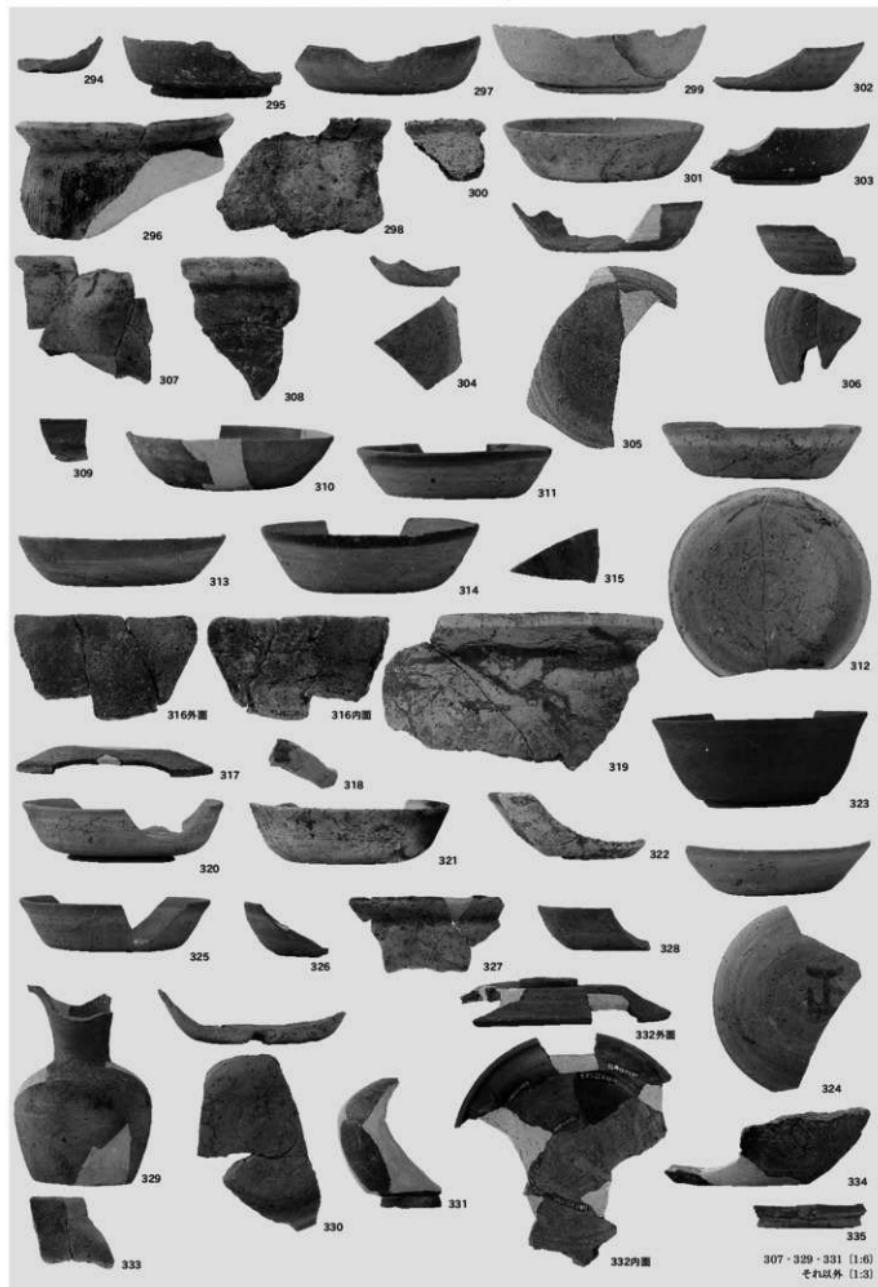
169-171 (1:6)  
それ以外 (1:3)

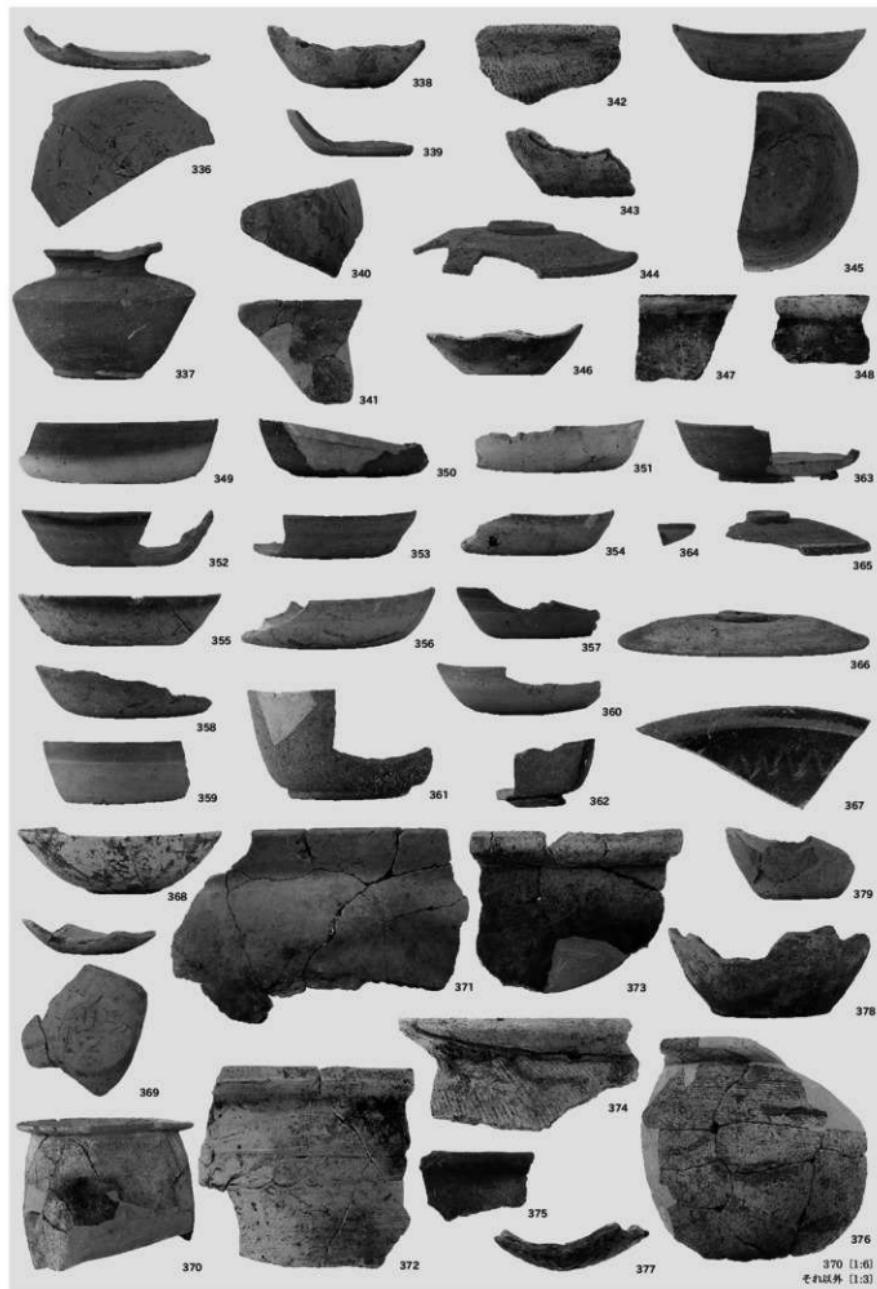




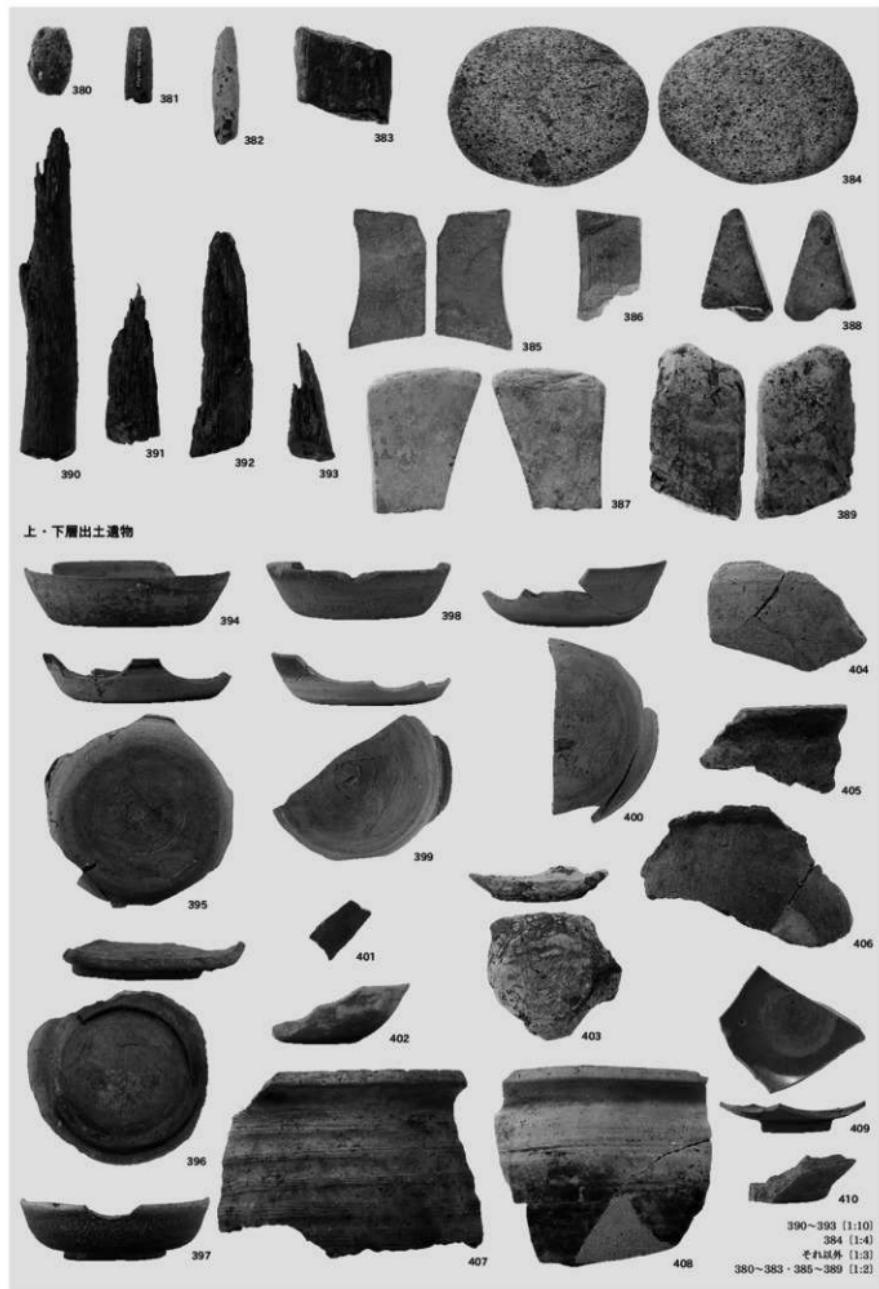


271~283 [1:10]  
290・291 [1:6]  
284~289 [1:3]  
292・293 [1:2]





それ以外 1:3



## 報告書抄録

ふりがな	はやしづけいせき だいにじちょうさ							
書名	林付遺跡 第2次調査							
副書名	新潟市立潟東南小学校体育館建設工事に伴う林付遺跡第2次発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名	新潟市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名	相田泰臣・早田 勉(第VI章)・相沢 央(第VII章)							
編集機関	新潟市文化観光・スポーツ部 文化財センター							
所在地	〒950-1122 新潟市西区木場 2748番地1 TEL 025-378-0480							
発行年月	西暦 2012年10月10日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因	
林付遺跡	新潟県新潟市西蒲区今井 4121番	15108	746	37° 45° 17'	138° 56° 52°	20100406 ~ 20100719	873.2	市立小学校体育館 建設工事
所取遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
林付遺跡	集落 (莊園関連)	平安時代 (9C)	掘立柱建物・井戸・ 土坑・溝・性格不明遺構など	土師器・須恵器・土鍤・石 器・権杖・木柱	出土した墨書き土器から、文献資料に登場しない古代莊園「川合(川井)庄」の存在が明らかになった。また、9世紀後半の規模の大きな掘立柱建物が確認され、莊所関連施設と考えられる。			
要約	<p>林付遺跡は、越後平野の中央、信濃川左岸の沖積地内の自然堤防上に立地し、標高は上層で約1m、下層で約0.6~0.7mを計る。出土遺物から、下層が9世紀前半、上層が9世紀後半を主体とする時期で、中心時期は9世紀第2四半世紀から9世紀第4四半世紀と考えられる。</p> <p>出土した墨書き土器から、当地域が9世紀代に「川合(川井)」という地名であったことや、文献資料に登場しない古代莊園「川合(川井)庄」の存在が明らかになった。</p> <p>上層では、身合面積87.9m<sup>2</sup>、廁部分を含めた平面積140m<sup>2</sup>と、規模の大きな2間6間で2面廁をもつ掘立柱建物が確認された。周辺で出土した石帶や権杖跡、「川井庄」「館」墨書き土器などから、莊所関連施設である可能性が高い。</p>							

### 林付遺跡 第2次調査

-新潟市立潟東南小学校体育館建設工事に伴う林付遺跡第2次発掘調査報告書-

2012年10月9日印刷

2012年10月10日発行

編集・発行 新潟市教育委員会

〒951-8550 新潟市中央区学校町通一番町 602番地1

TEL 025(228)1000

新潟市文化財センター

〒950-1122 新潟市西区木場 2748番地1

TEL 025(378)0480

印刷・製本 株式会社ハイングラフ

〒950-2022 新潟市西区小針1丁目11番8号

TEL 025(233)0321